



DS6708 デジタル スキャナ

製品リファレンス ガイド



**DS6708 デジタル スキャナ
製品リファレンス ガイド**

72E-86039-07JA

改訂版 A

2011 年 2 月

© 2007-2011 by Motorola Solutions, Inc. All rights reserved.

Motorola の書面による許可なしに、本書の内容をいかなる形式でも、または電気的あるいは機械的な手段により、複製または使用することを禁じます。これには、コピー、記録、または情報の保存および検索システムなど電子的または機械的な手段が含まれます。本書の内容は、予告なしに変更される場合があります。

ソフトウェアは、厳密に「現状のまま」提供されます。ファームウェアを含むすべてのソフトウェアは、ライセンスに基づいてユーザーに提供されます。本契約 (ライセンス プログラム) に基づいて提供される各ソフトウェアまたはファームウェアに対して、ユーザーに移譲不可で非排他的なライセンスを付与します。下記の場合を除き、事前に書面による Motorola の同意がなければ、ユーザーがライセンスを譲渡、サブライセンス、または移譲することはできません。著作権法で認められる場合を除き、ライセンス プログラムの一部または全体をコピーする権限はありません。ユーザーは、ライセンス プログラムを何らかの形式で、またはライセンス プログラムの何らかの部分を変更、結合、または他のプログラムへ組み込むこと、ライセンス プログラムからの派生物を作成すること、ライセンス プログラムを Motorola の書面による許可なしにネットワークでを使用することを禁じられています。ユーザーは、本契約に基づいて提供されるライセンス プログラムについて、Motorola の著作権に関する記載を保持し、承認を受けて作成する全体または一部のコピーにこれを含めることに同意します。ユーザーは、提供されるライセンス プログラムまたはそのいかなる部分についても、逆コンパイル、逆アセンブル、デコード、またはリバース エンジニアリングを行わないことに同意します。

Motorola は、信頼性、機能、またはデザインを向上させる目的でソフトウェアまたは製品に変更を加えることができるものとします。

Motorola は、本製品の使用、または本文書内に記載されている製品、回路、アプリケーションの使用が直接的または間接的な原因として発生する、いかなる製造物責任も負わないものとします。

明示的、黙示的、禁反言、または Motorola, Inc. の知的所有権上のいかなる方法によるかを問わず、ライセンスが付与されることは一切ないものとします。Motorola 製品に組み込まれている機器、回路、およびサブシステムについてのみ、黙示的にライセンスが付与されるものとします。

MOTOROLA、MOTO、MOTOROLA SOLUTIONS、Stylized M のロゴマークは、Motorola Trademark Holdings, LLC の商標または登録商標であり、ライセンスの下に使用されています。その他のすべての商標は、該当する各所有者が権利を有しています。© 2011 Motorola, Inc. All rights reserved.

Bluetooth は Bluetooth SIG の登録商標です。Microsoft、Windows、および ActiveSync は、Microsoft Corporation の登録商標または商標です。その他すべての製品名とサービス名は、該当する各所有者が権利を有しています。

Motorola Solutions, Inc.
One Motorola Plaza
Holtsville, New York 11742-1300
<http://www.motorola.com>

保証

Motorola のハードウェア製品の保証については、次のサイトにアクセスしてください。
<http://www.motorola.com/enterprisemobility/warranty>。

改訂版履歴

元のマニュアルに対する変更を次に示します。

変更	日付	説明
-01 改訂版 A	2007 年 1 月	初期リリース。
-02 改訂版 A	2007 年 04 月	サービス情報を更新、動作温度とサポートを更新、シーリング規格を削除、「Symbol PTC 端末」バーコードを修正、新規の UPC/EAN サプリメンタルオプション、Bookland ISBN フォーマット、4State Postal、Aztec、および反転コードタイプパラメータを追加、GS1 DataBar への RSS 参照を変更。
-03 改訂版 A	2007 年 09 月	読み取り範囲を更新。
-04 改訂版 A	2008 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> - 追加： <ul style="list-style-type: none"> - 「ファジー 1D」、「ミラー イメージの読み取り」、「低光量時の強調」、および「プレゼンテーションモードの読み取り範囲」パラメータ、「Code 128 の読み取り桁数」、および Post US4。 - DS6708-DL の章。 - Motorola Web サイトを更新。 - 変更： <ul style="list-style-type: none"> - GS1-128 への UCC/EAN-128 参照。
-05 改訂版 A	2009 年 05 月	ADF の章でカスタム デフォルト オプションを追加、ISSN EAN、Matrix 2 of 5、および Chinese 2 of 5 コードタイプを追加、ISBT 連結パラメータを追加、Netherlands KIX Code への Dutch Postal 参照、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail への 4State Postal、UPU FICS Postal への Post US4 を変更、特定の文字列の検索と新しいカーソル移動オプションを追加。
-06 改訂版 A	2009 年 10 月	基本モデル付き DS6708 を追加、ケーブルの取り付け/取り外し手順とプレゼンテーションモードバーコードパラメータを追加、技術仕様を更新。RS-232 パラメータ（「Code 39 Full ASCII」、「PDF417」、「GS1 DataBar 14/Limited/Expanded」）を追加。
-07 改訂版 A	2011 年 02 月	追加：「電源投入時ピープ音の抑止」、「携帯電話のディスプレイ」、「携帯電話デコード速度」、CUTE パラメータ、「イメージキット」パラメータ、「シミュレーションされたスキヤンの基本モード」、「プレゼンテーション遅延時間モード」、「DataBar Limited の読み取り精度レベル」、「Australia Post Format」、「Alt 2 の送信」パラメータ。修正：ADF の章の「Alt @ の送信」パラメータ、「端末固有の RS-232」Olivetti 列の ETX を 1002 から 1003、STX を 1003 から 1002 に変更。更新：「メンテナンス」のセクションと 123Scan ² の章。削除：特許と規制のセクション。

目次

保証.....	ii
改訂版履歴.....	iii

このガイドについて

はじめに.....	xv
構成.....	xv
章の説明.....	xv
表記規則.....	xvi
関連文書.....	xvii
サービスに関する情報.....	xvii

第1章: ご使用の前に

はじめに.....	1-1
サポートされるインターフェース.....	1-2
パッケージの開梱.....	1-2
デジタル スキャナのセットアップ.....	1-3
標準モデル.....	1-3
ベース付きモデル.....	1-5
デジタル スキャナの設定.....	1-6
デジタル スキャナの設置.....	1-6
卓上設置.....	1-6
壁面への取り付け.....	1-7

第2章: スキャン

はじめに.....	2-1
ビープ音の定義.....	2-2
LED の定義.....	2-4
ハンドヘルド モードでのスキャン.....	2-4
デジタル スキャナでのスキャン.....	2-4
照準.....	2-6

プレゼンテーション モードでのスキャン	2-7
インテリスタンドのデジタル スキャナでのスキャン	2-7
ベース付きデジタル スキャナでのスキャン	2-8
読み取り可能範囲	2-9

第3章: 保守と技術的な仕様

はじめに	3-1
メンテナンス	3-1
トラブルシューティング	3-2
技術仕様	3-5
デジタル スキャナ信号の意味	3-7

第4章: ユーザー設定とその他のデジタル スキャナ オプション

はじめに	4-1
スキャン シーケンスの例	4-2
スキャン中のエラー	4-2
「ユーザー設定」オプション パラメータのデフォルト	4-2
ユーザー設定	4-4
デフォルト設定パラメータ	4-4
パラメータ スキャン	4-5
ビープ音の音程	4-5
ビープ音の音量	4-6
電源投入時ビープ音の抑止	4-6
電源モード	4-7
低電力モード遅延時間	4-7
トリガ モード	4-8
ピックアップ モード	4-10
プレゼンテーション遅延時間モード	4-11
携帯電話/ディスプレイ モード	4-13
携帯電話デコード速度	4-14
デコードセッション タイムアウト	4-15
同一バーコードの読み取り間隔	4-15
読み取り成功時のビープ音	4-16
ファジー 1D 処理	4-16
ミラー イメージの読み取り (データ マトリックスのみ)	4-17
その他のスキャナ パラメータ	4-18
コード ID キャラクタの転送	4-18
プリフィックス/サフィックス値	4-19
スキャン データ転送フォーマット	4-20
FN1 置換値	4-21
「読み取りなし」メッセージの転送	4-22
シナプス インタフェース	4-23

第5章: 読み取り設定

はじめに	5-1
スキャン シーケンスの例	5-2
スキャン中のエラー	5-2

読み取り設定パラメータのデフォルト	5-2
読み取り設定	5-3
読み取り照明	5-3
照明バンク制御	5-4
読み取り照準パターン	5-5
低光量時の強調	5-5
プレゼンテーション モードの読み取り範囲	5-6

第6章: USB インタフェース

はじめに	6-1
USB インタフェースの接続	6-2
USB パラメータのデフォルト一覧	6-4
USB ホスト パラメータ	6-5
USB デバイス タイプ	6-5
USB 国キーボード タイプ - 国コード	6-7
キーストローク デイレイ (USB 専用)	6-9
Caps Lock オーバーライド (USB 専用)	6-9
不明な文字の無視 (USB 専用)	6-10
キーパッドのエミュレート	6-10
先行ゼロ付きキーパッドのエミュレート	6-11
USB キーボードの FN1 置換	6-11
USB 静的 CDC	6-12
ファンクション キーのマッピング	6-13
Caps Lock のシミュレート	6-13
大文字/小文字の変換	6-14
USB の ASCII キャラクタ セット	6-15

第7章: RS-232 インタフェース

はじめに	7-1
RS-232 インタフェースの接続	7-2
RS-232 パラメータのデフォルト	7-4
RS-232 ホストのパラメータ	7-5
RS-232 ホスト タイプ	7-7
ボーレート	7-8
パリティ	7-11
ストップ ビットの選択	7-12
データ ビット	7-12
受信エラーのチェック	7-13
ハードウェア ハンドシェイク	7-13
ソフトウェア ハンドシェイク	7-15
ホスト シリアル レスポンス タイムアウト	7-17
RTS 制御線の状態	7-18
<BEL> によるビーブ音	7-18
キャラクタ間ディレイ	7-19
Nixdorf のビーブ音/LED オプション	7-20
不明な文字の無視	7-20
RS-232 の ASCII キャラクタ セット	7-21

第8章: IBM 468X / 469X インタフェース

はじめに	8-1
IBM 468X/469X ホストへの接続	8-2
IBM パラメータのデフォルト	8-3
IBM 468X/469X ホストパラメータ	8-4
ポートアドレス	8-4
不明バーコードを Code 39 に変換	8-5

第9章: ワンドエミュレーションインタフェース

はじめに	9-1
ワンドエミュレーションを使用した接続	9-2
ワンドエミュレーションパラメータのデフォルト	9-3
ワンドエミュレーションのホストパラメータ	9-4
ワンドエミュレーションのホストタイプ	9-4
先頭マージン(クワイエットゾーン)	9-5
極性	9-6
不明な文字の無視	9-6
すべてのバーコードを Code 39 に変換	9-7
Code 39 を Full ASCII に変換	9-8

第10章: スキャナエミュレーションインタフェース

はじめに	10-1
スキャナエミュレーションを使用した接続	10-2
スキャナエミュレーションパラメータのデフォルト	10-3
スキャナエミュレーションホスト	10-4
スキャナエミュレーションホストパラメータ	10-4
パラメータパススルー	10-5
新しいコードタイプの変換	10-6
モジュール幅	10-6
すべてのバーコードを Code 39 に変換	10-7
Code 39 Full ASCII 変換	10-7
転送タイムアウト	10-8
不明な文字の無視	10-9
先頭マージン	10-9
読み取り LED のチェック	10-10

第11章: キーボードウェッジインタフェース

はじめに	11-1
キーボードウェッジインタフェースの接続	11-2
キーボードウェッジパラメータのデフォルト	11-3
キーボードウェッジのホストパラメータ	11-4
キーボードウェッジのホストタイプ	11-4
キーボードウェッジの国タイプ-国コード	11-5
不明な文字の無視	11-7
キーストロークディレイ	11-7
キーストローク内ディレイ	11-8
代替用数字キーパッドエミュレーション	11-8

Caps Lock オン	11-9
Caps Lock オーバーライド	11-9
ウェッジ データの変換	11-10
ファンクション キーのマッピング	11-10
FN1 置換	11-11
メーク/ブレークの送信	11-11
キーボード マップ	11-12
キーボード ウェッジの ASCII キャラクタ セット	11-14

第 12 章: 123Scan2

はじめに	12-1
123Scan2 との通信	12-1
123Scan2 の要件	12-1

第 13 章: 読み取り可能コード

はじめに	13-1
スキャン シーケンスの例	13-1
スキャン中のエラー	13-2
読み取り可能コード パラメータのデフォルト一覧	13-2
すべてのコード タイプ無効	13-7
UPC/EAN	13-8
UPC-A の有効化/無効化	13-8
UPC-E の有効化/無効化	13-8
UPC-E1 の有効化/無効化	13-9
EAN-8/JAN-8 の有効化/無効化	13-9
EAN-13/JAN-13 の有効化/無効化	13-10
Bookland EAN の有効化/無効化	13-10
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り	13-11
ユーザーが設定できるサプリメンタル	13-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性	13-14
サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN の AIM ID フォーマット	13-15
UPC-A チェック デジットの転送	13-16
UPC-E チェック デジットの転送	13-16
UPC-E1 チェック デジットの転送	13-17
UPC-A プリアンブル	13-18
UPC-E プリアンブル	13-19
UPC-E1 プリアンブル	13-20
UPC-E から UPC-A への変換	13-21
UPC-E1 から UPC-A への変換	13-21
EAN-8/JAN-8 Extend	13-22
Bookland ISBN フォーマット	13-23
UCC Coupon Extended Code	13-24
Coupon Report	13-25
ISSN EAN	13-26
Code 128	13-27
Code 128 の有効化/無効化	13-27
Code 128 の読み取り桁数設定	13-27
GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) の有効化/無効化	13-29

ISBT 128 の有効化 / 無効化	13-29
ISBT 連結	13-30
ISBT テーブルのチェック	13-31
ISBT 連結の読み取り繰返回数	13-31
Code 39	13-32
Code 39 の有効化 / 無効化	13-32
Trioptic Code 39 の有効化 / 無効化	13-32
Code 39 から Code 32 への変換	13-33
Code 32 プリフィックス	13-33
Code 39 の読み取り桁数設定	13-34
Code 39 チェック デジットの確認	13-36
Code 39 チェック デジットの転送	13-36
Code 39 Full ASCII 変換	13-37
Code 39 バッファリング - スキャンおよび保存	13-37
Code 93	13-40
Code 93 の有効化 / 無効化	13-40
Code 93 の読み取り桁数設定	13-40
Code 11	13-42
Code 11	13-42
Code 11 の読み取り桁数設定	13-42
Code 11 チェック デジットの確認	13-44
Code 11 チェック デジットの転送	13-45
Interleaved 2 of 5 (ITF)	13-45
Interleaved 2 of 5 の有効化 / 無効化	13-45
Interleaved 2 of 5 読み取り桁数設定	13-46
I 2 of 5 チェック デジットの確認	13-48
I 2 of 5 チェック デジットの転送	13-48
I 2 of 5 から EAN-13 への変換	13-49
Discrete 2 of 5 (DTF)	13-49
Discrete 2 of 5 の有効化 / 無効化	13-49
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	13-50
Codabar (NW - 7)	13-52
Codabar の有効化 / 無効化	13-52
Codabar の読み取り桁数設定	13-52
CLSI 編集	13-54
NOTIS 編集	13-54
MSI	13-55
MSI の有効化 / 無効化	13-55
MSI の読み取り桁数設定	13-55
MSI チェック デジット	13-57
MSI チェック デジットの転送	13-57
MSI チェック デジットのアルゴリズム	13-58
Chinese 2 of 5	13-58
Chinese 2 of 5 の有効化 / 無効化	13-58
Matrix 2 of 5	13-59
Matrix 2 of 5 の有効化 / 無効化	13-59
Matrix 2 of 5 の読み取り桁数設定	13-60
Matrix 2 of 5 チェック デジット	13-61
Matrix 2 of 5 チェック デジットの転送	13-61

Korean 3 of 5	13-62
Korean 3 of 5 の有効化/無効化	13-62
反転 1D	13-63
郵便番号	13-64
US Postnet	13-64
US Planet	13-64
US Postal チェック デジットの転送	13-65
UK Postal	13-65
UK Postal チェック デジットの転送	13-66
Japan Postal	13-66
Australian Postal	13-67
Australia Post フォーマット	13-68
Netherlands KIX Code	13-69
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	13-69
UPU FICS Postal	13-70
GS1 DataBar (以前の Reduced Space Symbology)	13-71
GS1 DataBar-14	13-71
GS1 DataBar Limited	13-71
GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル	13-72
GS1 DataBar Expanded	13-73
GS1 DataBar から UPC/EAN への変換	13-73
コンポジット	13-74
コンポジット CC-C	13-74
コンポジット CC-A/B	13-74
コンポジット TLC-39	13-75
UPC コンポジット モード	13-75
コンポジット ビープ音モード	13-76
GS1 コンポジット コードの GS1-128 エミュレーション モード (以前の UCC/EAN コンポジット コードの UCC/EAN Code 128 エミュレーション モード)	13-76
2D バーコード	13-77
PDF417 の有効化/無効化	13-77
MicroPDF417 の有効化/無効化	13-77
Code 128 エミュレーション	13-78
Data Matrix	13-79
Data Matrix Inverse	13-79
Maxicode	13-80
QR Code	13-81
QR Inverse	13-81
MicroQR	13-82
Aztec	13-82
Aztec Inverse	13-83
冗長性レベル	13-84
冗長性レベル 1	13-84
冗長性レベル 2	13-84
冗長性レベル 3	13-84
冗長性レベル 4	13-85
セキュリティ レベル	13-86
キャラクタ間ギャップ サイズ	13-87
バージョン通知	13-87

Macro PDF 機能	13-88
Macro バッファのクリア	13-88
Macro PDF 入力のキャンセル	13-88

第 14 章: 運転免許証のセットアップ (DS6708-DL)

はじめに	14-1
運転免許証解析	14-2
運転免許証データ フィールドの解析 (埋め込み運転免許証解析)	14-3
運転免許証解析フィールド バーコード	14-3
運転免許証解析フィールド バーコード (続き)	14-4
AAMVA 解析フィールド バーコード	14-6
AAMVA 解析フィールド バーコード (続き)	14-7
解析規則の例	14-16
フィールド更新手順	14-20
ユーザー設定	14-21
デフォルト設定パラメータ	14-21
キーストロークの送信 (制御文字およびキーボード文字)	14-21

第 15 章: 高度なデータ フォーマット

はじめに	15-1
規則: アクションにリンクする条件	15-1
ADF バーコードの使用	15-2
ADF バーコード メニューの例	15-2
規則 1: Code 128 スキャン規則	15-3
規則 2: UPC スキャン規則	15-3
代替の規則セット	15-3
規則の階層 (バーコード内)	15-4
デフォルトの規則	15-5
ADF バーコード	15-5
特殊コマンド	15-8
一時停止の期間	15-8
新しい規則の開始	15-8
規則の保存	15-8
消去	15-9
規則の入力を終了	15-9
規則セットを無効にする	15-10
条件	15-11
コード タイプ	15-11
コードの読み取り桁数	15-18
特定のデータ文字列を含むメッセージ	15-22
アクション	15-27
データの送信	15-27
設定フィールド	15-31
データの変更	15-38
スペースでデータを埋め込む	15-39
ゼロでデータを埋め込む	15-43
ビープ音	15-48
キーストロークの送信 (制御文字およびキーボード文字)	15-48

右側の Ctrl キーの送信	15-84
グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信	15-85
規則セットのオン/オフ	15-90
英数字キーボード	15-92

付録 A: 標準のデフォルト設定パラメータ

付録 B: プログラミング リファレンス

シンボル コード ID	B-1
AIM コード ID	B-3

付録 C: サンプル バーコード

Code 39	C-1
UPC/EAN	C-1
UPC-A、100%	C-1
EAN-13、100%	C-2
Code 128	C-2
Interleaved 2 of 5	C-2
GS1 DataBar-14	C-3
PDF417	C-3
Data Matrix	C-3
Maxicode	C-4
QR Code	C-4
US Postnet	C-4
UK Postal	C-4

付録 D: 数字バーコード

数字バーコード	D-1
キャンセル	D-2

付録 E: ASCII キャラクタ セット

用語集

索引

ご意見 / ご要望

このガイドについて

はじめに

『DS6708 デジタル スキャナ製品リファレンス ガイド』は、DS6708 デジタル スキャナの設定、操作、メンテナンス、およびトラブルシューティングの一般的な方法について説明します。

- ✓ **注** DS6708 プレミア デジタル デコーダはイメージングをサポートしていません。イメージング機能とパラメータについては、『DS6707 Digital Imager Scanner 製品リファレンス ガイド (p/n 72E-83978-xx)』を参照してください。

構成

このガイドでは、次のデジタル イメージャ スキャナの設定に関する情報を掲載しています。

- DS6708-SR: POS スキャン用の標準レンジ デジタル イメージャ スキャナ。
- DS6708-SR20007NSR: プレゼンテーション (ハンズフリー) POS スキャナ用ベースが付属する、標準レンジのデジタル イメージャ スキャナ。
- DS6708-DL: 運転免許証解析用に最適化された、標準レンジのデジタル イメージャ スキャナ。

章の説明

このガイドは、次の章で構成されています。

- **第 1 章の「ご使用前に」** では、製品の概要、開梱、およびケーブルの接続方法について説明します。
- **第 2 章の「スキャン」** では、デジタル スキャナの部品、ビープ音と LED の定義、およびハンドヘルド モードとプレゼンテーション (ハンズフリー) モードでのデジタル スキャナの使用方法について説明します。
- **第 3 章の「保守と技術的な仕様」** では、デジタル スキャナのお手入れのしかた、トラブルシューティング、および技術的な仕様について説明します。
- **第 4 章の「ユーザー設定とその他のデジタル スキャナ オプション」** では、ホスト デバイスへのデータ転送方法のカスタマイズによく使用される機能と、デジタル スキャナのユーザ設定機能選択用のプログラミング バーコードについて説明します。

- **第 5 章の「読み取り設定」**では、デコード設定機能と、機能選択に使用するプログラミング バーコードについて説明します。
- **第 6 章の「USB インタフェース」**では、USB ホストで使用するためのデジタル スキャナの設定方法について説明します。
- **第 7 章の「RS-232 インタフェース」**では、RS-232 ホストで使用するためのデジタル スキャナの設定方法について説明します。ホストには、使用可能な RS-232 ポートを持つ POS デバイス、ホスト コンピュータ およびその他の機器が含まれます。
- **第 8 章の「IBM 468X / 469X インタフェース」**では、デジタル スキャナを IBM 468X/469X POS システムで使用する場合の設定方法について説明します。
- **第 9 章の「ワンド エミュレーション インタフェース」**では、ワンド エミュレーション ホストで使用するためのデジタル スキャナの設定方法について説明します。
- **第 10 章の「スキャナ エミュレーション インタフェース」**では、未デコード スキャナ エミュレーション ホストで使用するためのデジタル スキャナの設定方法について説明します。
- **第 11 章の「キーボード ウェッジ インタフェース」**では、デジタル スキャナに使用するキーボード ウェッジ インタフェースの設定方法について説明します。
- **第 12 章の「123Scan2」**では、PC ベースのスキャナ設定ツール 123Scan² について説明し、123Scan² プログラムとの通信のときにスキャンするバーコードを掲載します。
- **第 13 章の「読み取り可能コード」**では、すべての読み取り可能コードについて説明し、デジタル スキャナでの機能選択時に使用するプログラミング バーコードを掲載します。
- **第 14 章の「運転免許証のセットアップ (DS6708-DL)」**では、米国の運転免許証および AAMVA 準拠の ID カードの 2D バーコードに含まれるデータの読み取りと使用のためにデジタル スキャナをプログラムする方法を説明します。
- **第 15 章の「高度なデータ フォーマット」(ADF)**では、スキャンされたデータをホストに送信する前にカスタマイズする方法について説明します。
- **付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」**は、すべてのホスト デバイスやその他のスキャナのデフォルト値の一覧です。
- **付録 B「プログラミング リファレンス」**は、AIM コード ID、ASCII 変換、およびキーボード マップの一覧です。
- **付録 C「サンプル バーコード」**では、さまざまなコード タイプのサンプル バーコードを示します。
- **付録 D「数字バーコード」**では、特定の数値が必要なパラメータをスキャンするための数字バーコードを掲載しています。
- **付録 E「ASCII キャラクタ セット」**は、ASCII 文字の値の一覧です。

表記規則

このマニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

- **斜体**は、次の項目の強調に使用します。
 - 本書および関連文書の章およびセクション
 - ダイアログ ボックス名、ウィンドウ名、画面名
 - ドロップダウン リスト名、リスト ボックス名
 - チェック ボックス名、ラジオ ボタン名

- **太字**は、次の項目の強調に使用します。
 - キーパッド上のキー名
 - 画面上のボタン名。
- 中黒 (•) は、次を示します。
 - 実行する操作
 - 代替方法のリスト
 - 実行する必要はあるが、順番どおりに実行しなくてもかまわない手順
- 順番どおりに実行する必要のある手順 (順を追った手順) は、番号付きのリストで示されます。
- 本章で説明するプログラミング バーコード メニューでは、デフォルトのパラメータ設定にアスタリスク (*) を付けています。



* はデフォルトを示す * ボーレート 9600 機能/オプション

関連文書

『DS6708 Quick Start Guide (p/n 72-83973-xx)』は、DS6708 の使用を開始するための一般的な情報を提供し、基本的な設定と操作についての指示が含まれています。

このガイドとすべての Symbol ガイドの最新版については、次の Web サイトを参照してください。
<http://supportcentral.motorola.com>。

Symbol 製品を Symbol ビジネス パートナーから購入された場合、サポートについては購入先のビジネス パートナーにお問い合わせください。

サービスに関する情報

本機器に問題が発生した場合は、地域担当の Motorola Enterprise Mobility Support (Motorola エンタープライズ モビリティ サポート) にお問い合わせください。連絡先については、次のサイトを参照してください。
<http://supportcentral.motorola.com>。

Enterprise Mobility Support (エンタープライズ モビリティ サポート) へのお問い合わせの際は、以下の情報をご用意ください。

- 装置のシリアル番号
- モデル番号または製品名
- ソフトウェアのタイプとバージョン番号

Motorola では、サービス契約で定められた期間内に電子メール、電話、または FAX でお問い合わせに対応いたします。

Motorola Enterprise Mobility Support (Motorola エンタープライズ モビリティ サポート) が問題を解決できない場合、修理のため機器をご返送いただくことがあります。その際には、詳しい手順をご案内いたします。Motorola は、承認済みの梱包箱を使用せずに発生した搬送時の損傷について、その責任を負わないものとします。装置を不適切に移動すると、保証が無効になる場合があります。

ご使用のエンタープライズ モビリティ ビジネス製品を Motorola ビジネス パートナーから購入された場合、サポートについては購入先のビジネス パートナーにお問い合わせください。

第1章 ご使用前に

はじめに

DS6708 は、優れた 1D および 2D のオムニスキャン バーコードのスキャンと高速な画像の読み取りを組み合わせただけのものではありません。DS6708 では、一般的に使用されるさまざまなインターフェースがサポートされ、デジタル スキャナの最適な価値が提供されます。ハンドヘルド モードであってもプレゼンテーション モードであっても、確実にデジタル スキャナを長期間快適かつ簡単に使用できます。

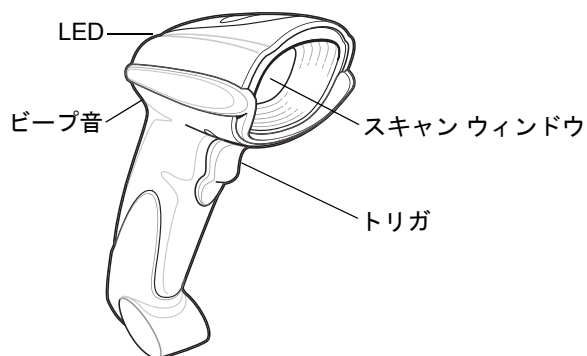


図 1-1 DS6708 デジタル スキャナ



図 1-2 ベース付き DS6708 デジタル スキャナ

サポートされるインタフェース

DS6708 デジタル スキャナでは次がサポートされます。

- ホストへの USB 接続。デジタル スキャナは USB ホストを自動検出し、デフォルトで HID キーボード インタフェース タイプに設定します。他の USB インタフェース タイプを選択する場合は、プログラミング バルコード メニューをスキャンしてください。Windows® 環境で、英語 (U.S.)、ドイツ語、フランス語、フランス語 (カナダ)、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、英語 (U.K.)、ポルトガル語 (ブラジル)、日本語のキーボードをサポートしています。
- IBM 468X/469X ホストへの接続。バーコード メニューをスキャンして、デジタル スキャナと IBM 端末が通信できるようセットアップしてください。
- ホストへの標準 RS-232 接続。バーコード メニューをスキャンして、デジタル スキャナとホストが正しく通信できるようセットアップしてください。
- ホストへのワンド エミュレーション接続。デジタル スキャナはデータをワンド データとして収集し読み取る、簡易入力端末、コントローラ、ホストに接続されています。
- ホストへのキーボード ウェッジ接続。スキャンされたデータはキー入力として解釈されます。Windows® 環境で、英語 (U.S.)、ドイツ語、フランス語、フランス語 (カナダ)、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、英語 (U.K.)、ポルトガル語 (ブラジル)、日本語のキーボードをサポートします。
- スキャナ エミュレーション接続。デジタル スキャナはデータを収集してホスト用に解釈する簡易入力端末またはコントローラに接続されています。
- シナプス ケーブルとシナプス アダプタ ケーブルを使用して、さまざまな種類のホスト システムに接続できるシナプス機能。デジタル スキャナはホストを自動検出します。
- 123Scan² を使用した設定。

パッケージの開梱

デジタル スキャナを箱から取り出し、破損している機器がないかどうかを確認します。配送中にデジタル スキャナが損傷していた場合は、Motorola Enterprise Mobility Support (Motorola エンタープライズ モビリティ サポート) までご連絡ください。連絡先については、[xvii ページ](#)を参照してください。箱は、保管しておいてください。これは承認済みの梱包箱です。修理のため機器をご返送いただく場合は、これを使用してください。

デジタルスキャナのセットアップ

標準モデル

インタフェースケーブルの接続

1. インタフェースケーブルモジュラコネクタをスキャナハンドルの下部にあるケーブルインタフェースポートに差し込みます (図 1-3 を参照)。
2. ケーブルを軽く引っ張り、コネクタが接続されていることを確認します。
3. インタフェースケーブルのもう一端をホストに接続します (ホスト接続の詳細については、該当するホストの章を参照してください)。

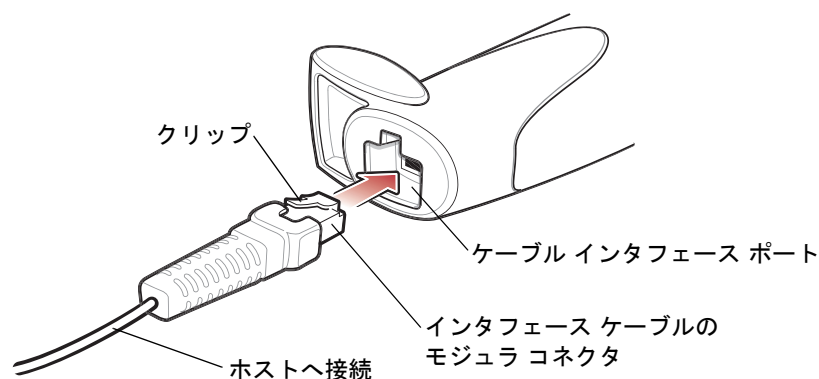


図 1-3 ケーブルの接続

- ✓ **注** ホストが異なる場合、それに対応したケーブルが必要になります。各ホストの章に記載されているコネクタは例として記載されているだけです。コネクタは図と異なる場合がありますが、デジタルスキャナの接続手順は同じです。

インタフェースケーブルの交換

1. ドライバの先を使用して、ケーブルのモジュラコネクタクリップを押します。

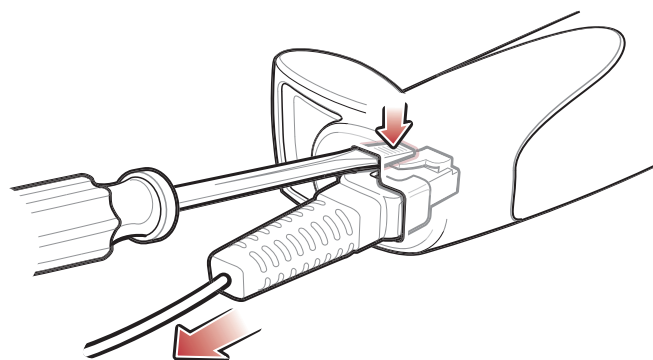


図 1-4 ケーブルの取り外し

2. 注意してケーブルをスライドします。
3. 新しいケーブルを接続するには、「[インタフェースケーブルの接続](#)」の手順に従います。

シナプス ケーブル インタフェースの接続 (DS6708 のみ)

- ✓ **注** 詳細なセットアップ手順については、シナプス ケーブルに付属の『シナプス インタフェース ガイド』を参照してください。

シナプス スマート ケーブルを使用すると、さまざまなホストに接続できます。シナプス ケーブルには、そのホストを検出するためのインテリジェンスが組み込まれています。

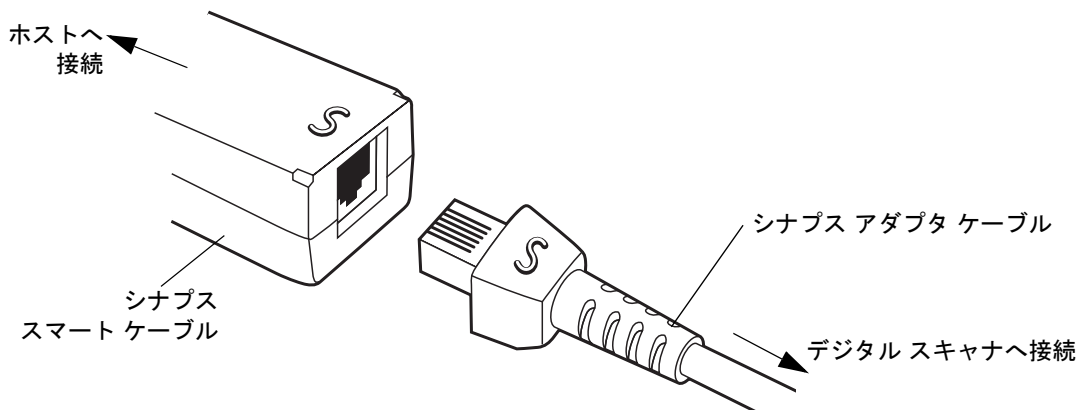


図 1-5 シナプス ケーブル接続

1. **1-3 ページの「インタフェース ケーブルの接続」**の説明に従って、シナプス アダプタ ケーブル (p/n 25-32463-xx) をデジタル スキャナの下部に差し込みます。
2. シナプス アダプタ ケーブルの「S」とシナプス スマート ケーブルの「S」を合わせて、ケーブルを差し込みます。
3. シナプス スマート ケーブルのもう一端をホストに接続します。

電源の接続 (必要な場合)

ホストがデジタル スキャナに電源を供給していない場合、外部電源をデジタル スキャナに接続します。

1. **1-3 ページの「インタフェース ケーブルの接続」**の説明に従って、インタフェース ケーブルをデジタル スキャナの下部に接続します。
2. インタフェース ケーブルのもう一端をホストに接続します (適切なポートの位置については、ホストのマニュアルを参照してください)。
3. 電源をインタフェース ケーブルの電源ジャックに差し込みます。電源のもう一端を AC コンセントに差し込みます。

ベース付きモデル

インタフェース ケーブルの接続

1. 両方の角度調整ノブを左に回して、ベースでスキャナを緩めます。図 1-6 を参照してください。
2. スキャナの下部にあるケーブル インタフェース ポートに完全にアクセスできるようになるまで、スキャナを前に移動します。図 1-3 または図 1-5 を参照してください。

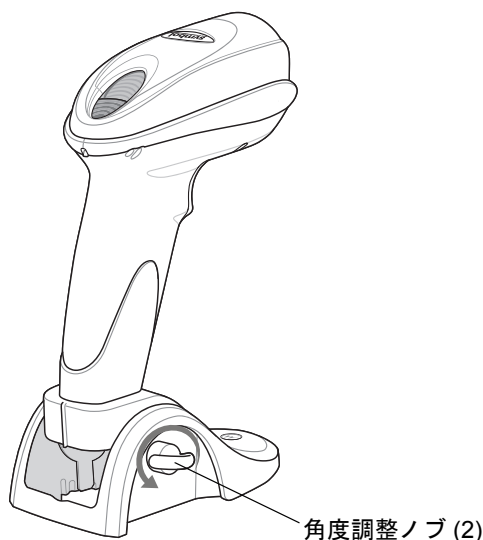


図 1-6 ケーブル接続のためのスキャナの調整

3. ベースの背面にある開口部からインタフェース ケーブルを挿入します。
 - ✓ **注** ケーブルは、ベースの下ではなく背面にある開口部から挿入してください。
4. インタフェース ケーブルのモジュラ コネクタをスキャナ ハンドル底部にあるケーブル インタフェース ポートに差し込みます。
5. ケーブルを軽く引っ張り、コネクタが確実に接続されていることを確認します。
6. スキャナを望ましい角度に移動して、角度調整ノブを右に回して締めます。
7. インタフェース ケーブルのもう一端をホストに接続します (適切なポートの位置については、ホストのマニュアルを参照してください)。

- ✓ **注** ホストが異なる場合、それに対応したケーブルが必要になります。各ホストの章に記載されているコネクタは例として記載されているだけです。コネクタは図と異なる場合がありますが、デジタル スキャナの接続手順は同じです。

ベース付きスキャナのインタフェース ケーブルの取り外し

1. 両方の角度調整ノブを左に回して、ベースでスキャナを緩めます。図 1-6 を参照してください。
2. スキャナの下部にあるケーブル インタフェース ポートに完全にアクセスできるようになるまで、スキャナを前に移動します。
3. ドライバの先を使用して、ケーブルのモジュラ コネクタ クリップを押します。図 1-4 を参照してください。

4. 注意してケーブルをスライドします。
5. 新しいケーブルを接続するには、「[インタフェース ケーブルの接続](#)」の手順に従います。
6. スキャナを望ましい角度に移動して、角度調整ノブを右に回して締めます。

デジタル スキャナの設定

デジタル スキャナを構成するには、本マニュアルまたは 123Scan² 構成プログラムに含まれているバーコードを使用します。

バーコード メニューを使用してデジタル スキャナをプログラミングする場合の詳細については、[第 4 章の「ユーザー設定とその他のデジタル スキャナ オプション](#)」および[第 5 章の「読み取り設定](#)」を参照してください。また、特定のホスト タイプへの接続を確立するには、各ホスト向けの章を参照してください。

この設定プログラムを使用したデジタル スキャナの設定方法については、[第 12 章の「123Scan2](#)」を参照してください。プログラムにはヘルプ ファイルが含まれています。

デジタル スキャナの設置

卓上設置

デジタル スキャナを便利かつ安全で平らな場所に配置するには、オプションの卓上設置を使用します。平らな面に取り付けるだけです。デジタル スキャナの挿入および取り外し時に、ゴム製の足部によって取り付けが確実に固定されます。

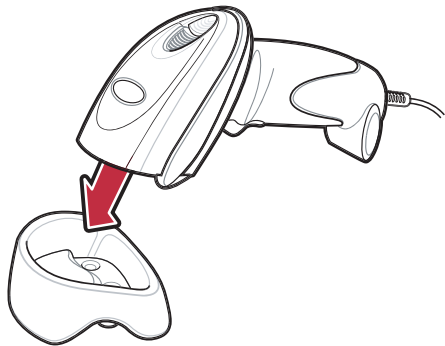


図 1-7 卓上設置へのデジタル スキャナの挿入

取り付け面に適した 2 本のネジ* を卓上設置のネジ穴から表面に挿入して、卓上設置を机の表面に固定できます。ゴム製の足部が付いているか、付いていない表面に卓上設置をネジで取り付けます。

* 推奨されるネジは、2 本の 6 番ネジ (長さ 5/8") です。

壁面への取り付け

オプションの壁面への取り付けを使用して、デジタル スキャナを壁面に取り付けるには、取り付け面に適した 2 本のネジ* を取り付け面のネジ穴から表面に挿入して、壁面の望ましい場所に取り付けて固定します。示されているように、デジタル スキャナを取り付け面に挿入します。

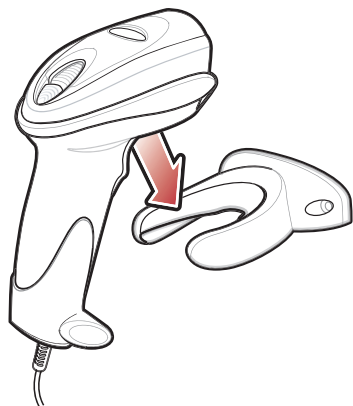


図 1-8 壁面への取り付けの固定

* 推奨されるネジは、2 本の 6 番ネジ (長さ 1") と 2 本の 6 番ワッシャーです。

利便性のために、このページを印刷して、以下の取り付け穴の場所のテンプレートを使用してください。

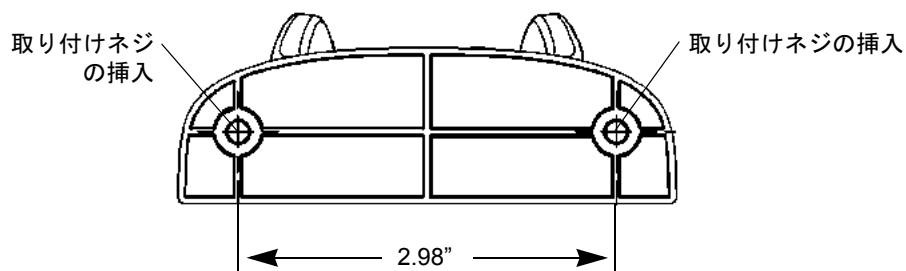


図 1-9 壁面への取り付けのテンプレート

第2章 スキャン

はじめに

この章では、ビープ音と LED の定義、バーコードのスキャンに関するテクニック、スキャンについての一般的な指示とヒント、およびデコードゾーン図について説明します。

ビーブ音の定義

ビーブ シーケンスの音程やパターンによって、デジタル スキャナの動作状態を知ることができます。表 2-1 は、通常のスキャン時やデジタル スキャナのプログラミング時のビーブ シーケンスを示したものです。

表 2-1 ビーブ音の定義

ビーブシーケンス	説明
(通常使用時)	
低音 - 中音 - 高音	電源投入中です。
高音の短いビーブ音	バーコードが読み取られました (読み取りのビーブ音が有効になっている場合)。
4 回の長い低音	スキャンされたシンボルの転送エラーが検出されました。データは無視されます。これは、デジタル スキャナが正しく設定されていない場合に発生します。オプション設定を確認してください。
低音 5 回	変換またはフォーマットに関するエラーです。
低音 - 高音 - 低音	ADF の転送エラーです。第 15 章の「高度なデータ フォーマット」を参照してください。
高音 - 高音 - 高音 - 低音	RS-232 の受信エラーです。
パラメータ メニューのスキャン	
低音 - 高音 - 低音 - 高音	ホストパラメータの記憶領域が不足しています。4-4 ページの「デフォルト設定パラメータ」をスキャンします。
高音の短いビーブ音	適切にスキャンを実行しました。または適切にメニューを実行しました。
低音 - 高音	入力エラー。バーコードが適切でないか、プログラム シーケンスが正しくないか、「キャンセル」バーコードがスキャンされました。ADF プログラム モードのままです。
高音 - 低音	キーボードパラメータを選択しました。数字バーコードを使用して数値を入力します。
高音 - 低音 - 高音 - 低音	パラメータ設定を変更して、プログラムを正常に終了しました。
Code 39 バッファリング	
高音 - 低音	新しい Code 39 データがバッファに入力されました。
長い高音 3 回	Code 39 バッファに空き容量がなくなりました。
低音 - 高音 - 低音	Code 39 バッファが消去されたか、空のバッファがクリアまたは転送されようとなりました。
低音 - 高音	バッファされたデータが正常に転送されました。
Macro PDF	
2 回の長い低音	ファイル ID エラー。現在の MPDF シーケンスにないバーコードがスキャンされました。

表 2-1 ビープ音の定義 (続き)

ビープシーケンス	説明
3 回の長い低音	メモリ不足です。現在の MPDF シンボルを格納するのに十分なバッファ容量がありません。
4 回の長い低音	読み取り可能コードに問題があります。MPDF シーケンスで 1D または 2D バーコードをスキャンした、MPDF ラベルの重複、不正な順序のラベル、空のまたは不正な MPDF フィールドの送信など。
5 回の長い低音	MPDF バッファをクリアします。
短い高音	MPDF シーケンスの中断。
低音 - 高音	すでに空になっている MPDF バッファのクリア。
ADF プログラミング: 通常のデータ入力。短い音。	
高音 - 低音	別の数字を入力します。必要に応じて先行ゼロを追加します。
低音 - 低音	別の英字を入力するか、「メッセージの終わり」バーコードをスキャンします。
高音 - 高音	別の条件またはアクションを入力するか、「規則の保存」バーコードをスキャンします。
高音 - 低音 - 高音 - 低音	規則が保存されました。規則の入力モードが終了しました。
高音 - 低音 - 低音	現在の規則のすべての条件またはアクションをクリアし、規則の入力を続行します。
低音	最後に保存された規則を削除します。現在の規則は以前のままになっています。
低音 - 高音 - 高音	すべての規則が削除されました。
ADF プログラミング: エラー通知。非常に長い音。	
低音 - 高音 - 低音 - 高音	規則のメモリ不足。既存の規則の一部を消去し、規則を再び保存してください (現在の規則を再入力する必要はありません)。
低音 - 高音 - 低音	規則の入力がキャンセルされました。エラーのため、またはユーザーが規則の入力モードを選択したため、規則の入力モードが終了しました。
低音 - 高音	入力エラー、誤ったバーコードがスキャンされました。条件またはアクションを再入力します。以前に入力されたすべての条件とアクションは保持されます。条件またはアクションのリストが、規則に対して長すぎます。
ホスト別	
USB のみ	
短い高音 4 回	デジタル スキャナの初期化が完了していません。数秒待ってからスキャンし直してください。
USB デバイス タイプのスキャン時の低音 - 中音 - 高音ビープ	デジタル スキャナが最大の電源レベルで動作するためには、バスとの通信がその前に確立されている必要があります。

表 2-1 ビープ音の定義 (続き)

ビープシーケンス	説明
低音 - 中音 - 高音ビープが繰り返される。	USB バスによって、デジタル スキャナの電源オン/オフのサイクルが複数回繰り返される状態になっている可能性があります。これは正常な動作で、通常、PC を電源オフの状態から起動するときに発生します。
RS-232 のみ	
短い高音 1 回	<BEL> が受信され、<BEL> に対してビープ音を鳴らす設定が有効になっています。

LED の定義

ビープシーケンスに加えて、デジタル スキャナは 2 色の LED でもステータスを知らせます。表 2-2 に、スキャン中に表示される LED の色の定義を示します。

表 2-2 標準的な LED の定義

LED	説明
消灯	デジタル スキャナの電源が入っていないか、電源が入っていてデジタル スキャンの準備が完了している状態です。
緑色	バーコードが正常に読み取られました。
赤色	データ転送エラーまたはデジタル スキャナの不具合です。

ハンドヘルドモードでのスキャン

デジタル スキャナをインストールし、プログラムします (1-3 ページの「[デジタル スキャナのセットアップ](#)」参照)。不明な点がある場合は、最寄りの販売店または Motorola Enterprise Mobility Support (Motorola エンタープライズ モビリティ サポート) にお問い合わせください。

デジタル スキャナでのスキャン

1. 接続部分がすべてしっかり接続されていることを確認します (関係するホストの章を参照)。

- デジタル スキャナをバーコードに向けます。

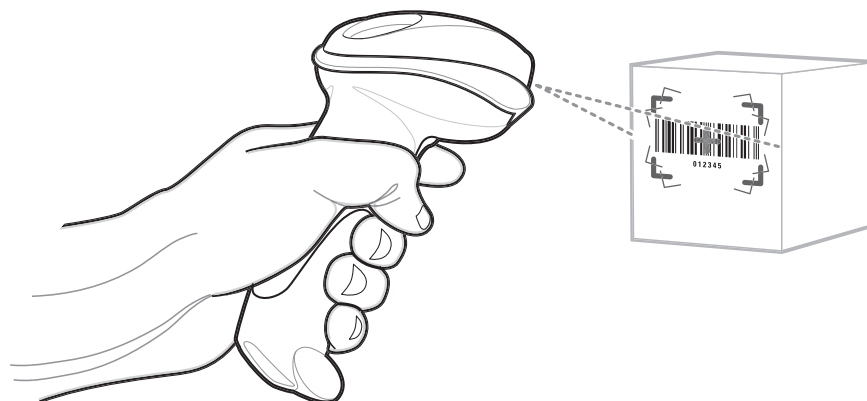


図 2-10 ハンドヘルド モードでのスキャン

- デジタル スキャナは、動きを感知すると、デフォルトの**自動照準トリガ**モードでは、読み取り範囲内でバーコードや物体の位置を決めるのに役立つ赤いレーザーの照準パターンを照射します。(デフォルトの**自動照準トリガ**モードをオフにする方法については、[4-8 ページの「トリガモード」](#)を参照してください)

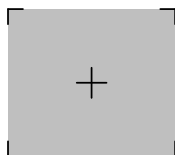


図 2-11 レーザー照準パターン

必要であれば、デジタル スキャナは赤色 LED をオンにして、対象のバーコードを照射します。

- シンボルを照準パターン内の中央に任意の方向で配置します。パターン内のブラケットが形成する長方形の領域内にバー全体が収まっていることを確認します。

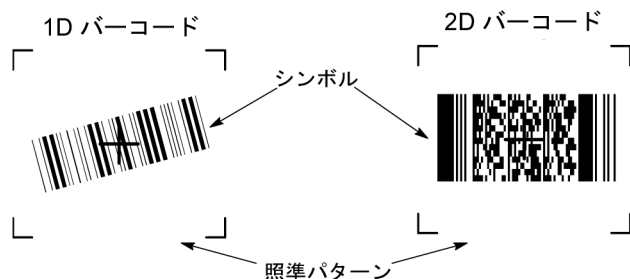


図 2-12 照準パターン内でのシンボルの中央寄せ

- デジタル スキャナからバーコードのデコード成功を知らせるピープ音がするまでトリガを押さえます。ピープ音と LED 定義の詳細については、[表 2-1](#) および [表 2-2](#) を参照してください。

この過程は通常、瞬時に行われます。低品質や判読しにくいバーコードではステップ 2 ~ 4 が繰り返され、バーコードがデコードされるか、トリガを解放するか、デコードセッションタイムアウトになるまで続きます。

照準

デジタル スキャナをシンボルから 2 ～ 9 インチ離し (シンボル密度による。2-9 ページの「読み取り可能範囲」参照)、照準パターンの十字をシンボルに合わせます。

照準パターンは、デジタル スキャナがシンボルに近づくと小さく、遠ざかると大きくなります。小さいバーや要素 (MIL サイズ) のシンボルのスキャンはデジタル スキャナを近づけ、大きなバーや要素 (MIL サイズ) のシンボルのスキャンでは遠ざけます。

デジタル スキャナは、照準パターン内であってもその中央に位置づけられていないバーコードを読み取ることができます。図 2-13 の上 2 つの例は許容される照準方法の例ですが、下 2 つの例では読み取ることができません。

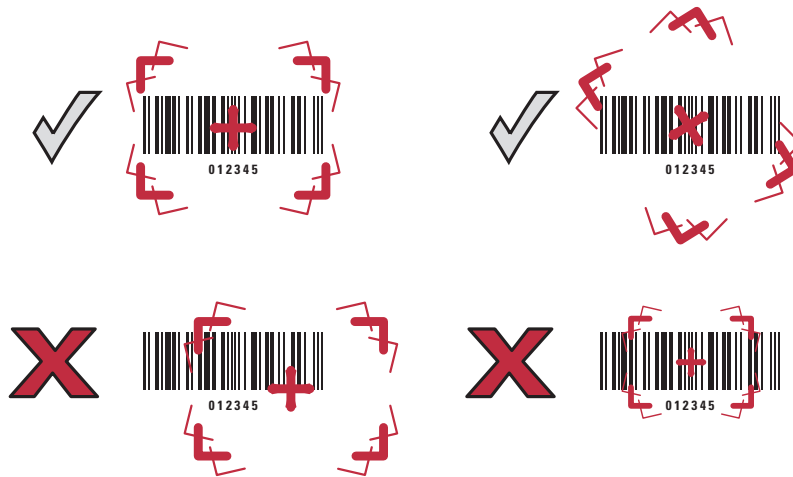


図 2-13 許容される照準と誤った照準

プレゼンテーションモードでのスキャン

インテリスタンドのデジタルスキャナでのスキャン

オプションのインテリスタンドを使用すれば、スキャン操作の柔軟性が格段に向上します。デジタルスキャナをスタンドの「カップ」に入れると、デジタルスキャナの内蔵センサーがデジタルスキャナをプレゼンテーションモードに切り換えます。デジタルスキャナをスタンドから離すと、通常のハンドヘルドモードで動作します。

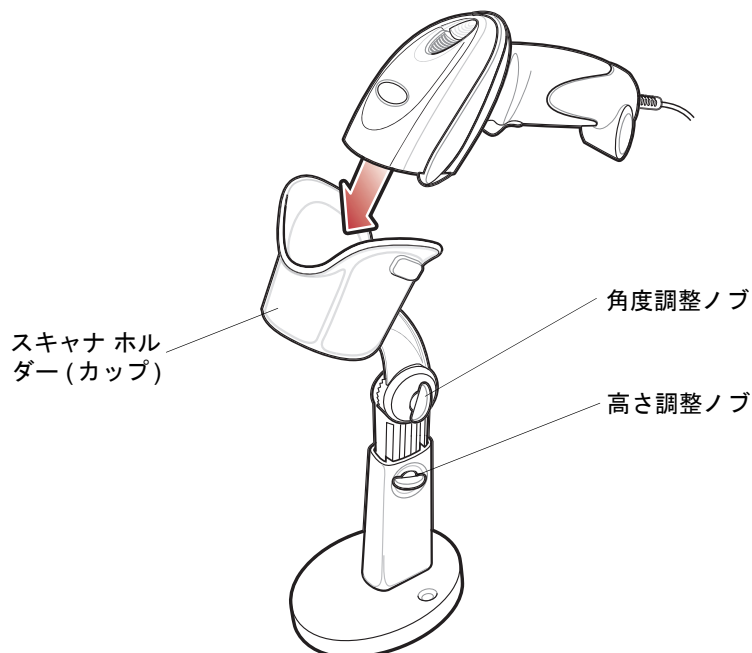


図 2-14 デジタルスキャナのインテリスタンドへの挿入

デジタルスキャナをインテリスタンド内で動作させるには、次の手順に従います。

1. デジタルスキャナをホストに接続します (ホストとの接続については、該当するホストについての章を参照してください)。
2. デジタルスキャナの前面をスタンドの「カップ」に置いてスキャナをインテリスタンドに挿入します (図 2-14 参照)。
3. デジタルスキャナの高さや角度を調節するには、インテリスタンドの調節ノブを使用します。
4. 照準パターンの中央にコードを位置づけます。コード全体がブラケット内に入っている必要があります。
5. 正常な読み取りでは、デジタルスキャナがピープ音を鳴らし、LED が緑に変わります。ピープ音と LED 定義の詳細については、表 2-1 および表 2-2 を参照してください。

ベース付きデジタルスキャナでのスキャン

ベース付属の DS6707 デジタル スキャナ (DS670X-SR2000XNSR) は、プレゼンテーション (ハンズフリー) モードとハンドヘルド モードとの切り換えを柔軟に行うことができます。デフォルト モードはプレゼンテーション モードです。

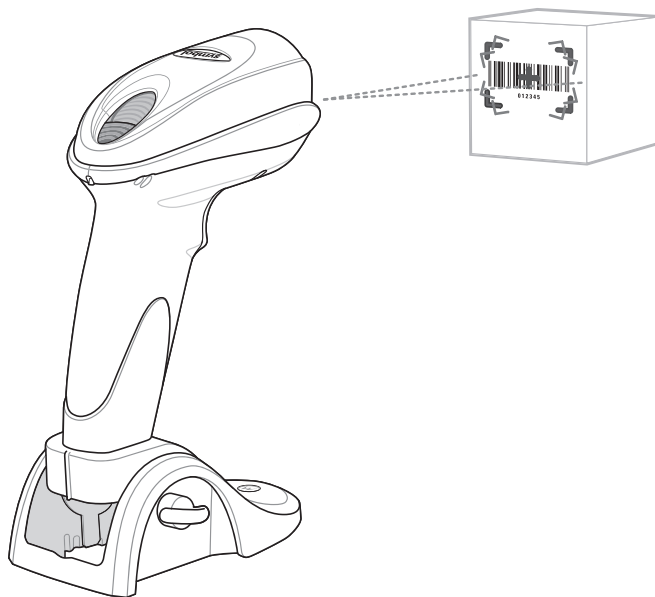


図 2-15 プレゼンテーション モードでのスキャン

デジタル スキャナでのスキャン

1. 接続部分がすべてしっかり接続されていることを確認します (関係するホストの章を参照)。
2. デジタル スキャナの角度を調節するには、インテリスタンドの調節ノブを使用します。
3. 照準パターンの中央にコードを位置づけます。コード全体がブラケット内に入っている必要があります。
4. 正常な読み取りでは、デジタル スキャナがピープ音を鳴らし、LED が緑に変わります。ピープ音と LED 定義の詳細については、[表 2-1](#) および [表 2-2](#) を参照してください。

ハンドヘルド モードへの切り替え

1. ハンドヘルドで使用するには、スキャナを持ち上げます。
2. 照準パターンの中央にコードを位置づけます。コード全体がブラケット内に入っている必要があります。
3. トリガを引きます。正常な読み取りでは、デジタル スキャナがピープ音を鳴らし、LED が緑に変わります。ピープ音と LED 定義の詳細については、[表 2-1](#) および [表 2-2](#) を参照してください。
4. デジタル スキャナは、あらかじめ設定した遅延時間の後に、自動的にプレゼンテーション モードに戻ります。デフォルトは 3 秒です。(遅延時間の変更方法については、[4-11 ページの「プレゼンテーション遅延時間モード」](#)を参照してください)

読み取り可能範囲

注: 気温 73.4F(23°C)、高品質なシンボルでの性能です。

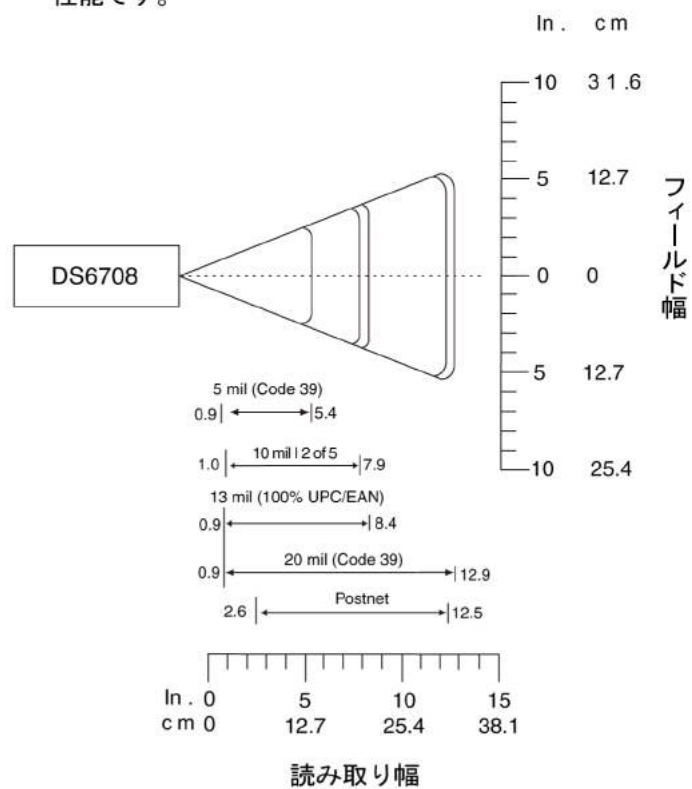


図 2-16 DS6708 デジタルスキャナの 1D バーコードの読み取り可能範囲

注: 気温 73.4F(23°C)、高品質なシンボルでの性能です。

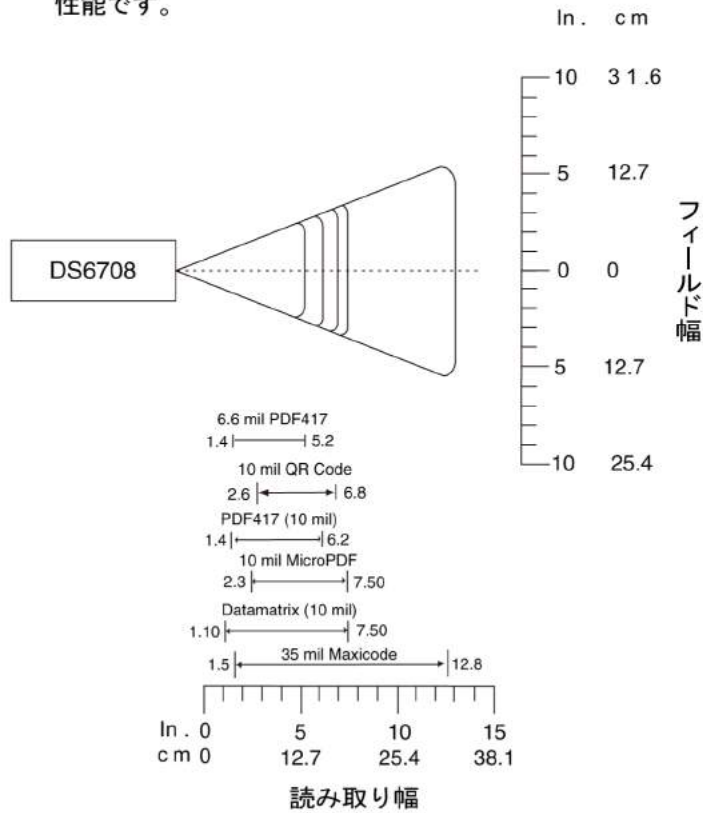


図 2-17 DS6708 デジタルスキャナの 2D バーコードの読み取り可能範囲

第3章 保守と技術的な仕様

はじめに

この章では、推奨されるスキャナのメンテナンス、トラブルシューティング、技術仕様、および信号の意味 (ピン配列) について説明します。

メンテナンス

必要なメンテナンスは、スキャン ウィンドウのクリーニングだけです。ウィンドウが汚れていると、スキャン精度に影響する場合があります。

- ウィンドウのクリーニングには、研磨剤を使用しないでください。
- 湿らせた布でほこりを拭き取ります。
- アンモニアまたは水を含ませたティッシュペーパーでウィンドウを拭いてください。
- 水などの液体を直接ウィンドウに吹きかけないでください。

トラブルシューティング

表 3-1 トラブルシューティング

問題	主な原因	考えられる解決方法
トリガを押しても照準パターンが表示されない。	デジタル スキャナに電源が供給されていません。	電源が必要な機器構成の場合、電源に接続し直してください。
	誤ったホスト インタフェース ケーブルが使用されています。	正しいホスト インタフェース ケーブルを接続してください。
	インタフェース/電源ケーブルの接続が緩んでいます。	ケーブルを再接続してください。
	デジタル スキャナが無効になっています。	シナプスまたは IBM 468x モードの場合、ホスト インタフェースを介してデジタル スキャナを有効にしてください。それ以外の場合、担当技術者にご連絡ください。
	RS-232 Nixdorf B モードを使用している場合、CTS がオンになっていません。	CTS 制御線をオンにします。
	照準パターンが無効になっています。	照準パターンを有効にしてください。5-5 ページの「読み取り照準パターン」を参照してください。
スキャナから、短い低音/短い中音/短い高音 (電源投入のビープ シーケンス) が複数回鳴ります。	USB バスによって、デジタル スキャナの電源オン/オフのサイクルが複数回繰り返される状態になっている可能性があります。	ホスト リセット中の場合、正常です。
デジタル スキャナから照準パターンが照射されますが、バーコードは読み取られません。	デジタル スキャナが正しいバーコードタイプに合わせてプログラムされていません。	そのタイプのバーコードを読み取るようにデジタル スキャナをプログラミングしてください。第 13 章の「読み取り可能コード」を参照してください。
	バーコードを読み取れません。	同じバーコードタイプのテスト記号をスキャンして、バーコードが劣化していないか確認します。
	記号が照準パターン内に完全に入っていません。	記号を照準パターン内に完全に移動してください。
デジタル スキャナから、読み取りの試行中に短い高音が 4 回鳴ります。	デジタル スキャナで USB 初期化が完了していません。	数秒待ってからスキャンし直してください。

表 3-1 トラブルシューティング (続き)

問題	主な原因	考えられる解決方法
デジタル スキャナでバーコードは読み取れるが、そのデータがホストに転送されない。	デジタル スキャナが正しいホストタイプに合わせてプログラムされていません。	適切なホストタイプのプログラミングバーコードをスキャンします。ホストタイプに対応する章を参照してください。
	インタフェース ケーブルの接続が緩んでいます。	ケーブルを再接続してください。
	長い低音が 4 回聞こえた場合、転送エラーが発生しました。	ホストの設定と一致するように、デジタル スキャナの通信パラメータを設定します。
	低音が 5 回聞こえた場合、変換またはフォーマットに関するエラーが発生しました。	デジタル スキャナの変換パラメータを正しく構成してください。
	低/高/低音が聞こえた場合、無効な ADF 規則が検出されました。	正しい ADF 規則をプログラムしてください。
	高/低音が聞こえた場合、デジタル スキャナが Code 39 データをバッファリングしています。	「Code 39 バーコードの通常のスキャン時と Code 39 バッファリング時」オプションが有効になっています。
スキャンされたデータがホストに正しく表示されない。	デジタル スキャナがホストと連携するようにプログラムされていません。	適切なホストタイプのプログラミングバーコードをスキャンします。
		RS-232 では、ホストの設定と一致するようにデジタル スキャナの通信パラメータを設定します。
		キーボード ウェッジ構成では、システムを正しいキーボードタイプでプログラムして、CAPS LOCK キーをオフにしてください。
		正しい編集オプション (たとえば、UPC-E から UPC-A への変換) をプログラムします。
使用中ではないときに、デジタル スキャナから高音 - 高音 - 高音 - 低音のビーブ音が鳴る。	RS-232 の受信エラーです。	ホスト リセット中の場合、正常です。それ以外の場合は、デジタル スキャナの RS-232 パリティがホスト設定と一致するように設定してください。
プログラミング中にデジタル スキャナから低音 - 高音のビーブ音が鳴る。	入力にエラーがあるか、「キャンセル」バーコードがスキャンされました。	プログラムされたパラメータの範囲内の正しい数字バーコードをスキャンします。

表 3-1 トラブルシューティング (続き)

問題	主な原因	考えられる解決方法
プログラミング中にデジタル スキャナから低音 - 高音 - 低音 - 高音のビーブ音が鳴る。	ADF パラメータの保存領域が足りません。	規則をすべて消去してから、短い規則でプログラミングし直してください。
	デジタル スキャナにシナプス パラメータの保存領域が足りない可能性があります。	使用中ではないケーブルの「シナプスのデフォルト設定」バーコードをスキャンして、現在のホストインタフェースのデジタル スキャナをプログラミングし直してください。
デジタル スキャナから低音 - 高音 - 低音のビーブ音が鳴る。	Code 39 バッファを消去しています。	Code 39 バッファリングの「バッファ消去」バーコードのスキャン時や、空の Code 39 バッファの転送試行時であれば、正常です。
USB ホスト タイプの変更後にデジタル スキャナから電源投入のビーブ音が鳴る。	USB バスによって、デジタル スキャナの電源供給が再確立されました。	USB ホスト タイプの変更時であれば正常です。
使用中ではないときに、デジタル スキャナから高音が 1 回鳴る。	RS-232 モードでは、<BEL> キャラクタが受信され、「<BEL> によるビーブ音」オプションが有効になっています。	「<BEL> によるビーブ音」が有効になっていて、デジタル スキャナが RS-232 モードになっていれば正常です。

- ✓ **注** これらのチェックの実行後も、デジタル スキャナで問題が発生する場合、販売店または Motorola Enterprise Mobility Support Center (Motorola エンタープライズ モビリティ サポート センター) にお問い合わせください。電話番号については、[xvii ページ](#)を参照してください。

技術仕様

表 3-2 技術仕様

項目	説明
物理仕様	
寸法 (スキャナの場合のみ。 ベースは含まれません)	6.55 インチ x 4.72 インチ x 2.82 インチ (16.6cm x 11.9cm x 7.1cm) (H x L x W)
重量 :	6.4oz.(182gm)
電圧と電流 :	5 +/-10%VDC @ 350 mA
カラー	キャッシュ レジスタ ホワイトまたはトワイライト ブラック
性能	
光源	照準 : 650nm 半導体レーザー 照明 : 630nm LED
読み取り幅 (垂直 x 水平)	34° (V) x 43° (H)
回転 ピッチ 偏揺れ角	360° +/- 65° +/- 60°
対応コード	
1D	UPC/EAN およびサプリメンタル (Code 39、Code 39 Full ASCII、Tri-optic Code 39、GS1 DataBar Variants (以前の RSS)、GS1-128 (以前の UCC/EAN-128)、Code 128、Code 128 Full ASCII、Code 93、Codabar (NW1)、Interleaved 2 of 5、Discrete 2 of 5、MSI、Code 11、IATA、Bookland EAN、Code 32) 付き
PDF417 (および Variants)	PDF417、MicroPDF417、Composite Codes
郵便コード	米国 Postnet および Planet、英国、日本、オーストラリア、オランダ KIX Code、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UPU FICS Postal
2D	MaxiCode、Data Matrix (ECC 200)、QR Code、Micro QR、Aztec

表 3-2 技術仕様 (続き)

項目	説明
通常の読取深度	5 mil (Code 39): 0.9 ~ 5.4 インチ (2.3 ~ 13.7cm) 10 mil (1 2 of 5): 1.0 ~ 7.9 インチ (2.5 ~ 20.1cm) 13 mil (100% UPC/EAN): 0.9 ~ 8.4 インチ (2.3 ~ 21.3cm) Postnet 2.6 ~ 12.5 インチ (6.6 ~ 31.8cm) 20 mil (Code 39): 0.9 ~ 12.9 インチ (2.3 ~ 32.8cm) PDF417 (6.6 Mil): 3.4 ~ 5.7 インチ (8.6 ~ 14.5cm) QR Code (10 Mil) 2.6 ~ 6.8 インチ (6.6 ~ 17.3cm) PDF417 (10 Mil): 1.4 ~ 6.2 インチ (3.6 ~ 15.7cm) MicroPDF (10 Mil): 2.3 ~ 7.5 インチ (5.8 ~ 19.1cm) Data Matrix (10 Mil): 1.1 ~ 7.5 インチ (2.8 ~ 19.1cm) Maxicode (35 Mil): 1.5 ~ 12.8 インチ (3.8 ~ 32.5cm)
PCS 値	MRD 25% (最小反射率)
移動体読み取り可能速度	水平速度: 5 インチ (12.7cm) / 秒
サポートしているインタフェース	RS-232C (標準、Nixdorf、ICL、富士通)、USB (標準、IBM SurePOS、Macintosh)、IBM 468x/469x、キーボード ウェッジ、および Synapse 接続により、上記を加えた多数の非標準インタフェースへの接続に対応しています。
動作環境	
動作温度	32°F ~ 104°F (0°C ~ 40°C)
保管温度	-40°F ~ 158°F (-40°C ~ 70°C)
湿度	5% ~ 95% (結露なきこと)
耐落下衝撃性能 (スキャナの場合のみ。 ベースは含まれません)	極端な動作温度で 5 フィート (1.52m) の高さからコンクリート面に複数回落下しても破損しません。また、室温 (23° C) で 6 フィート (1.8m) の高さからコンクリート面に複数回落下しても破損しません。
耐周辺光	通常の室内照明および屋外自然光 (直射日光) に対応

第4章 ユーザー設定とその他のデジタル スキャナオプション

はじめに

デジタル スキャナをプログラミングして、さまざまな機能を実行したり、有効にしたりすることができます。この章では、各ユーザー設定機能について説明し、これらの機能選択のためのプログラミング バーコードを掲載します。

デジタル スキャナは、4-2 ページの表 4-1 に示す設定で出荷されています。すべてのホスト デバイスやその他のデフォルト値については、付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」を参照してください。デフォルト値が要件を満たす場合、プログラミングの必要はありません。

機能の値を設定するには、シングル バーコードまたは短いバーコード シーケンスをスキャンします。これら設定は不揮発性メモリに保存され、デジタル スキャナの電源を落としても保持されます。

✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードがはっきり表示され、バーやスペースが混じらないレベルまで文書を拡大するようにします。

USB ケーブルまたはシナプス ケーブルを使用していない場合、電源投入ビーブ音の後にホスト タイプを選択します (ホスト固有の情報については、各ホストについての章を参照してください)。これは、新しいホストに接続するときの最初の電源投入時だけに必要です。

すべての機能をデフォルト値に戻すには、4-4 ページの「デフォルト設定パラメータ」をスキャンします。プログラミング バーコード メニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す * 大音量 (00h) 機能/オプション

スキャンシーケンスの例

通常、1つのバーコードをスキャンすると、パラメータ値が設定されます。たとえば、ビープ音の音程を高音に設定する場合、[4-5 ページの「ビープ音の音程」](#)に掲載された「高周波」バーコードをスキャンするだけです。短い高音のビープ音が1回鳴ってLEDが緑色に変われば、パラメータの設定は成功です。

「シリアルレスポンスタイムアウト」や「データ転送フォーマット」などのその他のパラメータでは、いくつかのバーコードのスキャンが必要です。この手順に使用するこれらのパラメータの説明を参照してください。

スキャン中のエラー

特に指示がない限り、スキャン中のエラーは、正しいパラメータを再スキャンするだけで修正できます。

「ユーザー設定」オプションパラメータのデフォルト

[表 4-1](#) に、ユーザー設定パラメータのデフォルトをリストします。デフォルト値を変更する方法は2種類あります。

- 本書の適切なバーコードをスキャンします。これらの新しい値は、メモリの標準デフォルト値を上書きします。デフォルト設定パラメータ値に戻すには、[4-4 ページの「デフォルト設定パラメータ」](#)をスキャンします。
- 123Scan² 設定パラメータを使用してデジタル スキャナを設定します ([第 12 章の「123Scan2」](#)を参照)。

✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、[付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」](#)を参照してください。

表 4-1 ユーザー設定パラメータのデフォルト

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
ユーザー設定			
デフォルト設定パラメータ		デフォルト設定に戻す	4-4
パラメータ スキャン	ECh	有効	4-5
ビープ音の音程	91h	中	4-5
ビープ音の音量	8Ch	高	4-6
電源投入時ビープ音の抑止	F1h D1h	抑止しない	4-6
電源モード	80h	常時オン	4-7
低電力モード遅延時間	92h	1 分	4-7
トリガ モード	8Ah	自動照準	4-8
ピックリスト モード	F0h 92h	常時無効	4-10
プレゼンテーション モード遅延時間	F1h、E9h	無効 (ベース付き スキャナでは 3 秒)	4-11

表 4-1 ユーザー設定パラメータのデフォルト (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
携帯電話/ディスプレイ モード	F1h CCh	無効	4-13
携帯電話デコード速度	F1h D6h	中	4-14
デコードセッションタイムアウト	88h	9.9 秒	4-15
同一バーコードの読み取り間隔	89h	0.6 秒	4-15
読み取り成功時のビープ音	38h	有効	4-16
ファジー 1D 処理	F1h、02h	有効	4-16
ミラー イメージの読み取り	F1h、19h	いつも開始しない	4-17
その他のオプション			
コード ID キャラクタの転送	2Dh	なし	4-18
プリフィックス値	63h、69h	7013 <CR><LF>	4-19
サフィックス 1 の値 サフィックス 2 の値	62h、68h 64h、6Ah	7013 <CR><LF>	4-19
スキャン データ転送フォーマット	EBh	データのみ	4-20
FN1 置換値	67h、6Dh	設定	4-21
「読み取りなし」メッセージの転送	5Eh	無効	4-22
シナプス インタフェース	F0h、ACh	標準シナプス接続	4-23

ユーザー設定

デフォルト設定パラメータ

すべてのパラメータを **A-1 ページの表 A-1** にリストされたデフォルト値に戻すには、このバーコードをスキャンします。

デジタル スキャナは、2 つのタイプのデフォルト (工場出荷時のデフォルトまたはカスタム デフォルト) にリセットできます。スキャナをデフォルト設定にリセットするか、現在の設定をカスタム デフォルトとして設定するには、次の適切なバーコードをスキャンします。

- 「**デフォルトに戻す**」 - このバーコードをスキャンすると、すべてのデフォルト パラメータが以下のようにリセットされます。
 - 「**カスタム デフォルトへの書き込み**」 をスキャンして以前にカスタム デフォルトを設定した場合は、「**デフォルト設定に戻す**」 をスキャンして読み取り機のカスタム デフォルト設定に戻します。
 - カスタム デフォルトを設定しなかった場合は、「**デフォルト設定に戻す**」 をスキャンして、**表 A-1** にリストされている工場出荷時のデフォルト値に戻します。
- 「**工場出荷時デフォルトの設定**」 - このバーコードをスキャンすると、**表 A-1** にリストされている工場出荷時のデフォルト値に戻ります。これによって、すべてのカスタム デフォルト設定が削除されます。
- 「**カスタム デフォルトへの書き込み**」 - このバーコードをスキャンすると、現在の読み取り機の設定がカスタム デフォルトとして設定されます。設定後に、「**デフォルト設定に戻す**」 をスキャンしてカスタム デフォルト設定を復元できます。



* デフォルトに戻す



工場出荷時のデフォルト設定



カスタム デフォルトへの書き込み

パラメータ スキャン

パラメータ番号 ECh

パラメータ バーコード (「デフォルト設定」パラメータ バーコードも含む) の読み取りを無効にするには、以下の「パラメータのスキャンを無効にする」バーコードをスキャンします。パラメータ バーコードの読み取りを再度有効にするには、「パラメータのスキャンを有効にする」をスキャンします。



* パラメータのスキャンを有効にする
(01h)

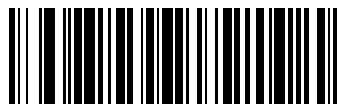


パラメータのスキャンを有効にする
(00h)

ビープ音の音程

パラメータ番号 91h

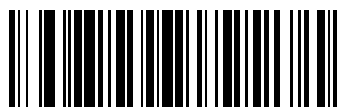
読み取りビープ音の周波数 (音程) を選択するには、「低周波」、「中周波」、「高周波」バーコードをスキャンします。



低周波
(02h)



* 中周波
(最適設定)
(01h)



高周波
(00h)

ビープ音の音量

パラメータ番号 8Ch

ビープ音の音量を設定するには、「低音量」、「中音量」、「大音量」バーコードをスキャンします。



低音量
(02h)



中音量
(01h)



* 大音量
(00h)

電源投入時ビープ音の抑止

パラメータ番号 F1h D1h

デジタル イメージャ スキャナの電源投入時ビープ音を抑止するかどうかを選択します。



* 電源投入時ビープ音を抑止しない
(00h)



電源投入時ビープ音の抑止
(01h)

電源モード

パラメータ番号 80h

このパラメータは、読み取り動作の後に電力を維持するかどうかを指定します。パワー低下モードでは、デジタルスキャナは、各読み取りの待機後にバッテリー寿命を保つため、省電力消費モードになります。常時電力モードでは、各読み取りの待機後に電源はオンのままになります。



* 常時オン
(00h)



省電力モード
(01h)

低電力モード遅延時間

パラメータ番号 92h

✓ 注 このパラメータは、「電力モード」が「低電力」に設定されている場合のみ適用されます。

このパラメータは、読み取り後にデジタルスキャナがアクティブなままになる時間を設定します。デジタルスキャナは、トリガを引くか、ホストがデジタルスキャナと通信しようとするウェイクアップ状態になります。



1 秒
(11h)



5 秒
(15h)



* 1 分
(21h)



5 分
(25h)



15 分
(2Bh)



1 時間
(31h)

トリガ モード

パラメータ番号 8Ah

デジタル スキャナに次のトリガ モードのいずれかを選択します。

- 「**レベル**」 - トリガを引くと、読み取りが開始されます。デコード処理は、バーコードが読み取られるか、トリガを離すか、またはデコードセッションタイムアウトになるまで続きます。
- 「**点滅**」 - このトリガ モードは、プレゼンテーション (スキャンスタンド) モードで使用されます。デジタル スキャナは、読み取り幅でバーコードを検出すると、読み取り処理を開始します。このモードでは読み取り範囲は狭くなります。
- 「**自動照準**」 - このトリガ モードは、デジタル スキャナが動きを感知すると、赤色のレーザー照準パターンをオンにします。トリガを引くと、デコード処理が開始されます。2 秒間何も操作をしないと、赤色のレーザー照準パターンが自動的にオフになります。



レベル
(00h)



点減
(07h)



* 自動照準
(09h)

ピックアップモード

パラメータ番号 F0h 92h

ピックアップモードでは、レーザー十字位置に調整されたバーコードだけをデジタル スキャナにデコードさせることができます。デジタル スキャナに次のピックアップモードのいずれかを選択します。

- 「常時無効」 - ピックアップモードは常時無効です。
- 「スキャンスタンド外で有効」 - ピックアップモードは、デジタル スキャナがプレゼンテーション モードではないときは有効で、デジタル スキャナがプレゼンテーション モードになっているときは無効です。
- 「常時有効」 - ピックアップモードは常時有効です。



* 常時無効
(00h)



スキャンスタンドで有効
(01h)



常時有効
(02h)

プレゼンテーション遅延時間モード

パラメータ番号 F1h、E9h

デジタル イメージャ スキャナがハンズフリー モードになる時間を設定するには、このオプションを使用します。デフォルトは「無効」機能です。トリガを引いて、デジタル イメージャ スキャナが**現在のトリガ モード**設定に戻る時点でトリガを放すまで、デジタル イメージャ スキャナはハンズフリー モードのままになります。遅延時間モードの間トリガを使用しない場合、デジタル イメージャ スキャナはハンズフリー モードのままになります。

シミュレーションされたスキャンの基本操作

ベース付きデジタル イメージャ スキャナを使用する (1-1 ページの図 1-2 を参照) 場合、このパラメータはデフォルトの 3 秒で有効になります



* 無効



1 秒



2 秒



** 3 秒



4 秒



5 秒

「プレゼンテーション遅延時間モード」(続き)



6 秒



7 秒



8 秒



9 秒



注

*「プレゼンテーション遅延時間モード」パラメータのデジタル イメージャ スキャナのデフォルトは「無効」です。

**「プレゼンテーション遅延時間モード」パラメータのベース付きデジタル イメージャ スキャナのデフォルトは「3 秒」です。

携帯電話/ディスプレイ モード

パラメータ番号 F1h CCh

このモードは、携帯電話や電子機器のディスプレイのバーコードの読み取り性能を向上させます。ハンドヘルド、ハンズフリー、または両方のモードでこれを有効にするか、無効にします。



* 携帯電話/ディスプレイ モード無効
(00h)



ハンドヘルド モードで有効
(01h)



ハンズ フリー モードで有効
(02h)



両方のモードで有効
(03h)

携帯電話デコード速度

パラメータ番号 F1h D6h

このモードは、LCD ディスプレイからバーコードを読み取るために使用されます。このパラメータは、携帯電話のバーコードの読み取りと紙ラベルのバーコードの読み取りの速度を調整するために使用されます。

- ✓ **注** 携帯電話のより高度な読み取り速度パラメータ設定を使用する場合、紙ラベルのバーコード読み取りに影響することがあります。



低
(04h)



* 中
(07h)



高
(0dh)

デコードセッションタイムアウト

パラメータ番号 88h

このパラメータは、1回のスキャン試行でデコード処理を継続する最大時間を設定します。0.1秒単位で、0.5～9.9の間で設定できます。デフォルトのタイムアウトは9.9秒です。

デコードセッションタイムアウトを設定するには、下のバーコードをスキャンします。次に、[付録D「数字バーコード」](#)から、設定する時間に対応する2つの数字バーコードをスキャンします。指定する数字が1桁の場合は、最初にゼロを含めます。たとえば、デコードセッションタイムアウトとして0.5秒を設定するには、以下のバーコードをスキャンしてから、**0**と**5**のバーコードをスキャンします。間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、[D-2 ページ](#)の「キャンセル」をスキャンします。



デコードセッションタイムアウト

同一バーコードの読み取り間隔

パラメータ番号 89h

デジタルスキャナの読み取り範囲内にシンボルが残っているときにビープ音が鳴り続けるのを防ぐには、このオプションをプレゼンテーション(スキャンスタンド)モードで使用します。0.1秒単位で、0.0～9.9秒の間で設定できます。デフォルトの間隔は0.6秒です。

同一バーコードのデコード間のタイムアウトを選択するには、下のバーコードをスキャンし、[付録D「数字バーコード」](#)から設定する間隔に対応する2つの数字バーコードをスキャンします。0.1秒単位です。



同一バーコードの読み取り間隔

読み取り成功時のビープ音

パラメータ番号 38h

読み取りが成功したときにデジタル スキャナがビープ音を鳴らすかどうかを選択します。「読み取り成功時のビープ音を無効化」を選択した場合でも、パラメータ メニューをスキャンしているときと電源を投入したときはビープ音が鳴り、エラー状態を通知します。



* 読み取り成功時のビープ音
(有効)
(01h)



読み取り成功時のビープ音を無効化
(無効)
(00h)

ファジー 1D 処理

パラメータ番号 F1h 02h

このオプションはデフォルトで有効で、破損したバーコードや不鮮明なバーコードを含め、1D バーコード向けにデコード性能を最適化します。2D バーコードのデコードに遅延を感じる場合や、デコードされない場合にだけ無効にしてください。



* ファジー 1D 処理有効
(01h)



ファジー 1D 処理無効
(00h)

ミラーイメージの読み取り (データ マトリックスのみ)

パラメータ番号 F1h 19h

ミラー イメージ データ マトリックス バーコードを読み取るためのオプションを選択します。

- 「常時」 - ミラー イメージであるデータ マトリックス バーコードのみを読み取ります。
- 「なし」 - ミラー イメージであるデータ マトリックス バーコードを読み取りません。
- 「自動」 - ミラーリングされたデータ マトリックス バーコードとミラーリングされていないデータ マトリックス バーコードの両方を読み取ります。



* なし
(00h)



常時
(01h)



自動
(02h)

その他のスキャナパラメータ

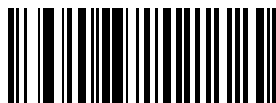
コード ID キャラクタの転送

パラメータ番号 2Dh

コード ID キャラクタは、スキャンされたバーコードのコードタイプを識別します。この方法は複数のコードタイプを読み取る場合に便利です。プリフィックスがすでに付加されている場合、コード ID のキャラクタは、プリフィックスと読み取られたシンボルの間に挿入されます。

「なし」、「シンボルコード ID キャラクタ」、または「AIM コード ID キャラクタ」を選択します。コード ID キャラクタについては、[B-1 ページの「シンボルコード ID」](#)および[B-3 ページの「AIM コード ID」](#)を参照してください。

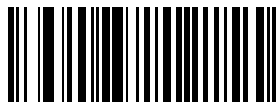
- ✓ **注** 「シンボルコード ID キャラクタ」または「AIM コード ID キャラクタ」を有効にし、[4-22 ページの「読み取りなし」メッセージの転送](#)を有効にした場合、NR メッセージに Code 39 のコード ID が追加されます。



シンボルコード ID キャラクタ
(02h)



AIM コード ID キャラクタ
(01h)



* なし
(00h)

プリフィックス/サフィックス値

キー カテゴリ パラメータ番号 P = 63h、S1 = 62h、S2 = 64h

10 進数値パラメータ番号 P = 69h、S1 = 68h、S2 = 6Ah

プリフィックスや、1 つまたは 2 つのサフィックスを追加して、データ編集で使用するデータをスキャンすることができます。プリフィックス/サフィックス値を設定するには、その値に対応する数字 4 桁 (付録 D「数字バーコード」の 4 種類のバーコードなどをスキャンします。4 桁のコードについては、E-1 ページの表 E-1 を参照してください。

ホストコマンドを使用してプリフィックスやサフィックスを設定する場合は、キー カテゴリ パラメータを 1 にした後に 3 桁の 10 進数値を設定します。4 桁のコードについては、E-1 ページの表 E-1 を参照してください。

間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、D-2 ページの「キャンセル」をスキャンします。

- ✓ 注 プリフィックス/サフィックス値を使用するには、4-20 ページの「スキャン データ転送フォーマット」を最初に設定します。



スキャン プリフィックス
(07h)



スキャン サフィックス 1
(06h)



スキャン サフィックス 2
(08h)



データ フォーマットのキャンセル

スキャン データ転送フォーマット

パラメータ番号 EBh

スキャン データのフォーマットを変更するには、次の 8 個のバーコードのうち、必要なフォーマットに対応するものをスキャンします。

- ✓ **注** このパラメータを使用する場合は、プリフィックス/サフィックスの設定に ADF 規則を使用しないでください。

プリフィックスおよび/またはサフィックスの値を設定するには、[4-19 ページの「プリフィックス/サフィックス値」](#)を参照してください。



* データのみ
(00h)



<データ><サフィックス 1>
(01h)



<データ><サフィックス 2>
(02h)



<データ><サフィックス 1><サフィックス 2>
(03h)



<プリフィックス><データ>
(04h)

スキャン データ転送フォーマット (続き)



<プリフィックス><データ><サフィックス 1>
(05h)



<プリフィックス><データ><サフィックス 2>
(06h)



<プリフィックス><データ><サフィックス 1><サフィックス 2>
(07h)

FN1 置換値

キー カテゴリ パラメータ番号 67h

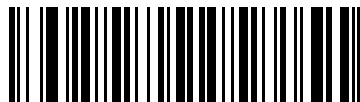
10 進数値パラメータ番号 6Dh

ウェッジおよび USB HID キーボード ホストは、FN1 置換機能をサポートします。これを有効にすると、GS1-128 バーコード内のすべての FN1 キャラクタ (0x1b) が値で置換されます。この値のデフォルトは 7013 (Enter キー) です。

ホスト コマンドを使用して FN1 置換値を設定する場合は、キー カテゴリ パラメータを 1 にした後、3 桁のキーストローク値を設定します。目的の値を検索するには、現在のホスト インタフェースの ASCII キャラクタ セット一覧を参照してください。

バーコード メニューを使用して FN1 置換値を選択するには、次の手順に従います。

1. 次のバーコードをスキャンします。



FN1 置換値の設定

2. 現在のホスト インタフェースの「ASCII キャラクタ セット」表で FN1 置換に設定するキーストロークを探します。付録 D「数字バーコード」内の各数字をスキャンして、4 桁の ASCII 値を入力します。

間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、「キャンセル」をスキャンします。

USB HID キーボードの FN1 置換を有効にするには、4-21 ページの「FN1 置換を有効化」バーコードをスキャンしてください。

「読み取りなし」メッセージの転送

パラメータ番号 5Eh

「読み取りなし」メッセージを送信するかどうかを選択するには、下のバーコードをスキャンします。バーコードを読み取らないときにキャラクタ NR を送信するには、これを有効にします。無効にすると、シンボルを読み取らないときにホストに何も送信しません。

- ✓ **注** 「NR (読み取りなし) メッセージの転送」を有効にし、[4-18 ページの「コード ID キャラクタの転送」](#)のシンボル コード ID キャラクタまたは AIM コード ID キャラクタを有効にした場合、NR メッセージに Code 39 のコード ID が追加されます。



読み取りなしを有効化
(01h)



* 読み取りなしを無効化
(00h)

シナプス インタフェース

パラメータ番号 F0h、ACh

シナプス ケーブルを自動検出する時間は、シナプス接続のタイプによって異なります。シナプス ケーブルを使用してデジタル スキャナを別のスキャナに接続した場合、外部シナプス ポート接続を使用します。その他すべてのケースでは、ケーブルの使用時にはデフォルト設定が推奨されます。

シナプスを介してライブ ホストに接続されているシナプス ケーブルからデジタル スキャナを切断して再接続するには、「プラグ アンド プレイ」設定を使用します。オンボード ウェッジ ホストが有効な場合は、この設定をデフォルトから変更しないでください。



* 標準シナプス接続
(01h)



外部シナプス ポート接続
(32h)



「プラグ アンド プレイ」シナプス接続
(0Ah)

第5章 読み取り設定

はじめに

デジタル スキャナをプログラミングして、さまざまな機能を実行したり、有効にしたりすることができます。この章では、読み取り設定機能について説明し、これらの機能選択のためのプログラミング バーコードを掲載します。

デジタル スキャナは、5-2 ページの「読み取り設定パラメータのデフォルト」に示す設定で出荷されています。すべてのホスト デバイスやその他のデフォルト値については、付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」を参照してください。デフォルト値が要件を満たす場合、プログラミングの必要はありません。

機能の値を設定するには、シングル バーコードまたは短いバーコード シーケンスをスキャンします。これら設定は不揮発性メモリに保存され、デジタル スキャナの電源を落としても保持されます。

✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードがはっきり表示され、バーやスペースが混じらないレベルまで文書を拡大するようにします。

USB ケーブルを使用していない場合、電源投入ビープ音の後にホスト タイプを選択します (ホスト固有の情報については、各ホストについての章を参照してください)。これは、新しいホストに接続するときの最初の電源投入時だけに必要です。

すべての機能をデフォルト値に戻すには、4-4 ページの「デフォルト設定パラメータ」をスキャンします。プログラミング バーコード メニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す — * 読み取り照準パターン有効 (02h) — 機能/オプション

スキャン シーケンスの例

ほとんどの場合、1 個のバーコードをスキャンすることでパラメータ値を設定できます。たとえば、読み取り照準パターンを無効にするには、5-5 ページの「読み取り照準パターン」にリストされている「読み取り照準パターン無効」バーコードをスキャンします。短い高音のビーブ音が 1 回鳴って LED が緑色に変われば、パラメータの設定は成功です。

その他のパラメータでは、複数のバーコードのスキャンが必要です。この手順に使用するこれらのパラメータの説明を参照してください。

スキャン中のエラー

特に指示がない限り、スキャン中のエラーは、正しいパラメータを再スキャンするだけで修正できます。

読み取り設定パラメータのデフォルト

表 5-1 に、読み取り設定パラメータのデフォルトをリストします。デフォルト値を変更する方法は 2 種類あります。

- 本書の適切なバーコードをスキャンします。これらの新しい値は、メモリの標準デフォルト値を上書きします。デフォルト設定パラメータ値に戻すには、4-4 ページの「デフォルト設定パラメータ」をスキャンします。
- 123Scan² 設定パラメータを使用してデジタル スキャナを設定します (第 12 章の「123Scan2」を参照)。

✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」を参照してください。

表 5-1 読み取り設定パラメータのデフォルト

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
読み取りオプション			
読み取り照明	F0h 2Ah	有効	5-3
照明バンク制御	F1h 3Bh	完全照明	5-4
読み取り照準パターン	F0h 32h	有効	5-5
低光量時の強調	F1h 64h	無効	5-5
プレゼンテーション モードの読み取り範囲	F1h 61h	デフォルト (縮小)	5-6

読み取り設定

この章のパラメータは、バーコードの読み取り特性を制御します。

読み取り照明

パラメータ番号 F0h、2Ah

「読み取り照明有効」を選択すると、デジタル スキャナは読み取りを支援するために照明をフラッシュします。
「読み取り照明無効」を選択すると、デジタル スキャナは読み取り照明を使用しません。

通常、照明を有効にしたほうが良好な画像を得られます。ターゲットまでの距離が長いほど、照明の効果は減少します。



* 読み取り照明有効
(01h)



読み取り照明無効
(00h)

照明バンク制御

パラメータ番号 F1h、3Bh

スキャンエンジンで照明バンクを制御するには、照明バンク制御パラメータを選択します。

- 「完全」(0) (デフォルト): 完全照明システムを有効にします。
- 「自動」(1): 照明システムは左バンクから右バンクに自動的に切り替わります。
- 「左」 (2): 左バンクが有効です。
- 「右」 (3): 右バンクが有効です。



* 完全照明
(00h)



自動照明
(01h)



左照明
(02h)



右照明
(03h)

読み取り照準パターン

パラメータ番号 F0h、32h

このパラメータは読み取りモードのみで適用されます。「読み取り照準パターン有効」を選択して、バーコードの読み取り中に照準パターンを投影するか、「読み取り照準パターン無効」を選択して照準パターンをオフにします。

- ✓ 注 4-10 ページの「ピックリストモード」が有効とされている場合、「読み取り照準パターン」が無効の場合でも読み取り照準パターンが光ります。



* 読み取り照準パターン有効
(02h)



読み取り照準パターン無効
(00h)

低光量時の強調

パラメータ番号 F1h、64h

スキャンスタンドモードでは、「低光量時の強調有効」を選択すると、低光量状況で照明が低レベルのままになります。照明がこれらの状況のままになるのを防ぐには、「低光量時の強調無効」を選択します。



低光量時の強調有効
(01h)



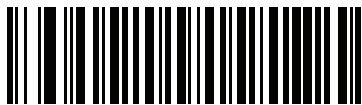
* 低光量時の強調無効
(00h)

プレゼンテーションモードの読み取り範囲

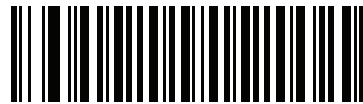
パラメータ番号 F1h、61h

プレゼンテーションモードでは、デジタルスキャナは、検索時間を短縮するために、照準パターンの中央あたりのより小さい領域でバーコードを検索します。

全読み取り幅を使用するには、「**プレゼンテーションモードの全読み取り範囲**」をスキャンします。これによって、デジタルスキャナは、照準パターンのより大きい領域を検索できます。



* プレゼンテーションモードのデフォルトの読み取り範囲
(01h)



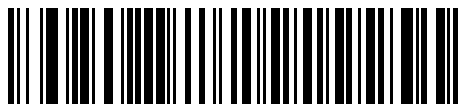
プレゼンテーションモードの全読み取り範囲
(02h)

第6章 USB インタフェース

はじめに

この章では、USB ホストでデジタル スキャナをセットアップする方法について説明します。デジタル スキャナは、USB ホストに直接接続するか、これに電源を供給する電源供給 USB ハブに直接接続します。外部電源は不要です。

プログラミング バーコード メニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す — * 英語 (U.S.) 標準 USB キーボード — 機能/オプション

- ✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードがはっきり表示され、バーやスペースが混じらないレベルまで文書を拡大するようにします。

USB インタフェースの接続

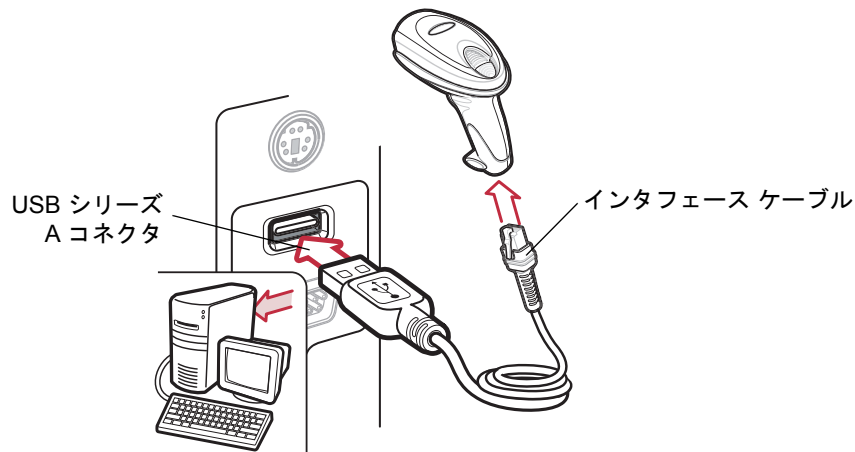


図 6-1 USB 接続

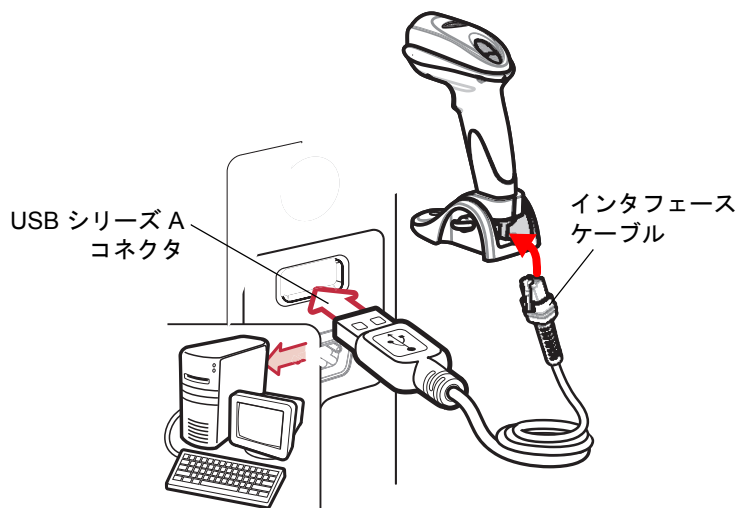


図 6-2 ベース付きスキャナの USB 接続

デジタル スキャナは、次のような USB 対応ホストに接続します。

- デスクトップ PC およびノートパソコン
 - Apple™ iMac、G4、iBooks (北米のみ)
 - IBM SurePOS 端末
- 複数のキーボードをサポートする Sun、IBM、およびその他のネットワーク コンピュータ

USB 接続のデジタル スキャナをサポートするオペレーティング システムは次のとおりです。

- Windows® 98、2000、ME、XP
- MacOS 8.5 ~ MacOS 10.3
- IBM 4690 OS

デジタル スキャナは、USB ヒューマン インタフェース デバイス (HID) をサポートする他の USB ホストにも接続できます。

デジタル スキャナをセットアップするには、次のようにします。

✓ **注** インタフェース ケーブルは構成によって異なります。図 6-1 および図 6-2 に示したコネクタは一例です。実際には、別のコネクタが使用される場合もありますが、スキャナの接続手順は同じです。

1. USB インタフェース ケーブルのモジュラ コネクタをデジタル スキャナのケーブル インタフェース ポートに接続します (1-3 ページの「[インタフェース ケーブルの接続](#)」を参照)。
2. シリーズ A のコネクタを USB ホストまたはハブに接続するか、または Plus Power コネクタを IBM SurePOS 端末の空きポートに接続します。
3. 6-5 ページの「[USB デバイス タイプ](#)」から適切なバーコードをスキャンして、USB デバイス タイプを選択します。
4. Windows で最初のインストールを行う場合、ソフトウェアはヒューマン インタフェース デバイス ドライバを選択するか、インストールするよう促します。Windows が提供するこのドライバをインストールするには、すべての画面で[次へ]をクリックし、最後に[完了]をクリックします。このインストール中にデジタル スキャナの電源が入ります。
5. その他のパラメータ オプションを変更するには、この章の適切なバーコードをスキャンします。

システムに問題が発生した場合は、3-2 ページの「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

USB パラメータのデフォルト一覧

表 6-1 に、USB ホスト パラメータのデフォルト一覧を示します。オプションを変更する場合は、本章の 6-5 ページ以降のパラメータ説明に掲載されている適切なバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」を参照してください。

表 6-1 USB インタフェース パラメータのデフォルト

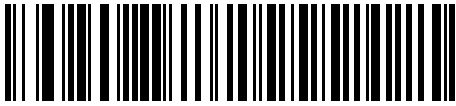
パラメータ	デフォルト	ページ番号
USB ホスト パラメータ		
USB デバイス タイプ	HID キーボード エミュレーション	6-5
USB 国キーボード タイプ (国コード)	英語 (U.S.)	6-7
キーストローク デイレイ (USB 専用)	遅延なし	6-9
Caps Lock オーバーライド (USB 専用)	無効	6-9
不明な文字の無視 (USB 専用)	有効	6-10
キーパッドのエミュレート	無効	6-10
先行ゼロ付きキーパッドのエミュレート	無効	6-11
USB FN1 置換	無効	6-11
USB 静的 CDC	有効	6-12
ファンクション キーのマッピング	無効	6-13
Caps Lock のシミュレート	無効	6-13
大文字 / 小文字の変換	なし	6-14

USB ホスト パラメータ

USB デバイス タイプ

必要な USB デバイス タイプを選択します。

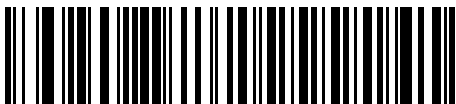
- ✓ **注** USB デバイス タイプを変更すると、デジタル スキャナが自動的にリセットされ、標準の起動ビープ シーケンスが鳴ります。



* HID キーボード エミュレーション



IBM 卓上 USB



IBM ハンドヘルド USB

USB デバイス タイプ (続き)



USB OPOS ハンドヘルド



簡易 COM ポート エミュレーション



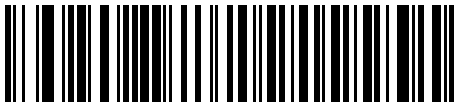
CDC COM ポート エミュレーション

- ✓ **注** 「CDC COM ポート エミュレーション」を選択する前に、(USB のエミュレーションの失敗が原因で) 電源投入中にデジタル イメージャ スキャナが停止しないように、ホストに CDC INF ファイルをインストールします。デジタル イメージャ スキャナが停止した場合、回復するには次のようにします。
- 1) CDC INF ファイルをインストールします。
または
 - 2) 電源投入後に、10 秒間トリガを引きます。これによって、デジタル イメージャ スキャナは、代替の USB 構成を使用して電源投入できます。電源投入時に、別の「**USB デバイス タイプ**」をスキャンします。

USB 国キーボードタイプ-国コード

キーボードタイプに対応するバーコードをスキャンします。この設定は、USB HID キーボード エミュレーションデバイス専用です。

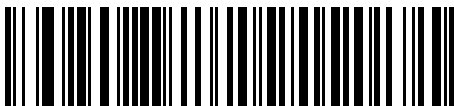
- ✓ **注** USB 国キーボードタイプを変更すると、デジタル スキャナが自動的にリセットされ、標準の起動ビープシーケンスが鳴ります。



* 英語 (U.S.) 標準 USB キーボード



ドイツ語版 Windows



フランス語版 Windows

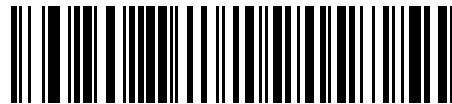


カナダ フランス語版 Windows 95/98

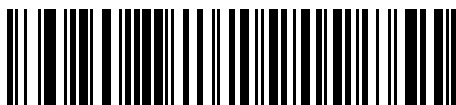


カナダ フランス語版 Windows 2000/XP

USB 国キーボードタイプ - 国コード(続き)



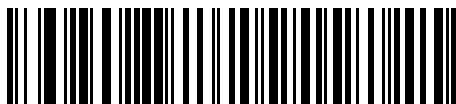
スペイン語版 Windows



イタリア語版 Windows



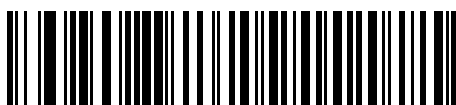
スウェーデン語版 Windows



イギリス英語版 Windows



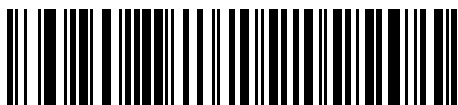
日本語版 Windows (ASCII)



ブラジル ポルトガル語版 Windows

キーストローク デイレイ (USB 専用)

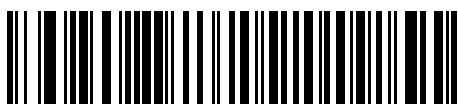
このパラメータは、エミュレート キーストローク間の遅延をミリ秒単位で設定します。ホストがデータの転送に時間がかかる場合、以下のバーコードをスキャンして待ち時間を長くします。



* 0 ミリ秒



通常の遅延 (20 ミリ秒)



長い遅延 (40 ミリ秒)

Caps Lock オーバーライド (USB 専用)

このオプションは HID キーボード エミュレーション デバイスのみに適用されます。有効にすると、**Caps Lock** キーの状態に関係なく、データの大文字小文字を保持します。この設定は、日本語、Windows (ASCII) キーボードタイプでは常に有効で、無効にはできません。



Caps Lock キーをオーバーライドする
(有効)



*Caps Lock キーをオーバーライドしない
(無効)

不明な文字の無視 (USB 専用)

このオプションは、HID キーボード エミュレーション デバイスおよび IBM デバイス専用です。不明な文字とは、ホストで認識されない文字のことです。不明な文字を除いたすべてのバーコード データを送信するには、「**不明な文字を含むバーコードを送信する**」を選択します。エラーを示すビープ音は鳴りません。

IBM デバイスで、不明な文字が少なくとも 1 つ含まれているバーコードのホストへの送信を防止するには「**不明な文字を含むバーコードを送信しない**」を選択します。または、HID キーボード エミュレーション デバイスでは、これによって不明な文字が含まれているバーコード キャラクタが送信されます。デジタル スキャナはエラー ビープ音を鳴らしません。



* 不明な文字を含むバーコードを送信する
(送信)



不明な文字を含むバーコードを送信しない
(無効)

キーパッドのエミュレート

有効にすると、数字キーパッドのすべての文字が ASCII シーケンスとして送信されます。たとえば、ASCII の A は “ALT make” 0 6 5 “ALT Break” として伝送されます。



* キーパッドのエミュレートを無効化



キーパッドのエミュレートを有効化

先行ゼロ付きキーボードのエミュレート

数値キーボード経由で先行ゼロ付きの ISO 文字として送信される文字シーケンスを送信する場合、有効にします。たとえば、ASCII の A は “ALT MAKE” 0 0 6 5 “ALT BREAK” として伝送されます。



* 先行ゼロ付きキーボード エミュレートを無効化



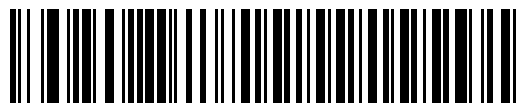
先行ゼロ付きキーボード エミュレートを有効化

USB キーボードの FN1 置換

このオプションは、USB HID キーボード エミュレーション デバイス専用です。GS1 128 バーコード内のすべての FN 1 キャラクターをユーザー選択のキー カテゴリと値で置換するには、これを有効にします (キー カテゴリとキー値を設定するには、[4-21 ページの「FN1 置換値」](#)を参照してください)。



有効



* 無効

USB 静的 CDC

無効にした場合、接続された各デバイスが別の COM ポートを使用します (最初のデバイス = COM1、2 番目のデバイス = COM2、3 番目のデバイス = COM3、以下同様)

有効にされている場合、各デバイスが同じ COM ポートに接続します。



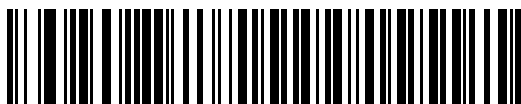
* USB 静的 CDC 有効



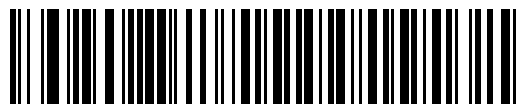
USB 静的 CDC 無効

ファンクションキーのマッピング

32 未満の ASCII 値は、通常制御キーシーケンスとして送信されます (6-15 ページの表 6-2 を参照)。このパラメータを有効にすると、標準キーマッピングとして太字のキーが送信されます。表内に太字のエントリがない入力は、このパラメータの有効無効に関係なく変更されません。



* ファンクションキーのマッピングを無効化



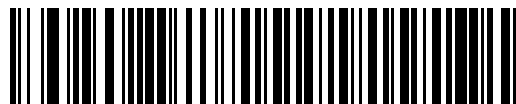
ファンクションキーのマッピングを有効化

Caps Lock のシミュレート

キーボードで Caps Lock がオンになった状態のようにバーコードの大文字と小文字を逆転する場合に有効にします。キーボードの Caps Lock キーの状態に関係なく大文字小文字が変換されます。



* Caps Lock のシミュレートを無効化



Caps Lock のシミュレートを有効化

大文字/小文字の変換

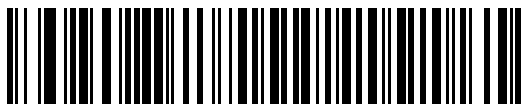
有効にすると、選択した大文字または小文字にすべてのバーコード データが変換されます。



* 変換なし



大文字への変換



小文字への変換

USB の ASCII キャラクタ セット

表 6-2 USB プリフィックス/サフィックス値

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1000	%U	CTRL 2
1001	\$A	CTRL A
1002	\$B	CTRL B
1003	\$C	CTRL C
1004	\$D	CTRL D
1005	\$E	CTRL E
1006	\$F	CTRL F
1007	\$G	CTRL G
1008	\$H	CTRL H/ BACKSPACE ¹
1009	\$I	CTRL I/ HORIZONTAL TAB ¹
1010	\$J	CTRL J
1011	\$K	CTRL K
1012	\$L	CTRL L
1013	\$M	CTRL M/ ENTER ¹
1014	\$N	CTRL N
1015	\$O	CTRL O
1016	\$P	CTRL P
1017	\$Q	CTRL Q
1018	\$R	CTRL R
1019	\$S	CTRL S
1020	\$T	CTRL T
1021	\$U	CTRL U
1022	\$V	CTRL V
1023	\$W	CTRL W

¹太字のキーストロークは、6-13 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 6-2 USB プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1024	\$X	CTRL X
1025	\$Y	CTRL Y
1026	\$Z	CTRL Z
1027	%A	CTRL [/ ESC ¹
1028	%B	CTRL ¥
1029	%C	CTRL]
1030	%D	CTRL 6
1031	%E	CTRL -
1032	スペース	スペース
1033	/A	!
1034	/B	“
1035	/C	#
1036	/D	\$
1037	/E	%
1038	/F	&
1039	/G	‘
1040	/H	(
1041	/I)
1042	/J	*
1043	/K	+
1044	/L	,
1045	-	-
1046	.	.
1047	/O	/
1048	0	0
1049	1	1
1050	2	2
1051	3	3

¹太字のキーストロークは、6-13 ページの「ファンクション キーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 6-2 USB プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1052	4	4
1053	5	5
1054	6	6
1055	7	7
1056	8	8
1057	9	9
1058	/Z	:
1059	%F	;
1060	%G	<
1061	%H	=
1062	%I	>
1063	%J	?
1064	%V	@
1065	A	A
1066	B	B
1067	C	C
1068	D	D
1069	E	E
1070	F	F
1071	G	G
1072	H	H
1073	I	I
1074	J	J
1075	K	K
1076	L	L
1077	M	M
1078	N	N
1079	O	O

¹ 太字のキーストロークは、6-13 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 6-2 USB プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1080	P	P
1081	Q	Q
1082	R	R
1083	S	S
1084	T	T
1085	U	U
1086	V	V
1087	W	W
1088	X	X
1089	Y	Y
1090	Z	Z
1091	%K	[
1092	%L	¥
1093	%M]
1094	%N	^
1095	%O	_
1096	%W	`
1097	+A	a
1098	+B	b
1099	+C	c
1100	+D	d
1101	+E	e
1102	+F	f
1103	+G	g
1104	+H	h
1105	+I	i
1106	+J	j
1107	+K	k

¹ 太字のキーストロークは、6-13 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 6-2 USB プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1108	+L	l
1109	+M	m
1110	+N	n
1111	+O	o
1112	+P	p
1113	+Q	q
1114	+R	r
1115	+S	s
1116	+T	t
1117	+U	u
1118	+V	v
1119	+W	w
1120	+X	x
1121	+Y	y
1122	+Z	z
1123	%P	{
1124	%Q	
1125	%R	}
1126	%S	~

¹ 太字のキーストロークは、6-13 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 6-3 USB ALT キー キャラクタ セット

ALT キー	キーストローク
2064	ALT 2
2065	ALT A
2066	ALT B
2067	ALT C
2068	ALT D
2069	ALT E
2070	ALT F
2071	ALT G
2072	ALT H
2073	ALT I
2074	ALT J
2075	ALT K
2076	ALT L
2077	ALT M
2078	ALT N
2079	ALT O
2080	ALT P
2081	ALT Q
2082	ALT R
2083	ALT S
2084	ALT T
2085	ALT U
2086	ALT V
2087	ALT W
2088	ALT X
2089	ALT Y
2090	ALT Z

表 6-4 USB GUI キー キャラクタ セット

GUI キー	キーストローク
3000	右側の Ctrl キー
3048	GUI 0
3049	GUI 1
3050	GUI 2
3051	GUI 3
3052	GUI 4
3053	GUI 5
3054	GUI 6
3055	GUI 7
3056	GUI 8
3057	GUI 9
3065	GUI A
3066	GUI B
3067	GUI C
3068	GUI D
3069	GUI E
3070	GUI F
3071	GUI G
3072	GUI H
3073	GUI I
3074	GUI J
3075	GUI K
3076	GUI L
3077	GUI M
3078	GUI N
3079	GUI O
3080	GUI P

注: GUI シフト キー - Apple™ iMac キーボードのアップルキーは、スペースバーの隣にあります。Windows ベースのシステムの GUI キーは、左側の ALT キーの左隣と、右側の ALT キーの右隣にそれぞれ 1 つずつあります。

表 6-4 USB GUI キー キャラクタ セット (続き)

GUI キー	キーストローク
3081	GUI Q
3082	GUI R
3083	GUI S
3084	GUI T
3085	GUI U
3086	GUI V
3087	GUI W
3088	GUI X
3089	GUI Y
3090	GUI Z

注: GUI シフト キー - Apple™ iMac キーボードのアップルキーは、スペースバーの隣にあります。Windows ベースのシステムの GUI キーは、左側の ALT キーの左隣と、右側の ALT キーの右隣にそれぞれ1つずつあります。

表 6-5 USB F キー キャラクタ セット

F キー	キーストローク
5001	F1
5002	F2
5003	F3
5004	F4
5005	F5
5006	F6
5007	F7
5008	F8
5009	F9
5010	F10
5011	F11
5012	F12
5013	F13
5014	F14
5015	F15
5016	F16
5017	F17
5018	F18
5019	F19
5020	F20
5021	F21
5022	F22
5023	F23
5024	F24

表 6-6 USB 数字キーパッド キャラクタ セット

数字キーパッド	キーストローク
6042	*
6043	+
6044	未定義
6045	-
6046	.
6047	/
6048	0
6049	1
6050	2
6051	3
6052	4
6053	5
6054	6
6055	7
6056	8
6057	9
6058	Enter
6059	Num Lock

表 6-7 USB 拡張キーパッド キャラクタ セット

拡張キーパッド	キーストローク
7001	Break
7002	Delete
7003	PgUp
7004	End
7005	Pg Dn
7006	Pause
7007	Scroll Lock
7008	Backspace
7009	Tab
7010	Print Screen
7011	Insert
7012	Home
7013	Enter
7014	Escape
7015	上矢印
7016	下矢印
7017	左矢印
7018	右矢印

第7章 RS-232 インタフェース

はじめに

この章では、RS-232 ホストでデジタル スキャナをセットアップする方法について説明します。デジタル スキャナを POS デバイス、ホスト コンピュータ、または使用可能な RS-232 ポート (たとえば、COM ポート) を備えたその他のデバイスに接続するには、RS-232 インタフェースを使用します。

ホストが表 7-2 に表示されていない場合は、ホスト デバイスのドキュメントを参照して、ホストと一致するように通信パラメータを設定してください。

- ✓ **注** デジタル スキャナでは、ほとんどのシステム アーキテクチャと接続できる TTL レベルの RS-232 信号を使用します。RS-232C 信号レベルを必要とするシステム アーキテクチャ用に、Motorola では、TTL から RS-232C への変換を行う別のケーブルを用意しています。詳細については、Motorola Enterprise Mobility Support (Motorola エンタープライズ モビリティ サポート) にお問い合わせください。

プログラミング バーコード メニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す — * ボーレート 57,600 — 機能/オプション

- ✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードがはっきり表示され、バーやスペースが混じらないレベルまで文書を拡大するようにします。

RS-232 インタフェースの接続

デジタル スキャナをホスト コンピュータに直接接続します。

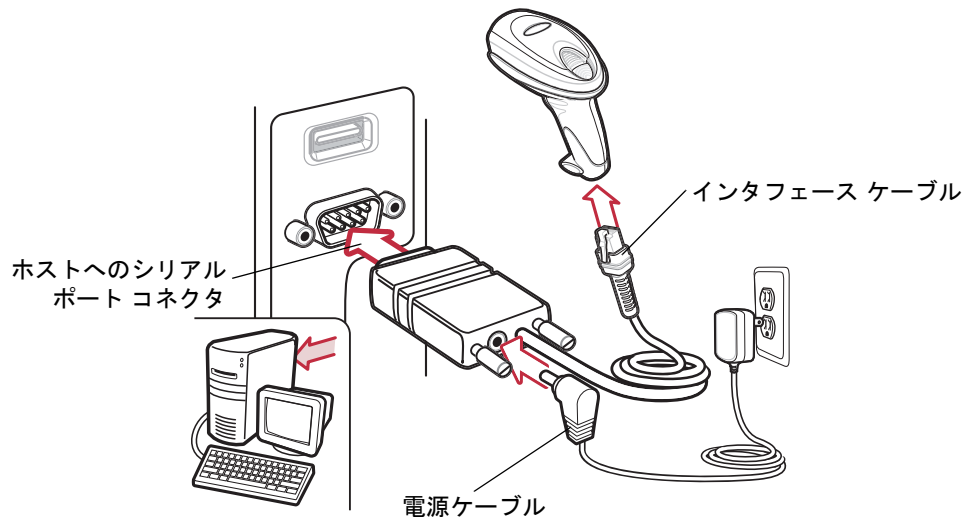


図 7-1 RS-232 直接接続

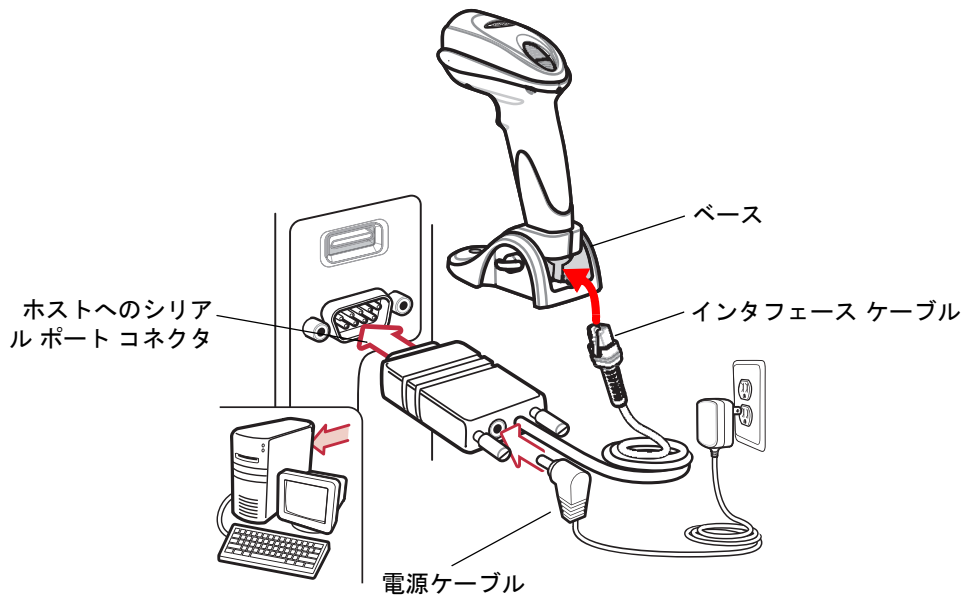


図 7-2 ベース付きスキャナの RS-232 直接接続

✓ **注** インタフェース ケーブルは構成によって異なります。図 7-1 および図 7-2 に示したコネクタは一例です。実際には、別のコネクタが使用される場合もありますが、スキャナの接続手順は同じです。

1. RS-232 インタフェース ケーブルのモジュラ コネクタをデジタル スキャナのケーブル インタフェース ポートに接続します (1-3 ページの「[インタフェース ケーブルの接続](#)」を参照)。

2. RS-232 インタフェース ケーブルの他方の先端を、ホストのシリアル ポートに接続します。
3. 電源を、RS-232 インタフェース ケーブルの先端のシリアル コネクタに接続します。電源アダプタを適切なコンセントに接続します。
4. [7-7 ページの「RS-232 ホスト タイプ」](#) から適切なバーコードをスキャンして、RS-232 ホスト タイプを選択します。
5. その他のパラメータ オプションを変更するには、この章の適切なバーコードをスキャンします。

RS-232 パラメータのデフォルト

表 7-1 に、RS-232 ホスト パラメータのデフォルト一覧を示します。オプションを変更する場合は、7-5 ページ以降の「RS-232 ホスト パラメータ」セクションに掲載されている適切なバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」を参照してください。

表 7-1 RS-232 ホスト パラメータのデフォルト一覧

パラメータ	デフォルト	ページ番号
RS-232 ホストのパラメータ		
RS-232 ホスト タイプ	標準	7-7
ボーレート	9600	7-8
パリティ タイプ	なし	7-11
ストップ ビットの選択	1 ストップ ビット	7-12
データ ビット	8 ビット	7-12
受信エラーのチェック	有効	7-13
ハードウェア ハンドシェイク	なし	7-13
ソフトウェア ハンドシェイク	なし	7-15
ホスト シリアル レスポンス タイムアウト	2 秒	7-17
RTS 制御線の状態	Low RTS	7-18
<BEL> によるビーブ音	無効	7-18
キャラクタ間ディレイ	0 ミリ秒	7-19
Nixdorf のビーブ音/LED オプション	通常動作	7-20
不明な文字の無視	バーコードを送信する	7-20

RS-232 ホストのパラメータ

ICL、Fujitsu、Wincor-Nixdorf Mode A、Wincor-Nixdorf Mode B、OPOS/JPOS、Olivetti、Omron、または一般的な用途の端末機器 (CUTE-LP/LG バーコードリーダー) を選択すると、表 7-2 にリストされているコード ID キャラクタを転送できます。これらのコード ID キャラクタは、プログラム設定できません。また、コード ID 転送機能とは関係ありません。これらの端末では、コード ID 転送機能を有効にしないでください。

表 7-2 端末固有の RS-232

パラメータ	ICL	Fujitsu	Wincor-Nixdorf Mode A	Wincor-Nixdorf Mode B/OPOS/JPOS	Olivetti	Omron	CUTE
コード ID の転送	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
データ転送フォーマット	データ/サフィックス	データ/サフィックス	データ/サフィックス	データ/サフィックス	プリフィックス/データ/サフィックス	データ/サフィックス	プリフィックス/データ/サフィックス
サフィックス	CR (1013)	CR (1013)	CR (1013)	CR (1013)	ETX (1003)	CR (1013)	CR (1013) ETX (1003)
ボーレート	9600	9600	9600	9600	9600	9600	9600
パリティ	偶数	なし	奇数	奇数	偶数	なし	偶数
ハードウェアハンドシェイク	RTS/CTS オプション 3	なし	RTS/CTS オプション 3	RTS/CTS オプション 3	なし	なし	なし
ソフトウェアハンドシェイク	なし	なし	なし	なし	ACK/NAK	なし	なし
シリアルレスポンスタイムアウト	9.9 秒	2 秒	9.9 秒	9.9 秒	9.9 秒	9.9 秒	9.9 秒
ストップビットの選択	1	1	1	1	1	1	1
ASCII フォーマット	8 ビット	8 ビット	8 ビット	8 ビット	7 ビット	8 ビット	7 ビット
<BEL> によるビープ音	無効	無効	無効	無効	無効	無効	無効
RTS 制御線の状態	高	低	低	低 = 送信データなし	低	高	高
プリフィックス	なし	なし	なし	なし	STX (1002)	なし	STX (1002)

Nixdorf Mode B では、CTS が低い場合、スキャンできなくなります。CTS が「高」の場合、スキャンは有効です。デジタルイメージャスキャナが適切なホストに接続されていない場合に Nixdorf Mode B をスキャンすると、スキャンできていないように見えることがあります。この現象が起こる場合は、デジタルイメージャスキャナへの電源の ON/OFF が行われる 5 秒以内に別の RS-232 ホストタイプをスキャンしてください。CUTE ホストでは、「デフォルト設定」などのすべてのパラメータのスキャンが無効になります。何かの理由で CUTE を選択してしまった場合、4-5 ページの「* パラメータのスキャンを有効にする (01h)」をスキャンしてからホスト選択を変更します。

RS-232 ホストパラメータ (続き)

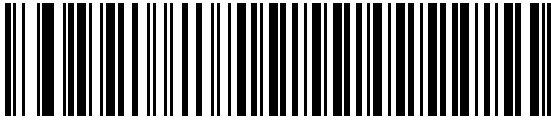
ICL、Fujitsu、Wincor-Nixdorf Mode A、Wincor-Nixdorf Mode B、OPOS/JPOS、Olivetti、または Omron を選択すると、表 7-3 にリストされているコード ID キャラクタを転送できます。これらのコード ID キャラクタは、プログラム設定できません。また、コード ID 転送機能とは関係ありません。これらの端末では、コード ID 転送機能を有効にしないでください。

表 7-3 端末固有のコード ID キャラクタ

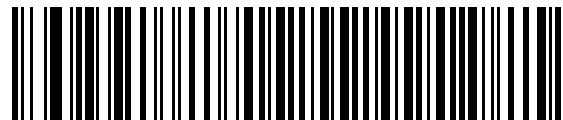
コードタイプ	ICL	Fujitsu	Wincor Nixdorf Mode A	Wincor- Nixdorf Mode B /OPOS/ JPOS	Olivetti	Omron	CUTE
UPC-A	A	A	A	A	A	A	A
UPC-E	E	E	C	C	C	E	なし
EAN-8/JAN-8	FF	FF	B	B	B	FF	なし
EAN-13/JAN-13	F	F	A	A	A	F	A
Code 39	C <len>	なし	M	M	M <len>	C <len>	3
Code 39 Full ASCII	なし	なし	M	M	なし	なし	3
Codabar	N <len>	なし	N	N	N <len>	N <len>	なし
Code 128	L <len>	なし	K	K	K <len>	L <len>	5
I 2 of 5	I <len>	なし	I	I	I <len>	I <len>	1
Code 93	なし	なし	L	L	L <len>	なし	なし
D 2 of 5	H <len>	なし	H	H	H <len>	H <len>	2
GS1-128	L <len>	なし	P	P	P <len>	L <len>	5
MSI	なし	なし	O	O	O <len>	なし	なし
Bookland EAN	F	F	A	A	A	F	なし
Trioptic	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
Code 11	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
IATA	H<len>	なし	H	H	なし	なし	2
Code 32	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
PDF417	なし	なし	Q	Q	なし	なし	6
GS1 DataBar 14/ Limited/ Expanded	なし	なし	E	E	なし	なし	なし

RS-232 ホスト タイプ

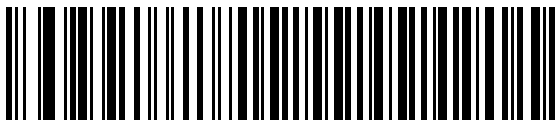
RS-232 ホスト インタフェースを選択するには、次のいずれかのバーコードをスキャンします。



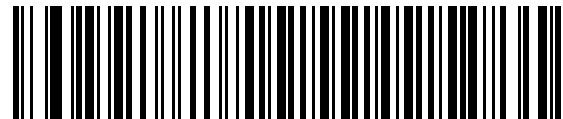
標準 RS-232¹



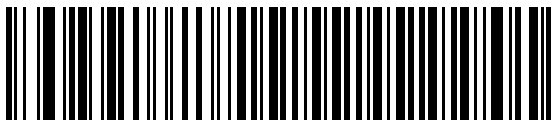
ICL RS-232



Wincor-Nixdorf RS-232 Mode A



Wincor-Nixdorf RS-232 Mode B



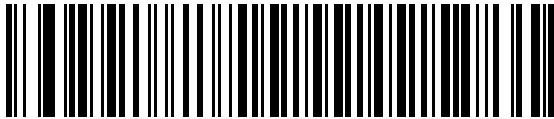
Olivetti ORS4500



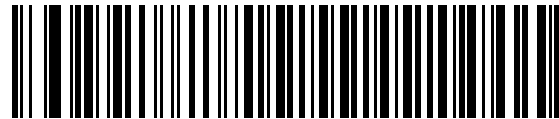
Omron

¹「標準 RS-232」をスキャンすると RS-232 ドライバが有効になりますが、ポート設定 (たとえば、パリティ、データ ビット、ハンドシェイク) は変更されません。別の RS-232 ホスト タイプ バーコードを選択すると、これらの設定が変更されます。

RS-232 ホストタイプ(続き)



OPOS/JPOS



Fujitsu RS-232

CUTE²

²CUTE ホストでは、「デフォルト設定」などのすべてのパラメータのスキヤンが無効になります。何かの理由で CUTE を選択してしまった場合、4-5 ページの「* パラメータのスキヤンを有効にする (01h)」をスキヤンしてからホスト選択を変更します。

ボーレート

ボーレートは、1 秒間に転送されるデータのビット数です。デジタルスキャナのボーレートがホストデバイスのボーレート設定に一致するように設定します。一致しない場合、データがホストデバイスに転送されなかったり、正常でない形で転送されたりすることがあります。



ボーレート 600



ボーレート 1200



ボーレート 2400



ボーレート 4800

ボーレート (続き)



* ボーレート 9600



ボーレート 19,200



ボーレート 38,400



ボーレート 57,600

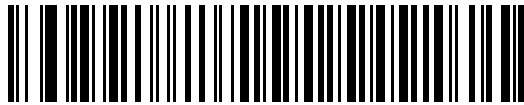


ボーレート 115,200

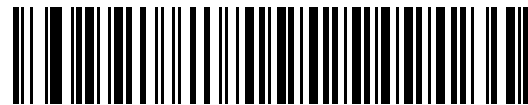
パリティ

パリティ チェック ビットは、各 ASCII コード キャラクタの最上位ビットです。ホスト デバイス要件に合わせてパリティ タイプを選択します。

- パリティとして「**奇数**」を選択すると、コード キャラクタに 1 のビットが奇数個含まれるように、パリティ ビットの値がデータに基づいて 0 または 1 に設定されます。
- パリティとして「**偶数**」を選択すると、コード キャラクタに 1 のビットが偶数個含まれるように、パリティ ビットの値がデータに基づいて 0 または 1 に設定されます。
- パリティとして「**マーク**」を選択すると、パリティ ビットの値が 1 に設定されます。
- パリティとして「**スペース**」を選択すると、パリティ ビットの値が 0 に設定されます。
- パリティ ビットが不要の場合は「**なし**」を選択します。



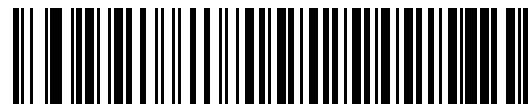
奇数



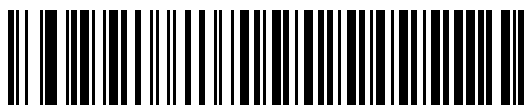
偶数



マーク



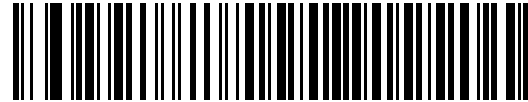
スペース



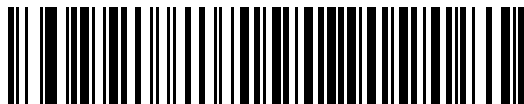
* なし

ストップビットの選択

転送される各キャラクタの末尾にあるストップビットは、1つのキャラクタの転送終了を表し、受信デバイスがシリアルデータストリーム内の次のキャラクタを受信できるようにします。受信端末が対応しているビット数に応じてストップビット数(1または2)を選択します。ストップビット数はホストデバイスの要件に適合するよう設定します。



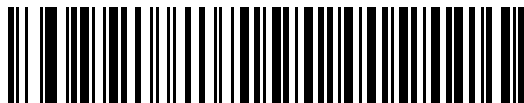
* 1ストップビット



2ストップビット

データビット

このパラメータは、デジタルスキャナが7ビットまたは8ビットのASCIIプロトコルを必要とするデバイスと接続できるようにするために使用します。



7ビット



* 8ビット

受信エラーのチェック

受信キャラクタのパリティ、フレーミング、オーバーランをチェックするかどうかを選択します。受信キャラクタのパリティ値は、上記で選択したパリティパラメータに対してチェックされます。



* 受信エラーをチェックする



受信エラーをチェックしない

ハードウェアハンドシェイク

データインタフェースは、ハードウェアハンドシェイク制御線 **Request to Send (RTS)** または **Clear to Send (CTS)** の有無にかかわらず動作するように設計された RS-232 ポートで構成されています。

「標準 RTS/CTS」ハンドシェイクが選択されていない場合、スキャンデータはデータを読み取り次第転送されます。「標準の RTS/CTS」ハンドシェイクが選択されている場合、スキャンデータは次の順序で転送されます。

- デジタル スキャナは CTS 制御線を読み取り、アクティビティを検出します。CTS がオンになっている場合、デジタル スキャナはホストが CTS 制御線をオフにするまで、最大でホスト シリアル レスポンス タイムアウトの時間待機します。ホスト シリアル レスポンス タイムアウト (デフォルト) の時間が経過した後も CTS 制御線がまだオンになっている場合、デジタル スキャナで転送エラー音が鳴り、スキャンされたデータがすべて破棄されます。
- CTS 制御線がオフになると、デジタル スキャナは RTS 制御線をオンにし、ホストが CTS をオンにするまで、最大でホスト シリアル レスポンス タイムアウトの時間待機します。ホストが CTS をオンにすると、デジタル スキャナはデータを転送します。ホスト シリアル レスポンス タイムアウト (デフォルト) の時間が経過した後も CTS 制御線がまだオンになっていない場合、デジタル スキャナで転送エラー音が鳴り、データが破棄されます。
- データの転送が完了すると、最後のキャラクタが送信されてから 10 ミリ秒後に RTS がオフになります。
- ホストは CTS をオフにして応答する必要があります。デジタル スキャナは、次のデータの転送時に、オフになっている CTS の有無が確認します。

データの転送中は、CTS 制御線がオンになっている必要があります。キャラクタ間で CTS が 50 ミリ秒を超えてオフになっていた場合、転送は中止され、転送エラー音が鳴り、データは破棄されます。

この通信手順が失敗した場合、エラーが表示されます。この場合、データは失われてしまうため、再度スキャンする必要があります。

ハードウェアハンドシェイクとソフトウェアハンドシェイクの両方が有効になっている場合、ハードウェアハンドシェイクが優先されます。

✓ **注** DTR 信号は常にアクティブな状態です。

ハードウェアハンドシェイク (続き)

- 「なし」: このバーコードをスキャンすると、ハードウェア ハンドシェイクが無効になります。
- 「標準 RTS/CTS」: このバーコードをスキャンすると、標準 RTS/CTS ハードウェア ハンドシェイクが選択されます。
- 「RTS/CTS オプション 1」: 「RTS/CTS オプション 1」を選択した場合、転送の前に RTS がオンにされ、CTS の状態は無視されます。データ転送が完了すると、デジタルスキャナは RTS をオフにします。
- 「RTS/CTS オプション 2」: 「オプション 2」を選択した場合、RTS は常に高または低 (ユーザーがプログラムした論理レベル) になります。ただし、データの転送は CTS がオンになってから実行されます。ホストシリアル レスポンス タイムアウト (デフォルト) の時間内に CTS がオンにならない場合、エラーが表示され、データは破棄されます。
- 「RTS/CTS オプション 3」: 「オプション 3」を選択した場合、CTS の状態にかかわらず、データ転送の前に RTS がオンになります。デジタルスキャナは CTS がオンになるのを最大でホストシリアル レスポンス タイムアウト (デフォルト) の時間待機します。この時間内に CTS がオンにならない場合、エラーが表示され、データは破棄されます。データ転送が完了すると、デジタルスキャナは RTS をオフにします。



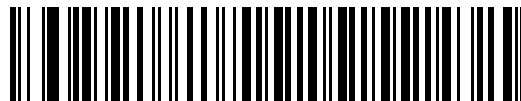
* なし



標準 RTS/CTS



RTS/CTS オプション 1



RTS/CTS オプション 2



RTS/CTS オプション 3

ソフトウェアハンドシェイク

このパラメータは、ハードウェアハンドシェイクによって提供される転送プロセスに加えて、またはその代替として、データ転送プロセスを制御します。5種類のオプションが用意されています。

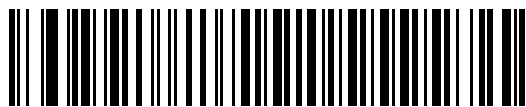
ソフトウェアハンドシェイクとハードウェアハンドシェイクの両方が有効になっている場合、ハードウェアハンドシェイクが優先されます。

- 「なし」：これを選択すると、データが即時に転送されます。ホストからの応答はありません。
- 「ACK/NAK」：このオプションを選択した場合、データの転送後に、ホストから ACK または NAK 応答のいずれかがあります。デジタル スキャナは、NAK を受信すると同じデータを再送信し、ACK または NAK のいずれかを待機します。NAK の受信後にデータ送信試行が 3 回失敗すると、エラーが表示され、データが破棄されます。

デジタル スキャナは、ACK または NAK の受信を、最大でプログラム可能なホスト シリアル レスポンス タイムアウトの時間待機します。この時間内に応答が得られない場合、エラーが表示され、データが破棄されます。タイムアウトが発生した場合は、再試行はされません。

- 「ENQ」：このオプションを選択した場合、ホストから ENQ キャラクタを受信してからデータが転送されます。ホスト シリアル レスポンス タイムアウト以内に ENQ を受信しなかった場合、エラーが表示され、データが破棄されます。転送エラーが発生しないようにするには、ホストが少なくともホスト シリアル レスポンス タイムアウトごとに ENQ キャラクタを送信する必要があります。
- 「ACK/NAK with ENQ」：上記の 2 つのオプションを組み合わせたものです。データの再転送時には、ホストから受信した NAK があるため、追加の ENQ は必要ありません。
- 「XON/XOFF」：XOFF キャラクタによりデジタル スキャナによる転送がオフになります。このオフ状態はデジタル スキャナが XON キャラクタを受信するまで続きます。XON/XOFF を使用する状況には 2 通りあります。
 - デジタル スキャナは、データを送信する前に XOFF を受信します。送信するデータが準備されると、XON キャラクタの転送を最大でホスト シリアル レスポンス タイムアウトの時間待機します。この時間内に XON を受信しなかった場合、エラーが表示され、データは破棄されます。
 - デジタル スキャナは、転送中に XOFF を受信します。その時点でのバイトを送信した後、データ転送が停止します。XON キャラクタを受信すると、残りのデータ メッセージが送信されます。デジタル スキャナは XON を無限に待機します。

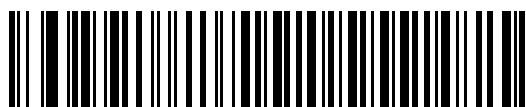
ソフトウェアハンドシェイク (続き)



* なし



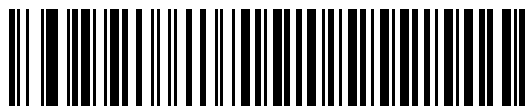
ACK/NAK



ENQ



ACK/NAK with ENQ



XON/XOFF

ホスト シリアル レスポンス タイムアウト

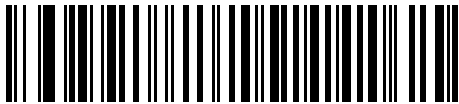
ACK、NAK、または CTS を待機しているときに、このパラメータに指定した時間が経過すると、デジタル スキャナは転送エラーが発生したと判断します。これは、ACK/NAK ソフトウェア ハンドシェイク モード、または RTS/CTS ハードウェア ハンドシェイク モードのいずれかになっているときのみ適用されます。



* 最小: 2 秒



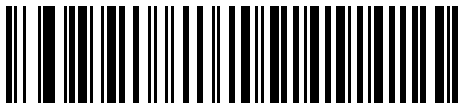
低: 2.5 秒



中: 5 秒



高: 7.5 秒



最大: 9.9 秒

RTS 制御線の状態

このパラメータは、シリアル ホスト RTS 制御線のアイドル状態を設定します。下のバーコードをスキャンして、RTS 制御線の状態を **Low RTS** または **High RTS** に設定します。



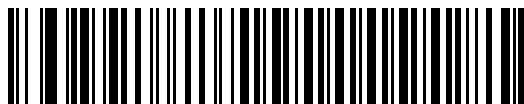
* ホスト: Low RTS



ホスト: High RTS

<BEL> によるビープ音

このパラメータを有効にすると、RS-232 シリアル線で <BEL> キャラクタが検出されるとデジタル スキャナでビープ音が鳴ります。<BEL> は、不正な入力またはその他の重要なイベントを示しています。



<BEL> キャラクタによるビープ音を有効化
(有効)



* <BEL> キャラクタによるビープ音を無効化
(無効)

キャラクタ間ディレイ

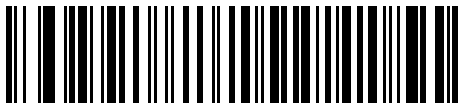
キャラクタ転送間に挿入されるキャラクタ間ディレイを指定します。



* 最小: 0 ミリ秒



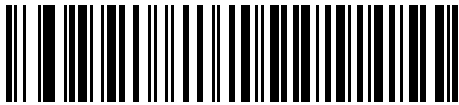
低: 25 ミリ秒



中: 50 ミリ秒



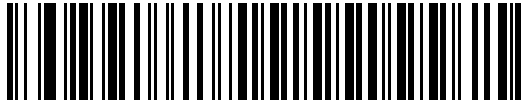
高: 75 ミリ秒



最大: 99 ミリ秒

Nixdorf のビープ音 /LED オプション

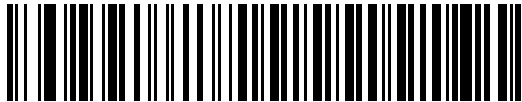
Nixdorf Mode B を選択した場合、これは、デジタル スキャナでビープ音が鳴ると読み取り後に LED がオンになることを示しています。



* 通常の操作
(読み取り直後のビープ音 /LED)



転送後のビープ音 /LED

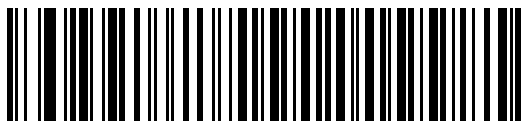


CTS パルス後のビープ音 /LED

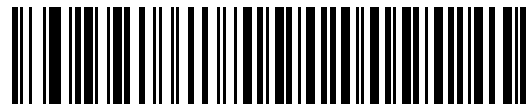
不明な文字の無視

不明な文字とは、ホストで認識されない文字のことです。不明な文字を除いたすべてのバーコード データを送信するには、「不明な文字を含むバーコードを送信する」を選択します。エラーを示すビープ音は鳴りません。

最初の不明な文字までバーコード データを送信するには、「不明な文字を含むバーコードを送信しない」を選択します。デジタル スキャナはエラー ビープ音を鳴らします。



* バーコードを送信
(不明な文字を含む)



バーコードを送信しない
(不明な文字を含む)

RS-232 の ASCII キャラクタ セット

表 7-4 の値は、ASCII キャラクタ データの転送時にプリフィックスまたはサフィックスとして割り当てることができます。

表 7-4 プリフィックス/サフィックス値

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	ASCII キャラクタ
1000	%U	NUL
1001	\$A	SOH
1002	\$B	STX
1003	\$C	ETX
1004	\$D	EOT
1005	\$E	ENQ
1006	\$F	ACK
1007	\$G	BELL
1008	\$H	BCKSPC
1009	\$I	HORIZ TAB
1010	\$J	LF/NW LN
1011	\$K	VT
1012	\$L	FF
1013	\$M	CR/ENTER
1014	\$N	SO
1015	\$O	SI
1016	\$P	DLE
1017	\$Q	DC1/XON
1018	\$R	DC2
1019	\$S	DC3/XOFF
1020	\$T	DC4
1021	\$U	NAK
1022	\$V	SYN
1023	\$W	ETB
1024	\$X	CAN
1025	\$Y	EM

表 7-4 プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	ASCII キャラクタ
1026	\$Z	SUB
1027	%A	ESC
1028	%B	FS
1029	%C	GS
1030	%D	RS
1031	%E	US
1032	スペース	スペース
1033	/A	!
1034	/B	"
1035	/C	#
1036	/D	\$
1037	/E	%
1038	/F	&
1039	/G	'
1040	/H	(
1041	/I)
1042	/J	*
1043	/K	+
1044	/L	,
1045	-	-
1046	.	.
1047	/O	/
1048	0	0
1049	1	1
1050	2	2
1051	3	3
1052	4	4
1053	5	5
1054	6	6
1055	7	7

表 7-4 プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	ASCII キャラクタ
1056	8	8
1057	9	9
1058	/Z	:
1059	%F	;
1060	%G	<
1061	%H	=
1062	%I	>
1063	%J	?
1064	%V	@
1065	A	A
1066	B	B
1067	C	C
1068	D	D
1069	E	E
1070	F	F
1071	G	G
1072	H	H
1073	I	I
1074	J	J
1075	K	K
1076	L	L
1077	M	M
1078	N	N
1079	O	O
1080	P	P
1081	Q	Q
1082	R	R
1083	S	S
1084	T	T
1085	U	U

表 7-4 プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	ASCII キャラクタ
1086	V	V
1087	W	W
1088	X	X
1089	Y	Y
1090	Z	Z
1091	%K	[
1092	%L	¥
1093	%M]
1094	%N	^
1095	%O	_
1096	%W	`
1097	+A	a
1098	+B	b
1099	+C	c
1100	+D	d
1101	+E	e
1102	+F	f
1103	+G	g
1104	+H	h
1105	+I	i
1106	+J	j
1107	+K	k
1108	+L	l
1109	+M	m
1110	+N	n
1111	+O	o
1112	+P	p
1113	+Q	q
1114	+R	r
1115	+S	s

表 7-4 プリフィックス/サフィックス値 (続き)

プリフィックス/ サフィックス値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	ASCII キャラクタ
1116	+T	t
1117	+U	u
1118	+V	v
1119	+W	w
1120	+X	x
1121	+Y	y
1122	+Z	z
1123	%P	{
1124	%Q	
1125	%R	}
1126	%S	~
1127		未定義
7013		ENTER

第 8 章 IBM 468X / 469X インタフェース

はじめに

この章では、IBM 468X/469X ホストでデジタル スキャナをセットアップする方法について説明します。

プログラミング バーコード メニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す — * Code 39 への変換を無効化 — 機能 / オプション

- ✓ 注 ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードがはっきり表示され、バーやスペースが混じらないレベルまで文書を拡大するようにします。

IBM 468X/469X ホストへの接続

デジタル スキャナをホスト インタフェースに直接接続します。

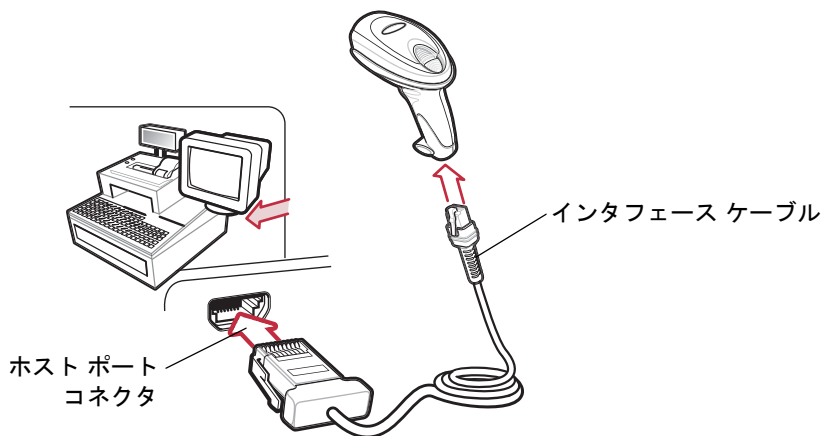


図 8-1 IBM 直接接続

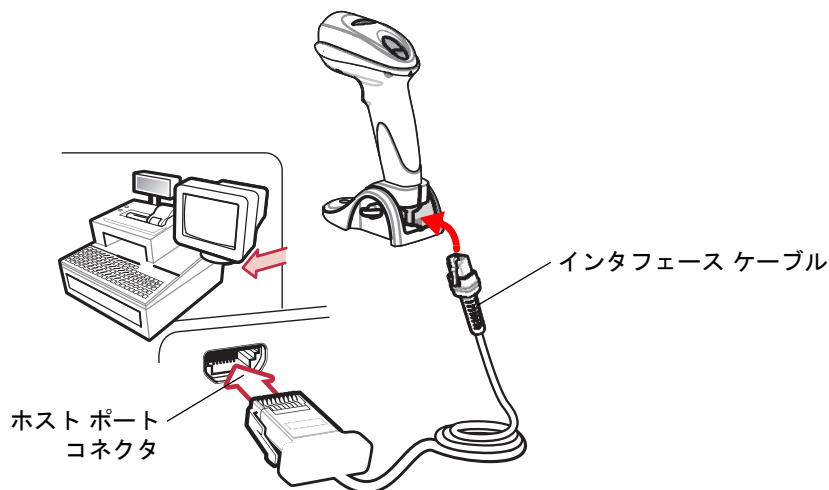


図 8-2 ベース付きスキャナの IBM 直接接続

✓ **注** インタフェース ケーブルは構成によって異なります。図 8-1 および図 8-2 に示したコネクタは一例です。実際には、別のコネクタが使用される場合もありますが、スキャナの接続手順は同じです。

1. IBM 46XX インタフェース ケーブルのモジュラ コネクタをデジタル スキャナのケーブル インタフェース ポートに接続します。1-3 ページの「[インタフェース ケーブルの接続](#)」を参照してください。
2. IBM 46XX インタフェース ケーブルのもう一端をホストの適切なポートに接続します (通常は、ポート 9 です)。
3. 8-4 ページの「[ポート アドレス](#)」に掲載されている適切なバーコードをスキャンして、ポート アドレスを選択します。
4. その他のパラメータ オプションを変更するには、この章の適切なバーコードをスキャンします。

✓ **注** 設定する必要があるのは、ポート アドレスだけです。IBM システムは通常、その他のデジタル スキャナ パラメータを制御します。

IBM パラメータのデフォルト

表 8-1 に、IBM ホスト パラメータのデフォルト一覧を示します。オプションを変更する場合は、本章の 8-4 ページ以降のパラメータ説明に掲載されている適切なバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」を参照してください。

表 8-1 IBM ホスト パラメータのデフォルト一覧

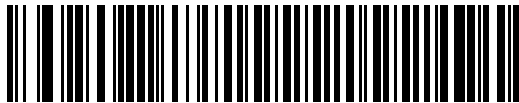
パラメータ	デフォルト	ページ番号
IBM 468X/469X ホスト パラメータ		
ポート アドレス	選択なし	8-4
不明バーコードを Code 39 に変換	無効	8-5

IBM 468X/469X ホスト パラメータ

ポートアドレス

このパラメータは IBM 468X/469X ポートを使用済みに設定します。

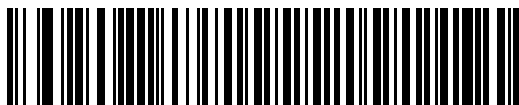
✓ **注** これらのバーコードをスキャンして、デジタルスキャナ上の RS-485 インタフェースを有効にします。



選択なし



ハンドヘルドスキャナ エミュレーション (ポート 9B)



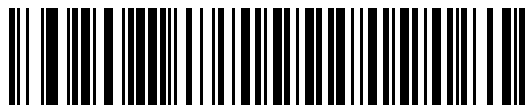
非 IBM スキャナ エミュレーション (ポート 5B)



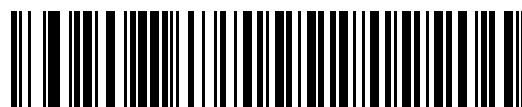
卓上スキャナ エミュレーション (ポート 17)

不明バーコードを Code 39 に変換

不明なバーコード タイプのデータを Code 39 に変換するかしないかを設定します。



不明バーコードを Code 39 に変換



* 不明バーコードを Code 39 に変換しない

第9章 ワンドエミュレーション インタフェース

はじめに

この章では、ワンドエミュレーション通信が必要な場合にワンドエミュレーションホストでデジタルスキャナをセットアップする方法について説明します。デジタルスキャナは、外部ワンドデコーダ、モバイルコンピュータに組み込まれたデコーダ、または販売時点管理 (POS) 端末に接続されます。

このモードでは、デジタルスキャナは、デジタルワンドの信号をエミュレートして、ワンドデコーダで"読み取り可能"にします。

プログラミングバーコードメニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す * 不明文字の送信 — 機能/オプション

- ✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードがはっきり表示され、バーやスペースが混じらないレベルまで文書を拡大するようにします。

ワンド エミュレーションを使用した接続

ワンド エミュレーションを実行するには、モバイル コンピュータ、またはワンド データを収集してホストのために解釈するコントローラにデジタル スキャナを接続します。

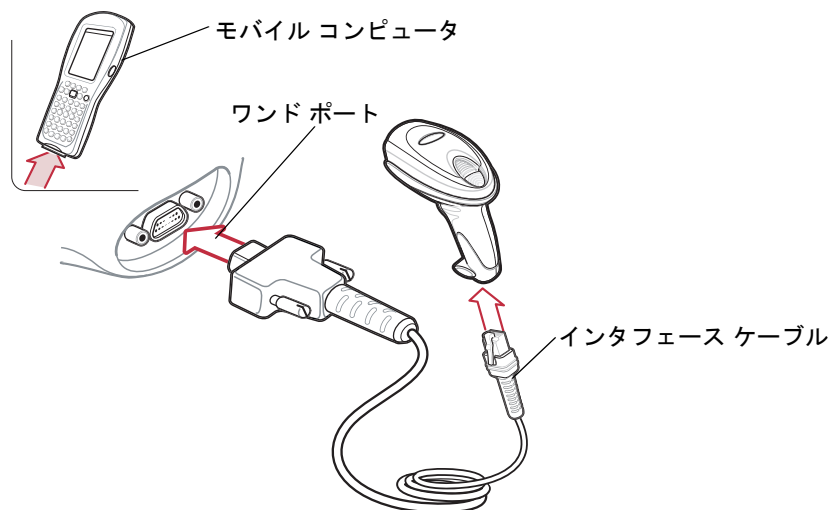


図 9-1 ワンド エミュレーション接続

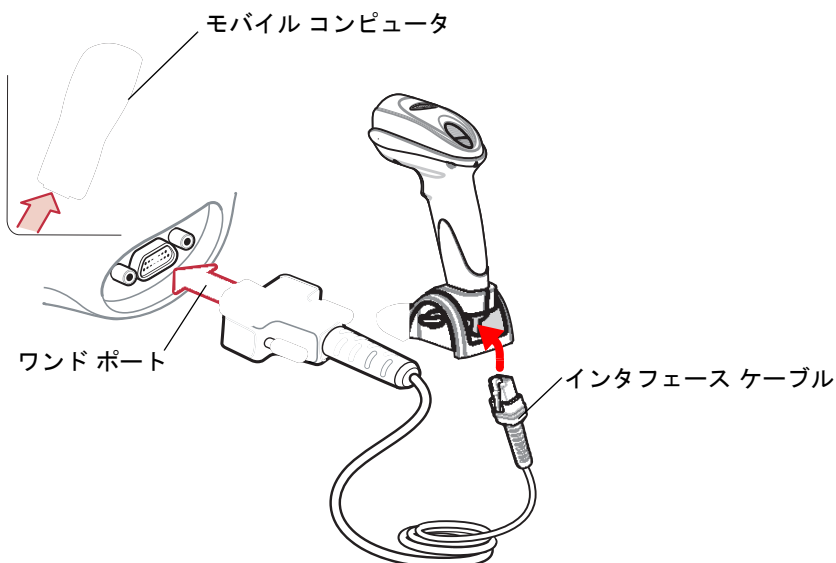


図 9-2 ベース付きスキャナのワンド エミュレーション接続

✓ **注** インタフェース ケーブルは構成によって異なります。図 9-1 および図 9-2 に示したコネクタは一例です。実際には、別のコネクタが使用される場合もありますが、スキャナの接続手順は同じです。

1. ワンド エミュレーション インタフェース ケーブルのモジュラ コネクタをデジタル スキャナのケーブル インタフェース ポートに接続します (1-3 ページの「[インタフェース ケーブルの接続](#)」を参照)。
2. ワンド エミュレーション インタフェース ケーブルの片側をモバイル コンピュータまたはコントローラのワンド ポートに接続します。

3. [9-4 ページの「ワンドエミュレーションのホストタイプ」](#) から適切なバーコードをスキャンして、ワンドエミュレーションホストタイプを選択します。
4. その他のパラメータオプションを変更するには、この章の適切なバーコードをスキャンします。



警告! デジタルスキャナは5Vのデコーダのみに接続してください。デジタルスキャナを12Vのデコーダに接続すると、デジタルスキャナが破損し、保証が無効になる可能性があります。

ワンドエミュレーションパラメータのデフォルト

[表 9-1](#) に、ワンドエミュレーションホストタイプのデフォルト一覧を示します。いずれかのオプションを変更するには、[9-4 ページの「ワンドエミュレーションのホストパラメータ」](#) に示されている適切なバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、[付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」](#) を参照してください。

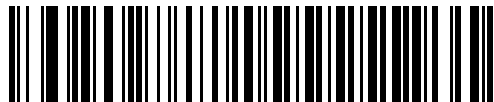
表 9-1 ワンドエミュレーションのデフォルト一覧

パラメータ	デフォルト	ページ番号
ワンドエミュレーションのホストパラメータ		
ワンドエミュレーションのホストタイプ	Symbol OmniLink Interface Controller	9-4
先頭マージン	80 ミリ秒	9-5
極性	バー High/ マージン Low	9-6
不明な文字の無視	無視	9-6
すべてのバーコードを Code 39 に変換	無効	9-7
Code 39 を Full ASCII に変換	無効	9-8

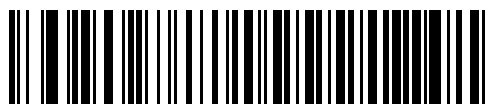
ワンド エミュレーションのホスト パラメータ

ワンド エミュレーションのホスト タイプ

以下のいずれかのバーコードをスキャンして、ワンド エミュレーション ホストを選択します。



Symbol OmniLink Interface Controller



Symbol PDT 端末 (MSI)

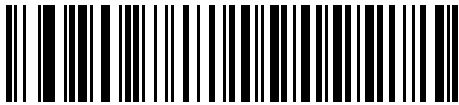


Symbol PTC 端末 (Telxon)

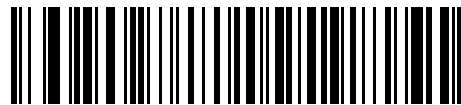
先頭マージン(クワイエットゾーン)

先頭マージン時間を選択するには、以下のバーコードをスキャンします。先頭マージンは、最初のバーのスキャンまでの時間(ミリ秒)です。最小値は80ミリ秒で、最大値は250ミリ秒です。このパラメータは、短い先頭マージンを処理できない古いワンドデコーダに対応します。

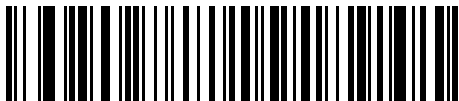
✓ 注 250ミリ秒は、このパラメータの最大値ですが、200ミリ秒で十分です。



* 80 ミリ秒



140 ミリ秒

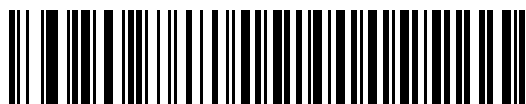


200 ミリ秒

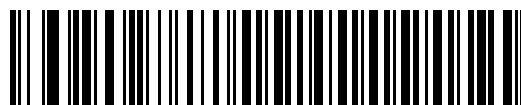
極性

極性は、デジタル スキャナのワンド エミュレーション インタフェースがデジタル化されたバーコード パターン (DBP) を作成する方法を指定します。DBP は、スキャンされたバーコードを表すデジタル信号です。別のデコーダでは、特定のフォーマットの DBP が必要です。DBP は、「High」バー / 「Low」スペース (マージン) または 「High」スペース (マージン) / 「Low」バーのいずれかです。

適切なバーコードをスキャンして、デコーダで必要な極性を選択します。



* バー High/ マージン Low



バー Low/ マージン High

不明な文字の無視

不明な文字とは、ホストで認識されない文字のことです。不明な文字を除いたすべてのバーコード データを送信するには、「不明な文字を含むバーコードを送信する」を選択します。エラーを示すビープ音は鳴りません。

「不明な文字を含むバーコードを送信しない」を選択した場合は、不明な文字を含むバーコードはホストに送信されません。デジタル スキャナはエラー ビープ音を鳴らします。



* 不明な文字を含むバーコードを送信する
(送信)



不明な文字を含むバーコードを送信しない
(転送しない)

すべてのバーコードを Code 39 に変換

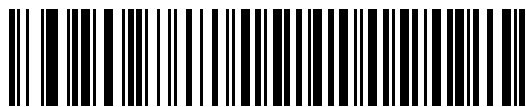
デフォルトでは、ワンドエミュレーションインタフェースは、デコードされた読み取り可能コードでデータを接続済みホストに送信します。これは、新しい読み取り可能コード (たとえば、GS1 DataBar) を認識しない古いシステムを使用するお客様にとっては問題になることがあります。

デコードされた読み取り可能コードを無視して、データを Code 39 バーコードとして送信するには、このパラメータを有効にします。元のデータストリーム内の小文字は、大文字として送信されます。これによって、ADF フォーマットも使用できます。

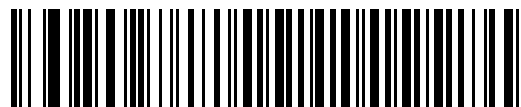
Code 39 読み取り可能コードに対応する文字のない文字をスペースで置換するには、「**不明な文字の無視**」を有効にします。

「**不明な文字の無視**」を無効にすると、対応する Code 39 の文字のない文字がデジタル スキャナで検出されたときに、エラー ビープ音が鳴り、データは送信されません。

- ✓ **注** ADF の注: デフォルトでは、ワンドエミュレーションインタフェースでは、ADF 規則をスキャン済みデータに適用できません。このパラメータを有効にすると、ADF 規則をスキャン済みデータに適用できます (第 15 章の「**高度なデータフォーマット**」)。



ワンドホストに対して Code 39 への変換を有効化

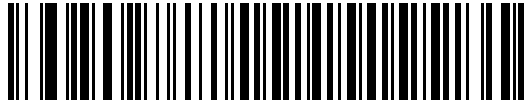


* ワンドホストに対して Code 39 への変換を無効化

Code 39 を Full ASCII に変換

デフォルトでは、Code 39 バーコード セットに対応する文字を持たないすべての文字はスペースに変換されます。ワンド インタフェースに送信されるデータを Code 39 Full ASCII でエンコードするには、このパラメータを有効にします。この設定では、ホストが Code 39 Full ASCII データを解釈する必要があります。

この設定は、「Code 39 に変換」を有効にしている場合だけ適用されます。



* Code 39 Full ASCII 変換をしない



Code 39 Full ASCII 変換を有効化

- ✓ **注** ワンド エミュレーションは、コンポジット データを送信しようとするときエラー ビープ音を鳴らします。データは送信されません。

第 10 章 スキャナ エミュレーション インタフェース

はじめに

この章では、スキャナ エミュレーション ホストでデジタル スキャナをセットアップする方法について説明します。このモードでは、デジタル スキャナは、外部デコーダ、モバイル コンピュータに組み込まれたデコーダ、または販売時点管理 (POS) 端末に接続されます。

プログラミング バーコード メニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す — * パラメータの処理 — 機能/オプション
およびパスルー

- ✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードが明確に表示され、バーおよび/またはスペースが重ならないようにドキュメントの倍率を設定します。

スキャナ エミュレーションを使用した接続

スキャナ エミュレーションを実行するには、モバイル コンピュータ、またはデータを収集してホストのために解釈するコントローラにデジタル スキャナを接続します。

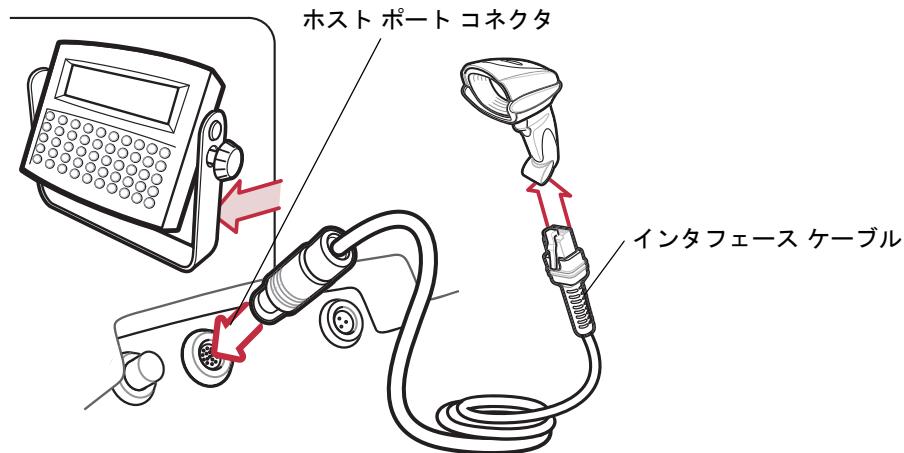


図 10-1 スキャナ エミュレーション接続

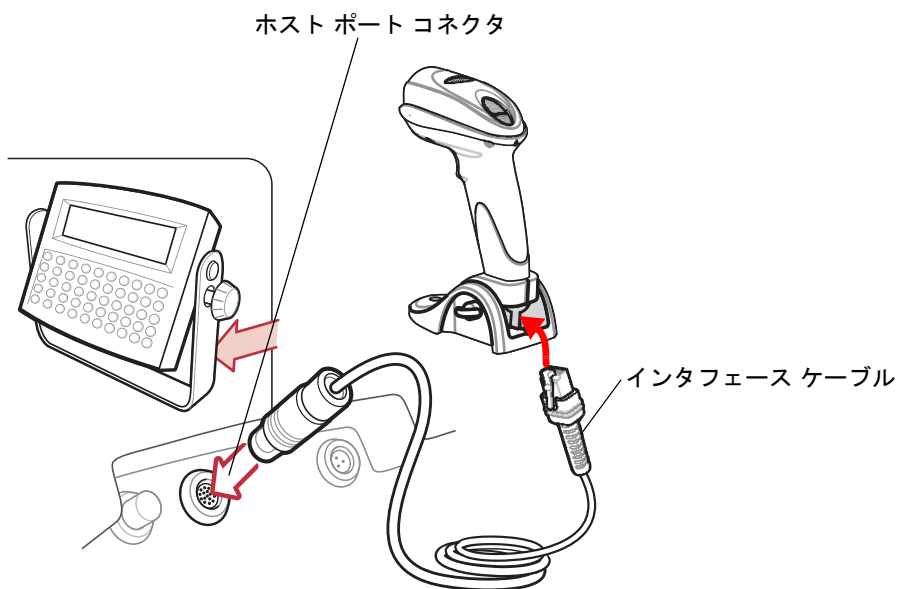


図 10-2 ベース付きスキャナのスキャナ エミュレーション接続

✓ **注** インタフェース ケーブルは構成によって異なります。図 10-1 および図 10-2 に示したコネクタは一例です。実際には、別のコネクタが使用される場合もありますが、スキャナの接続手順は同じです。

1. スキャナ エミュレーション インタフェース ケーブルのモジュラ コネクタをデジタル スキャナのケーブル インタフェース ポートに接続します。1-3 ページの「[インタフェース ケーブルの接続](#)」を参照してください。
2. スキャナ エミュレーション インタフェース ケーブルの片側をモバイル コンピュータまたはコントローラのスキャナ ポートに接続します。

3. **10-4 ページの「スキャナ エミュレーション ホスト」** から「スキャナ エミュレーション ホスト」バーコードをスキャンして、スキャナ エミュレーション ホスト インタフェースを有効にします。
4. その他のパラメータ オプションを変更するには、この章の適切なバーコードをスキャンします。



警告! デジタルスキャナは5Vのデコーダのみに接続してください。デジタルスキャナを12Vのデコーダに接続すると、デジタルスキャナが破損し、保証が無効になる可能性があります。

スキャナ エミュレーション パラメータのデフォルト

表 10-1 に、スキャナ エミュレーション ホストのデフォルトをリストします。オプションを変更する場合は、**10-4** ページ以降の「スキャナ エミュレーション ホスト パラメータ」セクションに掲載されている適切なバーコードをスキャンします。

✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、**付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」**を参照してください。

表 10-1 スキャナ エミュレーションのデフォルト一覧

パラメータ	デフォルト	ページ番号
ビーブ音スタイル	転送成功時にビーブ音	10-4
パラメータ パススルー	パラメータの処理およびパススルー	10-5
新しいコード タイプの変換	新しいコード タイプの変換	10-6
モジュール幅	20 μ s	10-6
すべてのバーコードを Code 39 に変換	バーコードを Code 39 に変換しない	10-7
Code 39 Full ASCII 変換	無効	10-7
転送タイムアウト	3 秒	10-8
不明な文字の無視	不明な文字の無視	10-9
先頭マージン	2 ミリ秒	10-9
読み取り LED のチェック	読み取り LED のチェック	10-10

スキャナ エミュレーション ホスト

次のバーコードをスキャンすると、スキャナ エミュレーション ホストが有効になります。



スキャナ エミュレーション ホスト

スキャナ エミュレーション ホスト パラメータ

ビープ音スタイル

スキャナ エミュレーション ホストでは、3つのビープ音スタイルがサポートされます。

- 「**転送成功時のビープ音**」：接続されているデコーダがデジタル スキャナに読み取り信号を出すとデジタル スキャナでビープ音が鳴るため、デジタル スキャナと接続済みデコーダから同時にビープ音が鳴ります。
- 「**デコード時のビープ音**」：デジタル スキャナでは、読み取り時にビープ音が鳴ります。デジタル スキャナからビープ音が鳴り、出力が正常に読み取られるとデコーダから（異なる頻度で）ビープ音が鳴るため、これによってほとんどのデコーダからビープシーケンスが2回鳴ります。
- 「**ビープ音なし**」：接続済みデコーダのみが読み取りビープ音を鳴らします。

どの場合も、エラーが発生した場合、デジタル スキャナからエラー ビープ音が鳴ります。



* 転送成功時のビープ音



デコード時のビープ音



ビープ音なし

パラメータ パススルー

スキャナ エミュレーション ホストは、パラメータ バーコード メッセージを処理して、接続済みデコーダに送信できます。この方法で、Symbol 社準拠のデコーダを使用するお客様は、必要なパラメータを一度のみスキャンすることで、システム全体の動作を制御できます。

たとえば、D 2 of 5 を有効にするには、「D 2 of 5 を有効化」パラメータ バーコードをスキャンします。デジタルスキャナと接続済みデコーダの両方がパラメータを処理します。



* パラメータの処理およびパススルー



パラメータの処理のみ

新しいコードタイプの変換

デジタル スキャナでは、接続済みデコーダ システムで読み取り可能ではないさまざまなコード タイプがサポートされます。これらの環境での互換性を可能にするために、デジタル スキャナは、次の図に従って、これらのコード タイプをより一般的に読み取り可能な読み取り可能コードに変換します。この表に記載されていない読み取り可能コードは、通常どおりに送信されます。

スキャンするコードタイプ	転送
Code 11	Code 39
GS1 DataBar (14、Limited、および Expanded)、Coupon Code、PDF、MicroPDF、MaxiCode、Data Matrix、QR Code、郵便番号、コンボジットコード	Code 128

このパラメータを無効にしてこれらのコード タイプを読み取ると、デジタル スキャナから変換エラーのビーブ音が鳴り、データは転送されません。スキャンされる新しいバーコード タイプのデータの量が、変換コード タイプの量を超えることはできません。



* 新しいコードタイプの変換



新しいコードタイプを拒否

モジュール幅

標準モジュール幅は 20 μ s です。非常に遅いデコード システムでは、「50 μ s モジュール幅」を選択してください。



* 20 μ s モジュール幅



50 μ s モジュール幅

すべてのバーコードを Code 39 に変換

すべてのバーコード データの Code 39 への変換を有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンします。



* バーコードを Code 39 に変換しない



すべてのバーコードを Code 39 に変換

Code 39 Full ASCII 変換

デフォルトでは、Code 39 バーコード セットに対応する文字を持たないすべての文字はスペースに変換されます。スキャナ エミュレーション ホストに送信されるデータを Code 39 Full ASCII でエンコードするには、このパラメータを有効にします。ホストは、Code 39 Full ASCII データを解釈する必要があります。

この設定は、「Code 39 に変換」を有効にしている場合だけ適用されます。



* Code 39 から Full ASCII への変換を無効



Code 39 から Full ASCII への変換を有効化

- ✓ **注** スキャンしたデータが Code 39 の最大長を超えた場合、スキャナ エミュレーションはエラー ビープ音を鳴らし、データを送信しません。

転送タイムアウト

スキャナ エミュレーション ホストは、接続済みデコーダにバーコード データを転送し、転送の成功を示す読み取り信号がデコーダでオンになるのを待機します。指定された時間後に読み取り信号がオンにならない場合 (接続済みデコーダがバーコード データを正常に受信しなかったことを示します)、デジタル スキャナから転送エラー ビープ音が鳴ります。

適切な転送タイムアウトを選択するには、次のバーコードをスキャンします。



* 3 秒転送タイムアウト



4 秒転送タイムアウト



5 秒転送タイムアウト



10 秒転送タイムアウト



30 秒転送タイムアウト

不明な文字の無視

不明な文字とはデコーダで認識されない文字です。不明な文字を除いたすべてのバーコード データを送信するには、「不明な文字の無視」を選択します。エラーを示すビープ音は鳴りません。

1 つ以上の不明な文字を含むバーコードがデコーダに送信されるのを防ぐには、「不明な文字は変換エラー」を選択します。デジタル スキャナは、変換エラー ビープ音を鳴らします。



* 不明な文字の無視



不明な文字は変換エラー

先頭マージン

先頭マージン時間を選択するには、以下のバーコードをスキャンします。



1ms 先頭マージン



* 2ms 先頭マージン



3ms 先頭マージン

先頭マージン (続き)



5ms 先頭マージン



10ms 先頭マージン

読み取り LED のチェック

接続済みデコーダは通常、送信されたバーコードが正常に読み取られたことを示すために、スキャナ エミュレーション ホストに通知する読み取り行をオンにします。ただし、一部のデコーダは読み取り信号をオンにしません。この場合、デジタル スキャナは、バーコードが正常に送信されなかったことを示す送信エラー ビープ音を鳴らします。送信エラー ビープ音を無効にするには、「**読み取り LED の無視**」バーコードをスキャンします。



* 読み取り LED のチェック



読み取り LED の無視

第11章 キーボードウェッジ インタフェース

はじめに

この章では、デジタルスキャナでキーボードウェッジインタフェースをセットアップする方法について説明します。このインタフェースでは、デジタルスキャナはキーボードとホストコンピュータ間に接続され、バーコードデータをキーストロークに変換します。ホストコンピュータは、キーボードから入力されたものと同様にキーストロークを受け付けます。このモードによって、手動によるキーボード入力のために設計されたシステムにバーコード読み取り機能が追加されます。キーボードキーストロークは単に受け渡されます。

プログラミングバーコードメニューでは、デフォルト値にアスタリスク(*)が付いています。



* はデフォルトを示す * 英語 (U.S.) — 機能/オプション

- ✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードが明確に表示され、バーおよび/またはスペースが重ならないようにドキュメントの倍率を設定します。

キーボード ウェッジ インタフェースの接続

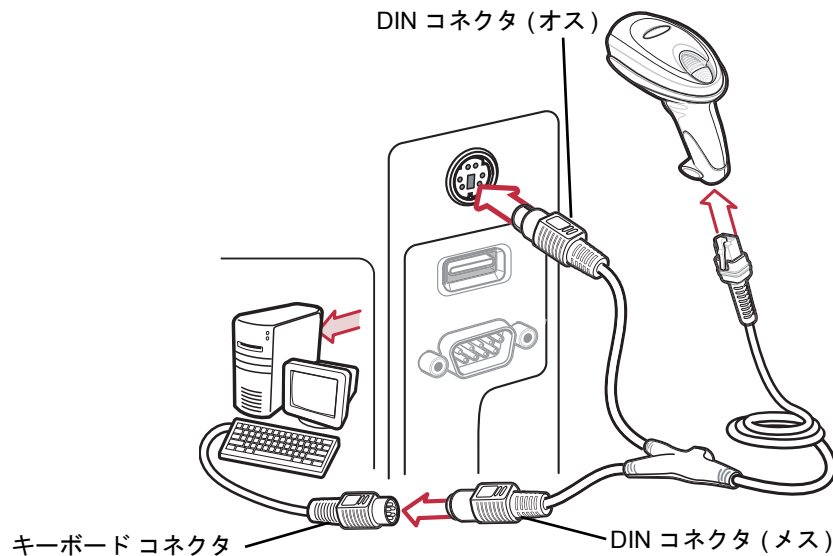


図 11-1 Y ケーブルによるキーボード ウェッジ接続

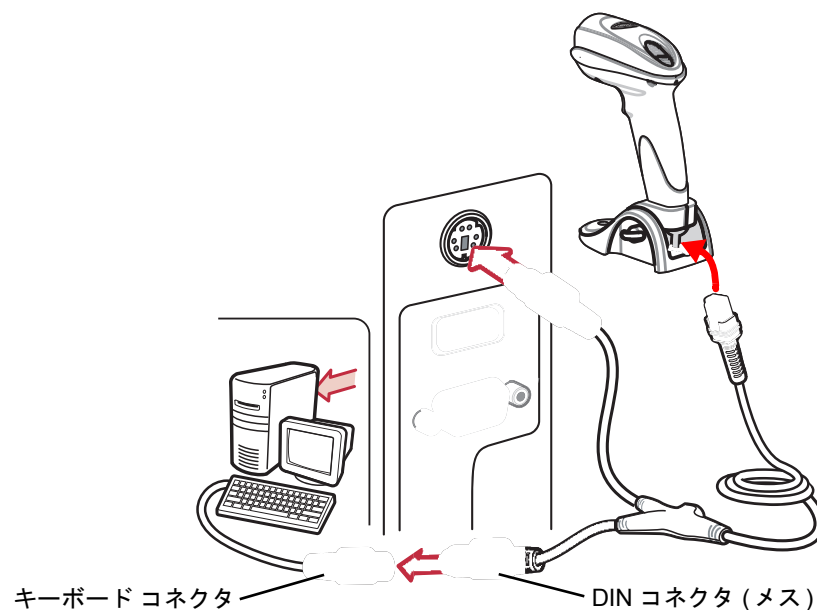


図 11-2 ベース付きスキャナの Y ケーブルによるキーボード ウェッジ接続

キーボード ウェッジ インタフェースを接続するには、Y ケーブルを使用します。

✓ **注** インタフェース ケーブルは構成によって異なります。図 11-1 および図 11-2 に示したコネクタは一例です。実際には、別のコネクタが使用される場合もありますが、スキャナの接続手順は同じです。

1. ホストの電源をオフにして、キーボード コネクタを外します。
2. Y ケーブルのモジュラ コネクタをデジタル スキャナのケーブル インタフェース ポートに接続します。1-3 ページの「[インタフェース ケーブルの接続](#)」を参照してください。

3. Y ケーブルの丸い DIN ホスト コネクタ (オス) を、ホスト デバイスのキーボード ポートに接続します。
4. Y ケーブルの丸い DIN キーボード コネクタ (メス) を、キーボード コネクタに接続します。
5. 必要に応じて、オプションの電源ケーブルを Y ケーブルの中ほどにあるコネクタに接続します。
6. すべてのコネクタがしっかり接続されていることを確認します。
7. ホスト システムの電源をオンにします。
8. [11-4 ページ](#)の「**キーボード ウェッジのホスト タイプ**」から適切なバーコードをスキャンして、キーボード ウェッジ ホスト タイプを選択します。
9. その他のパラメータ オプションを変更するには、この章の適切なバーコードをスキャンします。

キーボード ウェッジ パラメータのデフォルト

[表 11-1](#) に、キーボード ウェッジ ホスト パラメータのデフォルト一覧を示します。オプションを変更する場合は、[11-4 ページ](#)以降の「キーボード ウェッジ ホスト パラメータ」セクションに掲載されている適切なバーコードをスキャンします。


 **注** すべてのユーザー設定、ホスト、読み取り可能コード、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、[付録 A 「標準のデフォルト設定パラメータ」](#)を参照してください。

表 11-1 キーボード ウェッジ ホストのデフォルト一覧

パラメータ	デフォルト	ページ番号
キーボード ウェッジのホストパラメータ		
キーボード ウェッジのホスト タイプ	IBM PC/AT および IBM PC 互換機	11-4
国タイプ (国コード)	英語 (U.S.)	11-5
不明な文字の無視	送信	11-7
キーストローク デイレイ	遅延なし	11-7
キーストローク内デイレイ	無効	11-8
代替用数字キーパッド エミュレーション	無効	11-8
Caps Lock オン	無効	11-9
Caps Lock オーバーライド	無効	11-9
ウェッジ データの変換	変換なし	11-10
ファンクション キーのマッピング	無効	11-10
FN1 置換	無効	11-11
メーカー/ブレークの送信	送信	11-11

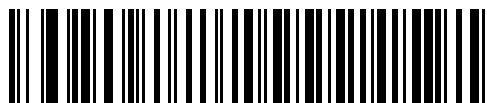
キーボード ウェッジのホスト パラメータ

キーボード ウェッジのホスト タイプ

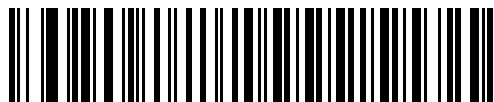
下のバーコードから適切なものをスキャンして、キーボード ウェッジ ホストを選択します。



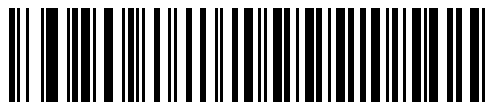
IBM PC/AT および IBM PC 互換機



IBM PS/2 (モデル 30)



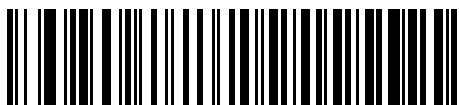
IBM ノートブック



NCR 7052

キーボード ウェッジの国タイプ-国コード

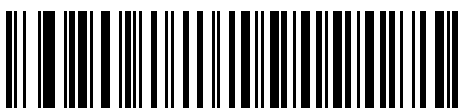
キーボード タイプに対応するバーコードをスキャンします。キーボード タイプが表示されない場合は、[11-8 ページの「代替用数字キーパッド エミュレーション」](#)を参照してください。



* 英語 (U.S.)



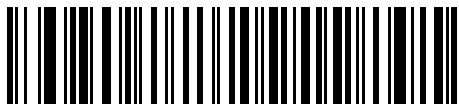
ドイツ語版 Windows



フランス語版 Windows



カナダ フランス語版 Windows 95/98



カナダ フランス語版 Windows XP/2000



スペイン語版 Windows

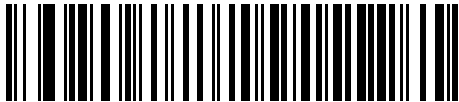
キーボードウェッジの国タイプ - 国コード (続き)



イタリア語版 Windows



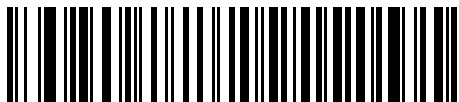
スウェーデン語版 Windows



イギリス英語版 Windows



日本語版 Windows



ブラジル ポルトガル語版 Windows

不明な文字の無視

不明な文字とは、ホストで認識されない文字のことです。不明な文字を除いたすべてのバーコード データを送信するには、「**不明な文字を含むバーコードを送信する**」を選択します。エラーを示すビープ音は鳴りません。

最初の不明な文字までバーコード データを送信するには、「**不明な文字を含むバーコードを送信しない**」を選択します。デジタル スキャナはエラー ビープ音を鳴らします。



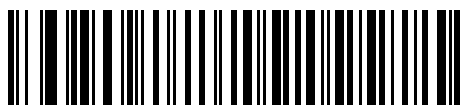
* 不明な文字を含むバーコードを送信する
(送信)



不明な文字を含むバーコードを送信しない

キーストローク ディレイ

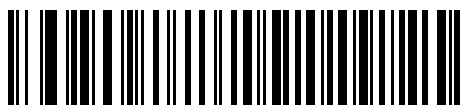
エミュレート キーストローク間の遅延です。ホストがデータの転送に時間がかかる場合、以下のバーコードをスキャンして待ち時間を長くします。



* 0 ミリ秒



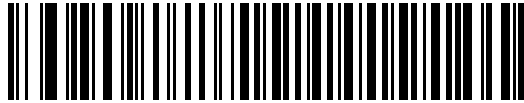
通常の遅延 (20 ミリ秒)



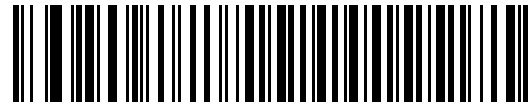
長い遅延 (40 ミリ秒)

キーストローク内ディレイ

エミュレート キーを押してから放すまでの間に遅延を追加する場合、有効にします。これにより、キーストローク デレイ パラメータが最小値の 5 ミリ秒に設定されます。



有効



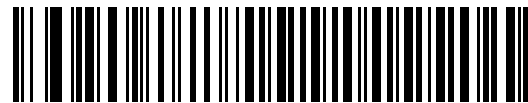
* 無効

代替用数字キーパッド エミュレーション

このオプションは、Microsoft® オペレーティング システム環境で、[11-5 ページの「キーボード ウェッジの国タイプ - 国コード」](#)の一覧にないほとんどの国のキーボード タイプのエミュレーションを実行できます。



代替用数字キーパッドを有効化



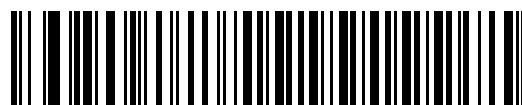
* 代替用数字キーパッドを無効化

Caps Lock オン

Caps Lock キーを常に押している場合と同じようにキーストロークをエミュレートするには、これを有効にします。



Caps Lock オンを有効化



* Caps Lock オンを無効化

Caps Lock オーバーライド

これを有効にすると、AT または AT ノートブック ホストのキーボードでは、**Caps Lock** キーの状態が無視されま
す。このため、キーボードの **Caps Lock** キーの状態にかかわらず、バーコードの「A」は「A」として送信されます。



Caps Lock オーバーライドを有効化

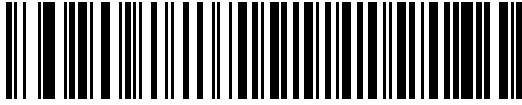


* Caps Lock オーバーライドを無効化

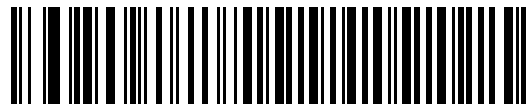
- ✓ **注** 「Caps Lock オン」と「Caps Lock オーバーライド」の両方を有効にしている場合は、「Caps Lock オー
バーライド」が優先されます。

ウェッジデータの変換

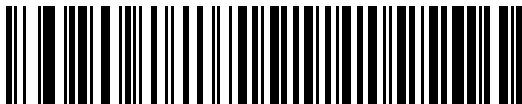
有効にすると、選択した大文字または小文字にすべてのバーコード データが変換されます。



大文字への変換



小文字への変換



* 変換なし

ファンクションキーのマッピング

32 未満の ASCII 値は、通常、コントロール キー シーケンスとして送信されます (11-14 ページの表 11-2 を参照)。このパラメータを有効にすると、標準キー マッピングとして太字のキーが送信されます。表内に太字のエントリがない入力は、このパラメータの有効無効に関係なく変更されません。



有効



* 無効

FN1 置換

GS1 128 バーコード内の FN1 文字をユーザー選択のキーストロークで置換するには、これを有効にします (11-11 ページの「FN1 置換」を参照)。



有効



* 無効

メーカー/ブレークの送信

キーを放すためにスキャンコードの送信を防止するには、これを有効にします。



* メーカー/ブレーク スキャンコードの送信



メーカー スキャンコードのみ送信

キーボードマップ

プリフィックス/サフィックス キーストロック パラメータについては、次のキーボード マップを参照してください。プリフィックス/サフィックス値をプログラムするには、[4-19 ページ](#)のバーコードを参照してください。

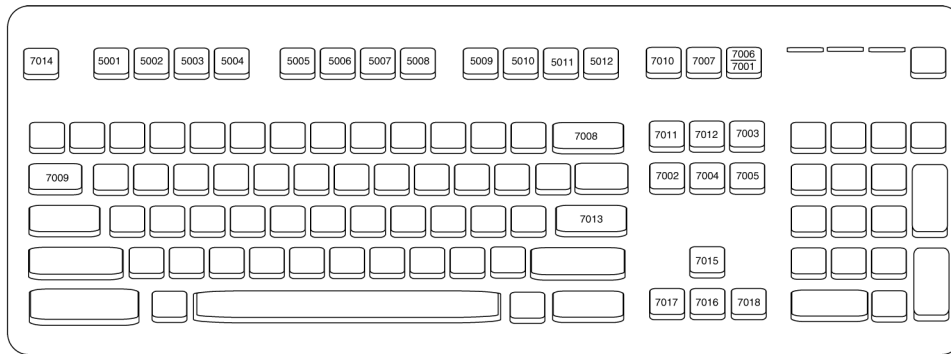


図 11-3 IBM PS2 タイプ キーボード

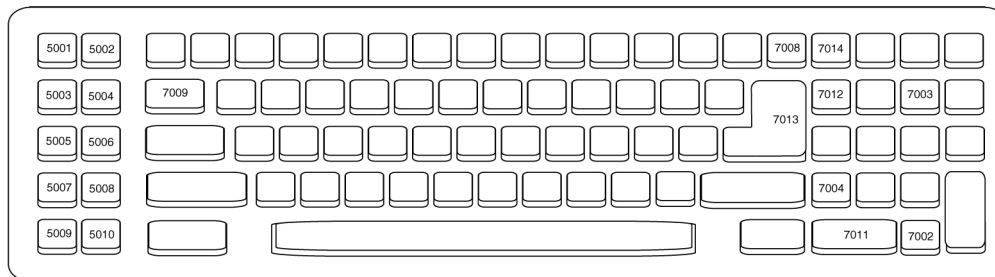


図 11-4 IBM PC/AT

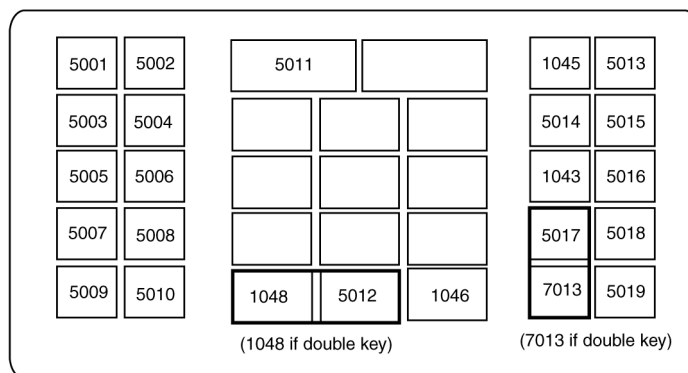


図 11-5 NCR 7052 32-Key

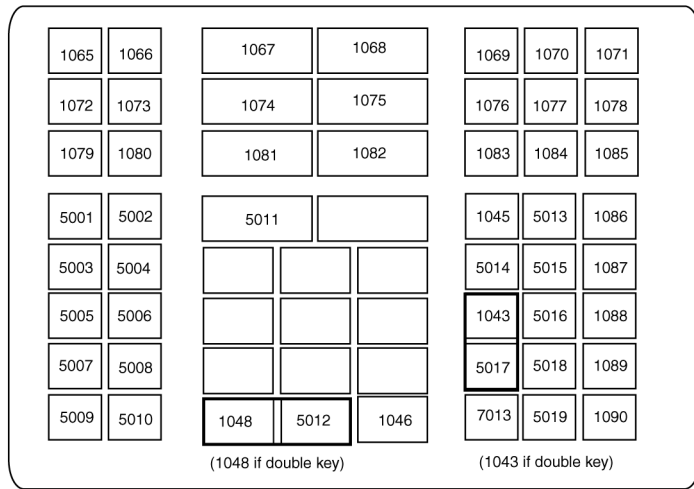


図 11-6 NCR 7052 58-Key

キーボードウェッジの ASCII キャラクタ セット

- ✓ 注 Code 39 Full ASCII は、Code 39 文字の前にあるバーコード特殊文字 (\$ + % /) を解釈し、ペアに ASCII キャラクタ値を割り当てます。たとえば、Code 39 Full ASCII を有効にして、**+B** をスキャンすると、これは **b**、**%J** は **?**、**%V** は **@** として送信されます。**ABC%I** をスキャンすると、**ABC >** に相当するキーストロークが出力されます。

表 11-2 キーボードウェッジ ASCII キャラクタ セット

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1001	\$A	CTRL A
1002	\$B	CTRL B
1003	\$C	CTRL C
1004	\$D	CTRL D
1005	\$E	CTRL E
1006	\$F	CTRL F
1007	\$G	CTRL G
1008	\$H	CTRL H/ BACKSPACE ¹
1009	\$I	CTRL I/ HORIZONTAL TAB ¹
1010	\$J	CTRL J
1011	\$K	CTRL K
1012	\$L	CTRL L
1013	\$M	CTRL M/ ENTER ¹
1014	\$N	CTRL N
1015	\$O	CTRL O
1016	\$P	CTRL P
1017	\$Q	CTRL Q
1018	\$R	CTRL R
1019	\$S	CTRL S
1020	\$T	CTRL T
1021	\$U	CTRL U

¹太字のキーストロークは、11-10 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 11-2 キーボードウェッジ ASCII キャラクタ セット (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1022	\$V	CTRL V
1023	\$W	CTRL W
1024	\$X	CTRL X
1025	\$Y	CTRL Y
1026	\$Z	CTRL Z
1027	%A	CTRL [/ESC ¹
1028	%B	CTRL ¥
1029	%C	CTRL]
1030	%D	CTRL 6
1031	%E	CTRL -
1032	スペース	スペース
1033	/A	!
1034	/B	“
1035	/C	#
1036	/D	\$
1037	/E	%
1038	/F	&
1039	/G	‘
1040	/H	(
1041	/I)
1042	/J	*
1043	/K	+
1044	/L	,
1045	-	-
1046	.	.
1047	/O	/
1048	0	0
1049	1	1

¹太字のキーストロークは、11-10 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 11-2 キーボード ウェッジ ASCII キャラクタ セット (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1050	2	2
1051	3	3
1052	4	4
1053	5	5
1054	6	6
1055	7	7
1056	8	8
1057	9	9
1058	/Z	:
1059	%F	;
1060	%G	<
1061	%H	=
1062	%I	>
1063	%J	?
1064	%V	@
1065	A	A
1066	B	B
1067	C	C
1068	D	D
1069	E	E
1070	F	F
1071	G	G
1072	H	H
1073	I	I
1074	J	J
1075	K	K
1076	L	L
1077	M	M

¹太字のキーストロークは、11-10 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 11-2 キーボードウェッジ ASCII キャラクタ セット (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1078	N	N
1079	O	O
1080	P	P
1081	Q	Q
1082	R	R
1083	S	S
1084	T	T
1085	U	U
1086	V	V
1087	W	W
1088	X	X
1089	Y	Y
1090	Z	Z
1091	%K	[
1092	%L	¥
1093	%M]
1094	%N	^
1095	%O	-
1096	%W	'
1097	+A	a
1098	+B	b
1099	+C	c
1100	+D	d
1101	+E	e
1102	+F	f
1103	+G	g
1104	+H	h
1105	+I	i

¹ 太字のキーストロークは、11-10 ページの「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 11-2 キーボード ウェッジ ASCII キャラクタ セット (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1106	+J	j
1107	+K	k
1108	+L	l
1109	+M	m
1110	+N	n
1111	+O	o
1112	+P	p
1113	+Q	q
1114	+R	r
1115	+S	s
1116	+T	t
1117	+U	u
1118	+V	v
1119	+W	w
1120	+X	x
1121	+Y	y
1122	+Z	z
1123	%P	{
1124	%Q	
1125	%R	}
1126	%S	~

¹太字のキーストロークは、11-10 ページの「ファンクション キーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 11-3 キーボードウェッジの ALT キー キャラクタ セット

ALT キー	キーストローク
2065	ALT A
2066	ALT B
2067	ALT C
2068	ALT D
2069	ALT E
2070	ALT F
2071	ALT G
2072	ALT H
2073	ALT I
2074	ALT J
2075	ALT K
2076	ALT L
2077	ALT M
2078	ALT N
2079	ALT O
2080	ALT P
2081	ALT Q
2082	ALT R
2083	ALT S
2084	ALT T
2085	ALT U
2086	ALT V
2087	ALT W
2088	ALT X
2089	ALT Y
2090	ALT Z

表 11-4 キーボードウェッジの GUI キー キャラクタ セット

GUI キー	キーストローク
3000	右側の Ctrl キー
3048	GUI 0
3049	GUI 1
3050	GUI 2
3051	GUI 3
3052	GUI 4
3053	GUI 5
3054	GUI 6
3055	GUI 7
3056	GUI 8
3057	GUI 9
3065	GUI A
3066	GUI B
3067	GUI C
3068	GUI D
3069	GUI E
3070	GUI F
3071	GUI G
3072	GUI H
3073	GUI I
3074	GUI J
3075	GUI K
3076	GUI L
3077	GUI M
3078	GUI N
3079	GUI O
3080	GUI P
3081	GUI Q
3082	GUI R
3083	GUI S

表 11-4 キーボードウェッジの GUI キー キャラクタ セット (続き)

GUI キー	キーストローク
3084	GUI T
3085	GUI U
3086	GUI V
3087	GUI W
3088	GUI X
3089	GUI Y
3090	GUI Z

表 11-5 キーボードウェッジの F キー キャラクタ セット

F キー	キーストローク
5001	F1
5002	F2
5003	F3
5004	F4
5005	F5
5006	F6
5007	F7
5008	F8
5009	F9
5010	F10
5011	F11
5012	F12
5013	F13
5014	F14
5015	F15
5016	F16
5017	F17
5018	F18
5019	F19
5020	F20
5021	F21

表 11-5 キーボードウェッジの F キー キャラクタ セット (続き)

F キー	キーストローク
5022	F22
5023	F23
5024	F24

表 11-6 キーボードウェッジの数字キーパッド キャラクタ セット

数字キーパッド	キーストローク
6042	*
6043	+
6044	未定義
6045	-
6046	.
6047	/
6048	0
6049	1
6050	2
6051	3
6052	4
6053	5
6054	6
6055	7
6056	8
6057	9
6058	Enter
6059	Num Lock

表 11-7 キーボード ウェッジの拡張キーパッド キャラクタ セット

拡張キーパッド	キーストローク
7001	Break
7002	Delete
7003	Pg Up
7004	End
7005	Pg Dn
7006	Pause
7007	Scroll Lock
7008	Backspace
7009	Tab
7010	Print Screen
7011	Insert
7012	Home
7013	Enter
7014	Escape
7015	上矢印
7016	下矢印
7017	左矢印
7018	右矢印

第 12 章 123Scan²

はじめに

123Scan² は、迅速かつ簡単に Motorola のスキャナのカスタム セットアップが可能な、使いやすい PC ベースのソフトウェア ツールです。

123Scan² は、ウィザード ツールを使用しており、セットアップ プロセスを合理化することでユーザーを支援します。設定は設定ファイルに保存されます。設定ファイルは電子メール経由で提供したり、USB ケーブル経由で電子的にダウンロードしたり、またはスキャン可能なプログラミング バーコードのシートを生成するのに使用したりすることができます。

また、123Scan² は、スキャナのファームウェアのアップグレード、新しくリリースされた製品のサポートを有効化するためのオンラインの確認、設定数が非常に多い場合の複数設定をまとめたバーコードリストの生成、大量のスキャナの同時設定、資産の追跡情報のレポート生成、およびカスタム製品の作成を行うことができます。

123Scan² との通信

Windows XP SP2 または Windows Vista オペレーティング システムを実行しているホスト コンピュータ上で実行する 123Scan² と通信するには、USB ケーブルを使用してホスト コンピュータとスキャナを接続します ([6-2 ページの「USB 接続」](#)を参照)。

123Scan² の要件

- Windows XP SP2 または Windows Vista を実行するホスト コンピュータ
- スキャナ
- USB ケーブル

123Scan² の詳細については、以下を参照してください。

<http://www.motorola.com/123Scan2>

123Scan² ソフトウェアをダウンロードし、ユーティリティに統合されたヘルプ ファイルにアクセスするには、次のサイトを参照してください。 <http://support.symbol.com/support/product/123Scan2.html>

第13章 読み取り可能コード

はじめに

この章では、読み取り可能コードについて説明し、これらの機能選択のためのバーコードを掲載します。プログラミングする前に、[第1章の「ご使用前に」](#)の指示に従ってください。

機能の値を設定するには、シングルバーコードまたは短いバーコードシーケンスをスキャンします。これら設定は不揮発性メモリに保存され、デジタルスキャナの電源を落としても保持されます。

- ✓ **注** ほとんどのコンピュータ モニタでは、画面で直接バーコードをスキャンできます。画面からスキャンする場合、バーコードが明確に表示され、バーおよび/またはスペースが重ならないようにドキュメントの倍率を設定します。

電源投入ビーブ音の後にホストタイプを選択します (ホスト固有の情報については、各ホストについての章を参照してください)。これは、新しいホストに接続するときの最初の電源投入時だけに必要です。

すべての機能をデフォルト値に戻すには、[4-4 ページの「デフォルト設定パラメータ」](#)をスキャンします。プログラミングバーコードメニューでは、デフォルト値にアスタリスク (*) が付いています。



* はデフォルトを示す — * **UPC-A を有効化** — 機能/オプション
(01h)

スキャンシーケンスの例

通常、1つのバーコードをスキャンすると、パラメータ値が設定されます。たとえば、UPC-A チェック デジットを含まないバーコード データを転送する場合は、[13-16 ページの「UPC-A チェック デジットの転送」](#)の一覧に掲載された「**UPC-A チェック デジットを転送しない**」バーコードをスキャンします。短い高音のビーブ音が1回鳴ってLEDが緑色に変われば、パラメータの設定は成功です。

また、複数のバーコードをスキャンして設定する「**D 2 of 5 の読み取り桁数設定**」などのパラメータもあります。「**D 2 of 5 の読み取り桁数設定**」のようなパラメータの設定に関しては、各パラメータの項を参照してください。

スキャン中のエラー

特に指示がない限り、スキャン中のエラーは、正しいパラメータを再スキャンするだけで修正できます。

読み取り可能コードパラメータのデフォルト一覧

表 13-1 に、すべての読み取り可能コードパラメータのデフォルト一覧を示します。デフォルト値を変更する方法は 2 種類あります。

- 本書の適切なバーコードをスキャンします。これらの新しい値は、メモリの標準デフォルト値を上書きします。デフォルト設定パラメータ値に戻すには、[4-4 ページの「デフォルト設定パラメータ」](#)をスキャンします。
- 123Scan² 設定パラメータを使用してデジタル スキャナを設定します ([第 12 章の「123Scan2」](#)を参照)。

✓ **注** すべてのユーザー設定、ホスト、およびその他のデフォルト設定パラメータについては、[付録 A「標準のデフォルト設定パラメータ」](#)を参照してください。

表 13-1 パラメータのデフォルト

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
すべてのコードタイプ無効			13-7
UPC/EAN			
UPC-A	01h	有効	13-8
UPC-E	02h	有効	13-8
UPC-E1	0Ch	無効	13-9
EAN-8/JAN 8	04h	有効	13-9
EAN-13/JAN 13	03h	有効	13-10
Bookland EAN	53h	無効	13-10
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (2 桁および 5 桁)	10h	無視	13-12
ユーザーが設定できるサプリメンタル サプリメンタル 1: サプリメンタル 2:	F1h 43h F1h 44h		13-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性	50h	10	13-14
サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN の AIM ID フォーマット	F1h A0h	結合	13-15
UPC-A チェック デジットの転送	28h	有効	13-16
UPC-E チェック デジットの転送	29h	有効	13-16

表 13-1 パラメータのデフォルト (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
UPC-E1 チェック デジットの転送	2Ah	有効	13-17
UPC-A プリアンブル	22h	システム キャラクタ	13-18
UPC-E プリアンブル	23h	システム キャラクタ	13-18
UPC-E1 プリアンブル	24h	システム キャラクタ	13-20
UPC-E から A フォーマットへの変換	25h	無効	13-21
UPC-E1 から A フォーマットへの変換	26h	無効	13-21
EAN-8/JAN-8 Extend	27h	無効	13-22
Bookland ISBN フォーマット	F1h 40h	ISBN-10	13-23
UCC Coupon Extended Code	55h	無効	13-24
Coupon Report	F1h DAh	旧クーポン フォーマット	13-25
ISSN EAN	F1h 69h	無効	13-26
Code 128			
Code 128	08h	有効	13-27
Code 128 の読み取り桁数設定	D1h D2h	任意の読み取り 桁数	13-27
GS1-128 (以前の UCC/EAN-128)	0Eh	有効	13-29
ISBT 128	54h	有効	13-29
ISBT 連結	F1h 41h	無効	13-30
ISBT テーブルのチェック	F1h 42h	有効	13-31
ISBT 連結の読み取り繰返回数	DFh	10	13-31
Code 39			
Code 39	00h	有効	13-32
Trioptic Code 39	0Dh	無効	13-32
Code 39 から Code 32 への変換 (Italian Pharmacy Code)	56h	無効	13-33
Code 32 プリフィックス	E7h	無効	13-33
Code 39 の読み取り桁数設定	12h 13h	2 ~ 55	13-34

表 13-1 パラメータのデフォルト (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
Code 39 チェック デジットの確認	30h	無効	13-36
Code 39 チェック デジットの転送	2Bh	無効	13-36
Code 39 Full ASCII 変換	11h	無効	13-37
Code 39 のバッファ	71h	無効	13-37
Code 93			
Code 93	09h	無効	13-40
Code 93 の読み取り桁数設定	1Ah 1Bh	4 ~ 55	13-40
Code 11			
Code 11	0Ah	無効	13-42
Code 11 の読み取り桁数設定	1Ch 1Dh	4 ~ 55	13-42
Code 11 チェック デジットの確認	34h	無効	13-44
Code 11 チェック デジットの転送	2Fh	無効	13-45
Interleaved 2 of 5 (ITF)			
Interleaved 2 of 5 (ITF)	06h	有効	13-45
I 2 of 5 の読み取り桁数設定	16h 17h	14	13-46
I 2 of 5 チェック デジットの確認	31h	無効	13-48
I 2 of 5 チェック デジットの転送	2Ch	無効	13-48
I 2 of 5 から EAN 13 への変換	52h	無効	13-49
Discrete 2 of 5 (DTF)			
Discrete 2 of 5	05h	無効	13-49
D 2 of 5 の読み取り桁数設定	14h 15h	12	13-50
Codabar (NW - 7)			
Codabar	07h	無効	13-52
Codabar の読み取り桁数設定	18h 19h	5 ~ 55	13-52
CLSI 編集	36h	無効	13-54
NOTIS 編集	37h	無効	13-54
MSI			
MSI	0Bh	無効	13-55

表 13-1 パラメータのデフォルト (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
MSI の読み取り桁数設定	1Eh 1Fh	4 ~ 55	13-55
MSI チェック デジット	32h	1	13-57
MSI チェック デジットの転送	2Eh	無効	13-57
MSI チェック デジットのアルゴリズム	33h	Mod 10/Mod 10	13-58
Chinese 2 of 5			
Chinese 2 of 5	F0h 98h	無効	13-58
Matrix 2 of 5			
Matrix 2 of 5	F1h 6Ah	無効	13-59
Matrix 2 of 5 読み取り桁数	F1h 6Bh F1h 6Ch	1 桁数 - 14	13-60
Matrix 2 of 5 チェック デジット	F1h 6Eh	無効	13-61
Matrix 2 of 5 チェック デジットの転送	F1h 6Fh	無効	13-61
Korean 3 of 5			
Korean 3 of 5	F1h 45h	無効	13-62
反転 1D	F1h 4Ah	標準	13-63
郵便番号			
US Postnet	59h	有効	13-64
US Planet	5Ah	有効	13-64
US Postal チェック デジットの転送	5Fh	有効	13-65
UK Postal	5Bh	有効	13-65
UK Postal チェック デジットの転送	60h	有効	13-66
Japan Postal	F0h 22h	有効	13-66
Australian Postal	F0h 23h	有効	13-68
Australia Post フォーマット	F1h CEh	自動識別	13-67
Netherlands KIX Code	F0h 46h	有効	13-69
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	F1h 50h	無効	13-69
UPU FICS Postal	F1h 63h	無効	13-70

表 13-1 パラメータのデフォルト (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
GS1 DataBar (以前の Reduced Space Symbology)			
GS1 DataBar-14	F0h 52h	有効	13-71
GS1 DataBar Limited	F0h 53h	無効	13-71
GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル	F1h D8h	レベル 3	13-72
GS1 DataBar Expanded	F0h 54h	有効	13-73
GS1 DataBar から UPC/EAN への変換	F0h 8Dh	無効	13-73
コンポジット			
コンポジット CC-C	F0h 55h	無効	13-74
コンポジット CC-A/B	F0h 56h	無効	13-74
コンポジット TLC-39	F0h 73h	無効	13-75
UPC コンポジット モード	F0h 58h	常時リンク	13-75
コンポジット ビープ音モード	F0h 8Eh	コードタイプが 読み取られるたびに 鳴る	13-76
GS1 コンポジット コードの GS1-128 エミュレーション モード (以前の UCC/EAN コンポジット コードの UCC/EAN Code 128 エミュレーション モード)	F0h ABh	無効	13-76
2D バーコード			
PDF417	0Fh	有効	13-77
MicroPDF417	E3h	無効	13-77
Code 128 エミュレーション	7Bh	無効	13-78
Data Matrix	F0h 24h	有効	13-79
Data Matrix Inverse	F1h 4Ch	標準	13-79
Maxicode	F0h 26h	有効	13-80
QR Code	F0h 25h	有効	13-81
QR Inverse	F1h 4Bh	標準	13-81
MicroQR	F1h 3Dh	有効	13-82
Aztec	F1h 3Eh	有効	13-82
Aztec Inverse	F1h 4Dh	標準	13-83

表 13-1 パラメータのデフォルト (続き)

パラメータ	パラメータ 番号	デフォルト	ページ番号
読み取り可能コード - 特定のセキュリティ レベル			
冗長性レベル	4Eh	1	13-84
セキュリティ レベル	4Dh	1	13-86
キャラクタ間ギャップ サイズ	F0h 7Dh	通常	13-87
バージョン通知			13-87
Macro PDF			
Macro PDF バッファのクリア			13-88
Macro PDF 入力のキャンセル			13-88

すべてのコードタイプ無効

すべてのシンボル体系を無効にするには、下のバーコードをスキャンします。いくつかのコードタイプのみ有効にする場合に便利です。



すべてのコードタイプを無効にする

UPC/EAN

UPC-A の有効化/無効化

パラメータ番号 01h

UPC-A を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* UPC-A を有効化
(01h)



UPC-A を無効化
(00h)

UPC-E の有効化/無効化

パラメータ番号 02h

UPC-E を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* UPC-E を有効化
(01h)



UPC-E を無効化
(00h)

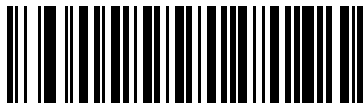
UPC-E1 の有効化/無効化

パラメータ番号 0Ch

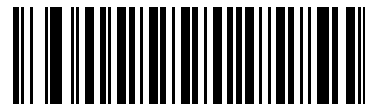
UPC-E1 はデフォルトでは無効です。

UPC-E1 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。

✓ 注 UPC-E1 は UCC (Uniform Code Council) が承認した読み取り可能コードではありません。



UPC-E1 を有効化
(01h)

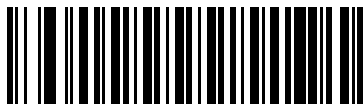


* UPC-E1 を無効化
(00h)

EAN-8/JAN-8 の有効化/無効化

パラメータ番号 04h

EAN-8/JAN-8 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* EAN-8/JAN-8 を有効化
(01h)

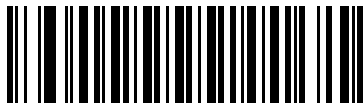


EAN-8/JAN-8 を無効化
(00h)

EAN-13/JAN-13 の有効化/無効化

パラメータ番号 03h

EAN-13/JAN-13 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* EAN-13/JAN-13 を有効化
(01h)

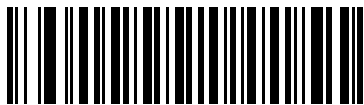


EAN-13/JAN-13 を無効化
(00h)

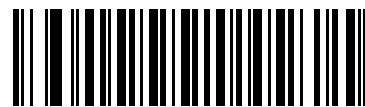
Bookland EAN の有効化/無効化

パラメータ番号 53h

Bookland EAN を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



Bookland EAN を有効化
(01h)



* Bookland EAN を無効化
(00h)



注 Bookland EAN を有効にしている場合は、[13-23 ページの「Bookland ISBN フォーマット」](#)を選択してください。また、[13-11 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り」](#)の「サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN のみ読み取る」、「サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN を自動認識する」、または「978/979 サプリメンタル モードを有効にする」のいずれかを選択してください。

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り

パラメータ番号 10h

サプライメンタルとは、指定されたフォーマット変換 (たとえば、UPC A+2、UPC E+2、EAN 13+2) に応じて追加されるバーコードです。次のオプションから選択できます。

- 「**サプライメンタル付き UPC/EAN/JAN を無視する**」を選択した場合、サプライメンタル シンボル付き UPC/EAN をスキャンすると、UPC/EAN は読み取られますが、サプライメンタル キャラクタは無視されます。
- 「**サプライメンタル付き UPC/EAN/JAN のみ読み取る**」を選択した場合、サプライメンタル キャラクタ付き UPC/EAN シンボルのみが読み取られ、サプライメンタルがないシンボルは無視されます。
- 「**サプライメンタル付き UPC/EAN/JAN を自動認識する**」を選択した場合、サプライメンタル キャラクタ付き UPC/EAN は直ちに読み取られます。シンボルにサプライメンタルがない場合、スキャナはサプライメンタルがないことを確認するために、**13-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性」**で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。
- 次の**サプライメンタル モード**オプションのいずれかを選択した場合、スキャナは、サプライメンタル キャラクタを含んだプリフィックスで始まる EAN-13 バーコードを直ちに転送します。シンボルにサプライメンタルがない場合、スキャナはサプライメンタルがないことを確認するために、**13-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性」**で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。プリフィックスを含まない UPC/EAN バーコードは直ちに転送されます。
- **378/379 サプリメンタル モードを有効にする**
- **978/979 サプリメンタル モードを有効にする**

✓ **注** 「978/979 サプリメンタル モードを有効にする」を選択し、Bookland EAN バーコードをスキャンする場合は、**13-10 ページの「Bookland EAN の有効化/無効化」**を参照して、Bookland EAN を有効にします。次に、**13-23 ページの「Bookland ISBN フォーマット」**を使用してフォーマットを選択します。

- **977 サプリメンタル モードを有効にする**
- **414/419/434/439 サプリメンタル モードを有効にする**
- **491 サプリメンタル モードを有効にする**
- **スマート サプリメンタル モードを有効にする** - 前述したプリフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。
- **ユーザーが設定できるサプライメンタル タイプ 1** - ユーザーが定義した 3 桁のプリフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。**13-14 ページの「ユーザーが設定できるサプライメンタル」**を使用して、この 3 桁のプリフィックスを設定します。
- **ユーザーが設定できるサプライメンタル タイプ 1 および 2** - ユーザーが定義した 2 つある 3 桁のプリフィックスのいずれかで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。この 3 桁のプリフィックスは、**13-14 ページの「ユーザーが設定できるサプライメンタル」**を使用して設定します。
- **ユーザーが設定できるスマート サプリメンタル プラス 1** - 前述したプリフィックスか、または**13-14 ページの「ユーザーが設定できるサプライメンタル」**を使用してユーザーが定義したプリフィックスで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。
- **ユーザーが設定できるスマート サプリメンタル プラス 1 および 2** - 前述したプリフィックスか、または**13-14 ページの「ユーザーが設定できるサプライメンタル」**を使用してユーザーが定義した 2 つのプリフィックスのいずれかで始まる EAN-13 バーコードに適用されます。

✓ **注** データ転送が無効になるリスクを最小限に抑えるには、サプライメンタル キャラクタを読み取るか、無視するかを選択します。

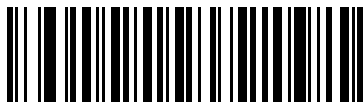
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (続き)



サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN のみ読み取る
(01h)



* サプリメンタルを無視
(00h)



サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN を自動認識する
(02h)



378/379 サプリメンタル モードを有効にする
(04h)



978/979 サプリメンタル モードを有効にする
(05h)



977 サプリメンタル モードを有効にする
(07h)

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (続き)



414/419/434/439 サプリメンタル モードを有効にする
(06h)



491 サプリメンタル モードを有効にする
(08h)



スマート サプリメンタル モードを有効にする
(03h)



ユーザーが設定できるサプリメンタル タイプ 1
(09h)



ユーザーが設定できるサプリメンタル タイプ 1 および 2
(0Ah)



ユーザーが設定できるスマート サプリメンタル プラス 1
(0Bh)



ユーザーが設定できるスマート サプリメンタル
プラス 1 および 2
(0Ch)

ユーザーが設定できるサブリメンタル

サブリメンタル 1: パラメータ番号 F1h 43h

サブリメンタル 2: パラメータ番号 F1h 44h

13-11 ページの「UPC/EAN/JAN サブリメンタルの読み取り」でユーザーが設定できるサブリメンタルオプションのいずれかを選択した場合、3桁のプリフィックスを設定するには、「ユーザーが設定できるサブリメンタル 1」を選択します。次に、D-1 ページから始まる数字バーコードを使用して 3桁を選択します。別の 3桁のプリフィックスを設定するには、「ユーザーが設定できるサブリメンタル 2」を選択します。次に、D-1 ページから始まる数字バーコードを使用して 3桁を選択します。



ユーザー定義サブリメンタル 1



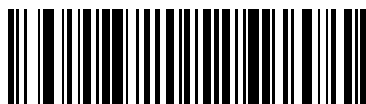
ユーザー定義サブリメンタル 2

UPC/EAN/JAN サブリメンタルの冗長性

パラメータ番号 50h

「サブリメンタル付き UPC/EAN/JAN の自動識別」を選択した場合、指定した回数でサブリメンタルを繰り返し読み取ります。設定範囲は、2 ~ 30 回です。サブリメンタルの有無にかかわらず、UPC/EAN/JAN 混合シンボルのデコードでは、5 回以上を推奨します。デフォルトは 10 です。

以下の適切なバーコードをスキャンして、読み取りの冗長性の値を設定します。付録 D「数字バーコード」から 2 つの数字バーコードをスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初にゼロを含めます。間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、D-2 ページの「キャンセル」をスキャンします。



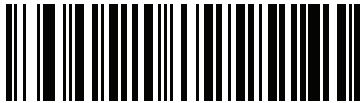
UPC/EAN/JAN サブリメンタルの冗長性

サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN の AIM ID フォーマット

パラメータ番号 F1h A0h

AIM コード ID キャラクタを付加したサプリメンタル付き UPC/EAN/JAN バーコードを転送するときの出力フォーマットを選択します。AIM コード ID キャラクタを付加するには、[4-18 ページの「コード ID キャラクタの転送」](#)で設定します。

- **個別** - サプリメンタル付き UPC/EAN に個別の AIM ID を付け、1 回の伝送で転送します。例：
]E<0 または 4><データ>]E<1 または 2>[サプリメンタル データ]
- **結合** - サプリメンタル付き UPC/EAN に 1 つの AIM ID を付け、1 回の伝送で転送します。例：
]E3<データ + サプリメンタル データ>
- **個別転送** - サプリメンタル付き UPC/EAN に個別の AIM ID を付け、個別に転送します。例：
]E<0 または 4><データ>
]E<1 または 2>[サプリメンタル データ]



個別
(00h)



* 結合
(01h)



個別転送
(02h)

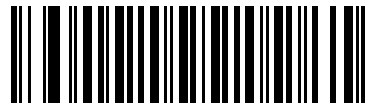
UPC-A チェック デジットの転送

パラメータ番号 28h

チェック デジットは、シンボルの最後にあるキャラクタで、データの整合性の確認に使用されます。UPC-A チェック デジットを持つ/持たないバーコードを転送するには、以下のバーコードから適切なものをスキャンします。データの整合性の保証を常に確認します。



* UPC-A チェック デジットを転送する
(01h)

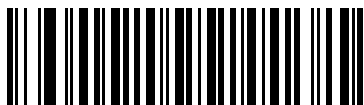


UPC-A チェック デジットを転送しない
(00h)

UPC-E チェック デジットの転送

パラメータ番号 29h

チェック デジットは、シンボルの最後にあるキャラクタで、データの整合性の確認に使用されます。UPC-E チェック デジットを持つ/持たないバーコードを転送するには、以下のバーコードから適切なものをスキャンします。データの整合性の保証を常に確認します。



* UPC-E チェック デジットを転送する
(01h)

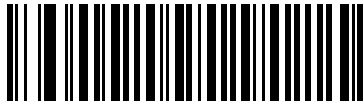


UPC-E チェック デジットを転送しない
(00h)

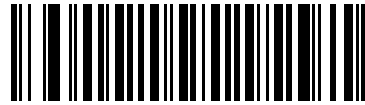
UPC-E1 チェック デジットの転送

パラメータ番号 2Ah

チェック デジットは、シンボルの最後にあるキャラクタで、データの整合性の確認に使用されます。UPC-E1 チェック デジットを持つ/持たないバーコードを転送するには、以下のバーコードから適切なものをスキャンします。データの整合性の保証を常に確認します。



* UPC-E1 チェック デジットを転送する
(01h)

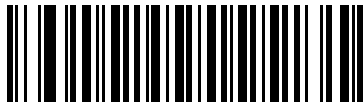


UPC-E1 チェック デジットを転送しない
(00h)

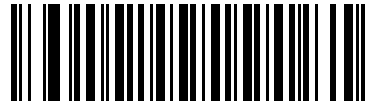
UPC-A プリアンブル

パラメータ番号 22h

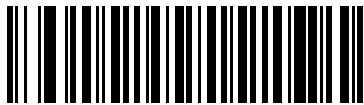
プリアンブル キャラクタはUPC シンボルの一部で、国コードとシステム キャラクタを含みます。UPC-A プリアンブルのホスト デバイスへの転送には、システム キャラクタのみ転送、システム キャラクタと国コード (米国は「0」) の転送、プリアンブルなしで転送の 3 種類のオプションがあります。ホスト システムに合わせて、適切なオプションを選択します。



プリアンブルなし (<データ>)
(00h)



* システム キャラクタ (<システム キャラクタ><データ>)
(01h)

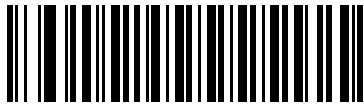


システム キャラクタと国コード
(<国コード><システム キャラクタ><データ>)
(02h)

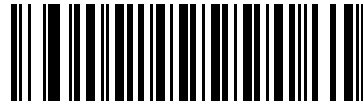
UPC-E プリアンブル

パラメータ番号 23h

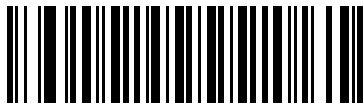
プリアンブル キャラクタはUPC シンボルの一部で、国コードとシステム キャラクタを含みます。UPC-E プリアンブルのホスト デバイスへの転送には、システム キャラクタのみ転送、システム キャラクタと国コード (米国は「0」) の転送、プリアンブルなしで転送の 3 種類のオプションがあります。ホスト システムに合わせて、適切なオプションを選択します。



プリアンブルなし (<データ>)
(00h)



* システム キャラクタ (<システム キャラクタ><データ>)
(01h)

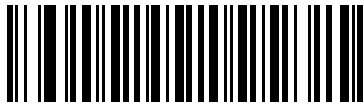


システム キャラクタと国コード
(<国コード><システム キャラクタ><データ>)
(02h)

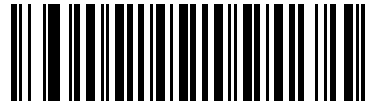
UPC-E1 プリアンブル

パラメータ番号 24h

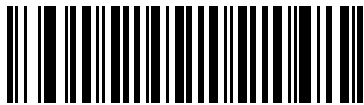
プリアンブル キャラクタは UPC シンボルの一部で、国コードとシステム キャラクタを含みます。UPC-E1 プリアンブルのホスト デバイスへの転送には、システム キャラクタのみ転送、システム キャラクタと国コード (米国は「0」) の転送、プリアンブルなしで転送の 3 種類のオプションがあります。ホスト システムに合わせて、適切なオプションを選択します。



プリアンブルなし (<データ>)
(00h)



* システム キャラクタ (<システム キャラクタ><データ>)
(01h)



システム キャラクタと国コード
(<国コード><システム キャラクタ><データ>)
(02h)

UPC-E から UPC-A への変換

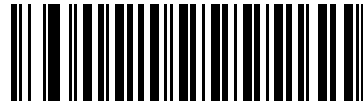
パラメータ番号 25h

UPC-E (ゼロ抑制) で読み取られたデータを UPC-A 形式に変換して転送する場合、有効にします。変換後、データは UPC-A フォーマットになり、UPC-A プログラミングの選択 (プリアンブルやチェック デジットなど) の影響を受けます。

UPC-E で読み取られたデータを変換せずに UPC-E データとして転送する場合、無効にします。



UPC-E から UPC-A への変換 (有効)
(01h)



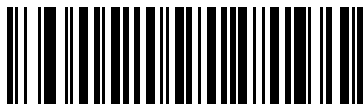
* UPC-E から UPC-A へ変換しない (無効)
(00h)

UPC-E1 から UPC-A への変換

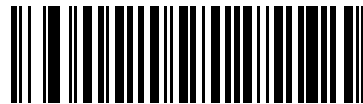
パラメータ番号 26h

UPC-E1 で読み取られたデータを UPC-A 形式に変換して転送する場合、有効にします。変換後、データは UPC-A フォーマットになり、UPC-A プログラミングの選択 (プリアンブルやチェック デジットなど) の影響を受けます。

UPC-E1 で読み取られたデータを変換せずに UPC-E1 データとして転送する場合、無効にします。



UPC-E1 から UPC-A への変換 (有効)
(01h)

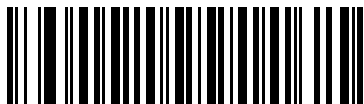


* UPC-E1 から UPC-A へ変換しない (無効)
(00h)

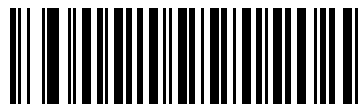
EAN-8/JAN-8 Extend

パラメータ番号 27h

デコードされた EAN-8 シンボルに先行ゼロ 5 個を追加して EAN-13 シンボル互換にする場合、有効にします。
無効にすると、EAN-8 シンボルをそのまま転送します。



EAN/JAN Zero Extend を有効化
(01h)



* EAN/JAN Zero Extend を無効化
(00h)

Bookland ISBN フォーマット

パラメータ番号 F1h 40h

13-10 ページの「[Bookland EAN の有効化/無効化](#)」を使用して Bookland EAN を有効にした場合、Bookland データで次のいずれかのフォーマットを選択します。

- **Bookland ISBN-10** - 下位互換性用の特殊な Bookland チェック デジットを備えた従来の 10 桁形式で、978 で始まる Bookland データが認識されます。このモードでは、979 で始まるデータは Bookland とはみなされません。
- **Bookland ISBN-13** - 2007 ISBN-13 プロトコル対応の 13 桁形式で、978 または 979 で始まる Bookland データが EAN-13 と認識されます。



* Bookland ISBN-10
(00h)



Bookland ISBN-13
(01h)



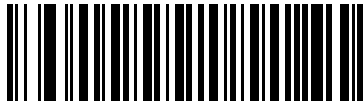
注

Bookland EAN を適切に使用するには、まず [13-10 ページの「Bookland EAN の有効化/無効化](#)」を使用して、Bookland EAN を有効にします。次に、[13-11 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り](#)」で「サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN のみ読み取る」、「サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN を自動認識する」、または「978/979 サプリメンタル モードを有効にする」のいずれかを選択します。

UCC Coupon Extended Code

パラメータ番号 55h

「5」デジットで始まる UPC-A バーコード、「99」デジットで始まる EAN/JAN-13 バーコード、UPC-A/GS1-128 クーポンコードを読み取るには、「有効」を選択します。すべてのタイプのクーポンコードをスキャンするには、UPCA、EAN-13、GS1-128 を有効にする必要があります。



UCC Coupon Extended Code を有効化
(01h)



* UCC Coupon Extended Code を無効化
(00h)

- ✓ **注** クーポンコードの GS1-128 (右半分) の自動識別を制御するには、[13-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性」](#)を参照してください。

Coupon Report

パラメータ番号 F1h DAh

従来のクーポン シンボル (古いクーポン シンボル) は、UPC/EAN と Code128 という 2 種類のバーコードで構成されています。新しいクーポン シンボルは、単独の DataBar Expanded バーコードでできています。新しいクーポン フォーマットでは、サポートされる購入額のオプションが拡大され (最大 \$999.99)、2 度目の購入要件のような複雑な値引きオファーがサポートされています。

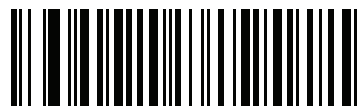
臨時クーポン シンボルには、UPC/EAN と DataBar Expanded の両方のタイプを含むものも存在しています。このフォーマットは、新しいクーポン シンボルに含まれる追加情報を認識しないまたは使用しない販売業者と、新しいクーポン シンボルを処理できる業者の両方で使用できます。

クーポン シンボルのデコード オプションを選択するには、下のバーコードをスキャンします。

- **従来のクーポン フォーマット** - 従来のクーポン シンボルをスキャンすると、読み取り範囲に UPC と Code 128 の両方が存在する場合、両方を通知します。読み取り範囲にどちらか片方だけが存在する、または読み取り可能である場合、UPC と Code 128 の片方を通知する場合があります。[13-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性」](#)によって、転送前にスキャナがシンボル全体のデコードを試行する回数を制御します。さらに、臨時クーポン シンボルをスキャンした場合は UPC を通知し、新しいクーポン シンボルをスキャンした場合は何も通知しません (デコードなし)。
- **新しいクーポン フォーマット** - 従来のクーポン フォーマットをスキャンした場合は UPC と Code 128 のいずれかを、臨時クーポン シンボルまたは新しいクーポン シンボルをスキャンした場合 DataBar Expanded を通知します。
- **両方のクーポン フォーマット** - 従来のクーポン フォーマットをスキャンした場合、UPC と Code 128 の両方が読み取り範囲に存在していれば、UPC と Code 128 部分の両方を通知します。読み取り範囲にどちらか片方だけが存在する、または読み取り可能である場合、UPC と Code 128 の片方を通知する場合があります。[13-14 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性」](#)によって、転送前にスキャナがシンボル全体のデコードを試行する回数を制御します。加えて、臨時クーポン シンボルや新しいクーポン シンボルをスキャンした場合は DataBar Expanded を通知します。



* 従来のクーポン フォーマット
(00h)



新しいクーポン フォーマット
(01h)



両方のクーポン フォーマット
(02h)

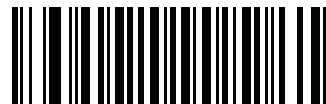
ISSN EAN

パラメータ番号 F1h 69h

ISSN EAN の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



ISSN EAN 有効
(01h)



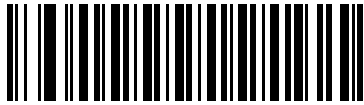
* ISSN EAN の無効化
(00h)

Code 128

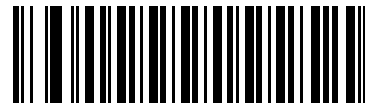
Code 128 の有効化/無効化

パラメータ番号 08h

Code 128 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



* Code 128 を有効化
(01h)



Code 128 を無効化
(00h)

Code 128 の読み取り桁数設定

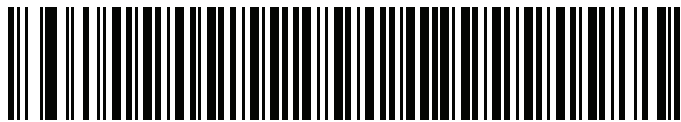
パラメータ番号 L1 = D1h、L2 = D2h

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。Code 128 の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

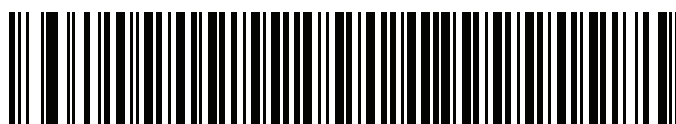
✓ **注** さまざまなバーコードタイプに桁数を設定するとき、1 桁の数字には先行ゼロを入力してください。

- **1 種類の読み取り桁数** - 1 種類の選択した読み取り桁数の Code 128 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の Code 128 シンボルだけを読み取るには、「1 種類の Code 11 読み取り桁数」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の Code 128 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 128 シンボルだけを読み取るには、「2 種類の Code 128 読み取り桁数」を選択し、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の Code 128 シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、「指定範囲内の Code 128 読み取り桁数」をスキャンします。次に、**0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の Code 128 シンボルを読み取る場合、このオプションを選択します。

Code 128 の読み取り桁数設定 (続き)



1 種類の Code 128 読み取り桁数



2 種類の Code 128 読み取り桁数



指定範囲内の Code 128 読み取り桁数



* 任意の Code 128 読み取り桁数

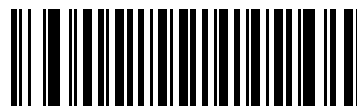
GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) の有効化/無効化

パラメータ番号 0Eh

GS1-128 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* GS1-128 有効
(01h)



GS1-128 無効
(00h)

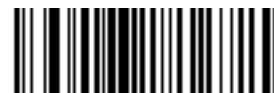
ISBT 128 の有効化/無効化

パラメータ番号 54h

ISBT 128 は血液バンク業界で使用される Code 128 の一種です。ISBT 128 の読み取りを設定するには、以下のバーコードをスキャンします。必要に応じて、ホストは ISBT データを連結する必要があります。



* ISBT 128 を有効化
(01h)



ISBT 128 を無効化
(00h)

ISBT 連結

パラメータ番号 F1h 41h

ISBT コード タイプのペア結合オプションを選択します。

- 「ISBT 連結を無効にする」を選択した場合、検出された ISBT コードは連結されません。
- 「ISBT 連結を有効にする」を選択した場合、ISBT コードを読み取り、連結するには、ISBT コードが 2 つ以上必要です。デジタルスキャナは単一の ISBT シンボルをデコードしません。
- 「ISBT 連結を自動識別する」を選択すると、ISBT コードが読み取られ、連結されます。ISBT シンボルが 1 つしかない場合、13-31 ページの「ISBT 連結の読み取り繰返回数」の手順で設定した回数分シンボルを読み取ってから、そのデータを転送して、他に ISBT シンボルがないことを確認します。



* ISBT 連結を無効にする
(00h)



ISBT 連結を有効にする
(01h)



ISBT 連結を自動識別する
(02h)

ISBT テーブルのチェック

パラメータ番号 F1h 42h

ISBT 仕様では、通常ペアで使用される ISBT バーコードの複数のタイプの一覧が示されています。「ISBT 連結」で「有効」に設定した場合は、「ISBT テーブルのチェック」を有効にして、このテーブル内にあるペアのみを連結します。他のタイプの ISBT コードは連結されません。



* ISBT テーブルのチェック有効
(01h)



ISBT テーブルのチェック無効
(00h)

ISBT 連結の読み取り繰返回数

パラメータ番号 DFh

「ISBT 連結」で「自動識別」を設定した場合は、このパラメータを使用して、ISBT の読み取り回数を設定します。この回数に達すると、他にシンボルが存在しないと判断されます。

この回数を設定するには、以下のバーコードをスキャンし、付録 D 「数字バーコード」から 2 つの数字バーコード (2 ~ 20) をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初にゼロを含めます。間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、D-2 ページの「キャンセル」をスキャンします。デフォルトは 10 です。



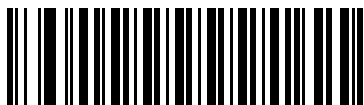
ISBT 連結の読み取り繰返回数

Code 39

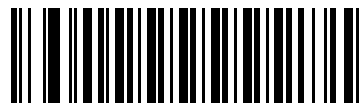
Code 39 の有効化/無効化

パラメータ番号 00h

Code 39 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



* Code 39 を有効化
(01h)

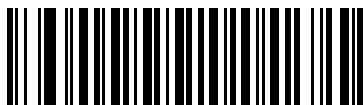


Code 39 を無効化
(00h)

Trioptic Code 39 の有効化/無効化

パラメータ番号 0Dh

Trioptic Code 39 は、コンピュータのテープ カートリッジのマーキングに使用されている Code 39 の一種です。Trioptic Code 39 シンボルは、常に 6 文字で構成されます。Trioptic Code 39 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



Trioptic Code 39 を有効化
(01h)



* Trioptic Code 39 を無効化
(00h)

✓ 注 Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII を同時に有効にすることはできません。

Code 39 から Code 32 への変換

パラメータ番号 56h

Code 32 はイタリアの製薬業界で使用される Code 39 の一種です。Code 39 を Code 32 に変換するかしないかを設定するには、下記の適切なバーコードをスキャンします。

✓ **注** このパラメータを設定するには、「Code 39」を有効にしておく必要があります。



Code 39 から Code 32 への変換を有効化
(01h)



* Code 39 から Code 32 への変換を無効化
(00h)

Code 32 プリフィックス

パラメータ番号 E7h

プリフィックス文字「A」をすべての Code 32 バーコードに追加するかしないかを設定するには、下記の適切なバーコードをスキャンします。

✓ **注** このパラメータが機能するためには、「Code 39 から Code 32 への変換」を有効にしておく必要があります。



Code 32 プリフィックスを有効化
(01h)



* Code 32 プリフィックスを無効化
(00h)

Code 39 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 12h、L2 = 13h

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。Code 39 の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。Code 39 Full ASCII が有効な場合、推奨するオプションは「指定範囲内」または「任意の読み取り桁数」です。

✓ **注** さまざまなバーコードタイプに桁数を設定するとき、1 桁の数字には先行ゼロを入力してください。

- **1 種類の読み取り桁数** - このオプションを選択すると、選択した読み取り桁数を含む Code 39 シンボルのみを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の Code 39 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の Code 39 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の Code 39 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 39 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の Code 39 読み取り桁数**」を選択し、次に、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の Code 39 シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、まず「**指定範囲内の Code 39 読み取り桁数**」をスキャンします。次に、**0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の Code 39 シンボルを読み取る場合、このオプションを選択します。

Code 39 の読み取り桁数設定 (続き)



1 種類の Code 39 読み取り桁数



2 種類の Code 39 読み取り桁数



指定範囲内の Code 39 読み取り桁数

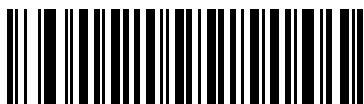


任意の Code 39 読み取り桁数

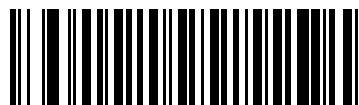
Code 39 チェック デジットの確認

パラメータ番号 30h

すべての Code 39 シンボルをチェックして、データが指定されたチェック デジット アルゴリズムに適合しているかどうかを確認する場合、この機能を有効にします。モジュール 43 チェック デジットを含む Code 39 シンボルだけがデコードされます。Code 39 シンボルにモジュール 43 チェック デジットが含まれる場合、この機能を有効にします。



Code 39 チェック デジットの有効化
(01h)

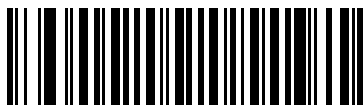


* Code 39 チェック デジットの無効化
(00h)

Code 39 チェック デジットの転送

パラメータ番号 2Bh

チェック デジットを含む、または含まない Code 39 データを転送するには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Code 39 チェック デジットの転送 (有効)
(01h)



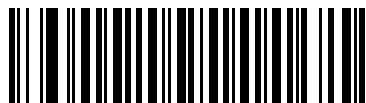
* Code 39 チェック デジットを転送しない (無効)
(00h)

✓ **注** このパラメータを設定するには、「Code 39 チェック デジットの確認」を有効にしておく必要があります。

Code 39 Full ASCII 変換

パラメータ番号 11h

Code 39 Full ASCII は、キャラクタをペアにして Full ASCII キャラクタ セットにエンコードする Code 39 の一種です。Code 39 Full ASCII を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



Code 39 Full ASCII を有効化
(01h)



* Code 39 Full ASCII を無効化
(00h)

✓ **注** Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII を同時に許可することはできません。

Code 39 Full ASCII から Full ASCII への相関はホスト依存であり、適切なインタフェースの ASCII キャラクタ セット一覧に説明されています。[6-15 ページの「USB の ASCII キャラクタ セット」](#) または [7-21 ページの「RS-232 の ASCII キャラクタ セット」](#) を参照してください。

Code 39 バッファリング - スキャンおよび保存

パラメータ番号 71h

この機能を使用すると、デジタル スキャナが複数の Code 39 シンボルからデータを収集できるようになります。

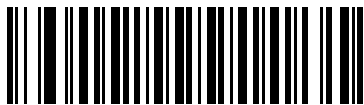
スキャンおよび保存オプション (「Code 39 をバッファする」) を選択すると、先行スペースを最初の文字に持つすべての Code 39 シンボルを、後続の転送用に一時的にバッファします。先行スペースはバッファされません。

先行スペースのない Code 39 シンボルを読み取ると、すべてのバッファされたデータが先入れ先出しフォーマットで順に送信され、また「トリガとなる」シンボルも送信されます。詳細については、次のページを参照してください。

「Code 39 をバッファしない」を選択すると、すべての読み取った Code 39 シンボルをバッファに保存せずに直ちに送信します。

Code 39 バッファリング - スキャンおよび保存 (続き)

この機能は Code 39 のみに影響します。「Code 39 をバッファする」を選択した場合、Code 39 読み取り可能コードのみを読み取るようデジタル スキャナを設定することをお勧めします。



Code 39 をバッファする (有効)
(01h)



* Code 39 をバッファしない (無効)
(00h)

転送バッファにデータがある間は、「Code 39 をバッファしない」を選択できません。バッファには 200 バイトの情報を保持できます。

転送バッファ内にデータがある状態で Code 39 のバッファリングを無効にするには、最初にバッファ転送を強制的に行うか (13-39 ページの「[バッファの転送](#)」を参照)、バッファをクリアします。

データのバッファ

データをバッファするには、Code 39 バッファリングを許可して、スタート パターンの直後にスペースがある Code 39 シンボルをスキャンします。

- データが転送バッファをオーバーフローしない限り、正しく読み取れてバッファされた場合、デジタル スキャナは低音 - 高音のビーブ音を鳴らします。(超過状況については、13-39 ページの「[転送バッファの超過](#)」を参照してください。)
- デジタル スキャナは、読み取られたデータを、先行スペースを除いて転送バッファに追加します。
- 転送は行われません。

転送バッファのクリア

転送バッファをクリアするには、下記の「[バッファのクリア](#)」バーコードをスキャンします。このバーコードにはスタートキャラクタ、ダッシュ (-)、およびストップキャラクタのみが含まれています。

- デジタル スキャナが短い高音 - 低音 - 高音のビーブ音を鳴らします。
- デジタル スキャナは転送バッファを消去します。
- 転送は行われません。



バッファのクリア

- ✓ **注** 「バッファのクリア」にはダッシュ文字 (-) のみが含まれています。このコマンドをスキャンするには、Code 39 の読み取り桁数に 1 桁が含まれるよう設定してください。

バッファの転送

Code 39 バッファを転送するには、2 種類の方法があります。

1. 下記の「**バッファの転送**」バーコードをスキャンします。このバーコードにはスタート キャラクタ、プラス (+)、およびストップ キャラクタが含まれています。
2. デジタル スキャナは、バッファを送信し、クリアします。
 - デジタル スキャナが短い低音 - 高音のビーブ音を鳴らします。



バッファの転送

3. スペース以外の先頭キャラクタを持つ Code 39 バーコードをスキャンします。
 - 新しい読み取りデータがバッファされたデータに付加されます。
 - デジタル スキャナは、バッファを送信し、クリアします。
 - デジタル スキャナは低音 - 高音のビーブ音を鳴らし、バッファが転送されたことを知らせます。
 - デジタル スキャナは、バッファを送信し、クリアします。

✓ **注** 「バッファの転送」には、プラス記号 (+) のみが含まれています。このコマンドをスキャンするには、Code 39 の読み取り桁数に 1 桁が含まれるよう設定してください。

転送バッファの超過

Code 39 バッファは 200 文字を保持できます。シンボルが転送バッファを超過した場合、次のようになります。

- デジタル スキャナは長い高音を 3 回鳴らし、シンボルが拒否されたことを示します。
- 転送は行われません。バッファ内のデータには影響がありません。

空のバッファの転送の試行

「**バッファの転送**」シンボルをスキャンし、Code 39 バッファが空の場合、次のようになります。

- 短い低音 - 高音 - 低音のビーブ音が鳴り、バッファが空であることが示されます。
- 転送は行われません。
- バッファは空のままです。

Code 93

Code 93 の有効化/無効化

パラメータ番号 09h

Code 93 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



Code 93 を有効化
(01h)



* Code 93 を無効化
(00h)

Code 93 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 1Ah、L2 = 1Bh

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。Code 93 の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

- **1 種類の読み取り桁数** - このオプションを選択すると、選択した読み取り桁数を含む Code 93 シンボルのみを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の Code 93 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の Code 93 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の Code 93 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 93 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の Code 93 読み取り桁数**」を選択し、次に、「0」、「2」、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の Code 93 シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、まず「**指定範囲内の Code 93 読み取り桁数**」をスキャンします。次に、0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の Code 93 シンボルを読み取る場合、このオプションをスキャンします。

Code 93 の読み取り桁数設定 (続き)



1 種類の Code 93 読み取り桁数



2 種類の Code 93 読み取り桁数



指定範囲内の Code 93 読み取り桁数



任意の Code 93 読み取り桁数

Code 11

Code 11

パラメータ番号 0Ah

Code 11 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



Code 11 を有効化
(01h)



* Code 11 を無効化
(00h)

Code 11 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 1Ch、L2 = 1Dh

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。Code 11 の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

- **1 種類の読み取り桁数** - このオプションを選択すると、選択した読み取り桁数を含む Code 11 シンボルのみを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D 「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の Code 11 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の Code 11 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の Code 11 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D 「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 11 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の Code 11 読み取り桁数**」を選択し、次に、「0」、「2」、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の Code 11 シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D 「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、まず「**指定範囲内の Code 11 読み取り桁数**」をスキャンします。次に、0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の Code 11 シンボルを読み取る場合、このオプションをスキャンします。

Code 11 の読み取り桁数設定 (続き)



1 種類の Code 11 読み取り桁数



2 種類の Code 11 読み取り桁数



指定範囲内の Code 11 読み取り桁数



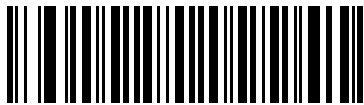
任意の Code 11 読み取り桁数

Code 11 チェック デジットの確認

パラメータ番号 34h

この機能を使用すると、デジタル スキャナがすべての Code 11 シンボルをチェックして、データが指定されたチェック デジット アルゴリズムに適合しているかどうかを確認します。これにより、読み取られた Code 11 バーコードのチェック デジット メカニズムが選択されます。このオプションは、1 つのチェック デジットの確認、2 つのチェック デジットの確認、または機能を無効にする場合に使用されます。

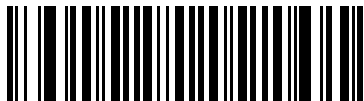
この機能を有効にするには、Code 11 シンボルで読み取ったチェック デジットの数に対応する下記のバーコードをスキャンします。



* 無効
(00h)



1 つのチェック デジット
(01h)



2 つのチェック デジット
(02h)

Code 11 チェック デジットの転送

パラメータ番号 2Fh

この機能は、Code 11 のチェック デジットを転送するかどうかを選択します。



Code 11 チェック デジットの転送 (有効)
(01h)



* Code 11 チェック デジットを転送しない (無効)
(00h)

✓ 注 このパラメータを設定するには、「Code 11 チェック デジットの確認」を有効にしておく必要があります。

Interleaved 2 of 5 (ITF)

Interleaved 2 of 5 の有効化/無効化

パラメータ番号 06h

Interleaved 2 of 5 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンして、次のページから「Interleaved 2 of 5 読み取り桁数設定」を選択します。



* Interleaved 2 of 5 を有効化
(01h)



Interleaved 2 of 5 を無効化
(00h)

Interleaved 2 of 5 読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 16h、L2 = 17h

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。12 of 5 の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

- **1 種類の読み取り桁数** - このオプションを選択すると、選択した読み取り桁数を含む 12 of 5 シンボルのみを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の 12 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の 12 of 5 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の 12 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の 12 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の 12 of 5 読み取り桁数**」を選択し、次に、「0」、「2」、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の 12 of 5 シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」** の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の文字を含む 12 of 5 シンボルを読み取るには、まず「**指定範囲内の 12 of 5 読み取り桁数**」をスキャンします。次に、0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」** をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の 12 of 5 シンボルを読み取る場合、このオプションをスキャンします。

✓ **注** このオプションを選択すると、12 of 5 コードの読み取りミス (桁落ち) が発生する可能性が高くなります。これを防ぐには、指定の読み取り桁数 (1 種類の 12 of 5 読み取り桁数、2 種類の読み取り桁数) を 12 of 5 アプリケーションに対して選択します。

Code 11 の読み取り桁数設定 (続き)



* 1 種類の 12 of 5 読み取り桁数



2 種類の 12 of 5 読み取り桁数



指定範囲内の 12 of 5 読み取り桁数



任意の 12 of 5 読み取り桁数

12 of 5 チェック デジットの確認

パラメータ番号 31h

この機能を有効にすると、すべての 12 of 5 シンボルの整合性をチェックし、指定した Uniform Symbology Specification (USS) または Optical Product Code Council (OPCC) チェック デジット アルゴリズムにデータが一致していることを確認できます。



* 無効
(00h)



USS チェック デジット
(01h)

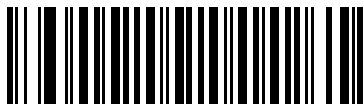


OPCC チェック デジット
(02h)

12 of 5 チェック デジットの転送

パラメータ番号 2Ch

以下の適切なバーコードをスキャンして、チェック デジットを含む、または含まない 12 of 5 データを転送します。



12 of 5 チェック デジットの転送 (有効)
(01h)

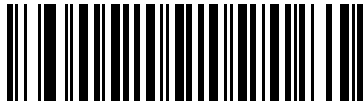


* 12 of 5 チェック デジットを転送しない (無効)
(00h)

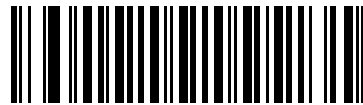
12 of 5 から EAN-13 への変換

パラメータ番号 52h

14 文字の 12 of 5 コードを EAN-13 に変換し、ホストに EAN-13 として転送する場合、このパラメータを有効にします。変換するには、12 of 5 コードを有効にして、コードの先頭にゼロを含め、有効な EAN-13 チェック デジットを含める必要があります。



12 of 5 から EAN-13 への変換 (有効)
(01h)



* 12 of 5 から EAN-13 へ変換しない (無効)
(00h)

Discrete 2 of 5 (DTF)

Discrete 2 of 5 の有効化 / 無効化

パラメータ番号 05h

Discrete 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



Discrete 2 of 5 を有効化
(01h)



* Discrete 2 of 5 を無効化
(00h)

Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 14h、L2 = 15h

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。D 2 of 5 の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

- **1 種類の読み取り桁数** - このオプションを選択すると、選択した読み取り桁数を含む D 2 of 5 シンボルのみを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 字の D 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の D 2 of 5 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の D 2 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の D 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の D 2 of 5 読み取り桁数**」を選択し、次に、「0」、「2」、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の D 2 of 5 シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の文字を含む D 2 of 5 シンボルを読み取るには、まず、「**指定範囲内の D 2 of 5 読み取り桁数**」をスキャンします。次に、「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の D 2 of 5 シンボルを読み取る場合、このオプションをスキャンします。

✓ **注** このオプションを選択すると、D 2 of 5 コードの読み取りミス (桁落ち) が発生する可能性が高くなります。これを防ぐには、指定の読み取り桁数 (**1 種類の D 2 of 5 読み取り桁数**、**2 種類の読み取り桁数**) を D 2 of 5 アプリケーションに対して選択します。

Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定 (続き)



1 種類の D 2 of 5 読み取り桁数



2 種類の D 2 of 5 読み取り桁数



指定範囲内の D 2 of 5 読み取り桁数



任意の D 2 of 5 読み取り桁数

Codabar (NW - 7)

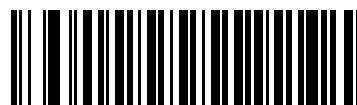
Codabar の有効化 / 無効化

パラメータ番号 07h

Codabar を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



Codabar を有効化
(01h)



* Codabar を無効化
(00h)

Codabar の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 18h、L2 = 19h

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。Codabar の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

- **1 種類の読み取り桁数** - このオプションを選択すると、選択した読み取り桁数を含む Codabar シンボルのみを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の Codabar シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の Codabar 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の Codabar シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Codabar シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の Codabar 読み取り桁数**」を選択し、次に、**0、2、1、4** をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数を含む Codabar シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、**付録 D「数字バーコード」**の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の文字を含む Codabar シンボルを読み取るには、まず、「**指定範囲内の Codabar 読み取り桁数**」をスキャンします。次に、**0、4、1、2** をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、**D-2 ページの「キャンセル」**をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の Codabar シンボルを読み取る場合、このオプションをスキャンします。

Codabar の読み取り桁数設定 (続き)



1 種類の Codabar 読み取り桁数



2 種類の Codabar 読み取り桁数



指定範囲内の Codabar 読み取り桁数



Codabar - 任意の読み取り桁数

CLSI 編集

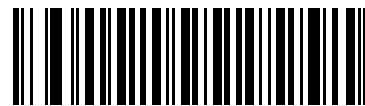
パラメータ番号 36h

「有効」を選択すると、スタート キャラクタとストップ キャラクタを取り除き、14 文字の Codabar シンボル中の 1 番目、5 番目、および 10 番目のキャラクタの後にスペースを挿入します。ホスト システムでこのデータ フォーマットが必要な場合にこの機能を有効にします。

✓ **注** シンボルの長さには、スタート キャラクタおよびストップ キャラクタは含まれていません。



CLSI 編集を有効化
(01h)

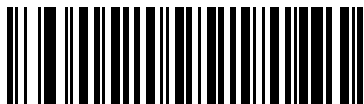


* CLSI 編集を無効化
(00h)

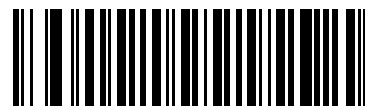
NOTIS 編集

パラメータ番号 37h

「有効」を選択すると、読み取られた Codabar シンボルからスタート キャラクタとストップ キャラクタを取り除きます。ホスト システムでこのデータ フォーマットが必要な場合にこの機能を有効にします。



NOTIS 編集を有効化
(01h)



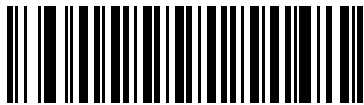
* NOTIS 編集を無効化
(00h)

MSI

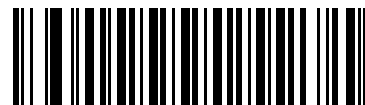
MSI の有効化/無効化

パラメータ番号 0Bh

MSI を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



MSI の有効化
(01h)



* MSI の無効化
(00h)

MSI の読み取り桁数設定

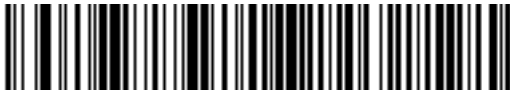
パラメータ番号 L1 = 1Eh、L2 = 1Fh

コードの長さとは、文字 (つまり可読文字) の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。MSI の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

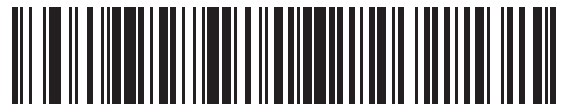
- **1 種類の読み取り桁数** - このオプションを選択すると、選択した読み取り桁数を含む MSI シンボルのみを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 D「数字バーコード」](#) の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の MSI シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の MSI 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[D-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数のコードだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 D「数字バーコード」](#) の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の MSI シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の MSI 読み取り桁数**」を選択し、次に、「0」、「2」、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[D-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の MSI シンボルを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 D「数字バーコード」](#) の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の文字を含む MSI シンボルを読み取るには、まず「**指定範囲内の MSI 読み取り桁数**」をスキャンします。次に、「0」、「4」、「1」、「2」をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[D-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の MSI シンボルを読み取る場合、このオプションをスキャンします。

MSI の読み取り桁数設定 (続き)

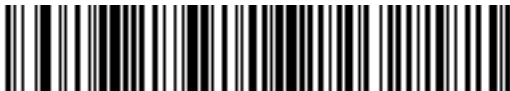
- ✓ **注** このオプションを選択すると、MSI コードの読み取りミス (桁落ち) が発生する可能性が高くなります。これを防ぐには、特定の読み取り桁数 (1 種類の MSI 読み取り桁数、2 種類の MSI 読み取り桁数) を MSI アプリケーションに対して選択します。



1 種類の MSI 読み取り桁数



2 種類の MSI 読み取り桁数



指定範囲内の MSI 読み取り桁数



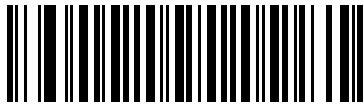
任意の MSI 読み取り桁数

MSI チェック デジット

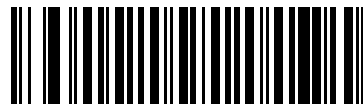
パラメータ番号 32h

MSI シンボルでは、1 つのチェック デジットが必須であり、常にリーダーによって確認されます。2 番目のチェック デジットは任意です。MSI コードに 2 つのチェック デジットが含まれている場合、「2 つの MSI チェック デジット」バーコードをスキャンして 2 番目のチェック デジットを確認できるようにします。

2 番目のデジットのアルゴリズムの選択については、[13-58 ページの「MSI チェック デジットのアルゴリズム」](#)を参照してください。



* 1 つの MSI チェック デジット
(00h)

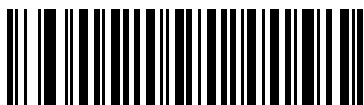


2 つの MSI チェック デジット
(01h)

MSI チェック デジットの転送

パラメータ番号 2Eh

チェック デジットを含む、または含まない MSI データを転送するには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



MSI チェック デジットを転送 (有効)
(01h)

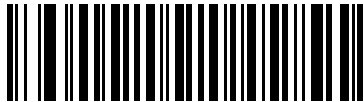


* MSI チェック デジットを転送しない (無効)
(00h)

MSI チェック デジットのアルゴリズム

パラメータ番号 33h

2 番目の MSI チェック デジットを確認するために 2 つのアルゴリズムが可能です。チェック デジットの読み取りに使用したアルゴリズムと一致する下記のバーコードを選択します。



MOD 10/MOD 11
(00h)



* MOD 10/MOD 10
(01h)

Chinese 2 of 5

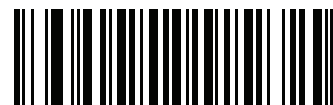
Chinese 2 of 5 の有効化/無効化

パラメータ番号 F0h 98h

Chinese 2 of 5 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



Chinese 2 of 5 を有効化
(01h)



* Chinese 2 of 5 を無効化
(00h)

Matrix 2 of 5

Matrix 2 of 5 の有効化/無効化

パラメータ番号 F1h 6Ah

Matrix 2 of 5 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



Matrix 2 of 5 を有効化
(01h)



* Matrix 2 of 5 を無効化
(00h)

Matrix 2 of 5 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = F1h 6Bh、L2 = F1h 6Ch

コードの長さとは、文字（つまり可読文字）の数のことで、コードに含まれるチェック デジットも含まれます。Matrix 2 of 5 の読み取り桁数は、「任意の読み取り桁数」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。

- 1 種類の読み取り桁数** - 1 種類の選択した読み取り桁数の Matrix 2 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 D「数字バーコード」](#) の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の Matrix 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の Matrix 2 of 5 読み取り桁数**」を選択し、次に、「1」、「4」をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[D-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- 2 種類の読み取り桁数** - 2 種類の選択した読み取り桁数の Matrix 2 of 5 シンボルだけを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 D「数字バーコード」](#) の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Matrix 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の Matrix 2 of 5 読み取り桁数**」を選択し、次に、0、2、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[D-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- 指定範囲内** - 指定された範囲内の読み取り桁数の Matrix 2 of 5 シンボルタイプを読み取ります。読み取り桁数は、[付録 D「数字バーコード」](#) の数字バーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、まず「**指定範囲内の Matrix 2 of 5 読み取り桁数**」を選択します。次に、0、4、1、2 をスキャンします。指定する数字が 1 桁の場合は、最初に必ずゼロをスキャンしてください。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[D-2 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- 任意の読み取り桁数** - デジタル スキャナが読み取り可能な任意の文字数の Matrix 2 of 5 シンボルを読み取る場合、このオプションをスキャンします。



* 1 種類の Matrix 2 of 5 読み取り桁数



2 種類の Matrix 2 of 5 読み取り桁数



指定範囲内の Matrix 2 of 5 読み取り桁数



任意の Matrix 2 of 5 読み取り桁数

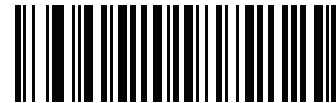
Matrix 2 of 5 チェック デジット

パラメータ番号 F1h 6Eh

チェック デジットは、シンボルの最後にあるキャラクタで、データの整合性の確認に使用されます。Matrix 2 of 5 チェック デジットを持つ/持たないバーコードを転送するには、以下のバーコードから適切なものをスキャンします。



Matrix 2 of 5 チェック デジット有効
(01h)



* Matrix 2 of 5 チェック デジットの無効化
(00h)

Matrix 2 of 5 チェック デジットの転送

パラメータ番号 F1h 6Fh

チェック デジットを持つ/持たない Matrix 2 of 5 を転送するには、以下のバーコードをスキャンします。



Matrix 2 of 5 チェック デジットの転送
(01h)



* Matrix 2 of 5 チェック デジットを転送しない
(00h)

Korean 3 of 5

Korean 3 of 5 の有効化 / 無効化

パラメータ番号 F1h 45h

Korean 3 of 5 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。

✓ 注 Korean 3 of 5 の読み取り桁数は 6 に固定されています。



Korean 3 of 5 有効
(01h)



* Korean 3 of 5 無効
(00h)

反転 1D

パラメータ番号 F1h 4Ah

このパラメータは、反転 1-D デコーダ設定を行います。次のようなオプションがあります。

- 標準のみ - 標準 1-D バーコードのみを読み取ります。
- 反転のみ - 反転 1-D バーコードのみを読み取ります。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の 1-D バーコードを読み取ります。



* 標準
(00h)



反転のみ
(01h)



反転の自動検出
(02h)

郵便番号

US Postnet

パラメータ番号 59h

US Postnet を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* US Postnet 有効
(01h)



US Postnet 無効
(00h)

US Planet

パラメータ番号 5Ah

US Planet を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* US Planet 有効
(01h)

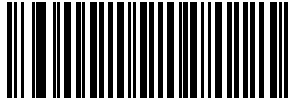


US Planet 無効
(00h)

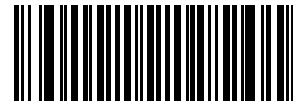
US Postal チェック デジットの転送

パラメータ番号 5Fh

US Postnet と US Planet の両方を含む US Postal データの送信で、チェック デジットを付けるかどうかを選択します。



* US Postal チェック デジットを転送
(01h)



US Postal チェック デジットを転送しない
(00h)

UK Postal

パラメータ番号 5Bh

UK Postal を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* UK Postal 有効
(01h)



UK Postal 無効
(00h)

UK Postal チェック デジットの転送

パラメータ番号 60h

UK Postal データにチェック デジットを付けるかどうかを選択します。



* UK Postal
チェック デジットを転送
(01h)



UK Postal チェック デジットを転送しない
(00h)

Japan Postal

パラメータ番号 F0h、22h

Japan Postal を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* Japan Postal 有効
(01h)



Japan Postal 無効
(00h)

Australian Postal

パラメータ番号 F0h、23h

Australian Postal を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* Australian Postal 有効
(01h)



Australian Postal 無効
(00h)

Australia Post フォーマット

パラメータ番号 F1h、CEh

Australia Post のフォーマットを選択するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。

- 自動識別 (スマート モード) - N および C 符号化テーブルを使用してカスタマ情報フィールドのデコードを試行します。

注 このオプションでは、エンコードされたデータがエンコードに使用した符号化テーブルを特定していないため、誤ったデコードの危険性が増します。

- 未処理フォーマット - 0 から 3 までの一連の数値で未処理のバー パターンを出力します。
- 英数字符号化 - C 符号化テーブルを使用してカスタマ情報フィールドをデコードします。
- 数値符号化 - N 符号化テーブルを使用してカスタマ情報フィールドをデコードします。

Australia Post の符号化テーブルの詳細については、『Australia Post Customer Barcoding Technical Specifications』(<http://www.auspost.com.au>) を参照してください。



* 自動識別
(00h)



未処理フォーマット
(01h)



英数字符号化
(02h)



数値符号化
(03h)

Netherlands KIX Code

パラメータ番号 F0h、46h

Netherlands KIX Code を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* Netherlands KIX Code 有効
(01h)



Netherlands KIX Code 無効
(00h)

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail

パラメータ番号 F1h 50h

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail 有効
(01h)



* USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail 無効
(00h)

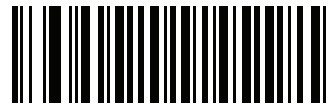
UPU FICS Postal

パラメータ番号 F1h 63h

UPU FICS Postal を有効/無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



UPU FICS Postal 有効
(01h)



* UPU FICS Postal 無効
(00h)

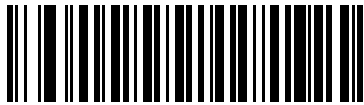
GS1 DataBar (以前の Reduced Space Symbology)

GS1 DataBar の種類には、DataBar-14、DataBar Expanded、および DataBar Limited があります。Limited および Expanded バージョンには、さらに変種が存在します。以下の適切なバーコードをスキャンして、各種の GS1 DataBar を有効または無効にします。

- ✓ **注** デコードの読み取り精度向上のため、最近のファームウェア バージョンのスキナでは、反転ビデオ GS1 DataBar バーコードをサポートしていません。

GS1 DataBar-14

パラメータ番号 F0h 52h



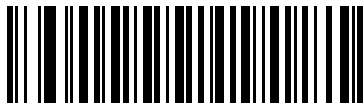
* GS1 DataBar-14 を有効化
(01h)



GS1 DataBar 14 を無効化
(00h)

GS1 DataBar Limited

パラメータ番号 F0h 53h



GS1 DataBar Limited を有効化
(01h)



* GS1 DataBar Limited を無効化
(00h)

GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル

パラメータ番号 F1h D8h

デジタル スキャナは、GS1 DataBar Limited のバーコードに対して 4 種類の読み取り精度レベルを設定できます。読み取り精度とデジタル スキャナの読み取り速度は反比例します。読み取り精度を上げるとスキャナ速度が低下するため、必要十分な精度を選択する必要があります。

- レベル 1 – 明確なマージン不要。本来の GS1 標準に準拠していますが、「9」や「7」で始まる UPC シンボルのスキャン時に、DataBar Limited バーコードのデコードでエラー¹ が出ることがあります。
- レベル 2 – リスク自動検出。この読み取り精度では、一部の UPC シンボルのスキャン時に、DataBar Limited バーコードのデコードでエラーが発生する場合があります。デコードの誤りが検出されると、スキャナはレベル 3 またはレベル 1 で動作します。
- レベル 3 – 末尾に 5X のクリアなマージンを必要とする、新たに提案された GS1 標準を反映した読み取り精度。
- レベル 4 – GS1 で要求された標準を拡張した読み取り精度。この読み取り精度では、先頭と末尾に 5X のクリアなマージンが必要です。



GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル 1
(01h)



GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル 2
(02h)



* GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル 3
(03h)

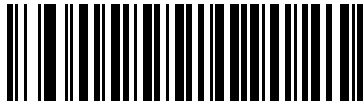


GS1 DataBar Limited の読み取り精度レベル 4
(04h)

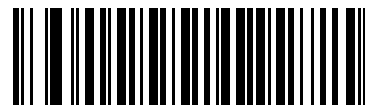
1. Databar Limited と UPC コード体系のためにデコード エラーが発生する場合があります。

GS1 DataBar Expanded

パラメータ番号 F0h 54h



* GS1 DataBar Expanded を有効化
(01h)



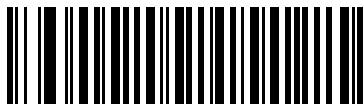
GS1 DataBar Expanded を無効化
(00h)

GS1 DataBar から UPC/EAN への変換

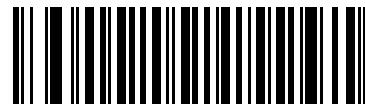
パラメータ番号 F0h、8Dh

このパラメータは、コンポジット シンボルの一部として読み取られない GS1 DataBar-14 と GS1 DataBar Limited シンボルだけに適用されます。有効にすると、単独ゼロを 1 桁目としてエンコードする DataBar-14 および DataBar Limited シンボルから先頭の「010」を取り除き、バーコードを EAN-13 として通知します。

2 個以上 (6 個を除く) のゼロで始まるバーコードについて、このパラメータは先頭の「0100」を取り除き、バーコードを UPC-A として通知します。システム キャラクタと国コードの送信についての UPC-A プリアンブル パラメータが、変換されたバーコードに適用されます。システム キャラクタもチェック デジットも取り除くことはできません。



GS1 DataBar から UPC/EAN への変換を有効化
(01h)



* GS1 DataBar から UPC/EAN への変換を無効化
(00h)

コンポジット

コンポジット CC-C

パラメータ番号 F0h 55h

下のバーコードをスキャンして、コンポジット CC-C タイプのバーコードの有効/無効を設定します。



CC-C 有効
(01h)



* CC-C 無効
(00h)

コンポジット CC-A/B

パラメータ番号 F0h 56h

下のバーコードをスキャンして、コンポジット CC-A/B タイプのバーコードの有効/無効を設定します。



CC-A/B 有効
(01h)



* CC-A/B 無効
(00h)

コンポジット TLC-39

パラメータ番号 F0h 73h

下のバーコードをスキャンして、コンポジット TLC-39 タイプのバーコードの有効/無効を設定します。



TLC39 有効
(01h)



* TLC39 無効
(00h)

UPC コンポジット モード

パラメータ番号 F0h 58h

送信中に1つのシンボルのようにして UPC シンボルを 2D シンボルとリンクさせるには、いずれかのオプションを選択します。

- 2D シンボル検出の有無にかかわらず UPC バーコードを送信するには、「**UPC リンクなし**」を選択します。
- UPC バーコードと 2D 部分を送信するには、「**UPC 常時リンク**」を選択します。
2D が存在しない場合、UPC バーコードは送信されません。
- 「**UPC コンポジットの自動識別**」を選択すると、スキャナは 2D 部分の有無を判別して UPC を送信し、存在する場合は 2D 部分も送信します。



UPC リンクなし
(00h)



* UPC 常時リンク
(01h)

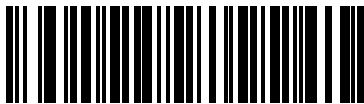


UPC コンポジットの自動識別
(02h)

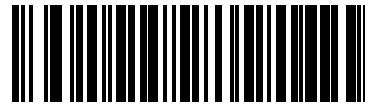
コンポジット ビープ音モード

パラメータ番号 F0h、8Eh

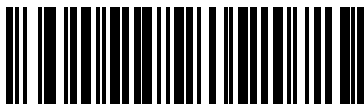
コンポジットバーコードのデコード時のビープ音数を選択するには、適切なバーコードをスキャンします。



両方デコード後にビープ音 1 回
(00h)



* 各コードタイプのデコード後にそれぞれビープ音
(01h)



両方デコード後にビープ音 2 回
(02h)

GS1 コンポジットコードの GS1-128 エミュレーションモード (以前の UCC/EAN コンポジットコードの UCC/EAN Code 128 エミュレーションモード)

パラメータ番号 F0h、ABh

このモードの有効/無効を選択します。



GS1 コンポジットコードの GS1-128
エミュレーションモード有効
(01h)



* GS1 コンポジットコードの GS1-128
エミュレーションモード無効
(00h)

2D バーコード

PDF417 の有効化/無効化

パラメータ番号 0Fh

PDF417 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* PDF417 有効
(01h)



PDF417 無効
(00h)

MicroPDF417 の有効化/無効化

パラメータ番号 E3h

MicroPDF417 の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



MicroPDF417 有効
(01h)



* MicroPDF417 無効
(00h)

Code 128 エミュレーション

パラメータ番号 7Bh

特定の MicroPDF417 シンボルからデータを Code 128 として送信する場合、このパラメータを有効にします。このパラメータを動作させるには、[4-18 ページの「AIM コード ID キャラクタ \(01h\)」](#)を有効にしておく必要があります。

次のいずれかのプリフィックスを使用して MicroPDF417 シンボルを送信するには、Code 128 エミュレーションを有効にします。

-]C1 最初のコードワードが 903 ~ 905 の場合
-]C2 最初のコードワードが 908 または 909 の場合
-]C0 最初のコードワードが 910 または 911 の場合

次のいずれかのプリフィックスを使用して MicroPDF417 シンボルを送信するには、Code 128 エミュレーションを無効にします。

-]L3 最初のコードワードが 903 ~ 905 の場合
-]L4 最初のコードワードが 908 または 909 の場合
-]L5 最初のコードワードが 910 または 911 の場合

Code 128 エミュレーションを設定するには、以下のバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** Linked MicroPDF のコードワード 906、907、912、914、915 はサポートされていません。代わりに GS1 Composites を使用します。



Code 128 エミュレーション有効
(01h)



* Code 128 エミュレーション無効
(00h)

Data Matrix

パラメータ番号 F0h、24h

Data Matrix の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* Data Matrix を有効化
(01h)



Data Matrix を無効化
(00h)

Data Matrix Inverse

パラメータ番号 F1h 4Ch

このパラメータは、Data Matrix Inverse デコーダ設定を行います。次のようなオプションがあります。

- 標準のみ - 標準の Data Matrix バーコードだけを読み取ります。
- 反転のみ - Data Matrix Inverse バーコードだけを読み取ります。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の Data Matrix バーコードを読み取ります。



* 標準
(00h)



反転のみ
(01h)



反転の自動検出
(02h)

Maxicode

パラメータ番号 F0h、26h

Maxicode の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* Maxicode 有効
(01h)



Maxicode 無効
(00h)

QR Code

パラメータ番号 F0h、25h

QR Code の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードを選択します。



* QR Code 有効
(01h)



QR Code 無効
(00h)

QR Inverse

パラメータ番号 F1h 4Bh

このパラメータは、反転 QR デコーダ設定を行います。次のようなオプションがあります。

- 標準のみ - 標準 QR バーコードだけを読み取ります。
- 反転のみ - 反転 QR バーコードだけを読み取ります。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の QR バーコードを読み取ります。



* 標準
(00h)



反転のみ
(01h)



反転の自動検出
(02h)

MicroQR

パラメータ番号 F1h 3Dh

MicroQR の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* MicroQR 有効
(01h)



MicroQR 無効
(00h)

Aztec

パラメータ番号 F1h 3Eh

Aztec の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



* Aztec 有効
(01h)



Aztec 無効
(00h)

Aztec Inverse

パラメータ番号 F1h 4Dh

このパラメータは、反転 Aztec デコーダ設定を行います。次のようなオプションがあります。

- 標準のみ - 標準 Aztec バーコードだけを読み取ります。
- 反転のみ - 反転 Aztec バーコードだけを読み取ります。
- 反転の自動検出 - 標準と反転の両方の Aztec バーコードを読み取ります。



* 標準
(00h)



反転のみ
(01h)



反転の自動検出
(02h)

冗長性レベル

パラメータ番号 4Eh

デジタルスキャナは、4種類の冗長性レベルを設定できます。バーコード品質レベルの低下に応じて、選択する冗長性レベルを上げます。冗長性レベルが上がれば、デジタルスキャナの読み取り速度は低下します。

バーコードの品質に適した冗長性レベルを選択します。

冗長性レベル 1

次のコードタイプは、デコード前に2度読み取りに成功する必要があります。

表 13-2 冗長性レベル 1 のコード

コードタイプ	コードの読み取り桁数
Codabar	8桁以下
MSI	4桁以下
D 2 of 5	8桁以下
I 2 of 5	8桁以下

冗長性レベル 2

次のコードタイプは、デコード前に2度読み取りに成功する必要があります。

表 13-3 冗長性レベル 2 のコード

コードタイプ	コードの読み取り桁数
すべて	すべて

冗長性レベル 3

次のコードタイプ以外のコードタイプは、デコード前に2度読み取りに成功する必要があります。次のコードは3回読み取る必要があります。

表 13-4 冗長性レベル 3 のコード

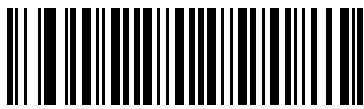
コードタイプ	コードの読み取り桁数
MSI Plessey	4桁以下
D 2 of 5	8桁以下
I 2 of 5	8桁以下
Codabar	8桁以下

冗長性レベル 4

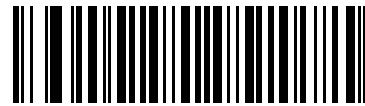
次のコードタイプは、デコード前に3度読み取りに成功する必要があります。

表 13-5 冗長性レベル 4 のコード

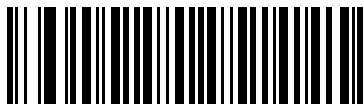
コードタイプ	コードの読み取り桁数
すべて	すべて



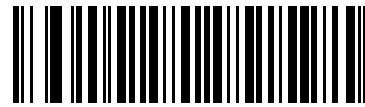
* 冗長性レベル 1
(01h)



冗長性レベル 2
(02h)



冗長性レベル 3
(03h)



冗長性レベル 4
(04h)

セキュリティ レベル

パラメータ番号 4Dh

デジタル スキャナは、Code 128 ファミリ、UPC/EAN、Code 93 を含むデルタ バーコードに対し、4 種類の読み取りセキュリティ レベルを設定できます。バーコード品質が劣る場合、セキュリティ レベルを高くします。セキュリティとデジタル スキャナの読み取り速度は反比例するため、指定されたアプリケーションに必要な読み取り精度レベルだけを選択してください。

- **セキュリティ レベル 0:** この設定では、デジタル スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、ほとんどの「規格内」のバーコードを読み取るために十分な読み取り精度を確保できます。
- **セキュリティ レベル 1:** これはデフォルト設定です。デコードの誤りのほとんどを除去できます。
- **セキュリティ レベル 2:** セキュリティ レベル 1 でデコードの誤りを除去できないときにこのオプションを選択します。
- **セキュリティ レベル 3:** セキュリティ レベル 2 を選択してもまだデコードの誤りを除去できないときにこのレベルを選択します。このオプションは、規格を大きく外れたバーコードの読み取りミスに対する非常手段として選択してください。このセキュリティ レベルを選択すると、デジタル スキャナの読み取り能力に大きな影響を与えます。この読み取り精度レベルが必要な場合は、バーコードの品質の改善を試みてください。



セキュリティ レベル 0
(00h)



* セキュリティ レベル 1
(01h)



セキュリティ レベル 2
(02h)



セキュリティ レベル 3
(03h)

キャラクタ間ギャップサイズ

パラメータ番号 F0h、7Dh

Code 39 および Codabar のシンボルには、通常小さなキャラクタ間ギャップがあります。バーコード印刷技術によっては、このギャップが許容できる最大サイズより大きくなることもあり、デジタル スキャナはシンボルを読み取れなくなります。このような規格外のバーコードを処理できるようにするには、以下の「大きなキャラクタ間ギャップ」パラメータを選択します。



* 通常のキャラクタ間ギャップ
(06h)



大きなキャラクタ間ギャップ
(0Ah)

バージョン通知

デジタル スキャナにインストールされているソフトウェアのバージョンを通知するには、下のバーコードをスキャンします。



ソフトウェアのバージョン通知

Macro PDF 機能

Macro PDF は、複数の PDF シンボルを統合して 1 つのファイルにする特別な機能です。デジタル スキャナは、この機能でエンコードされたシンボルをデコードでき、64KB を超えるデコードされたデータを、最大 50 の MacroPDF シンボルに格納できます。



注意

各シーケンスには一意の識別子が付加されているため、印刷時は Macro PDF 単位で分離します。複数の PDF シーケンスのバーコードを混ぜないでください。同じデータをエンコードしたバーコードについても同様です。Macro PDF シーケンスをスキャンするときは、シーケンス全体を中断せずにスキャンしてください。混合したシーケンスをスキャンすると、エラーとして 2 回の長い低音が鳴りません。これは、ファイル ID に一貫性がないか、シンボル体系に一貫性がないことを示します。

Macro バッファのクリア

このオプションは、その時点で保存されているすべての Macro PDF 読み取りデータのバッファをクリアし、ホスト デバイスに転送してから、Macro PDF モードをキャンセルします。



Macro PDF バッファのクリア

Macro PDF 入力のキャンセル

このオプションは、バッファに現在保存されているすべての Macro PDF データを転送せずに消去し、Macro PDF モードをキャンセルします。



Macro PDF 入力のキャンセル

第 14 章 運転免許証のセットアップ (DS6708-DL)

はじめに

DS6708-DL デジタル スキャナは、米国の標準的な運転免許証および他の一部の American Association of Motor Vehicle Administrators (AAMVA) 準拠 ID カードからの情報を解析する機能を有しています。解析は次のように実行されます。

- 内部埋め込みアルゴリズム - フォーマットされたデータを生成できるよう、バーコードをスキャンすることでデジタル スキャナ内部に埋め込まれたアルゴリズムが起動します。年齢確認、クレジットカード申請情報などにはフォーマットされたデータを使用します。

この章では、米国の運転免許証および AAMVA 準拠の ID カードの 2D バーコードに含まれるデータの読み取りと使用のために DS6708-DL デジタル スキャナをプログラムする方法を説明します。

運転免許証解析

デジタル スキャナのプログラミングには、次のオプションを利用できます。

- 運転免許証解析なし (デフォルト) - 機能を無効にします。
- 埋め込み運転免許証解析。

デジタル スキャナが出力するデータ フィールドのシーケンス順に、以下のページのバーコードをスキャンします。詳細については、[14-3 ページの「運転免許証データ フィールドの解析 \(埋め込み運転免許証解析\)」](#)を参照してください。

管轄の更新が使用可能になったときは、次のモトローラ Web サイトで一連のバーコードを更新します。
<http://supportcentral.motrola.com>。

これらのバーコードは、埋め込みソフトウェアを含みます。[14-3 ページ](#)のバーコードとともにこれらをスキャンすることで、管轄ソフトウェアの更新がデジタル スキャナにダウンロードされます。更新はデジタル スキャナのフラッシュ メモリに置かれ、次回の使用時に適用されます。

下のバーコードから適切なものをスキャンして、デジタル スキャナをプログラムします。



* 運転免許証解析なし



埋め込み運転免許証解析

運転免許証データ フィールドの解析 (埋め込み運転免許証解析)

解析規則のプログラミングを開始するには、次の手順に従います。

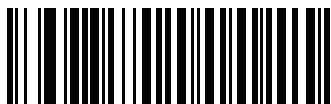
1. 次の「**新しい運転免許証解析規則の開始**」をスキャンします。
2. 続くページまたは **14-21 ページの「キーストロークの送信 (制御文字およびキーボード文字)」**の任意のフィールド バーコードをスキャンして、解析規則を完成させます。
3. 規則全体を入力したら、「**運転免許証解析規則の保存**」をスキャンして規則を保存します。

✓ **注** メモリに格納可能な運転免許証解析規則は、いつでも 1 つだけです。新しい規則を保存すると、以前の規則が置き換えられます。

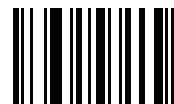
プログラミング中に順序のプログラミングを中止する場合、下の「**運転免許証規則入力の終了**」をスキャンします。以前に保存された規則は保持されます。

プログラムされ保存された規則を消去するには、「**運転免許証解析規則の消去**」をスキャンします。

運転免許証解析フィールド バーコード



新しい運転免許証解析規則の開始



運転免許証解析規則の保存



運転免許証規則入力の終了



運転免許証解析規則の消去

運転免許証解析フィールドバーコード(続き)

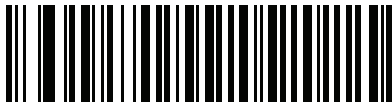
ここからが、現在サポートされている解析フィールドです。すべての ID が同じフォーマットでデータを提示するわけではありません。たとえば、ある ID では名前が姓、名、さらにはミドルネームやイニシャルに分かれていますが、別の ID では名前全体が 1 つのフィールドになります。加えて、一部の ID は対象者の誕生日に有効期限が切れ、実際の有効期限日フィールドが示すのは年だけです。統一されたフォーマットでデータを提示するため、次の 9 個のバーコードは ID バーコードに含まれる実データから計算したデータを返します。



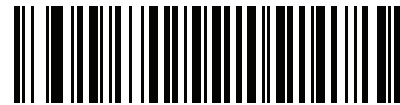
名



ミドルネーム/イニシャル



姓



敬称 (接尾)



敬称 (接頭)



有効期限

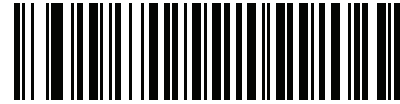


誕生日

運転免許証解析フィールドバーコード(続き)



発行日



ID 番号 (フォーマット済み)

AAMVA 解析フィールドバーコード



AAMVA 発行者 ID



フルネーム



姓



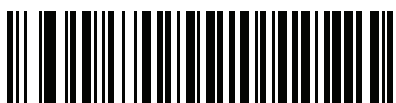
名



ミドルネーム/イニシャル



敬称 (接尾)

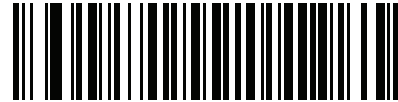


敬称 (接頭)

AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



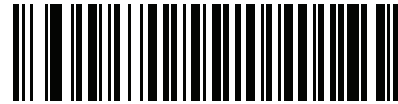
送付先 1



送付先 2



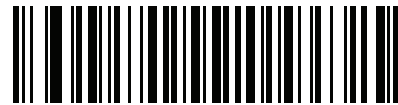
送付先市



送付先州



送付先郵便番号



自宅住所 1



自宅住所 2

AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



自宅住所市



自宅住所州



自宅住所郵便番号



免許証 ID 番号



免許証クラス



免許証制限

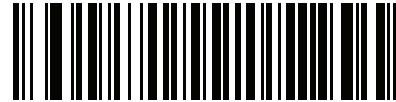


免許証承認

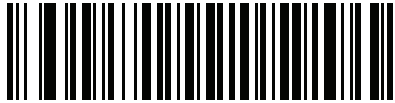
AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



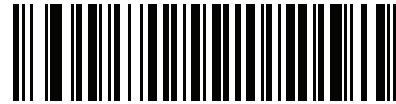
身長(フィートおよび/またはインチ)



身長(センチメートル)



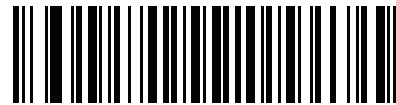
体重(ポンド)



体重(キログラム)



眼の色



頭髪の色

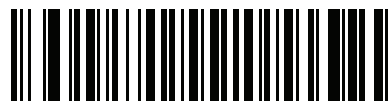


免許証有効期限

AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



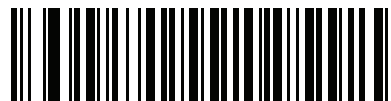
出生日



性別



免許証発効日



社会保障制度番号



許可クラス



許可有効期限

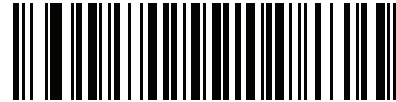


許可 ID 番号

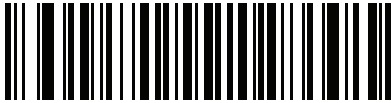
AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



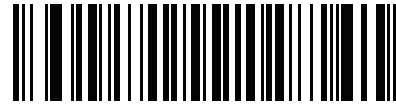
許可発行日



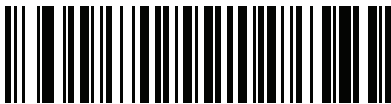
許可制限



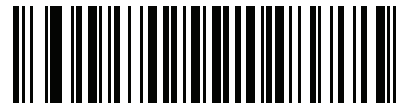
許可承認



AKA 社会保険氏名



AKA フルネーム



AKA 姓



AKA 名

AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



AKA ミドルネーム/イニシャル



AKA 敬称 (接尾)



AKA 敬称 (接頭)



AKA 出生日



発行タイムスタンプ

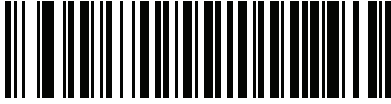


複製数

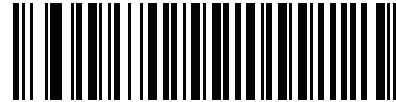


医療コード

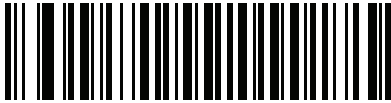
AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



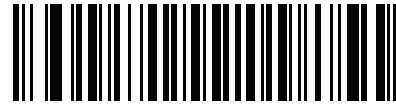
臓器ドナー



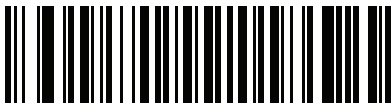
非居住者



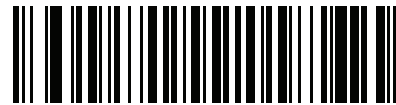
顧客 ID



重さ範囲



文書識別子



国

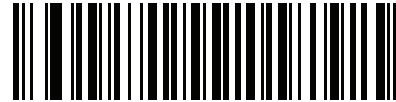


連邦コミッションコード

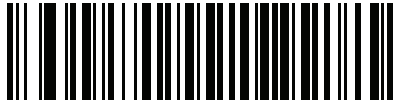
AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



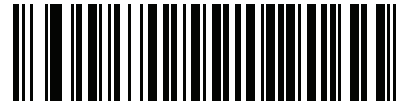
出生地



監査情報



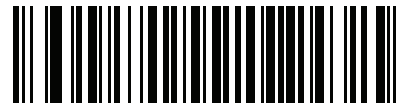
在庫管理



人種/民族



標準の車両クラス



標準の承認

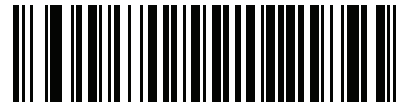


標準の制限

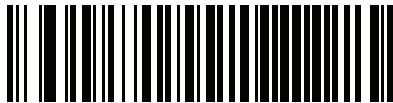
AAMVA 解析フィールドバーコード(続き)



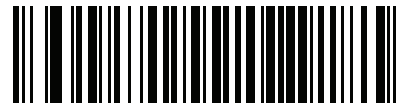
クラス説明



承認の説明



制限の説明



高さ(インチ)



高さ(センチメートル)

パーサーバージョンIDバーコード

埋め込みパーサーソフトウェアのバージョンIDを出力するには、このフィールドを含めます。



パーサーバージョンID

解析規則の例

次のバーコードを順番にスキャンすると、デジタルスキャナは名、ミドルネーム、姓、送付先 1、送付先 2、送付先市、送付先州、送付先郵便番号、誕生日を抽出して伝送します。それから、運転免許証バーコードをスキャンします。

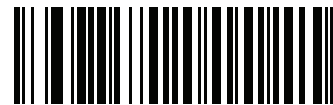
- ✓ **注** この例は RS-232 用です。この例を USB インタフェースで使用する場合、「Control M の送信 (キャリアリッジリターン)」バーコードの代わりに [6-13 ページ](#) の「[ファンクションキーのマッピングを有効化](#)」をスキャンします。

1



埋め込み運転免許証解析

2



新しい運転免許証解析規則の開始

3



名

4



スペースの送信

5



ミドルネーム/イニシャル

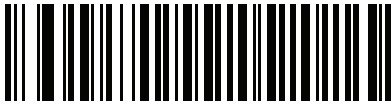
解析規則の例 (続き)

6



スペースの送信

7



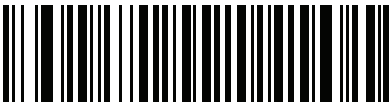
姓

8



Control M の送信 (キャリッジ リターン)

9



送付先 1

10



スペースの送信

11



送付先 2

解析規則の例 (続き)

12



Control M の送信 (キャリッジ リターン)

13



送付先市

14



スペースの送信

15



送付先州

16



スペースの送信

17



送付先郵便番号

解析規則の例 (続き)

18



Control M の送信 (キャリッジ リターン)

19



出生日

20



Control M の送信 (キャリッジ リターン)

21



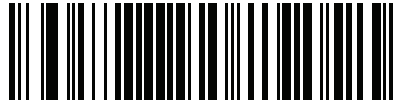
運転免許証解析規則の保存

フィールド更新手順

フィールド更新を実行するには、次のバーコードをスキャンします。

この更新は、それまで実行されたすべての更新を完全に置き換え、現在デジタル スキャナ内にプログラムされている埋め込み解析ソフトウェアを上書きします。

1. フィールド更新を開始。



フィールド更新を開始

2. 個別に提供されている PDF バーコードのセット全体をスキャンします。

3. フィールド更新を終了。



フィールド更新を終了

それまでの更新すべてを完全に削除するには、「すべてのフィールド更新を消去」をスキャンします。通常のフィールド更新前にこのバーコードをスキャンする必要はありません。このバーコードをスキャンすると、現在デジタル スキャナ内にある解析ソフトウェアだけが解析に使用されるようになります。



すべてのフィールド更新を消去

ユーザー設定

デフォルト設定パラメータ

すべてのパラメータを **A-1 ページの表 A-1** にリストされたデフォルト値に戻すには、このバーコードをスキャンします。



* すべてデフォルト設定

キーストロークの送信 (制御文字およびキーボード文字)

制御文字

キーストロークの「送信」バーコードをスキャンして送信します。



Control A の送信



Control B の送信

制御文字 (続き)



Control C の送信



Control D の送信



Control E の送信



Control F の送信



Control G の送信



Control H の送信



Control I の送信 (タブ)

制御文字 (続き)



Control J の送信



Control K の送信



Control L の送信



Control M の送信 (キャリッジ リターン)



Control N の送信



Control O の送信



Control P の送信

制御文字 (続き)



Control R の送信



Control Q の送信



Control S の送信



Control T の送信



Control U の送信



Control V の送信



Control W の送信

制御文字 (続き)



Control X の送信



Control Y の送信



Control Z の送信



Control [の送信



Control ¥ の送信



Control] の送信

制御文字 (続き)



Control 6 の送信



Control - の送信

キーボード文字

キーボード文字の「送信」バーコードをスキャンして送信します。



スペースの送信



! の送信



" の送信



の送信

キーボード文字 (続き)



\$ の送信



% の送信



& の送信



' の送信



(の送信



) の送信



* の送信

キーボード文字 (続き)



+ の送信



, の送信



- の送信



. の送信



/ の送信



0 の送信



1 の送信

キーボード文字 (続き)



2 の送信



3 の送信



4 の送信



5 の送信



6 の送信



7 の送信



8 の送信

キーボード文字 (続き)



9 の送信



: の送信



; の送信



< の送信



= の送信



> の送信



? の送信

キーボード文字 (続き)



@ の送信



A の送信



B の送信



C の送信



D の送信



E の送信



F の送信

キーボード文字 (続き)



G の送信



H の送信



I の送信



J の送信



K の送信



L の送信



M の送信

キーボード文字 (続き)



N の送信



O の送信



P の送信



Q の送信



R の送信



S の送信



T の送信

キーボード文字 (続き)



U の送信



V の送信



W の送信



X の送信



Y の送信



Z の送信



[の送信

キーボード文字 (続き)



¥ の送信



] の送信



^ の送信



_ の送信



` の送信



a の送信



b の送信

キーボード文字 (続き)



c の送信



d の送信



e の送信



f の送信



g の送信



h の送信



i の送信

キーボード文字 (続き)



j の送信



k の送信



l の送信



m の送信



n の送信



o の送信



p の送信

キーボード文字 (続き)



q の送信



r の送信



s の送信



t の送信



u の送信



v の送信



w の送信

キーボード文字 (続き)



x の送信



y の送信



z の送信



{ の送信



| の送信



} の送信



~ の送信

第 15 章 高度なデータ フォーマット

はじめに

高度なデータ フォーマット (ADF) は、ホスト デバイスに転送する前にデータをカスタマイズする手段です。ADF を使用して、スキャン データを特定の要件に合わせるよう編集します。

ADF を実装するには、[15-8 ページ](#)以降に掲載されている一連の関係するバーコードをスキャンするか、123Scan² ユーティリティ ([第 12 章の「123Scan2」](#) 参照) を使用してデジタル スキャナに ADF 規則をプログラムします。

60 文字を越えるバーコードが付いた ADF フォーマットを使用しないでください。そのようなバーコードにプリフィックス/サフィックス値を追加するには、[4-19 ページの「プリフィックス/サフィックス値」](#) を使用してください。60 文字より長いバーコードが付いた ADF を使用すると、桁数 252 以下のセグメント (選択したホストに応じる) でバーコードを転送し、各セグメントに規則を適用します。

規則: アクションにリンクする条件

ADF は規則を使用してデータをカスタマイズします。これらの規則は、データが一定の条件を満たすと、詳細なアクションを実行します。1 つの規則は、1 つまたは複数のアクションに適用される 1 つまたは複数の条件で構成されます。

たとえば、データ フォーマット規則は次のようになります。

条件: スキャン データが Code 39 で 12 桁であり、開始位置のデータが文字列「129」の場合、
アクション: すべての送信にゼロを埋め込んで 8 桁にし、
X までのすべてのデータを送信し、
スペースを送信します。

1299X1559828 の Code 39 バーコードをスキャンすると、00001299<スペース> が送信されます。1299X15598 の Code 39 バーコードをスキャンした場合、バーコードが長さの条件に達していないため、この規則が無視されます。

データが転送される前に、規則が編集の条件と要件を指定します。

ADF バーコードの使用

規則をプログラミングするときは、規則が論理的に正しいことを確認します。スキャンの前に対策をたてておきます。

各データ フォーマットの規則をプログラミングするには、次の手順に従います。

- **規則を開始します。** [15-8 ページの「新しい規則の開始」](#) **バーコード** をスキャンします。
- **条件を指定します。** 関連するすべての条件のバーコードをスキャンします。条件にはコード タイプ (Code 128 など)、コードの読み取り桁数、または特定の文字列を含むデータ (数字の「129」など) を含めることができます。 [15-11 ページの「条件」](#) を参照してください。
- **アクションを選択します。** これらの条件に関係または影響するすべてのアクションをスキャンします。規則のアクションが、転送するデータのフォーマット方法を指定します。 [15-27 ページの「アクション」](#) を参照してください。
- **規則を保存します。** [15-8 ページの「規則の保存」](#) **バーコード** をスキャンします。これにより、規則が規則バッファの「最上位」に配置されます。
- エラーを修正するには、 [15-9 ページの「消去」](#) を参照して条件、アクション、および入力規則を消去します。

[2-2 ページの「ビープ音の定義」](#) では、プログラミング手順について説明します。

ADF バーコードメニューの例

このセクションでは、スキャン データ用の ADF 規則の入力方法と使用方法の例について説明します。

ある自動車部品の物流センターが、製造業者 ID、部品番号、および宛先コードを、独自の Code 128 バーコードにコード化するとします。この物流センターには、製造業者が貼り付けた UPC バーコードを持つ製品もあります。Code 128 バーコードは次のフォーマットを備えています。

MMMMMPPPPPDD

各文字は次の内容を表します。 M = 製造業者 ID
P = 部品番号
D = 目的地コード

物流センターでは、製造業者 ID <CTRL M>、部品番号 <CTRL P>、および目的地コード <CTRL D> という専用の制御文字を備えた PC を使用します。この物流センターでは、UPC データが製造業者 ID コードとして扱われます。

次の規則を入力する必要があります。

コードタイプ Code 128 のデータをスキャンしたとき、続く 5 文字を送信し、製造業者 ID キー <CTRL M> を送信する。続く 5 文字を送信し、部品番号キー <CTRL P> を送信する。続く 2 文字を送信し、目的地コードキー <CTRL D> を送信する。

コードタイプ UPC/EAN のデータをスキャンする場合は、すべてのデータを送信してから製造業者 ID キー <CTRL M> を送信する。

これらの規則を入力するには、次の手順を参照してください。

規則 1: Code 128 スキャン規則

手順	バーコード	ページ	ビープ音
1	新しい規則の開始	15-8	高音 - 高音
2	Code 128	15-11	高音 - 高音
3	次の 5 文字の送信	15-28	高音 - 高音
4	<CTRL M> の送信	15-50	高音 - 高音
5	次の 5 文字の送信	15-28	高音 - 高音
6	<CTRL P> の送信	15-50	高音 - 高音
7	次の 2 文字の送信	15-27	高音 - 高音
8	<CTRL D> の送信	15-49	高音 - 高音
9	規則の保存	15-8	高音 - 低音 - 高音 - 低音

規則 2: UPC スキャン規則

手順	バーコード	ページ	ビープ音
1	新しい規則の開始	15-8	高音 - 高音
2	UPC/EAN	15-13	高音 - 高音
3	残りのすべてのデータを送信	15-27	高音 - 高音
4	<CTRL M> の送信	15-50	高音 - 高音
5	規則の保存	15-8	高音 - 低音 - 高音 - 低音

この規則の入力中にエラーが発生した場合、**15-9 ページの「規則の入力を終了」バーコード**をスキャンします。すでに規則を保存している場合は、**15-9 ページの「以前保存した規則の消去」バーコード**をスキャンします。

代替の規則セット

ADF 規則を 4 つの代替セットのうちのいずれかに分類することができます。この分類は必要なときにオンまたはオフにできます。これは、同じメッセージを別の方法でフォーマットする場合に便利です。たとえば、Code 128 バーコードには次の情報が含まれています。

クラス (2 桁)、在庫番号 (8 桁)、価格 (5 桁)

バーコードは次のようになります。

245671243701500

値は次のとおりです。

クラス = 24

在庫番号 = 56712437

価格 = 01500

本来、データは次のように送信されます。

24 (クラス キー)

56712437 (在庫キー)

01500 (入力キー)

ただし、セールの場合は次のみが送信されます。

24 (クラス キー)

56712437 (在庫キー)

価格はレジ係が手入力します。

これを実装するには、通常の状態に適用する次のような ADF 規則を最初に入力します。

セット 1 に属する規則をスキャンする。15 桁のバーコードをスキャンする場合、次の 2 文字、クラス キー、次の 8 文字、在庫キー、残りのデータ、入力キーの順に送信する。

「セール」規則は次のようになります。

セット 2 に属する規則をスキャンする。15 桁のバーコードをスキャンする場合、次の 2 文字、クラス キー、次の 8 文字、在庫キーの順に送信する。

2 つの規則セットを切り替えるには、「規則の切り替え」をプログラミングして、規則セット間の切り替えを行うにはどのタイプのバーコードをスキャンするかを指定します。たとえば、上記の「セール」規則の場合、セールの前にレジ係がバーコード「M」をスキャンするような規則をプログラミングします。そのためには次の規則を入力します。

「M」から始まる 1 桁のバーコードをスキャンしたら、規則セット番号 1 を選択する。

戻るには別の規則をプログラミングします。

「N」から始まる 1 桁のバーコードをスキャンしたら、規則セット番号 1 をオフにする。

または、「セール」規則内に、通常の状態に戻す設定を含めます。

15 桁のバーコードをスキャンする場合は、次の 2 文字、クラス キー、次の 8 文字、在庫キーの順に送信し、規則セット 1 をオフにする。

最適な結果を得るためには、代替規則セットに属する規則をプログラミングしてから [15-10 ページの「すべての規則セットを無効にする」](#)バーコードをスキャンします。

規則内で規則セットを有効/無効にするだけでなく、[15-10 ページ](#)の適切なバーコードをスキャンすることで規則セットを有効/無効にすることができます。

規則の階層 (バーコード内)

個々の規則をプログラミングする順序は重要です。最も一般的な規則を最初にプログラムします。

プログラミングされたすべての規則はバッファに保存されます。規則がプログラミングされると、その規則は規則リストの「一番上」に保存されます。3 つの規則を作成した場合、リストは次のように構成されます。

3 番目の規則

2 番目の規則

1 番目の規則

データをスキャンしたときに規則のリストが上から下にチェックされ、条件に一致するかどうか判断されます (それからアクションが発生します)。最初に一致する条件のセットによって指定されたデータ フォーマットに入力が変換されます。最も一般的な規則を最初にプログラミングするようにしてください。

たとえば、3 番目の規則が次のような内容であるとします。

任意の桁数のバーコードをスキャンしたら、すべてのデータを送信し、ENTER キーを送信する。

2 番目の規則が次のような内容であるとしてします。

12 桁の Code 128 バーコードをスキャンする場合、最初の 4 文字を送信し、ENTER キーを送信してから、残りのすべてのデータを送信する。

すると、12 桁の Code 128 バーコードをスキャンしたときに 3 番目の規則が適用され、2 番目の規則は機能しません。

標準のデータ編集機能を使用すると、ADF 規則も作成されることに注意してください。スキャン オプションが ADF 規則として入力され、前述の階層はこれらにも適用されます。デジタル スキャナでは、パラメータ [4-20 ページの「スキャン データ転送フォーマット」](#)でのプリフィックス/サフィックス設定にもこの階層が適用されます。

これらの規則は同じ「規則リスト」内で ADF 規則として存在しています。

デフォルトの規則

各装置には、すべてのスキャン データを送信するためのデフォルトの規則があります。カスタム ソフトウェアを使用する装置では、1 つまたは複数のデフォルトの規則が備わっている場合もあります。規則の階層では、ユーザー設定が可能な規則を最初にチェックしてからデフォルトの規則がチェックされます。次の一般的な規則をユーザー設定が可能なバッファ内に入力すると、デフォルトの規則を無効にできます。

スキャン データを受信したら、すべてのデータを送信する。

この規則は常に適用されるため、ADF はデフォルトの規則を適用しなくなります。

ADF バーコード

[表 15-1](#)に、ADF で使用可能なバーコードの一覧を示します。

表 15-1 ADF バーコード

パラメータ	ページ番号
「特殊コマンド」	15-8
「一時停止の期間」	15-8
「新しい規則の開始」	15-8
「規則の保存」	15-8
「消去」	15-9
「規則の入力を終了」	15-9
「規則セットを無効にする」	15-10
「条件」	15-11
「コードタイプ」	15-11
「コードの読み取り桁数」	15-18
「1 文字」- 「6 文字」	15-18
「7 文字」- 「13 文字」	15-19
「14 文字」- 「20 文字」	15-20

表 15-1 ADF バーコード (続き)

パラメータ	ページ番号
「21 文字」- 「27 文字」	15-21
「28 文字」- 「30 文字」	15-22
「先頭の特定の文字列」	15-22
「任意の位置にある特定の文字列」	15-23
「特定の文字列の検索」	15-23
「任意のメッセージを許可」	15-23
「数字キーパッド」	15-24
「セットに属する規則」	15-26
「アクション」	15-27
「データの送信」	15-27
「文字までのデータを送信」	15-27
「次の文字を送信」	15-27
「残りすべてのデータを送信」	15-27
「次の 2 文字を送信」- 「次の 20 文字を送信」	15-27
「カーソルを移動」	15-32
「一時停止の送信」	15-33
「前方へスキップ」	15-34
「後方へスキップ」	15-35
「事前に設定した値の送信」	15-37
「すべてのスペースの削除」	15-38
「すべてのスペースの切り詰め」	15-38
「スペースの削除の停止」	15-38
「先行ゼロの削除」	15-38
「ゼロの削除の停止」	15-38
「スペースでデータを埋め込む」	15-39
「ゼロでデータを埋め込む」	15-43
「ピープ音」	15-48
「キーストロークの送信 (制御文字およびキーボード文字)」	15-48

表 15-1 ADF バーコード (続き)

パラメータ	ページ番号
「キーボード文字」	15-53
「ALT 文字の送信」	15-67
「キーパッド文字の送信」	15-72
「ファンクション キーの送信」	15-77
「F1 キーの送信」- 「F24 キーの送信」	15-77
「PF1 キーの送信」- 「PF30 キーの送信」	15-80
「右側の Ctrl キーの送信」	15-84
「グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信」	15-85
「GUI 0 の送信」- 「GUI 9 の送信」	15-85
「GUI A の送信」- 「GUI Z の送信」	15-86
「規則セットのオン/オフ」	15-90
「英数字キーボード」	15-92
「スペース」- 「'」	15-92
「0」- 「9」	15-96
「A」- 「Z」	15-97
「キャンセル」	15-101
「メッセージの終わり」	15-101
「a」- 「z」	15-101
「{」- 「~」	15-105

特殊コマンド

一時停止の期間

15-33 ページの「一時停止の送信」に従ってこのパラメータを使用して、データ送信に一時停止を挿入します。0.1 秒を表す 2 桁の数字 (つまり 2 つのバーコード) を付録 D 「数字バーコード」からスキャンして、0.1 秒から 9.9 秒の範囲で一時停止を設定します。たとえば、バーコード 0 と 1 をスキャンすると 0.1 秒の一時停止を挿入し、0 と 5 をスキャンすると 0.5 秒の遅延を挿入します。デフォルトは 1 秒です。間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、D-2 ページの「キャンセル」をスキャンします。



一時停止の期間

新しい規則の開始

次のバーコードをスキャンして、新しい規則の入力を開始します。



新しい規則の開始

規則の保存

次のバーコードをスキャンして、規則を保存します。



規則の保存

消去

条件、アクション、または規則を消去するには、次のバーコードを使用します。



条件を消去して再び開始



アクションを消去して再開



以前保存した規則の消去



すべての規則を消去

規則の入力を終了

次のバーコードをスキャンして、規則の入力を終了します。



規則の入力を終了

規則セットを無効にする

規則セットを無効にするには、次のバーコードを使用します。



規則セット 1 を無効にする



規則セット 2 を無効にする



規則セット 3 を無効にする



規則セット 4 を無効にする



すべての規則セットを無効にする

条件

コードタイプ

すべてのコードに対するバーコードをスキャンして、規則の影響を受けるようにします。他の条件を選択する前にコードを連続でスキャンします。すべてのコードタイプを選択するには、コードタイプをスキャンしないでください。



Code 39



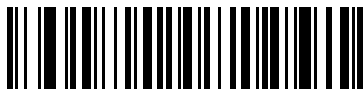
Codabar



GS1 DataBar-14



GS1 DataBar Limited



GS1 DataBar Expanded



Code 128



D 2 of 5

コードタイプ(続き)



IATA 2 of 5



12 of 5



Code 93



UPC-A



UPC-E



EAN-8



EAN-13



ISSN

コードタイプ(続き)



MSI



GS1-128
(以前の UCC/EAN-128)



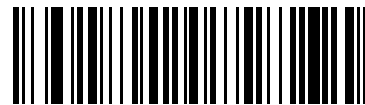
UPC-E1



Bookland EAN



Trioptic Code 39



Code 11



Code 32

コードタイプ(続き)



ISBT 128



クーポンコード



Chinese 2 of 5



Matrix 2 of 5



Korean 3 of 5



US Postnet



US Planet

コードタイプ(続き)



UK Postal



Japan Postal



Australian Postal



Netherlands KIX Code



USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail



UPU FICS Postal



PDF417



MicroPDF

コードタイプ(続き)



Macro PDF



Macro MicroPDF



MaxiCode



Data Matrix



QR Code



MicroQR



TLC 39

コードタイプ(続き)



UPC/EAN コンポジット



GS1 DataBar と GS1-128 コンポジット



Aztec



Aztec Rune

- ✓ **注** コンポジット バーコードを選択する場合、UPC または EAN コンポジット データの解析やシンボル セパレータを使用するアプリケーションからのデータの解析では、AIM ID を許可します。

コードの読み取り桁数

次のバーコードをスキャンして、選択したコードタイプに含まれる必要がある文字数を定義します。1つの規則につき1つの桁数を選択します。任意の桁数のコードタイプを選択する場合、コードの読み取り桁数を選択しないでください。



1 文字



2 文字



3 文字



4 文字



5 文字

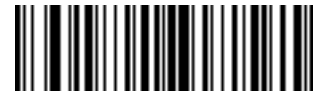


6 文字

コードの読み取り桁数(続き)



7 文字



8 文字



9 文字



10 文字



11 文字



12 文字



13 文字

コードの読み取り桁数(続き)



14 文字



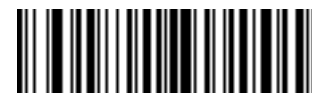
15 文字



16 文字



17 文字



18 文字



19 文字



20 文字

コードの読み取り桁数(続き)



21 文字



22 文字



23 文字



24 文字



25 文字



26 文字



27 文字

コードの読み取り桁数 (続き)



28 文字



29 文字



30 文字

特定のデータ文字列を含むメッセージ

この機能を使用して、特定の文字またはデータ文字列で始まるデータ、または特定の文字またはデータ文字列を含むデータにフォーマットが影響を与えるかどうかを選択します。

5 つの機能があります。

- 先頭の特定の文字列
- 任意の位置にある特定の文字列
- 特定の文字列の検索
- 任意のメッセージを許可
- セットに属する規則

先頭の特定の文字列

1. 次のバーコードをスキャンします。
2. [15-92 ページの「英数字キーボード」](#) を使用して、目的の 1 文字または複数の文字 (合計 8 文字まで) を表すバーコードをスキャンします。
3. [15-101 ページの「メッセージの終わり」バーコード](#) をスキャンします。



先頭の特定の文字列

任意の位置にある特定の文字列

1. 次のバーコードをスキャンします。
2. **15-24 ページの「数字キーパッド」**を使用して、位置を表す 2 桁の数字 (必要な場合は先行する「ゼロ」を使用) をスキャンすることで、位置を入力します。
3. **15-92 ページの「英数字キーボード」**を使用して、目的の 1 文字または複数の文字 (合計 8 文字まで) を表すバーコードをスキャンします。
4. **15-101 ページの「メッセージの終わり」バーコード**をスキャンします。



任意の位置にある特定の文字列

特定の文字列の検索

1. 次のバーコードをスキャンします。
2. **15-92 ページの「英数字キーボード」**を使用して、目的の 1 文字または複数の文字 (合計 10 文字まで) を表すバーコードをスキャンします。
3. **15-101 ページの「メッセージの終わり」**をスキャンします。



特定の文字列の検索

任意のメッセージを許可

含まれている情報にかかわらず、選択したすべてのコード タイプをフォーマットするには、バーコードを何もスキャンしません。

数字キーパッド

このページのバーコードを英数字キーボードのバーコードと混同しないようにしてください。



0



1



2



3



4



5



6

数字キーパッド(続き)



7



8



9



キャンセル

セットに属する規則

規則が含まれるセットを選択します。選択可能な規則セットは4つあります。規則セットの詳細については、[15-3 ページの「代替の規則セット」](#)を参照してください。



セット 1 に属する規則



セット 2 に属する規則



セット 3 に属する規則



セット 4 に属する規則

アクション

転送するデータのフォーマット方法を選択します。

データの送信

残りのすべてのデータを送信するか、[15-92 ページの「英数字キーボード」](#)から選択した特定の文字までのすべてのデータを送信するか、または次の X 文字を送信します。「次の 1 文字を送信」から「次の 20 文字を送信」に対するバーコードのみがここに表示されていることに注意してください。複数回スキャンすることで 20 を越える値を送信することができます。たとえば、次の 28 文字を送信するには、「次の 20 文字を送信」をスキャンしてから、「次の 8 文字を送信」をスキャンします。



文字までのデータを送信



残りすべてのデータを送信



次の文字を送信



次の 2 文字を送信



次の 3 文字を送信



次の 4 文字を送信

データの送信 (続き)



次の 5 文字を送信



次の 6 文字を送信



次の 7 文字を送信



次の 8 文字を送信



次の 9 文字を送信



次の 10 文字を送信



次の 11 文字を送信

データの送信 (続き)



次の 12 文字を送信



次の 13 文字を送信



次の 14 文字を送信



次の 15 文字を送信



次の 16 文字を送信



次の 17 文字を送信



次の 18 文字を送信

データの送信 (続き)



次の 19 文字を送信



次の 20 文字を送信

設定フィールド

表 15-2 設定フィールドの定義

パラメータ	説明	ページ
カーソルを移動		
特定の文字にカーソルを移動	「特定の文字にカーソルを移動」をスキャンし、任意の出力可能な ASCII 文字を 15-92 ページの「英数字キーボード」からスキャンします。これにより、一致する文字の後ろの位置にカーソルを移動します。文字がない場合は規則は適用されず、ADF は次の規則を試行します。	15-32
データの先頭にカーソルを移動	データの先頭にカーソルを移動するには、このバーコードをスキャンします。	15-32
文字の後にカーソルを移動	このアクションでは、選択した文字がすべて連続して出現した後にカーソルを移動します。たとえば、選択した文字が「A」であり、「A」、「AA」、「AAA」などの後にカーソルを移動する場合、「文字の後にカーソルを移動」をスキャンし、「英数字キーボード」から文字を選択します。文字がそのデータにない場合は、カーソルは移動しません（つまり、何も起こりません）。	15-32
特定の文字列の後にカーソルを移動	このアクションでは、選択した文字列が最初に出現した後にカーソルを移動します。「特定の文字列の後にカーソルを移動」をスキャンしてから、「英数字キーボード」を使用してキャラクタ（最高 10 文字）を選択します。15-101 ページの「メッセージの終わり」バーコードをスキャンします。	15-32
特定の文字列にカーソルを移動し、置換	このアクションでは、選択した文字列が最初に出現した位置にカーソルを移動し、その文字列をユーザーが定義した別の文字列に置換します。「特定の文字列にカーソルを移動し、置換」をスキャンしてから、「英数字キーボード」を使用して、マッチングと削除を行うキャラクタを英数字文字列（最大 10 文字）として入力します。「メッセージの終わり」をスキャンします。「英数字キーボード」を使用して、挿入するキャラクタを英数字文字列（最大 10 文字）として入力します。「メッセージの終わり」をスキャンします。	15-33
最後に表示した文字までカーソルを移動し、すべてを置換	このアクションでは、すべての選択された文字列を別のユーザー定義文字列に置換し、最後に表示した文字列の前にカーソルを移動します。「最後に表示した文字までカーソルを移動し、すべてを置換」をスキャンしてから、「英数字キーボード」を使用して、マッチングと削除を行うキャラクタを英数字文字列（最大 10 文字）として入力します。「メッセージの終わり」をスキャンします。「英数字キーボード」を使用して、挿入するキャラクタを英数字文字列（最大 10 文字）として入力します。「メッセージの終わり」をスキャンします。	15-33
スキップして終わりに移動	カーソルをデータの終わりに移動するには、「スキップして終わりに移動」をスキャンします。	15-33

表 15-2 設定フィールドの定義 (続き)

パラメータ	説明	ページ
前方の「N」文字をスキップ	これらのバーコードのいずれかをスキャンして、カーソルを前に移動する位置数を選択します。	15-34
後方の「N」文字をスキップ	これらのバーコードのいずれかをスキャンして、カーソルを後ろに移動する位置数を選択します。	15-35
事前に設定した値の送信	該当するバーコードをスキャンして、値 1 から値 6 を送信します。 これらの値は7-21 ページの表7-4のプリフィックス/サフィックス値を使用して設定します。 値 1 = スキャン サフィックス 値 2 = スキャン プリフィックス 値 3 ~ 6 は該当なし	15-35

カーソルを移動

特定の文字に関連してカーソルを移動するには、次のバーコードをスキャンします。その後、15-92 ページの「英数字キーボード」からバーコードをスキャンすることで文字を入力します。

- ✓ **注** 一致する文字がない場合は規則が失敗し、次の規則がチェックされます。



特定の文字にカーソルを移動



先頭にカーソルを移動



文字の後にカーソルを移動



特定の文字列の後にカーソルを移動

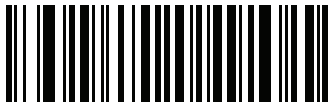
設定フィールド(続き)



特定の文字列にカーソルを移動し、置換



最後に出現した文字までカーソルを移動し、
すべてを置換



スキップして終わりに移動

一時停止の送信

以下のバーコードをスキャンして、データの転送で一時停止を挿入します。[15-8 ページの「一時停止の期間」](#)を参照して一時停止の長さを設定します。



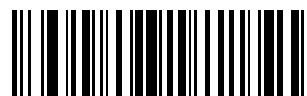
一時停止の送信

前方へスキップ

前方の文字をスキップするには、次のバーコードを使用します。



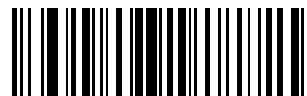
前方の 1 文字をスキップ



前方の 2 文字をスキップ



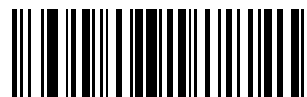
前方の 3 文字をスキップ



前方の 4 文字をスキップ



前方の 5 文字をスキップ



前方の 6 文字をスキップ



前方の 7 文字をスキップ

前方へスキップ (続き)



前方の 8 文字をスキップ



前方の 9 文字をスキップ



前方の 10 文字をスキップ

後方へスキップ

後方の文字をスキップするには、次のバーコードを使用します。



後方の 1 文字をスキップ



後方の 2 文字をスキップ



後方の 3 文字をスキップ

後方へスキップ(続き)



後方の 4 文字をスキップ



後方の 5 文字をスキップ



後方の 6 文字をスキップ



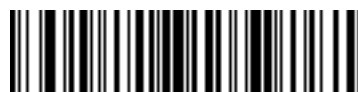
後方の 7 文字をスキップ



後方の 8 文字をスキップ



後方の 9 文字をスキップ



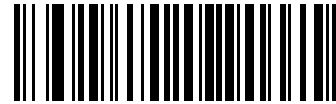
後方の 10 文字をスキップ

事前に設定した値の送信

事前に設定した値を送信するには、次のバーコードを使用します。4-19 ページの「[プリフィックス/サフィックス値](#)」を参照してこれらの値を設定します。



プリフィックスの送信



サフィックスの送信

データの変更

以下に説明されているようにデータを修正します。次のアクションは、規則内で従うすべてのコマンドに対して動作します。「ゼロを埋め込んで 6 桁にする」、「次の 3 文字を送信」、「埋め込みの停止」、「次の 5 文字を送信」とプログラミングすると、最初の送信にゼロが 3 つ追加され、次の送信では埋め込みは行われません。これらのオプションは、「キーストロークの送信」または「事前に設定した値の送信」のオプションには適用されません。

すべてのスペースの削除

次のコマンドですべてのスペースを削除するには、以下のバーコードをスキャンします。



すべてのスペースの削除

すべてのスペースの切り詰め

単語と単語の間にスペースを 1 つ残すには、以下のバーコードをスキャンします。これによって、すべての先頭と末尾のスペースも削除されます。



すべてのスペースの切り詰め

スペースの削除の停止

以下のバーコードをスキャンして、スペースの削除を無効にします。



スペースの削除の停止

先行ゼロの削除

以下のバーコードをスキャンして、すべての先行ゼロを削除します。



先行ゼロの削除

ゼロの削除の停止

以下のバーコードをスキャンして、ゼロの削除を無効にします。



ゼロの削除の停止

スペースでデータを埋め込む

データの左側を埋めるには、指定するスペース数を含むバーコードをスキャンします。「送信」コマンドを使用してこのパラメータを有効にします。



スペースを埋め込んで1桁にする



スペースを埋め込んで2桁にする



スペースを埋め込んで3桁にする



スペースを埋め込んで4桁にする



スペースを埋め込んで5桁にする



スペースを埋め込んで6桁にする



スペースを埋め込んで7桁にする

スペースでデータを埋め込む(続き)



スペースを埋め込んで 8 桁にする



スペースを埋め込んで 9 桁にする



スペースを埋め込んで 10 桁にする



スペースを埋め込んで 11 桁にする



スペースを埋め込んで 12 桁にする



スペースを埋め込んで 13 桁にする



スペースを埋め込んで 14 桁にする

スペースでデータを埋め込む(続き)



スペースを埋め込んで 15 桁にする



スペースを埋め込んで 16 桁にする



スペースを埋め込んで 17 桁にする



スペースを埋め込んで 18 桁にする



スペースを埋め込んで 19 桁にする



スペースを埋め込んで 20 桁にする



スペースを埋め込んで 21 桁にする

スペースでデータを埋め込む(続き)



スペースを埋め込んで 22 桁にする



スペースを埋め込んで 23 桁にする



スペースを埋め込んで 24 桁にする



スペースを埋め込んで 25 桁にする



スペースを埋め込んで 26 桁にする



スペースを埋め込んで 27 桁にする



スペースを埋め込んで 28 桁にする

スペースでデータを埋め込む(続き)



スペースを埋め込んで 29 桁にする



スペースを埋め込んで 30 桁にする



スペースの埋め込みの停止

ゼロでデータを埋め込む

左側にデータを埋め込むには、指定するゼロの数を含むバーコードをスキャンします。「送信」コマンドを使用してこのパラメータを有効にします。



ゼロを埋め込んで 1 桁にする



ゼロを埋め込んで 2 桁にする



ゼロを埋め込んで 3 桁にする

ゼロでデータを埋め込む(続き)



ゼロを埋め込んで 4 桁にする



ゼロを埋め込んで 5 桁にする



ゼロを埋め込んで 6 桁にする



ゼロを埋め込んで 7 桁にする



ゼロを埋め込んで 8 桁にする



ゼロを埋め込んで 9 桁にする



ゼロを埋め込んで 10 桁にする

ゼロでデータを埋め込む(続き)



ゼロを埋め込んで 11 桁にする



ゼロを埋め込んで 12 桁にする



ゼロを埋め込んで 13 桁にする



ゼロを埋め込んで 14 桁にする



ゼロを埋め込んで 15 桁にする



ゼロを埋め込んで 16 桁にする



ゼロを埋め込んで 17 桁にする

ゼロでデータを埋め込む(続き)



ゼロを埋め込んで 18 桁にする



ゼロを埋め込んで 19 桁にする



ゼロを埋め込んで 20 桁にする



ゼロを埋め込んで 21 桁にする



ゼロを埋め込んで 22 桁にする



ゼロを埋め込んで 23 桁にする



ゼロを埋め込んで 24 桁にする

ゼロでデータを埋め込む(続き)



ゼロを埋め込んで 25 桁にする



ゼロを埋め込んで 26 桁にする



ゼロを埋め込んで 27 桁にする



ゼロを埋め込んで 28 桁にする



ゼロを埋め込んで 29 桁にする



ゼロを埋め込んで 30 桁にする



ゼロの埋め込みの停止

ビープ音

各 ADF 規則に対するビープ シーケンスを選択します。



1 回ビープ音を鳴らす



2 回ビープ音を鳴らす



3 回ビープ音を鳴らす

キーストロークの送信 (制御文字およびキーボード文字)

制御文字

キーストロークの「送信」バーコードをスキャンして送信します。



Control 2 の送信



Control A の送信



Control B の送信

制御文字 (続き)



Control C の送信



Control D の送信



Control E の送信



Control F の送信



Control G の送信



Control H の送信



Control I の送信

制御文字 (続き)



Control J の送信



Control K の送信



Control L の送信



Control M の送信



Control N の送信



Control O の送信



Control P の送信

制御文字 (続き)



Control Q の送信



Control R の送信



Control S の送信



Control T の送信



Control U の送信



Control V の送信



Control W の送信

制御文字 (続き)



Control X の送信



Control Y の送信



Control Z の送信



Control [の送信



Control ¥ の送信



Control] の送信

制御文字 (続き)



Control 6 の送信



Control - の送信

キーボード文字

キーボード文字の「送信」バーコードをスキャンして送信します。



! の送信



" の送信



の送信

キーボード文字 (続き)



\$ の送信



% の送信



& の送信



' の送信



(の送信



) の送信



* の送信

キーボード文字 (続き)



+ の送信



, の送信



- の送信



. の送信



/ の送信



0 の送信



1 の送信

キーボード文字 (続き)



2 の送信



3 の送信



4 の送信



5 の送信



6 の送信



7 の送信



8 の送信

キーボード文字 (続き)



9 の送信



: の送信



; の送信



< の送信



= の送信



> の送信



? の送信

キーボード文字 (続き)



@ の送信



A の送信



B の送信



D の送信



E の送信



F の送信

キーボード文字 (続き)



G の送信



H の送信



I の送信



J の送信



K の送信



L の送信



M の送信

キーボード文字 (続き)



N の送信



O の送信



P の送信



Q の送信



R の送信



S の送信



T の送信

キーボード文字 (続き)



U の送信



V の送信



W の送信



X の送信



Y の送信



Z の送信



[の送信

キーボード文字 (続き)



¥ の送信



] の送信



^ の送信



_ の送信



` の送信



a の送信



b の送信

キーボード文字 (続き)



d の送信



e の送信



f の送信



g の送信



h の送信



i の送信

キーボード文字 (続き)



j の送信



k の送信



l の送信



m の送信



n の送信



o の送信



p の送信

キーボード文字 (続き)



q の送信



r の送信



s の送信



t の送信



u の送信



v の送信



w の送信

キーボード文字 (続き)



x の送信



y の送信



z の送信



{ の送信



| の送信



} の送信



~ の送信

ALT 文字の送信



Alt 2 の送信



Alt @ の送信



Alt A の送信



Alt B の送信



Alt C の送信



Alt D の送信



Alt E の送信



Alt F の送信

ALT 文字の送信 (続き)



Alt G の送信



Alt H の送信



Alt I の送信



Alt J の送信



Alt K の送信



Alt L の送信



Alt M の送信

ALT 文字の送信 (続き)



Alt N の送信



Alt O の送信



Alt P の送信



Alt Q の送信



Alt R の送信



Alt S の送信



Alt T の送信

ALT 文字の送信 (続き)



Alt V の送信



Alt U の送信



Alt W の送信



Alt X の送信



Alt Y の送信



Alt Z の送信



Alt [の送信

ALT 文字の送信 (続き)



Alt ¥ の送信



Alt] の送信

キーパッド文字の送信



キーパッド*の送信



キーパッド+の送信



キーパッド-の送信



キーパッド.の送信



キーパッド/の送信



キーパッド0の送信



キーパッド1の送信

キーパッド文字の送信 (続き)



キーパッド 2 の送信



キーパッド 3 の送信



キーパッド 4 の送信



キーパッド 5 の送信



キーパッド 6 の送信



キーパッド 7 の送信

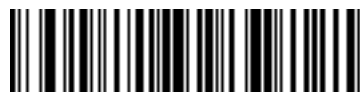


キーパッド 8 の送信

キーボード文字の送信 (続き)



キーボード 9 の送信



キーボード Enter の送信



キーボード Numlock の送信



Break キーの送信



Delete キーの送信



Page Up キーの送信



End キーの送信

キーボード文字の送信 (続き)



Page Down キーの送信



Pause キーの送信



Scroll Lock キーの送信



Backspace キーの送信



Tab キーの送信



Print Screen キーの送信



Insert キーの送信

キーボード文字の送信 (続き)



Home キーの送信



Enter キーの送信



Escape キーの送信



上矢印キーの送信



下矢印キーの送信



左矢印キーの送信



右矢印キーの送信

ファンクションキーの送信



F1 キーの送信



F2 キーの送信



F3 キーの送信



F4 キーの送信



F5 キーの送信



F6 キーの送信



F7 キーの送信

ファンクションキーの送信 (続き)



F8 キーの送信



F9 キーの送信



F10 キーの送信



F11 キーの送信



F12 キーの送信



F13 キーの送信



F14 キーの送信

ファンクションキーの送信 (続き)



F15 キーの送信



F16 キーの送信



F17 キーの送信



F18 キーの送信



F19 キーの送信



F20 キーの送信



F21 キーの送信

ファンクションキーの送信 (続き)



F23 キーの送信



F22 キーの送信



F24 キーの送信



PF1 キーの送信



PF2 キーの送信



PF3 キーの送信



PF4 キーの送信

ファンクションキーの送信 (続き)



PF5 キーの送信



PF6 キーの送信



PF7 キーの送信



PF8 キーの送信



PF9 キーの送信



PF10 キーの送信



PF11 キーの送信

ファンクションキーの送信 (続き)



PF12 キーの送信



PF13 キーの送信



PF14 キーの送信



PF15 キーの送信



PF16 キーの送信



PF17 キーの送信



PF18 キーの送信

ファンクションキーの送信 (続き)



PF19 キーの送信



PF20 キーの送信



PF21 キーの送信



PF22 キーの送信



PF23 キーの送信



PF24 キーの送信



PF25 キーの送信

ファンクションキーの送信 (続き)



PF26 キーの送信



PF27 キーの送信



PF28 キーの送信



PF29 キーの送信



PF30 キーの送信

右側の Ctrl キーの送信

「右側の Ctrl キーの送信」アクションは、右側の Ctrl キーのタップ (押して放す) を送信します。



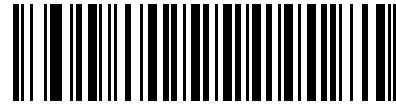
右側の Ctrl キーの送信

グラフィカルユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信

「グラフィカルユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信」アクションは、システム依存のグラフィカルユーザー インタフェース (GUI) キーを押しながら指定のキーをタップします。グラフィカルユーザー インタフェース キーの定義は、取り付けられているシステムに依存します。



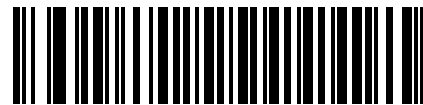
GUI 0 の送信



GUI 1 の送信



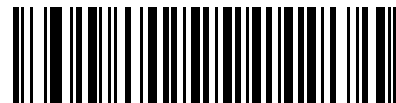
GUI 2 の送信



GUI 3 の送信



GUI 4 の送信

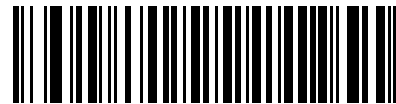


GUI 5 の送信

グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信 (続き)



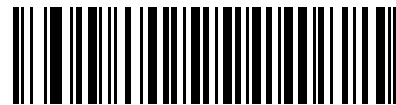
GUI 6 の送信



GUI 7 の送信



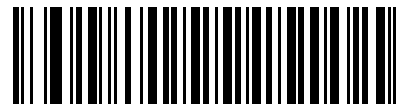
GUI 8 の送信



GUI 9 の送信



GUI A の送信

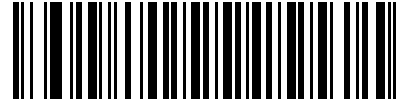


GUI B の送信

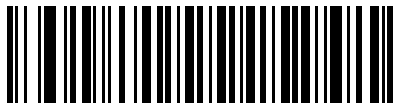


GUI C の送信

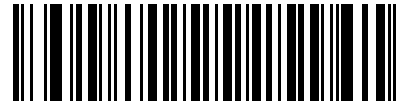
グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信 (続き)



GUI D の送信



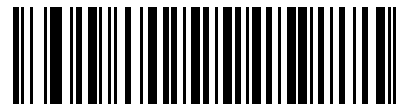
GUI E の送信



GUI F の送信



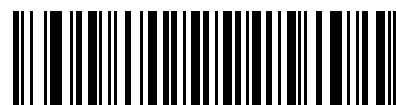
GUI G の送信



GUI H の送信



GUI I の送信

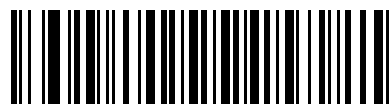


GUI J の送信

グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信 (続き)



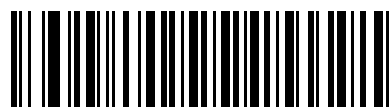
GUI K の送信



GUI L の送信



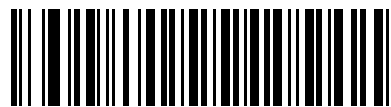
GUI M の送信



GUI N の送信



GUI O の送信



GUI P の送信



GUI Q の送信

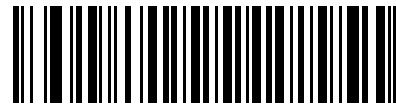
グラフィカルユーザーインターフェース(GUI)文字の送信(続き)



GUI R の送信



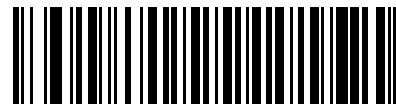
GUI S の送信



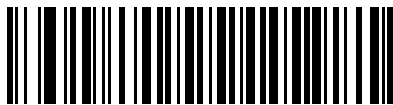
GUI T の送信



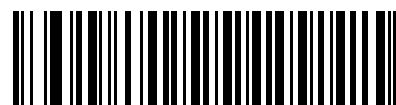
GUI U の送信



GUI V の送信



GUI W の送信

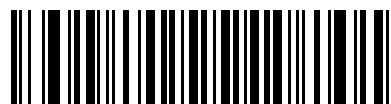


GUI X の送信

グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 文字の送信 (続き)



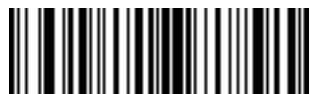
GUI Y の送信



GUI Z の送信

規則セットのオン/オフ

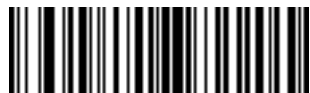
次のバーコードを使用して、規則セットをオンまたはオフに切り替えます。



規則セット 1 をオン



規則セット 2 をオン



規則セット 3 をオン



規則セット 4 をオン

規則セットのオン/オフ(続き)

次のバーコードを使用して、規則セットをオンまたはオフに切り替えます。



規則セット1をオフ



規則セット2をオフ



規則セット3をオフ



規則セット4をオフ

英数字キーボード



スペース



#



\$



%



*



+



-
(ダッシュ)

英数字キーボード(続き)



,



.



/



!



“



&



'



(

英数字キーボード(続き)



)



:



;



<



=



>



?

英数字キーボード(続き)



@



[



¥



]



^



(アンダースコア)



,

英数字キーボード(続き)

✓ 注 以下の数字バーコードを数字キーボード上のものと混同しないようにしてください。



0



1



2



3



4



5

英数字キーボード(続き)



6



7



8



9



A



B



C

英数字キーボード(続き)



D



E



F



G



H



I



J

英数字キーボード(続き)



K



L



M



N



O



P



Q

英数字キーボード(続き)



S



R



T



U



V



W



X

英数字キーボード(続き)



Y



Z



キャンセル



メッセージの終わり



a



b



c

英数字キーボード(続き)



e



d



f



g



h



i



j

英数字キーボード(続き)



k



l



m



n



o



p



q

英数字キーボード(続き)



s



r



t



u



v



w



x

英数字キーボード(続き)



y



z



{



|



}



~

付録 A 標準のデフォルト設定パラメータ

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
ユーザー設定			
デフォルト設定パラメータ		デフォルト設定に戻す	4-4
パラメータ スキャン	ECh	有効	4-5
ビープ音の音程	91h	中	4-5
ビープ音の音量	8Ch	高	4-5
電源投入時ビープ音の抑止	F1h D1h	抑止しない	4-6
電源モード	80h	常時オン	4-7
低電力モード遅延時間	92h	1 分	4-7
トリガ モード	8Ah	自動照準	4-8
ピクリスト モード	F0h 92h	常时无効	4-10
プレゼンテーション遅延時間モード	F1h、E9h	無効 (ベース付きスキャナでは 3 秒)	4-11
携帯電話/ディスプレイ モード	F1h CCh	無効	4-13
携帯電話デコード速度	F1h D6h	中	4-14
デコード セッション タイムアウト	88h	9.9 秒	4-15
同一バーコードの読み取り間隔	89h	0.6 秒	4-15
読み取り成功時のビープ音	38h	有効	4-16
ファジー 1D 処理	F1h、02h	有効	4-16

¹ このインターフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
ミラー イメージの読み取り	F1h、19h	いつも開始しない	4-17
その他のスキャナ オプション			
コード ID キャラクタの転送	2Dh	なし	4-18
プリフィックス値	63h、69h	7013 <CR><LF>	4-19
サフィックス 1 の値 サフィックス 2 の値	62h、68h 64h、6Ah	7013 <CR><LF>	4-19
スキャン データ転送フォーマット	EBh	データのみ	4-20
FN1 置換値	67h、6Dh	設定	4-21
「読み取りなし」メッセージの転送	5Eh	無効	4-22
シナプス インタフェース	F0h、ACh	標準シナプス接続	4-23
読み取り設定			
読み取り照明	F0h 2Ah	有効	5-3
照明バンク制御	F1h 3Bh	完全照明	5-4
読み取り照準パターン	F0h 32h	有効	5-5
低光量時の強調	F1h 64h	無効	5-5
プレゼンテーション モードの読み取り範囲	F1h 61h	デフォルト (縮小)	5-6
USB ホスト パラメータ			
USB デバイス タイプ		HID キーボード エミュレーション	6-5
USB 国キーボード タイプ (国コード)		英語 (U.S.)	6-7
キーストローク デレイ (USB 専用)		遅延なし	6-9
Caps Lock オーバーライド (USB 専用)		無効	6-9
不明な文字の無視 (USB 専用)		有効	6-10
キーパッドのエミュレート		無効	6-10
先行ゼロ付きキーパッドのエミュレート		無効	6-11
USB キーボードの FN1 置換		無効	6-11
USB 静的 CDC		有効	6-12
ファンクション キーのマッピング		無効	6-13
Caps Lock のシミュレート		無効	6-13

¹ このインタフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
大文字/小文字の変換		変換なし	6-14
RS-232 ホストのパラメータ			
RS-232 ホスト タイプ		標準 ¹	7-7
ボーレート		9600	7-8
パリティ タイプ		なし	7-11
ストップ ビットの選択		1 ストップ ビット	7-12
データ ビット		8 ビット	7-12
受信エラーのチェック		有効	7-13
ハードウェア ハンドシェイク		なし	7-13
ソフトウェア ハンドシェイク		なし	7-15
ホスト シリアル レスポンス タイムアウト		2 秒	7-17
RTS 制御線の状態		Low RTS	7-18
<BEL> によるビープ音		無効	7-18
キャラクタ間ディレイ		0 ミリ秒	7-19
Nixdorf のビープ音/LED オプション		通常動作	7-20
不明な文字の無視		バーコードを送信する	7-20
IBM 468X/469X ホスト パラメータ			
ポート アドレス		選択なし	8-4
不明バーコードを Code 39 に変換		無効	8-5
ワンド エミュレーションのホスト パラメータ			
ワンド エミュレーションのホスト タイプ		Symbol OmniLink Interface Controller ¹	9-4
先頭マージン		80 ミリ秒	9-5
極性		バー High/ マージン Low	9-6
不明な文字の無視		無視	9-6
すべてのバーコードを Code 39 に変換		無効	9-7
Code 39 を Full ASCII に変換		無効	9-8

¹ このインタフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
キーボード ウェッジのホストパラメータ			
キーボード ウェッジのホストタイプ		IBM PC/AT および IBM PC 互換機 ¹	11-4
国タイプ (国コード)		英語 (U.S.)	11-5
不明な文字の無視		送信	11-7
キーストローク デイレイ		遅延なし	11-7
キーストローク内デイレイ		無効	11-8
代替用数字キーパッド エミュレーション		無効	11-8
Caps Lock オン		無効	11-9
Caps Lock オーバーライド		無効	11-9
ウェッジ データの変換		変換なし	11-10
ファンクション キーのマッピング		無効	11-10
FN1 置換		無効	11-11
メーカー/ブレークの送信		送信	11-11
デコード機能なしのスキャナ エミュレーション			
ビープ音スタイル		転送成功時にビープ音	10-4
パラメータ パススルー		パラメータの処理および パススルー	10-5
新しいコードタイプの変換		新しいコードタイプの変換	10-6
モジュール幅		20 μ s	10-6
すべてのバーコードを Code 39 に変換		Code 39 に変換しない	10-7
Code 39 Full ASCII 変換		無効	10-7
転送タイムアウト		3 秒	10-8
不明な文字の無視		不明な文字の無視	10-9
先頭マージン		2 ミリ秒	10-9
読み取り LED のチェック		読み取り LED のチェック	10-10
123Scan² 設定ツール			
123Scan ² 設定		なし ¹	12-1
すべてのコードタイプ無効			13-7

¹ このインターフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
UPC/EAN			
UPC-A	01h	有効	13-8
UPC-E	02h	有効	13-8
UPC-E1	0Ch	無効	13-9
EAN-8/JAN 8	04h	有効	13-9
EAN-13/JAN 13	03h	有効	13-10
Bookland EAN	53h	無効	13-10
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (2桁および5桁)	10h	無視	13-11
ユーザーが設定できるサプリメンタル サプリメンタル 1: サプリメンタル 2:	F1h 43h F1h 44h		13-14
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの冗長性	50h	10	13-14
UPC-A チェック デジットの転送	28h	有効	13-16
UPC-E チェック デジットの転送	29h	有効	13-16
UPC-E1 チェック デジットの転送	2Ah	有効	13-17
UPC-A プリアンブル	22h	システム キャラクタ	13-18
UPC-E プリアンブル	23h	システム キャラクタ	13-19
UPC-E1 プリアンブル	24h	システム キャラクタ	13-20
UPC-E から A フォーマットへの変換	25h	無効	13-21
UPC-E1 から A フォーマットへの変換	26h	無効	13-21
EAN-8/JAN-8 Extend	27h	無効	13-22
Bookland ISBN フォーマット	F1h 40h	ISBN-10	13-23
UCC Coupon Extended Code	55h	無効	13-24
Coupon Report	F1h DAh	旧クーポン フォーマット	13-25
ISSN EAN	F1h 69h	無効	13-26
Code 128			
Code 128	08h	有効	13-27
Code 128 の読み取り桁数設定	D1h D2h	任意の読み取り桁数	13-27

¹ このインターフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
GS1-128 (以前の UCC/EAN-128)	0Eh	有効	13-29
ISBT 128	54h	有効	13-29
ISBT 連結	F1h 41h	無効	13-30
ISBT テーブルのチェック	F1h 42h	有効	13-31
ISBT 連結の読み取り繰返回数	DFh	10	13-31
Code 39			
Code 39	00h	有効	13-32
Trioptic Code 39	0Dh	無効	13-32
Code 39 から Code 32 への変換 (Italian Pharmacy Code)	56h	無効	13-33
Code 32 プリフィックス	E7h	無効	13-33
Code 39 の読み取り桁数設定	12h 13h	2 ~ 55	13-34
Code 39 チェック デジットの確認	30h	無効	13-36
Code 39 チェック デジットの転送	2Bh	無効	13-36
Code 39 Full ASCII 変換	11h	無効	13-37
Code 39 のバッファ	71h	無効	13-37
Code 93			
Code 93	09h	無効	13-40
Code 93 の読み取り桁数設定	1Ah 1Bh	4 ~ 55	13-40
Code 11			
Code 11	0Ah	無効	13-42
Code 11 の読み取り桁数設定	1Ch 1Dh	4 ~ 55	13-42
Code 11 チェック デジットの確認	34h	無効	13-44
Code 11 チェック デジットの転送	2Fh	無効	13-45
Interleaved 2 of 5 (ITF)			
Interleaved 2 of 5 (ITF)	06h	有効	13-45
I 2 of 5 の読み取り桁数設定	16h 17h	14	13-46
I 2 of 5 チェック デジットの確認	31h	無効	13-48
I 2 of 5 チェック デジットの転送	2Ch	無効	13-48

¹ このインターフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
I 2 of 5 から EAN 13 への変換	52h	無効	13-49
Discrete 2 of 5 (DTF)			
Discrete 2 of 5	05h	無効	13-49
D 2 of 5 の読み取り桁数設定	14h 15h	12	13-50
Codabar (NW - 7)			
Codabar	07h	無効	13-52
Codabar の読み取り桁数設定	18h 19h	5 ~ 55	13-52
CLSI 編集	36h	無効	13-54
NOTIS 編集	37h	無効	13-54
MSI			
MSI	0Bh	無効	13-55
MSI の読み取り桁数設定	1Eh 1Fh	4 ~ 55	13-55
MSI チェック デジット	32h	1	13-57
MSI チェック デジットの転送	2Eh	無効	13-57
MSI チェック デジットのアルゴリズム	33h	Mod 10/Mod 10	13-58
Chinese 2 of 5			
Chinese 2 of 5	F0h 98h	無効	13-58
Matrix 2 of 5			
Matrix 2 of 5	F1h 6Ah	無効	13-59
Matrix 2 of 5 読み取り桁数	F1h 6Bh F1h 6Ch	1 桁数 - 14	13-60
Matrix 2 of 5 チェック デジット	F1h 6Eh	無効	13-61
Matrix 2 of 5 チェック デジットの転送	F1h 6Fh	無効	13-61
Korean 3 of 5			
Korean 3 of 5	F1h 45h	無効	13-62
反転 1D	F1h 4Ah	標準	13-63
郵便番号			
US Postnet	59h	有効	13-64
US Planet	5Ah	有効	13-64

¹ このインターフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
US Postal チェック デジットの転送	5Fh	有効	13-65
UK Postal	5Bh	有効	13-65
UK Postal チェック デジットの転送	60h	有効	13-66
Japan Postal	F0h 22h	有効	13-66
Australian Postal	F0h 23h	有効	13-67
Australian Postal	F1h CEh	自動識別	13-68
Netherlands KIX Code	F0h 46h	有効	13-69
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	F1h 50h	無効	13-69
UPU FICS Postal	F1h 63h	無効	13-70
GS1 DataBar			
GS1 DataBar-14	F0h 52h	有効	13-71
GS1 DataBar Limited	F0h 53h	無効	13-71
GS1 DataBar Expanded	F0h 54h	有効	13-73
GS1 DataBar から UPC/EAN への変換	F0h 8Dh	無効	13-73
コンポジット			
コンポジット CC-C	F0h 55h	無効	13-74
コンポジット CC-A/B	F0h 56h	無効	13-74
コンポジット TLC-39	F0h 73h	無効	13-75
UPC コンポジット モード	F0h 58h	常時リンク	13-75
コンポジット ビープ音モード	F0h 8Eh	コードタイプが読み取られる たびに鳴る	13-76
GS1 コンポジット コードの GS1-128 エミュレーション モード (以前の UCC/EAN コンポジット コードの UCC/EAN Code 128 エミュレーション モード)	F0h ABh	無効	13-76
2D バーコード			
PDF417	0Fh	有効	13-77
MicroPDF417	E3h	無効	13-77
Code 128 エミュレーション	7Bh	無効	13-78
Data Matrix	F0h 24h	有効	13-79

¹ このインターフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。

表 A-1 標準のデフォルト設定パラメータの一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号	デフォルト	ページ番号
Data Matrix Inverse	F1h 4Ch	標準	13-79
Maxicode	F0h 26h	有効	13-80
QR Code	F0h 25h	有効	13-81
QR Inverse	F1h 4Bh	標準	13-81
MicroQR	F1h 3Dh	有効	13-82
Aztec	F1h 3Eh	有効	13-82
Aztec Inverse	F1h 4Dh	標準	13-83
読み取り可能コード - 特定のセキュリティ レベル			
冗長性レベル	4Eh	1	13-84
セキュリティ レベル	4Dh	1	13-86
キャラクタ間ギャップ サイズ	F0h 7Dh	通常	13-87
バージョン通知			13-87
Macro PDF			
Macro PDF バッファのクリア			13-88
Macro PDF 入力のキャンセル			13-88
運転免許所解析 (DS6708-DL のみ)			
運転免許証解析		運転免許証解析なし	14-2
¹ このインターフェースを設定するにはユーザーによる選択が必要で、最も一般的な選択肢がこの形式です。			

付録 B プログラミング リファレンス

シンボルコード ID

表 B-1 シンボルコード キャラクタ

コードキャラクタ	コードタイプ
A	UPC-A、UPC-E、UPC-E1、EAN-8、EAN-13
B	Code 39、Code 32
C	Codabar
D	Code 128、ISBT 128、ISBT 128 Concatenated
E	Code 93
F	Interleaved 2 of 5
G	Discrete 2 of 5 または Discrete 2 of 5 IATA
H	Code 11
J	MSI
K	GS1-128 (以前の UCC/EAN-128)
L	Bookland EAN
M	Trioptic Code 39
N	クーポンコード
R	GS1 DataBar ファミリ
S	Matrix 2 of 5
T	UCC Composite、TLC 39
U	Chinese 2 of 5

表 B-1 シンボルコードキャラクタ (続き)

コードキャラクタ	コードタイプ
V	Korean 3 of 5
X	ISSN EAN、PDF417、Macro PDF417、Micro PDF417
z	Aztec、Aztec Rune
P00	Data Matrix
P01	QR Code、MicroQR
P02	Maxicode
P03	US Postnet
P04	US Planet
P05	Japan Postal
P06	UK Postal
P08	Netherlands KIX Code
P09	Australian Postal
P0A	USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail
P0B	UPU FICS Postal

AIM コード ID

各 AIM コード ID は、**jcm** の 3 文字で構成されています。それぞれの意味は次のとおりです。

- j = フラグ キャラクタ (ASCII 93)
- c = コード キャラクタ (表 B-2 を参照)
- m = 修飾 キャラクタ (表 B-3 を参照)

表 B-2 AIM コード キャラクタ

コードキャラクタ	コードタイプ
A	Code 39、Code 39 Full ASCII、Code 32
C	Code 128、ISBT 128、ISBT 128 Concatenated、GS1-128、Coupon (Code 128 portion)
d	Data Matrix
E	UPC/EAN、Coupon (UPC 部分)
e	GS1 DataBar ファミリ
F	Codabar
G	Code 93
H	Code 11
I	Interleaved 2 of 5
L	PDF417、Macro PDF417、Micro PDF417
L@	TLC 39
M	MSI
Q	QR Code、MicroQR
S	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
U	Maxicode
z	Aztec、Aztec Rune
X	Bookland EAN、ISSN EAN、Trioptic Code 39、Chinese 2 of 5、Matrix 2 of 5、Korean 3 of 5、US Postnet、US Planet、UK Postal、Japan Postal、Australian Postal、Netherlands KIX Code、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UPU FICS Postal

修飾キャラクタは、当該オプションの値の和で、表 B-3 に基づいています。

表 B-3 修飾キャラクタ

コードタイプ	オプション値	オプション
Code 39	0	チェックキャラクタも Full ASCII 処理ありません。
	1	リーダーがチェックキャラクタをチェックしました。
	3	リーダーがチェックキャラクタをチェックし、取り除きました。
	4	リーダーが Full ASCII キャラクタ変換を行いました。
	5	リーダーが Full ASCII キャラクタ変換を行い、チェックキャラクタをチェックしました。
	7	リーダーが Full ASCII キャラクタ変換を行い、チェックキャラクタをチェックして取り除きました。
例: チェックキャラクタが W の Full ASCII バーコードの場合、A + I + MI + DW は JA7AIMID (ここで 7 = (3 + 4)) として転送されます。		
Trioptic Code 39	0	現時点でオプションは設定されていません。常に 0 を転送します。
	例: Trioptic バーコード 412356 は JX0412356 として転送されます。	
Code 128	0	標準データ パケット。最初のシンボル位置にファンクションコード 1 がありません。
	1	最初のシンボル位置にファンクションコード 1 があります。
	2	2 番目のシンボル位置にファンクションコード 1 があります。
	例: 最初の位置に FNC1 がある Code (EAN) 128 バーコードの場合、AIMID は、 JC1AIMID として転送されます。	
I 2 of 5	0	チェック デジット処理がありません。
	1	リーダーはチェック デジットをチェックしました。
	3	リーダーがチェック デジットをチェックし、取り除きました。
	例: チェック デジットのない I 2 of 5 バーコードの場合、4123 は、 J104123 として転送されます。	
Codabar	0	チェック デジット処理がありません。
	1	リーダーはチェック デジットをチェックしました。
	3	リーダーが転送前にチェック デジットを取り除きました。
	例: チェック デジットのない Codabar バーコードの場合、4123 は、 JF04123 として転送されます。	
Code 93	0	現時点でオプションは設定されていません。常に 0 を転送します。
	例: Code 93 バーコード 012345678905 は、 JG0012345678905 として転送されます。	

表 B-3 修飾キャラクタ (続き)

コードタイプ	オプション値	オプション
MSI	0	チェック デジットが送信されます。
	1	チェック デジットが送信されません。
	例: MSI バーコードで 1 つのチェック デジットがチェックされた場合、4123 は、 JM14123 として転送されます。	
D 2 of 5	0	現時点でオプションは設定されていません。常に 0 を転送します。
	例: D 2 of 5 バーコード 4123 は、 JS04123 として転送されます。	
UPC/EAN	0	フル EAN フォーマットの標準データ パケット、たとえば UPC-A、UPC-E、EAN-13 の 13 桁 (サプリメンタル データを含まない)。
	1	2 桁のサプリメンタル データのみ。
	2	5 桁のサプリメンタル データのみ。
	3	EAN-13、UPC-A から 13 桁で構成される、またはサプリメンタル シンボルから UPC-E 記号および 2 または 5 桁で構成される統合されたデータ パケット。
	4	EAN-8 データ パケット。
	例: UPC-A バーコード 012345678905 は JE00012345678905 として転送されます。	
Bookland EAN	0	現時点でオプションは設定されていません。常に 0 を転送します。
	例: Bookland EAN バーコード 123456789X は JX0123456789X として転送されます。	
ISSN EAN	0	現時点でオプションは設定されていません。常に 0 を転送します。
	例: An ISSN EAN バーコードの場合、123456789X は、 JX0123456789X として転送されます。	
Code 11	0	1 つのチェック デジット
	1	2 つのチェック デジット
	3	チェック キャラクタはチェックされますが、転送されません。
GS1 DataBar ファミリ		現時点でオプションは設定されていません。常に 0 を転送します。GS1 DataBar-14 および GS1 DataBar Limited では、アプリケーション ID 「01」 が一緒に転送されます。 注: GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) エミュレーション モードでは、GS1 DataBar は Code 128 規則 (つまり、JC1) を使用して転送されます。
	例: GS1 DataBar-14 バーコード 0110012345678902 は Je00110012345678902 として送信されます。	

表 B-3 修飾キャラクタ (続き)

コードタイプ	オプション値	オプション
EAN.UCC コンポジット (GS1 DataBar、GS1-128、UPC コンポジットの 2D 部分)		ネイティブ モード転送。 注: コンポジットの UPC 部分は UPC 規則を使用して送信されます。
	0	標準データ パケット。
	1	エンコードされたシンボル セパレータ文字に続くデータを含むデータ パケット。
	2	エスケープ制御文字に続くデータを含むデータ パケット。ECI プロトコルをサポートしないデータ パケット。
	3	エスケープ制御文字に続くデータを含むデータ パケット。ECI プロトコルをサポートするデータ パケット。
	1	GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) エミュレーション。 注: コンポジットの UPC 部分は UPC 規則を使用して送信されます。
PDF417、Micro PDF417	0	1994 PDF417 シンボル体系で定義されたプロトコル準拠に設定されたリーダー。注: このオプションが送信された場合、受信機は ECI が起動されたのか、送信においてデータ バイト 92 _{DEC} がダブルになったのかを確実に判定することができません。
	1	受信機は ECI プロトコル (拡張チャネル解釈) に従うよう設定されます。すべてのデータ キャラクタ 92 _{DEC} がダブルになります。
	2	受信機は基本チャネル操作 (エスケープ文字伝送プロトコルなし) に設定されます。データ キャラクタ 92 _{DEC} はダブルにされません。注: デコーダがこのモードに設定されると、バッファされていない Macro シンボルと、デコーダで ECI エスケープシーケンスの伝達が必要になるシンボルは送信できなくなります。
	3	バーコードには GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) シンボルが含まれており、最初のコードワードは 903 ~ 907、912、914、915 です。
	4	バーコードには GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) シンボルが含まれており、最初のコードワードの範囲は 908 ~ 909 です。
	5	バーコードには GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) シンボルが含まれており、最初のコードワードの範囲は 910 ~ 911 です。

表 B-3 修飾キャラクタ (続き)

コードタイプ	オプション値	オプション
Data Matrix	0	ECC 000-140、サポートされていません。
	1	ECC 200。
	2	ECC 200、FNC1 が 1 番目または 5 番目の位置。
	3	ECC 200、FNC1 が 2 番目または 6 番目の位置。
	4	ECC 200、ECI プロトコル実装。
	5	ECC 200、FNC1 が 1 番目または 5 番目の位置、ECI プロトコル実装。
	6	ECC 200、FNC1 が 2 番目または 6 番目の位置、ECI プロトコル実装。
MaxiCode	0	Mode 4 または 5 のシンボル。
	1	Mode 2 または 3 のシンボル。
	2	Mode 4 または 5 のシンボル、ECI プロトコル実装。
	3	Mode 2 または 3 のシンボル、セカンダリ メッセージに ECI プロトコル実装。
QR Code	0	Model 1 シンボル。
	1	Model 2/MicroQR シンボル、ECI プロトコル未実装。
	2	Model 2 シンボル、ECI プロトコル実装。
	3	Model 2 シンボル、ECI プロトコル未実装、1 番目の位置に FNC1 暗示。
	4	Model 2 シンボル、ECI プロトコル実装、1 番目の位置に FNC1 暗示。
	5	Model 2 シンボル、ECI プロトコル未実装、2 番目の位置に FNC1 暗示。
	6	Model 2 シンボル、ECI プロトコル実装、2 番目の位置に FNC1 暗示。
Aztec	0	Aztec シンボル。
	C	Aztec Rune シンボル。

付録 C サンプルバーコード

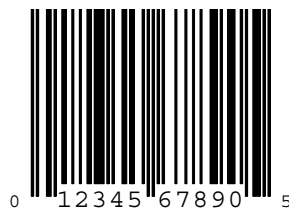
Code 39



123ABC

UPC/EAN

UPC-A、100%



EAN-13、100%



Code 128



Interleaved 2 of 5



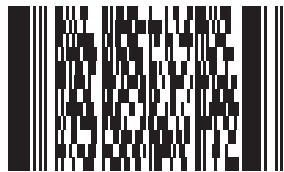
GS1 DataBar-14

- ✓ 注 以下のバーコードを読み取るには、DataBar-14 を有効にする必要があります (13-71 ページの「GS1 DataBar-14」を参照)。



7612341562341

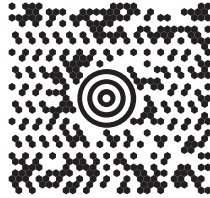
PDF417



Data Matrix



Maxicode



QR Code



US Postnet



UK Postal



付録 D 数字バーコード

数字バーコード

特定の数値が必要なパラメータについては、対応する番号の付いたバーコードをスキャンします。



数字バーコード(続き)



5



6



7



8



9

キャンセル

間違いを訂正したり、選択した設定を変更したりする場合は、次のバーコードをスキャンします。



キャンセル

付録 E ASCII キャラクタ セット

表 E-1 ASCII 値一覧

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1000	%U	CTRL 2
1001	\$A	CTRL A
1002	\$B	CTRL B
1003	\$C	CTRL C
1004	\$D	CTRL D
1005	\$E	CTRL E
1006	\$F	CTRL F
1007	\$G	CTRL G
1008	\$H	CTRL H/ BACKSPACE ¹
1009	\$I	CTRL I/ HORIZONTAL TAB ¹
1010	\$J	CTRL J
1011	\$K	CTRL K
1012	\$L	CTRL L
1013	\$M	CTRL M/ ENTER ¹
1014	\$N	CTRL N
1015	\$O	CTRL O

太字のキーストロークは、「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 E-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1016	\$P	CTRL P
1017	\$Q	CTRL Q
1018	\$R	CTRL R
1019	\$S	CTRL S
1020	\$T	CTRL T
1021	\$U	CTRL U
1022	\$V	CTRL V
1023	\$W	CTRL W
1024	\$X	CTRL X
1025	\$Y	CTRL Y
1026	\$Z	CTRL Z
1027	%A	CTRL [
1028	%B	CTRL ¥
1029	%C	CTRL]
1030	%D	CTRL 6
1031	%E	CTRL -
1032	スペース	スペース
1033	/A	!
1034	/B	“
1035	/C	#
1036	/D	\$
1037	/E	%
1038	/F	&
1039	/G	‘
1040	/H	(
1041	/I)
1042	/J	*

太字のキーストロークは、「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 E-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1043	/K	+
1044	/L	,
1045	-	-
1046	.	.
1047	/o	/
1048	0	0
1049	1	1
1050	2	2
1051	3	3
1052	4	4
1053	5	5
1054	6	6
1055	7	7
1056	8	8
1057	9	9
1058	/Z	:
1059	%F	;
1060	%G	<
1061	%H	=
1062	%I	>
1063	%J	?
1064	%V	@
1065	A	A
1066	B	B
1067	C	C
1068	D	D
1069	E	E

太字のキーストロークは、「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 E-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1070	F	F
1071	G	G
1072	H	H
1073	I	I
1074	J	J
1075	K	K
1076	L	L
1077	M	M
1078	N	N
1079	O	O
1080	P	P
1081	Q	Q
1082	R	R
1083	S	S
1084	T	T
1085	U	U
1086	V	V
1087	W	W
1088	X	X
1089	Y	Y
1090	Z	Z
1091	%K	[
1092	%L	¥
1093	%M]
1094	%N	^
1095	%O	_
1096	%W	`

太字のキーストロークは、「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 E-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1097	+A	a
1098	+B	b
1099	+C	c
1100	+D	d
1101	+E	e
1102	+F	f
1103	+G	g
1104	+H	h
1105	+I	i
1106	+J	j
1107	+K	k
1108	+L	l
1109	+M	m
1110	+N	n
1111	+O	o
1112	+P	p
1113	+Q	q
1114	+R	r
1115	+S	s
1116	+T	t
1117	+U	u
1118	+V	v
1119	+W	w
1120	+X	x
1121	+Y	y
1122	+Z	z
1123	%P	{

太字のキーストロークは、「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 E-1 ASCII 値一覧 (続き)

ASCII 値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1124	%Q	
1125	%R	}
1126	%S	~

太字のキーストロークは、「ファンクションキーのマッピング」を有効にした場合のみ送信されます。それ以外の場合、太字以外のキーストロークが送信されます。

表 E-2 ALT キー標準デフォルト一覧

ALT キー	キーストローク
2064	ALT 2
2065	ALT A
2066	ALT B
2067	ALT C
2068	ALT D
2069	ALT E
2070	ALT F
2071	ALT G
2072	ALT H
2073	ALT I
2074	ALT J
2075	ALT K
2076	ALT L
2077	ALT M
2078	ALT N
2079	ALT O
2080	ALT P
2081	ALT Q
2082	ALT R
2083	ALT S

表 E-2 ALT キー標準デフォルト一覧 (続き)

ALT キー	キーストローク
2084	ALT T
2085	ALT U
2086	ALT V
2087	ALT W
2088	ALT X
2089	ALT Y
2090	ALT Z

表 E-3 USB GUI キー キャラクタ セット

GUI キー	キーストローク
3000	右側の Ctrl キー
3048	GUI 0
3049	GUI 1
3050	GUI 2
3051	GUI 3
3052	GUI 4
3053	GUI 5
3054	GUI 6
3055	GUI 7
3056	GUI 8
3057	GUI 9
3065	GUI A
3066	GUI B
3067	GUI C
3068	GUI D
3069	GUI E
3070	GUI F

注: GUI シフト キー - Apple™ iMac キーボードのアップルキーは、スペースバーの隣にあります。Windows ペースのシステムの GUI キーは、左側の ALT キーの左隣と、右側の ALT キーの右隣にそれぞれ1つずつあります。

表 E-3 USB GUI キー キャラクタ セット (続き)

GUI キー	キーストローク
3071	GUI G
3072	GUI H
3073	GUI I
3074	GUI J
3075	GUI K
3076	GUI L
3077	GUI M
3078	GUI N
3079	GUI O
3080	GUI P
3081	GUI Q
3082	GUI R
3083	GUI S
3084	GUI T
3085	GUI U
3086	GUI V
3087	GUI W
3088	GUI X
3089	GUI Y
3090	GUI Z

注: GUI シフト キー - Apple™ iMac キーボードのアップルキーは、スペースバーの隣にあります。Windows ベースのシステムの GUI キーは、左側の ALT キーの左隣と、右側の ALT キーの右隣にそれぞれ1つずつあります。

表 E-4 PF キー標準デフォルト一覧

PF キー	キーストローク
4001	PF 1
4002	PF 2
4003	PF 3
4004	PF 4
4005	PF 5
4006	PF 6
4007	PF 7
4008	PF 8
4009	PF 9
4010	PF 10
4011	PF 11
4012	PF 12
4013	PF 13
4014	PF 14
4015	PF 15
4016	PF 16

表 E-5 F キー標準デフォルト一覧

F キー	キーストローク
5001	F 1
5002	F 2
5003	F 3
5004	F 4
5005	F 5
5006	F 6
5007	F 7
5008	F 8
5009	F 9
5010	F 10
5011	F 11
5012	F 12
5013	F 13
5014	F 14
5015	F 15
5016	F 16
5017	F 17
5018	F 18
5019	F 19
5020	F 20
5021	F 21
5022	F 22
5023	F 23
5024	F 24

表 E-6 数字キー標準デフォルト一覧

数字キーパッド	キーストローク
6042	*
6043	+
6044	未定義
6045	-
6046	.
6047	/
6048	0
6049	1
6050	2
6051	3
6052	4
6053	5
6054	6
6055	7
6056	8
6057	9
6058	Enter
6059	Num Lock

表 E-7 拡張キーパッド標準デフォルト一覧

拡張キーパッド	キーストローク
7001	Break
7002	Delete
7003	Pg Up
7004	End
7005	Pg Dn
7006	Pause
7007	Scroll Lock
7008	Backspace
7009	Tab
7010	Print Screen
7011	Insert
7012	Home
7013	Enter
7014	Escape
7015	↑
7016	↓
7017	←
7018	→

用語集

A

API. あるソフトウェア コンポーネントが他のコンポーネントと通信したり、他のコンポーネントを制御したりする際に使用するインターフェース。通常は、あるソフトウェア コンポーネントによって、ソフトウェアの割り込みや機能の呼び出しによって、他のコンポーネントに提供されるサービスを指します。

ASCII. American Standard Code for Information Interchange。128 文字、数字、句読点および制御文字を表す、7 ビット + パリティビットのコード。アメリカでの標準的なデータ転送コードです。

B

BIOS. Basic Input Output System の略。標準的な PC ハードウェアのインターフェースに使用する標準 API と、ROM ベースのコードをまとめたもの。

BOOTP. ディスクレス デバイスのリモート ブートに関するプロトコル。コンピュータに IP アドレスを割り当てて、ブート ファイルを指定します。クライアントはブロードキャストとして bootp サーバー ポート (67) へ bootp 要求を送信し、bootp サーバーは bootp クライアント ポート (68) を使用して応答します。bootp サーバーには、すべてのデバイス、関連する MAC デバイスおよび IP アドレスのテーブルが入っている必要があります。

bps. 「ビット/秒 (bps)」を参照してください。

C

CDRH. Center for Devices and Radiological Health (医療機器・放射線保健センター) の略。レーザー製品の安全性に関する規制を行う連邦政府機関。この機関は、レーザー操作時の電源出力に基づいて各種レーザー操作クラスを規定しています。

CDRH Class 1. 最も低いパワーの CDRH レーザー分類です。このクラスは、すべてのレーザー出力が目の瞳孔に向けられた場合でも本質的に安全であると見なされます。このクラスでは特別な操作手順は規定されていません。

CDRH Class 2. この制限に準拠するために追加のソフトウェア メカニズムを用意する必要はありません。このクラスのレーザーは、人体に意図的に直接照射しない限り、特に危険性はありません。

Codabar. セルフチェックを行うディスクリート コード。0 ~ 9 の数字と 6 つの追加文字 (- \$: / , +) で構成されるキャラクタ セットが含まれます。

Code 128. コントローラで 128 文字すべての ASCII 文字をシンボル要素を追加せずにエンコードできる、高密度な読み取り可能コード。

Code 3 of 9 (Code 39). 汎用性が高く広く使用されている英数字バーコードの記号体系。すべての大文字、0 ~ 9 の数字、および 7 つの特殊文字 (- ./ + % \$ およびスペース) を含む 43 種類のキャラクタで構成されます。このコード名は、キャラクタを示す 9 つの要素のうち 3 つが広く、残りの 6 つが狭いことに由来しています。

Code 93. Code 39 と互換性を持つ工業用読み取り可能コード。完全な ASCII キャラクタ セットを提供し、Code 39 よりも高い密度のコーディングを実現します。

COM ポート. 通信ポート。ポートは COM1 や COM2 など、数字で識別されます。

D

Discrete 2 of 5. 各キャラクタを 5 本のバー (うち 2 本の幅が広い) のグループで表す 2 進数のバーコード。グループ内の幅の広いバーの場所によって、エンコードされるキャラクタが決定されます。スペースは重要ではありません。数字キャラクタ (0 ~ 9) と、スタートまたはストップ キャラクタのみがエンコード可能です。

DRAM. Dynamic random access memory (ダイナミック ランダム アクセス メモリ) の略。

E

EAN. 欧州統一商品番号。これは UPC のヨーロッパ/国際版で、独自のコーディング形式と記号体系標準があります。エレメントの寸法はメートル法で指定されています。EAN は、主に小売業で使用されます。

ENQ (RS-232). ホストへ送信されるデータ用に、ENQ ソフトウェアによるハンドシェイキングもサポートされています。

ESD. Electro-Static Discharge (静電気放電) の略。

F

FTP. 「ファイル転送プロトコル」を参照してください。

H

Hz. ヘルツ。1 秒あたり 1 サイクルと同等の周波数の単位です。

I

IDE. Intelligent Drive Electronics の略。ソリッドステート ハード ドライブのタイプを指します。

IEC. International Electrotechnical Commission (国際電気標準会議) の略。この国際機関は、レーザー操作時の電源出力に基づいて各種レーザー操作クラスを規定することによって、レーザーの安全性を規制しています。

IEC (825) Class 1. 最も低いパワーの IEC レーザー分類です。この規格に準拠しているかどうかは、1000 秒の時間枠でレーザー操作が 120 秒間に制限されていることと、スキャナの振動ミラーが故障した場合にレーザーが自動シャットダウンされることによって確認されます。

IEEE アドレス.「MAC アドレス」を参照してください。

Interleaved 2 of 5. キャラクタのペアを 5 本のバーと 5 本のインターリーブスペースで構成されるグループで表す 2 進数の読み取り可能コード。インターリーブにより、情報の高密度化が可能になります。各グループ内の太いエレメント (バー/スペース) の位置は、エンコードされるキャラクタによって決まります。このコンティニuas コードタイプは、キャラクタ間スペースを使用しません。数字 (0 ~ 9) と、スタートまたはストップ キャラクタのみがエンコード可能です。

I/O ポート. 2 つのデバイス間を接続するインタフェース。共通の物理特性、信号特性、および信号の意味によって定義されます。インタフェースのタイプには、RS-232 や PCMCIA があります。

IOCTL. Input/Output Control (入出力制御) の略。

IP アドレス. (インターネット プロトコル アドレスの略) IP ネットワークに接続されたコンピュータのアドレス。すべてのクライアントおよびサーバー ステーションは、固有の IP アドレスを持っている必要があります。IP ネットワーク上のコンピュータでは、32 ビット アドレスが使用されます。クライアント ワークステーションには、固定アドレスか、セッションごとに動的にワークステーションに割り当てられるアドレスを設定します。IP アドレスは、ピリオドで分割された 4 セットの数字で記述されます。たとえば、204.171.64.2 などとなります。

IPX/SPX. Internet Package Exchange/Sequential Packet Exchange の略。Novell 用の通信プロトコルです。IPX は、XNS や IP に類似した Novell の第 3 層のプロトコルで、NetWare ネットワークで使用されます。SPX は、Xerox SPP プロトコルの Novell 版です。

IS-95. Interim Standard 95 の略。CDMA 携帯電話サービスの運用を規定する EIA/TIA 標準です。IS-95A と IS-95B のバージョンがあります。「CDMA」を参照してください。

L

LCD.「液晶ディスプレイ」を参照してください。

LED インジケータ. インジケータとして使用される半導体ダイオード (LED は発光ダイオード)。多くはデジタル ディスプレイに使用されます。この半導体は、印加電圧を使用して、ある特定の周波数の光を発生します。周波数は半導体の化学組成によって決定されます。

M

MIL. 1mil は 1 インチの 1/1000 です。

N

NVM. Non-Volatile Memory (不揮発性メモリ) の略。

O

ODI. 「Open Data-Link Interface」を参照してください。

Open Data-Link Interface (ODI). ネットワーク ハードウェアと高レベル プロトコルの間のインタフェースに関する、Novell のドライバ仕様。1 つの NIC (ネットワーク インタフェース コントローラ) で複数のプロトコルをサポートします。他の ODI 互換プロトコルから送信されたネットワーク情報や要求を理解し、NetWare クライアントが理解および処理可能なデータに変換することができます。

P

PAN . Personal area network (パーソナル エリア ネットワーク) の略。Bluetooth 無線テクノロジーを使用して、複数のデバイスが無線で通信できるようになります。一般的に無線 PAN は、約 10m の範囲内で通信する 254 台までのデバイスの動的なグループで構成されます。通常は、この限定された領域の中にあるデバイスのみがネットワークに参加できます。

PC カード. ラップトップ コンピュータやその他のデバイスに使用する、プラグイン拡張カード。PCMCIA カードともいいます。PC カードは長さ 85.6mm x 幅 54mm で、68 ピン コネクタが付いています。PC カードには、次のようなさまざまな種類があります。

- Type I: 厚さ 3.3mm、用途は RAM やフラッシュ RAM
- Type II: 厚さ 5mm、用途はモデムや LAN アダプタ
- Type III: 厚さ 10.5mm、用途はハード ディスク

PCMCIA. Personal Computer Memory Card Interface Association の略。「PC カード」を参照してください。

PING. Packet Internet Groper の略。特定の IP アドレスがオンラインであるかどうかを判断するために使用されるインターネット ユーティリティ。パケットを送信して応答を待つことで、ネットワークをテストしたりデバッグしたりするために使用されます。

Print Contrast Signal (PCS). シンボルのバーとスペースの間のコントラスト (明るさの違い) を測定した値。バーコードがスキャン可能になるには、最小限の PCS 値が必要です。PCS = (RL - RD)/RL と計算します。RL は背景の反射率、RD は暗いバーの反射率を表します。

Q

QWERTY. 北米と一部欧州の PC キーボードで一般的に使用される標準的なキーボード。「QWERTY」は、キーボードの上から 3 列目のキー配列を指します。

R

RAM. Random Access Memory (ランダム アクセス メモリ) の略。RAM 内のデータにはランダムな順序でアクセスでき、すばやい読み書きが可能です。

RF. Radio Frequency (無線周波数) の略。

ROM. Read-Only Memory (読み出し専用メモリ) の略。ROM に格納されたデータを変更または削除することはできません。

RS-232. 米国電子工業会 (EIA) の標準で、デバイス間でのデータのシリアル転送に使用するコネクタ、コネクタ ピンおよび信号を定義しています。

S

SDK. Software Development Kit (ソフトウェア開発キット) の略。

SHIP. Symbol Host Interface Program の略。

SID. System Identification code (システム識別コード) の略。業界ごとに FCC が発行する識別子です。携帯デバイスでホーム サービスとローミング サービスを区別できるようにするため、携帯電話キャリアでも SID をブロードキャストします。

STEP. Symbol Terminal Enabler Program の略。

SVTP. Symbol Virtual Terminal Program の略。

T

TCP/IP. Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略。異種システム間をネットワーク接続するために使用される通信プロトコルです。この標準はインターネットのプロトコルであり、通信に関するグローバルな標準となっています。TCP は転送機能を提供します。これにより、送信された合計バイト数が相手側で正しく受信されるようになります。UDP は代替的な転送機能で、配信は保証されません。UDP は、異常なパケットが再送されないリアルタイムの音声および映像の転送に使用されます。IP はルーティング メカニズムを備えています。TCP/IP はルーティング可能なプロトコルです。これは、すべてのメッセージに、宛先ステーションのアドレスだけでなく宛先ネットワークのアドレスも含まれていることを意味します。これにより組織内や世界中の複数のネットワークに TCP/IP メッセージを送信できるため、TCP/IP は世界中のインターネットで使用されています。TCP/IP ネットワーク内のすべてのクライアントとサーバーには、固定 IP アドレス、または起動時に動的に割り当てられる IP アドレスが必要です。

Telnet. インターネットや TCP/IP ベースのネットワークで一般的に使用される、ターミナル エミュレーション プロトコル。これにより、ターミナルやコンピュータを使用するユーザーがリモート デバイスにログオンし、プログラムを実行することができます。

Terminate and Stay Resident (TSR). DOS で動作するプログラム。ハードウェア/ソフトウェア割り込みに応答できるように、フォアグラウンドの実行の終了後もメモリ内に残り、バックグラウンド処理を実行します。メモリ内に常駐し、他の DOS プログラムに代わってサービスを提供することもあります。

TFTP. Trivial File Transfer Protocol (簡易ファイル転送プロトコル) の略。TCP/IP FTP (ファイル転送プロトコル) のバージョンの 1 つで、ディレクトリやパスワードの機能はありません。ファームウェアのアップグレード、ソフトウェアのダウンロード、およびディスクレス デバイスのリモート ブートに使用されるプロトコルです。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol.「TCP/IP」を参照してください。

TSR.「Terminate and Stay Resident」を参照してください。

U

UDP. User Datagram Protocol (ユーザー データグラム プロトコル) の略。IP プロトコル セットに含まれるプロトコルのひとつで、信頼性の高い配信が必要でない場合に、TCP に代わって使用されます。たとえば、再転送する時間がないためにパケットが失われても単純に無視されるようなリアルタイムの音声および映像のトラフィックに対して、UDP が使用されます。UDP を使用して信頼性の高い配信を行う必要がある場合は、パケット シーケンスのチェックとエラー通知をアプリケーション内に記述する必要があります。

UPC. Universal Product Code (ユニバーサル プロダクト コード) の略。比較的複雑な数字の読み取り可能コードです。各キャラクタは 2 つのバーと 2 つのスペースで構成され、そのそれぞれが 4 種類の幅のいずれかになります。米国での小売の食品パッケージで標準的に使用される読み取り可能コードです。

あ

アプリケーション プログラミング インタフェース.「API」を参照してください。

い

インターリーブド バーコード. キャラクタが 2 つ 1 組になったバーコード。バーを使用して最初のキャラクタを表し、間のスペースを使用して 2 番目のキャラクタを表します。

う

ウォーム ブート. ウォーム ブートは、実行中の全プログラムを終了してモバイル コンピュータを再起動します。フラッシュ メモリに保存されていないデータはすべて失われます。

え

液晶ディスプレイ (LCD). 2 枚のガラス板の間に封入された液晶を使用したディスプレイ。液晶は電圧を正確にかけることによって励起し、そのバイアスに従って光を外側に反射させます。消費電力が少なく、比較的高速で応答します。液晶の情報をユーザー側に反射するには、外光が必要となります。

エンコード領域. コード パターンのすべてのキャラクタ (スタート/ストップ キャラクタとデータを含む) が占める、全体的な長さの寸法。

お

オープン システム認証. オープン システム認証は、null 認証アルゴリズムです。

か

開口. 視界を設定するレンズやバツフルによって定義される、光学システムの開口部。

解像度. 特定の読み取りデバイスによって識別される、または特定のデバイスや方法で印刷される、最も幅の狭いエレメントの寸法。

可視半導体レーザー (VLD). 可視レーザー光を発生する、半導体素子を使用したデバイス。

簡易ファイル転送プロトコル. 「TFTP」を参照してください。

き

キー. データの暗号化や復号を行うためのアルゴリズムによって使用される特定のコード。「暗号化」と「復号」も参照してください。

基板. 実体やイメージが配置される基板の素材。

キャラクタ. バーとスペースで構成されるパターン。データを直接的に表現するか、数字や文字、句読点、メッセージ内の通信制御など、特定の制御機能を示します。

キャラクタ セット. 特定のバーコード記号体系で実行されるエンコードで利用可能なキャラクタ。

キャラクタ間ギャップ. ディスクリート コードでの、隣接する2つのバーコードキャラクタ間のスペース。

鏡面反射. 平面から鏡のように直接反射される光。これによってバーコードのデコードが困難になる場合があります。

共有キー. 共有キーによる認証は、AP と MU の両方で認証キーを共有するアルゴリズムです。

許容範囲. バーまたはスペースの幅の公称値からの許容される誤差。

く

クレードル. ターミナルのバッテリーの充電やホスト コンピュータとの通信に使用します。使用していないときは、ターミナルの保管場所となります。

クワイエットゾーン. バーコードのスタート キャラクタの前とストップ キャラクタの後ろにある、暗いマークが存在しない空白の部分。

こ

公称サイズ. バーコードの標準サイズ。多くの UPC/EAN コードは、一定の倍率の範囲 (公称値の 0.80 ~ 2.00) で使用されます。

公称値. 特定のパラメータの正確な (または理想的な) 目標値。この値からの正と負の誤差として、許容範囲が指定されます。

コードの読み取り桁数. バーコードの、スタート キャラクタとストップ キャラクタの間にあるデータ キャラクタの数 (スタート キャラクタとストップ キャラクタは含まない)。

コールド ブート. コールド ブートは、モバイル コンピュータを再起動し、ユーザーが保存したすべてのレコードやエントリを消去します。

コンティニアス コード. シンボル内のすべてのスペースがキャラクタの一部になるようなバーコードまたはシンボル。コンティニアス コードにはキャラクタ間ギャップがありません。ギャップがない分、情報密度が高くなります。

さ

サブネット. 1つのネットワーク上で、同じルーターのサービスを受ける複数のノードのサブセット。「ルーター」を参照してください。

サブネット マスク. IP アドレスのネットワーク部分とホスト部分を分離するために使用される 32 ビットの数字。カスタム サブネット マスクは、IP ネットワークをさらに小さなサブセクションに分割します。マスクはバイナリパターンであり、IP アドレスと組み合わせることで、ホスト ID アドレス フィールドの一部をサブネットのフィールドに置き換えます。多くの場合、デフォルトは 255.255.255.0 です。

し

自動識別. スキャンされたバーコードのコード タイプを判別する、インタフェース コントローラの機能。この識別を行うことから、情報コンテンツを読み取ります。

シンボル. 特定の読み取り可能コードの規則に従ってデータをエンコードする、スキャン可能な単位。通常はスタート/ストップ キャラクタ、クワイエット ゾーン、データ キャラクタおよびチェック キャラクタを含みます。

シンボル アスペクト比率. シンボルの幅に対する高さの比率。

シンボルの高さ. 最初の行と最後の行の、クワイエット ゾーンの外側の端の間の距離。

シンボルの長さ. スタート キャラクタに隣接するクワイエット ゾーン (マージン) の最初から、ストップ キャラクタに隣接するクワイエット ゾーン (マージン) の最後までを計測した、シンボルの長さ。

す

スキャナ. バーコードをスキャンし、シンボルのバーとスペースに対応するデジタル化されたパターンを作成するための電子デバイス。主なコンポーネントは次の3つです。1) 光源 (レーザーまたは光電セル) - バーコードに光を照射する、2) 光検出器 - 反射光の差異を登録する (スペースからより多くの光が反射される)、3) 信号処理回路 - 光検出器の出力をデジタル化されたバーのパターンに変換する。

スキャン エリア. シンボルを収めるための領域。

スキャン シーケンス. バーコードメニューをスキャンすることにより、バーコード読み取りシステムのパラメータをプログラミングまたは設定する方法。

スキャン モード. スキャナが通電され、プログラミングされてバーコードを読み取れる状態になっていること。

スタート/ストップ キャラクタ. スキャナに読み取りの開始と終了の指示やスキャン方向を提示するバーとスペースのパターン。通常、スタート キャラクタとストップ キャラクタは水平コードの左右のマージンに隣接しています。

スペース. バーコードで、バーの間の背景によって形成される明るいエレメント。

せ

セルフチェック機能付きコード. チェック アルゴリズムを使用して、バーコードのキャラクタ内にあるエンコードのエラーを検出する読み取り可能コード。

そ

ソフトリセット. 「ウォーム ブート」を参照してください。

た

端末エミュレーション. "ターミナル エミュレーション" では、メインフレーム以外のリモート ターミナルで、キャラクタベースのメインフレーム セッション (すべての表示機能、コマンドおよびファンクション キーを含む) をエミュレートします。VC5000 シリーズでは、3270、5250 および VT220 でターミナル エミュレーションをサポートしています。

ち

チェック デジット. シンボルが正しく読み取られているかどうかを検証するために使用する数字。スキャナは読み取ったデータを演算式に代入し、その結果算出された数字が、エンコードされていたチェック デジットと一致するかどうかを確認します。チェック デジットは、UPC では必須ですが、他の読み取り可能コードでは省略可能です。チェック デジットを使用すると、シンボルを読み取ったときに代入エラーが発生する可能性が小さくなります。

て

ディスクリート コード. キャラクタの間のスペース (キャラクタ間ギャップ) がコードに含まれない、バーコードまたはシンボル。

デコード. 読み取り可能コード (UPC/EAN など) を識別し、スキャンしたバーコードの内容を分析すること。

デコード アルゴリズム. パルス幅を、バーコード内でエンコードされた文字や数字のデータ表示に変換する読み取りスキーム。

デコード率. バーコードを 1 度スキャンして正しくデコードされる確率の平均値。上手く設計されたバーコード スキャンシステムでは、この確率が 100% に近くなります。

デッド ゾーン. スキャナの読み取り幅内の領域。ここで鏡面反射すると、正しく読み取れなくなる場合があります。

に

入出力ポート. I/O ポートは主に、ターミナルのメモリで情報を入力または出力するためのみに使用されます。9000 シリーズのモバイル コンピュータには、シリアル ポートと USB ポートが付いています。

は

バー. 印刷されたバーコードの黒い部分。

バーコード. さまざまな幅のバーとスペースのパターン。数字や英数字のデータを機械が読み取れる形式で表します。一般的なバーコードの形式は、先頭マージン、スタートキャラクタ、データキャラクタ (またはメッセージキャラクタ)、チェックキャラクタ (あれば)、ストップキャラクタ、および末尾マージンで構成されます。この枠組みの中で、認識可能な読み取り可能コードそれぞれが独自の形式を使用します。「**読み取り可能コード**」を参照してください。

バーコードの密度. 測定単位あたりの表示されるキャラクタ数 (インチあたりのキャラクタ数など)。

ハードリセット. 「**コールド ブート**」を参照してください。

バーの高さ. バーの幅に対して直角に測定したバーの寸法。

バーの幅. シンボルのスタートキャラクタに最も近い端から、同じバーの末尾の端までを測定したバーの太さ。

バイト. アドレス指定可能な境界上で、特定の文字や数値を表すパターン内で組み合わせられた、隣接した 8 桁の 2 進数 (0 と 1)。ビットには右から 0 ~ 7 の番号が付いており、ビット 0 が下位のビットです。メモリ内では、1 バイトを使用して 1 つの ASCII 文字を格納します。

発光ダイオード. 「**LED**」を参照してください。

パラメータ. さまざまな値を割り当てられた変数。

反射率. 照射された面から反射される光の量。

半導体レーザー. 電源に接続してレーザー光線を発生する、ガリウム砒素半導体タイプのレーザー。このタイプのレーザーは、コヒーレント光のコンパクトな光源です。

ひ

ビット. 1桁の2進数。1ビットが、バイナリ情報の基本単位です。一般的には、連続した8ビットが1バイトのデータを構成します。バイト内の0と1の値のパターンによって、そのバイトの意味が決定されます。

ビット/秒 (bps). 送信または受信されるビット数。

ふ

ブートまたはブートアップ. コンピュータが起動時に実行するプロセス。ブートアップ中、コンピュータは自己診断テストを実行したり、ハードウェアやソフトウェアを設定することができます。

復号. 受信した暗号データをデコードおよびスクランブル解除すること。「暗号化」と「キー」も参照してください。

フラッシュ ディスク. アプリケーションや設定ファイルを格納するために、不揮発性のメモリを補助する追加ストレージ。

フラッシュ メモリ. フラッシュメモリは、システム ファームウェアが保存されている不揮発性メモリです。システムの電源が遮断されても、データは失われません。

プログラミング モード. スキャナがパラメータ値用に構成されている状態。「スキャン モード」を参照してください。

ほ

ホスト コンピュータ. ネットワーク内の他のターミナルに、演算やデータベース アクセス、監視プログラム、ネットワーク制御などのサービスを提供するコンピュータ。

よ

要素. バーやスペースを表す汎用的な用語。

読み取り可能コード. 特定のバーコード タイプ (UPC/EAN、Code 39、PDF417 など) のデータを表すための構造的な規則と規約。

読み取り幅. スキャナがある一定の最小光源幅でシンボルを読み取れる最短距離と最長距離の間の範囲。

読み取りミス (誤復号). リーダーまたはインタフェース コントローラのデータ出力が、バーコードにエンコードされたデータと一致しない場合に発生する状況。

る

ルーター . ネットワークに接続して、パケットのフィルタリングに必要なプロトコルをサポートするデバイス。一般的には、配線の範囲を広げたり、ネットワークのトポロジをサブネットにまとめたりするために使用されます。「サブネット」を参照してください。

れ

レーザー . Light Amplification by Stimulated Emission of Radiation の略。強い光源です。白熱灯バルブから出力される光と異なり、レーザーからの光はすべて同じ周波数です。レーザー光は一般的にコヒーレントであり、高いエネルギー密度を持っています。

レーザー スキャナ . レーザー光のビームを使用するタイプのバーコードリーダー。

索引

数字

123Scan2	12-1
2D バーコード	
Aztec	13-82
Aztec Inverse	13-83
Code 128 エミュレーション	13-78
Data Matrix	13-79
Data Matrix Inverse	13-79
Maxicode	13-80
MicroPDF417	13-77
MicroQR	13-82
PDF417	13-77
QR Code	13-81
QR Inverse	13-81

A

AAMVA	
フィールド解析バーコード	14-6, 14-7, 14-8, 14-9, 14-10, 14-11, 14-12, 14-13, 14-14, 14-15
ADF	15-1
ALT 文字の送信	15-67
アクション	15-1, 15-27
カーソルの移動	15-32
データ送信	15-27
フィールドのセットアップ	15-31, 15-33
値の送信	15-37
英数字キーボード	15-92
規則	15-1
規則セットをオフ	15-90, 15-91
規則の階層	15-4
キーパッド文字の送信	15-72
キーボード文字の送信	15-53
後方の n 文字をスキップ	15-32
後方の文字をスキップ	15-35

コードタイプ	15-11
コードの読み取り桁数	15-18
最後に出現した文字までカーソルを移動し、 置換	15-31
事前に設定した値の送信	15-32
条件	15-1, 15-11
数字キーパッド	15-24, 15-25
スキップして終わりに移動	15-31
スペースで埋める	15-39
スペースの削除	15-38
制御文字の送信	15-48
ゼロの削除	15-38
ゼロを埋め込む	15-43
前方の n 文字をスキップ	15-32
前方の文字をスキップ	15-34
代替規則セット	15-3
データの先頭にカーソルを移動	15-31
デフォルトの規則	15-5
特殊コマンド	15-8
特定のデータ文字列	15-22
特定の文字にカーソルを移動	15-31
特定の文字列	
規則が属するセット	15-26
検索	15-23
先頭	15-22
任意の位置	15-23
任意のメッセージを許可	15-23
バーコードメニューの例	15-2
バーコードリスト	15-5
ビーブ音	15-48
ファンクション キーの送信	15-77
文字の後にカーソルを移動	15-31
文字列にカーソルを移動し、置換	15-31
文字列の後にカーソルを移動	15-31

ASCII 値	
RS-232	7-21
USB	6-15
キーボード ウェッジ	11-14

C

Codabar バーコード	
CLSI 編集	13-54
Codabar	13-52
NOTIS 編集	13-54
読み取り桁数	13-52, 13-53
Code 11 バーコード	
Code 11	13-42
読み取り桁数	13-42, 13-43, 13-47
Code 128 バーコード	
Code 128	13-27, 13-29
GS1-128	13-29
ISBT 連結	13-30, 13-31
ISBT 連結の読み取り繰返回数	13-31
読み取り桁数	13-27
Code 39 バーコード	
Code 39	13-32
Full ASCII	13-37
チェック デジットの確認	13-36
転送チェック デジット	13-36
バッファリング	13-37, 13-38
読み取り桁数	13-28, 13-34
Code 93 バーコード	
Code 93	13-40
読み取り桁数	13-40, 13-41
Code 128 エミュレーション バーコード	13-78

D

Data Matrix バーコード	13-79
Discrete 2 of 5 バーコード	
Discrete 2 of 5	13-49
読み取り桁数	13-50

G

GS1 DataBar	13-71
GS1 Databar	
GS1 Databar から UPC/EAN への変換	13-73

I

IBM 468X/469X	
接続	8-2
デフォルト パラメータ	8-3
パラメータ	8-4

Interleaved 2 of 5 バーコード	
EAN-13 への変換	13-49
チェック デジットの確認	13-48
転送チェック デジット	13-48

K

Korean 3 of 5 バーコード	13-62
---------------------	-------

L

LED の定義	2-4
---------	-----

M

Macro PDF	13-88
バッファのクリア/PDF 入力のキャンセル	13-88
Matrix 2 of 5 バーコード	13-59
チェック デジット	13-61
転送チェック デジット	13-61
読み取り桁数	13-60
Maxicode バーコード	13-80
MicroPDF417 バーコード	13-77
Motorola enterprise mobility support	xvii
MSI バーコード	
MSI	13-55
チェック デジット	13-57
チェック デジット アルゴリズム	13-58
転送チェック デジット	13-57
読み取り桁数	13-55, 13-56

P

PDF417 バーコード	13-77
--------------	-------

Q

QR Code バーコード	13-81
---------------	-------

R

RS-232	
接続	7-2
デフォルト設定パラメータ	7-4
パラメータ	7-5, 7-7

U

UPC/EAN バーコード	
Bookland EAN	13-10
Bookland ISBN	13-23
Coupon Report	13-25
EAN Zero Extend	13-22
EAN-13/JAN-13	13-10

EAN-8/JAN-8	13-9
ISSN EAN	13-26
UCC Coupon Extended Code	13-24
UPC-A	13-8
UPC-A プリアンブル	13-18
UPC-E	13-8
UPC-E1	13-9
UPC-E1 から UPC-A への変換	13-21
UPC-E から UPC-A への変換	13-21
UPC-E プリアンブル	13-19
サブリメンタル	13-11
サブリメンタル付き AIM ID フォーマット	13-15
チェック デジット	13-16, 13-17
USB	
接続	6-2
デフォルト設定パラメータ	6-4
パラメータ	6-5
あ	
アクション	15-2
い	
イメージング設定パラメータ	5-2
う	
運転免許証	
解析規則の例	14-16
解析バーコード	14-2
フィールド解析バーコード	14-3, 14-4, 14-5
き	
技術仕様	3-5
キーボード ウェッジ	
接続	11-2
デフォルト設定パラメータ	11-3
パラメータ	11-4
キャラクタ セット	
RS-232	7-21
USB	6-15
キーボード ウェッジ	11-14
く	
クワイエット ゾーン (先頭マージン)	9-5

け

ケーブル

インタフェース	1-4
ケーブルの取り外し	1-3
信号の意味	3-7
接続	1-3, 1-5

こ

構成	xv
高度なデータ フォーマット	15-1
ALT 文字の送信	15-67
アクション	15-1, 15-27
英数字キーボード	15-92
規則	15-1
規則セットをオフ	15-90, 15-91
規則の階層	15-4
キーパッド文字の送信	15-72
キーボード文字の送信	15-53
後方の文字をスキップ	15-35
コードタイプ	15-11
コードの読み取り桁数	15-18
事前に設定した値の送信	15-37
条件	15-1, 15-11
数字キーパッド	15-24, 15-25
スペースの削除	15-38
スペースを埋め込む	15-39
制御文字の送信	15-48
ゼロの削除	15-38
ゼロを埋め込む	15-43
前方の文字をスキップ	15-34
代替規則セット	15-3
デフォルトの規則	15-5
特殊コマンド	15-8
特定のデータ文字列	15-22
バーコードメニューの例	15-2
ビープ音	15-48
ファンクション キーの送信	15-77
フィールドのセットアップ	15-31, 15-33
コード ID	
AIM コード ID	B-3
修飾キャラクタ	B-4
シンボル	B-1
コードタイプ	
ADF	15-11
コンポジットバーコード	
Composite CC-A/B	13-74
Composite CC-C	13-74
Composite TLC-39	13-75
UPC コンポジット モード	13-75

さ

サービスに関する情報	xvii
サポート	xvii
サンプル バーコード	C-1

し

シナプス ケーブル	1-4
仕様	3-5
照準オプション	
読み取り照準パターン	5-5
照準パターン	2-5
向き	2-5, 2-6
有効	5-5
照準ヒント	2-6
照明	5-3
照明バンク制御	5-4
信号の意味	3-7

す

スキャナ エミュレーション接続	10-2
スキャナ エミュレーション デフォルト パラメータ	10-3
スキャン	
エラー	4-2, 5-2, 13-2
シーケンスの例	4-2, 5-2, 13-1
ハンドヘルド	2-4, 2-8
モードの切り替え	2-8

せ

接続	
IBM 468X/469X インタフェース	8-2
RS-232 インタフェース	7-2
USB インタフェース	6-2
インタフェース ケーブル	1-3, 1-5
キーボード ウェッジ インタフェース	11-2
シナプス ケーブル	1-4
スキャナ エミュレーション インタフェース	10-2
電源	1-4
ワンド エミュレーション インタフェース	9-2
設置	
卓上設置	1-6
セットアップ	
IBM 468X/469X ホストへの接続	8-2
RS-232 インタフェースの接続	7-2
USB インタフェースの接続	6-2
キーボード ウェッジ インタフェースの 接続	11-2
ケーブルの接続	1-3
スキャナ エミュレーションを使用した接続	10-2

電源の接続	1-4
パッケージの開梱	1-2
ワンド エミュレーションを使用した接続	9-2

て

低光量時の強調	5-5
デコードゾーン	
標準レンジ	2-9
デジタル スキャナ	
デフォルト	5-2
デフォルト設定パラメータ	
IBM 468X/469X	8-3
RS-232	7-4
USB	6-4
キーボード ウェッジ	11-3
標準デフォルト一覧	A-1
ユーザー設定	4-2
読み取り可能コード	13-2
ワンド エミュレーション	9-3
デフォルトパラメータ	
イメージング設定	5-2
スキャナ エミュレーション	10-3
電源の接続	1-4

と

トラブルシューティング	3-2
取り付け	
壁面取り付け	1-7

な

中黒	xvii
----	------

は

バーコード	10-4
AAMVA フィールド解析 セットアップ	14-6, 14-7, 14-8, 14-9, 14-10, 14-11, 14-12, 14-13, 14-14, 14-15
ADF リスト	15-5
Australia Post Format	13-68
Aztec	13-82
Aztec Inverse	13-83
Bookland EAN	13-10
Bookland ISBN	13-23
Chinese 2 of 5	13-58
Code 39	
バッファの転送	13-39
Code 39 Full ASCII 変換	10-7
Code 128 エミュレーション	13-78
Composite CC-A/B	13-74

- Composite CC-C 13-74
- Composite TLC-39 13-75
- Coupon Report 13-25
- Data Matrix 13-79
- Data Matrix Inverse 13-79
- Discrete 2 of 5
 - 読み取り桁数 13-51
- EAN-13/JAN-13 13-10
- EAN-8/JAN-8 13-9
- IBM 468X/469X
 - デフォルト設定パラメータ 8-3
 - 不明バーコードの Code 39 への変換 8-5
 - ポート アドレス 8-4
- Interleaved 2 of 5 13-45
 - EAN-13 への変換 13-49
 - 読み取り桁数 13-46
- Korean 3 of 5 13-62
- Macro バッファのクリア/Macro PDF 入力の
キャンセル 13-88
- Maxicode 13-80
- MicroPDF417 13-77
- MicroQR 13-82
- PDF417 13-77
- QR Inverse 13-81
- QR Code 13-81
- RS-232
 - <BEL>によるビーブ音 7-18
 - RTS 制御線の状態 7-18
 - キャラクタ間ディレイ 7-19
 - 受信エラーのチェック 7-13
 - ストップ ビットの選択 7-18
 - ソフトウェア ハンドシェイク 7-15, 7-16
 - データ ビット 7-12
 - デフォルト一覧 7-4
 - ハードウェア ハンドシェイク 7-13, 7-14
 - パリティ 7-11
 - ホスト シリアル レスポンス
タイムアウト 7-17
 - ホスト タイプ 7-7
 - ポーレート 7-8
- UPC/EAN
 - クーポン コード 13-24
 - サブリメンタルの読み取り繰返回数 13-14
- UPC/EAN/JAN
 - サブリメンタルの冗長性 13-14
- UPC-A 13-8
- UPC-E 13-8
- UPC-E1 13-9
- UPC コンポジット モード 13-75
- USB
 - Caps Lock オーバーライド 6-9
 - キーストローク ディレイ 6-9
 - 国キーボード タイプ 6-7
 - 静的 CDC 6-12
 - デバイス タイプ 6-5, 6-6
 - デフォルト一覧 6-4
 - 不明な文字 6-10
 - 新しいコード タイプの変換 10-6
 - 運転免許証解析 14-2
 - キーボード文字の送信 14-26
 - 制御文字の送信 14-21
 - デフォルト設定 14-21
 - フィールド更新 14-20
 - 運転免許証フィールドの解析
セットアップ 14-3, 14-4, 14-5
 - キーボード ウェッジ
 - Caps Lock オーバーライド 11-9
 - Caps Lock オン 11-9
 - キーストローク ディレイ 11-7
 - キーストローク内ディレイ 11-8
 - 国キーボード タイプ (国コード) 11-5
 - 代替用数字キーパッド
エミュレーション 11-8
 - デフォルト一覧 11-3
 - 不明な文字の無視 11-7
 - ホスト タイプ 11-4
 - キャンセル D-2
 - 携帯電話/表示モード 4-13, 4-14
 - サブリメンタル 13-11
 - サブリメンタル付き AIM ID フォーマット 13-15
 - サンプル C-1
 - シミュレーションされたスキャンの
基本操作 4-11
 - 照明 5-3
 - 照明バンク制御 5-4
 - 数字バーコード D-2
 - スキャナ エミュレーション
 - Code 39 Full ASCII 変換 10-7
 - 新しいコード タイプの変換 10-6
 - 先頭マージン 10-9, 10-10
 - デフォルト一覧 10-3
 - 転送タイムアウト 10-8
 - バーコードを Code 39 に変換 10-7
 - パラメータ パススルー 10-5
 - ビーブ音スタイル 10-4
 - 不明な文字の無視 10-9
 - ホスト 10-4
 - モジュール幅 10-6
 - 読み取り LED のチェック 10-10
 - スキャナ エミュレーション ホスト 10-4
 - すべてのコード タイプを無効にする 13-7
 - 先頭マージン 10-9, 10-10
 - その他
 - 「NR (読み取りなし)」メッセージの
転送 4-22
 - スキャン データ オプション 4-20
 - 低光量時の強調 5-5
 - デコード セッション タイムアウト 4-15

デジタル スキャナ			
デフォルト一覧	5-2		
データ オプション	4-18		
一時停止の期間	15-8		
コード ID キャラクタの転送	4-18		
プリフィックス/サフィックス値	4-19		
デフォルトの設定	4-4		
電源投入時ビープ音の抑止	4-6		
転送タイムアウト	10-8		
トリガ モード	4-8		
バーコードを Code 39 に変換	10-7		
パーサー バージョン ID	14-15		
パラメータのスキャン	4-5		
パラメータ パススルー	10-5		
反転 1D	13-63		
ピックリスト モード	4-10		
ビープ音の音程	4-5		
ビープ音の音量	4-6		
ファジー 1D 処理	4-16		
不明な文字の無視	10-9		
プリフィックス/サフィックス値	4-19		
プレゼンテーション遅延時間モード	4-11		
プレゼンテーション モードの読み取り範囲	5-6		
ミラー イメージの読み取り	4-17		
モジュール幅	10-6		
郵便コード	13-64		
読み取り LED のチェック	10-10		
読み取り可能コード			
Australian Postal	13-67		
Codabar	13-52		
Codabar CLSI 編集	13-54		
Codabar NOTIS 編集	13-54		
Codabar の読み取り桁数	13-52, 13-53		
Code 11	13-42		
Code 11 の読み取り桁数	13-42, 13-43, 13-47		
Code 128	13-27, 13-29		
Code 128 の読み取り桁数	13-27		
Code 39	13-32		
Code 39 Full ASCII	13-37		
Code 39 チェック デジットの確認	13-36		
Code 39 転送チェック デジット	13-36		
Code 39 の読み取り桁数	13-28, 13-34		
Code 93	13-40		
Code 93 の読み取り桁数	13-40, 13-41		
Discrete 2 of 5	13-49		
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数	13-50		
EAN Zero Extend	13-22		
GS1-128	13-29		
GS1 DataBar	13-71		
GS1 DataBar Expanded	13-73		
GS1 DataBar Limited	13-71, 13-72		
GS1 DataBar-14	13-71		
GS1 Databar から UPC/EAN への変換	13-73		
12 of 5 から EAN-13 への変換	13-49		
12 of 5 チェック デジットの確認	13-48		
12 of 5 転送チェック デジット	13-48		
ISBT 連結	13-30, 13-31		
ISBT 連結の読み取り繰返回数	13-31		
ISSN EAN	13-26		
Japan Postal	13-66		
Matrix 2 of 5	13-59		
Matrix 2 of 5 チェック デジット	13-61		
Matrix 2 of 5 チェック デジットの転送	13-61		
Matrix 2 of 5 の読み取り桁数	13-60		
MSI	13-55		
MSI チェック デジット	13-57		
MSI チェック デジット アルゴリズム	13-58		
MSI 転送チェック デジット	13-57		
MSI の読み取り桁数	13-55, 13-56		
Netherlands KIX Code	13-69		
UCC Coupon Extended Code	13-24		
UK Postal	13-65		
UK Postal チェック デジットの転送	13-66		
UPC-A/E/E1 チェック デジット	13-16, 13-17		
UPC-A プリアンブル	13-18		
UPC-E1 から UPC-A への変換	13-21		
UPC-E から UPC-A への変換	13-21		
UPC-E プリアンブル	13-19		
UPU FICS Postal	13-70		
US Planet	13-64		
US Postal チェック デジットの転送	13-65		
US Postnet	13-64		
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	13-69		
デフォルト一覧	13-2		
バッファリング	13-37, 13-38		
読み取り照準パターン	5-5		
読み取り成功時のビープ音	4-16		
ワンド エミュレーション			
Code 39 Full ASCII	9-8		
極性	9-6		
すべてのバーコードを Code 39 に変換	9-7		
先頭マージン (クワイエット ゾーン)	9-5		
デフォルト一覧	9-3		
不明な文字	9-6		
ホスト タイプ	9-4		
パーサー バージョン ID	14-15		
パッケージの開梱	1-2		
ひ			
ビープ音			
電源投入時ビープ音の抑止	4-6		
ビープ音の定義	2-2		
表記規則	xvi		
標準のデフォルト設定パラメータ	A-1		
ピン配列			
スキャナ信号の意味	3-7		

ふ

プレゼンテーション モードの読み取り範囲 5-6

へ

壁面への取り付け 1-7

ほ

ホストタイプ

RS-232 7-7

キーボード ウェッジ 11-4

ワンド エミュレーション 9-4

ま

マウント

インテリスタンド 2-7

め

メンテナンス 3-1

ゆ

郵便番号 13-64

Australia Post Format 13-68

Australian Postal 13-67

Japan Postal 13-66

Netherlands KIX Code 13-69

UK Postal 13-65

UK Postal チェック デジットの転送 13-66

UPU FICS Postal 13-70

US Planet 13-64

US Postal チェック デジットの転送 13-65

US Postnet 13-64

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail 13-69

ユーザー設定パラメータ 4-2

よ

読み取り可能コードのデフォルト設定

パラメータ 13-2

ろ

露出オプション

照明 5-3

照明バンク制御 5-4

低光量時の強調 5-5

プレゼンテーション モードの読み取り範囲 5-6

わ

ワンド エミュレーション

接続 9-2

デフォルト パラメータ 9-3

パラメータ 9-4

ご意見 / ご要望

本書に関するご意見をお聞かせください。ご記入いただいたアンケートを (631) 627-7184 まで FAX で送信するか、以下の住所まで郵送してください。

Motorola, Inc.
One Symbol Plaza M/S B-10
Holtsville, NY 11742-1300
Attention: Advanced Data Capture
Technical Publications Manager



重要 製品サポートが必要な場合は、お近くのカスタマ サポートまでお問い合わせください。FAX でのカスタマ サポートのご依頼はお引き受けできません。

マニュアル タイトル: _____
(リビジョン番号も記入してください)

本書を利用する前に、本製品をどのくらいご存知でしたか。

よく知っている 聞いたことがある まったく知らない

本書は役に立ちましたか。役に立たなかった場合、詳しくご記入ください。

他に追加してほしい項目はありますか。

さらに詳しい説明が必要な項目はありますか。詳しくご記入ください。

本書を改善できる点はありますか。

貴重なご意見をありがとうございました。



MOTOROLA

Motorola Solutions, Inc.
One Motorola Plaza
Holtsville, New York 11742, USA
1-800-927-9626
<http://www.motorola.com>

MOTOROLA、MOTO、MOTOROLA SOLUTIONS、Stylized M のロゴマークは、Motorola Trademark Holdings, LLC の商標または登録商標であり、ライセンスの下に使用されています。その他のすべての商標は、該当する各所有者が権利を有しています。© 2011 Motorola, Inc. All rights reserved.



72E-86039-07JA 改訂版 A - 2011 年 2 月